

14. 2イ-480



\*1200701608164\*

14.21

480



始



529

# 支那鑛業時報

## 第十六號

大正十四年四月一日



南滿洲鐵道株式會社地質調查所

### 目次

論說及報文  
撫順炭田附近地質調查報文  
位置 地形 地質 地質構造 結章 附圖(袋入)

雜錄

發行所寄贈本

吉林省長春縣城溝炭坑概況  
北滿及西比利亞鑛業調查資料(六)  
外蒙古庫倫鑛業調查報告(二)  
撫順及煙臺炭礦探炭概況(自大正十三年七月至同 年十一月) 四八  
一〇〇

時事彙報

滿洲方面  
奉天省◎五湖嘴粘土ノ運搬輕鐵敷設計畫◎炸子窩炭坑近況◎大石橋產白粘土狀況  
◎鞍山鐵礦販賣狀況◎田師付溝炭坑近況◎三家子炭坑探炭現況◎西三家子炭坑探炭現況◎杉松崗炭田現況◎吉林省◎哈爾濱ニ於ケル燃料材及石炭ノ價格◎黑龍江省◎湯原縣立崗煤礦公司總會◎庫瑪金廠ノ採金近況 一二二

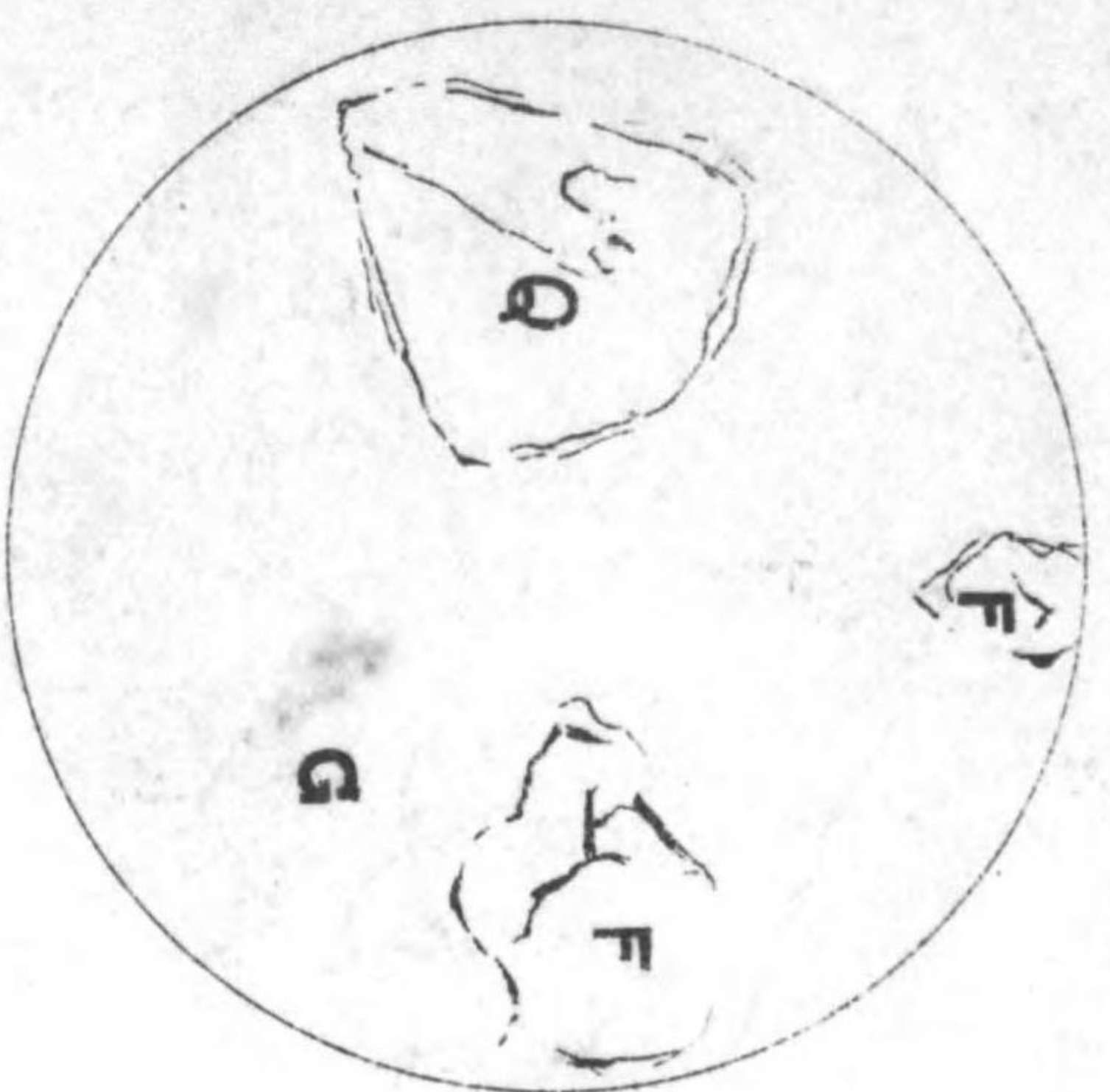
北部支那方面  
直隸省及山東省◎開灤礦務局第十二回營業報告◎泰安縣ノ銀鑛發見說◎山西省◎北京シニシケト十三年度營業成績 一二七

中部支那方面  
江蘇省及安徽省◎上海石炭市況◎安徽省東南部ノ石炭礦◎湖北省及江西省◎湖北省鑛業概況◎漢冶萍煤鐵公司營業報告◎漢冶萍煤鐵公司ノ對日追加借款成立說 一三五

南部支那方面  
廣東省及雲南省◎廣東ノ石油輸入額◎雲南ニ於ケル錫輸出狀況◎印度支那◎東京ノ石炭產額ト對日本輸出額 一六三

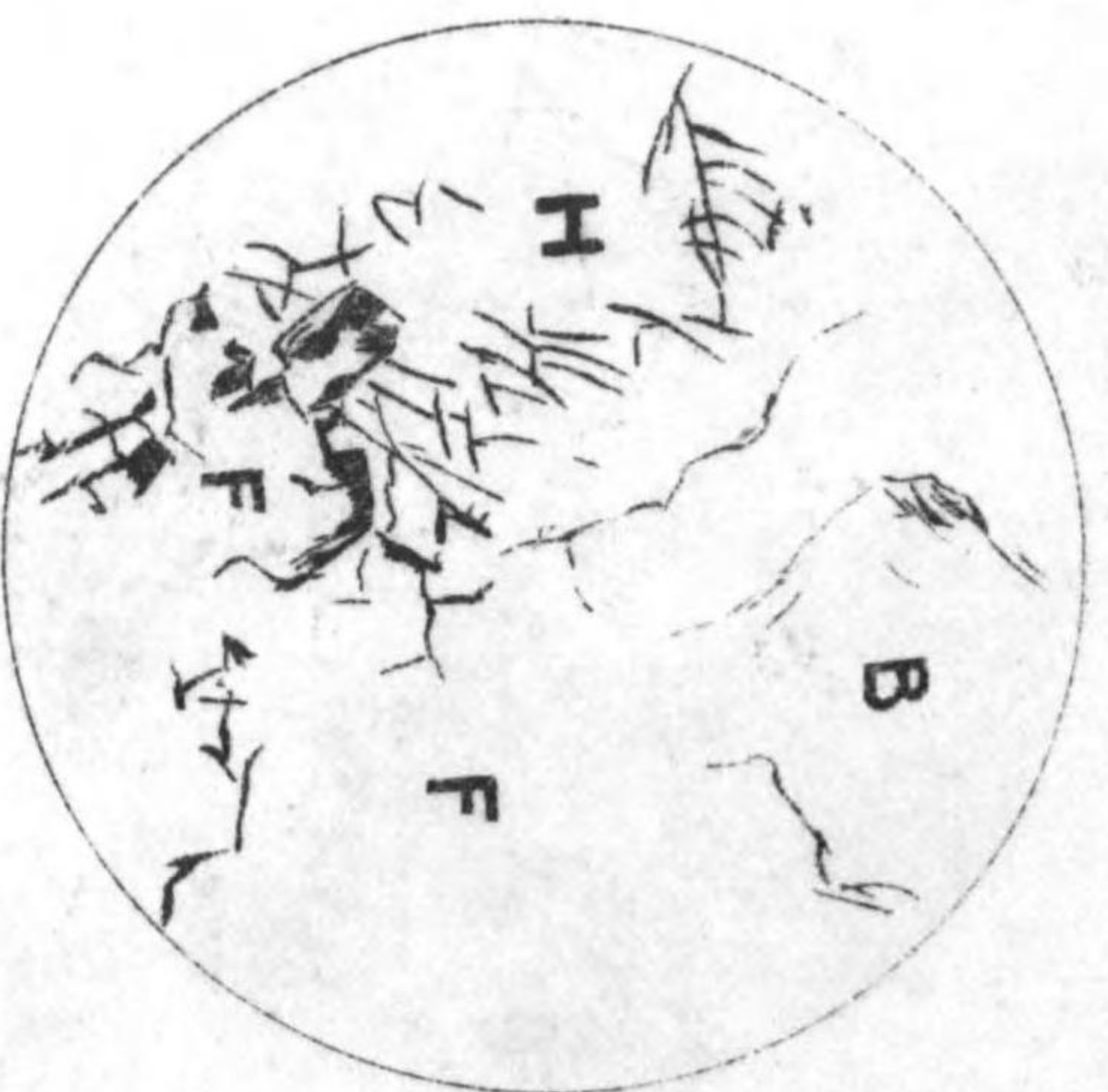
雜報

◎湖北省實業廳地質調查業務細則  
◎湖北省鑛業ニ對スル謝家榮及劉季辰兩氏ノ意見  
◎東三省鑛業ニ關スル指令(自民國十三年九月至同 年十二月)



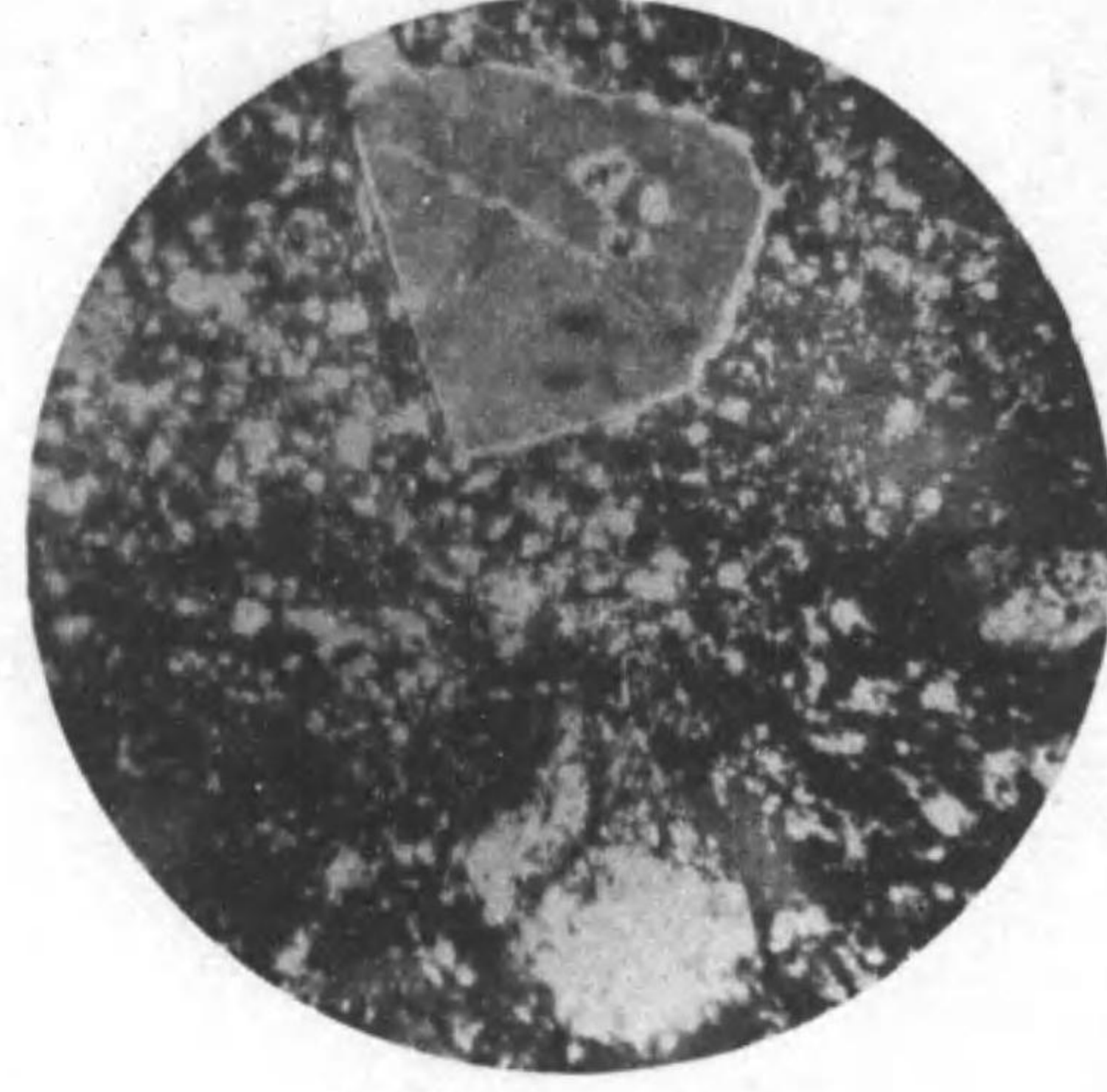
第 二 圖

流 紋 岩 (搭連南方)  
 Q.....石英  
 F.....長石  
 G.....潛晶質石基

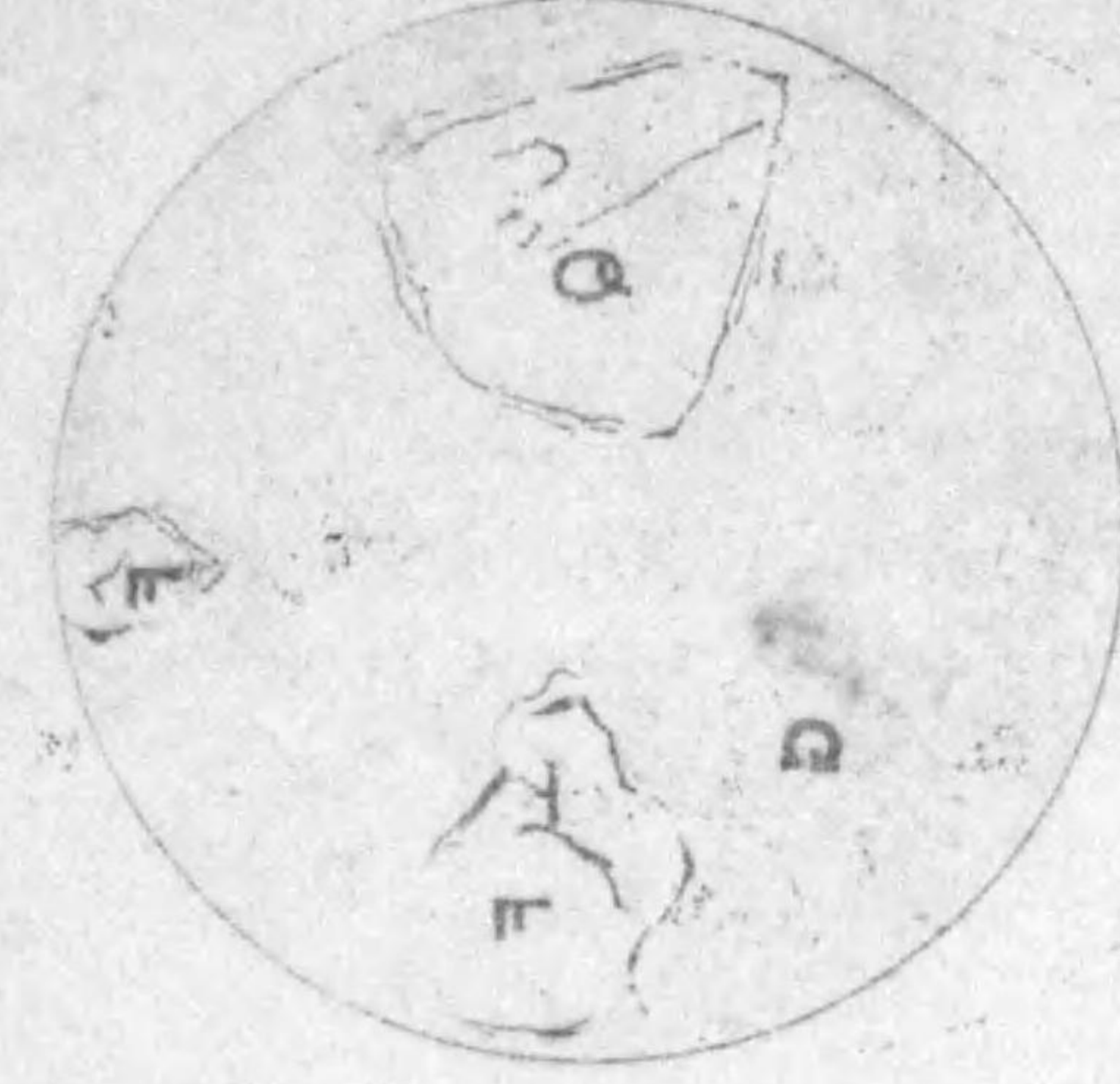


第 一 圖

輝 綠 岩 (龍鳳公園)  
 H.....角閃石  
 B.....黑雲母(綠泥石化x)  
 F.....分解斜長石、有色礦物及磁鐵礦



圖二

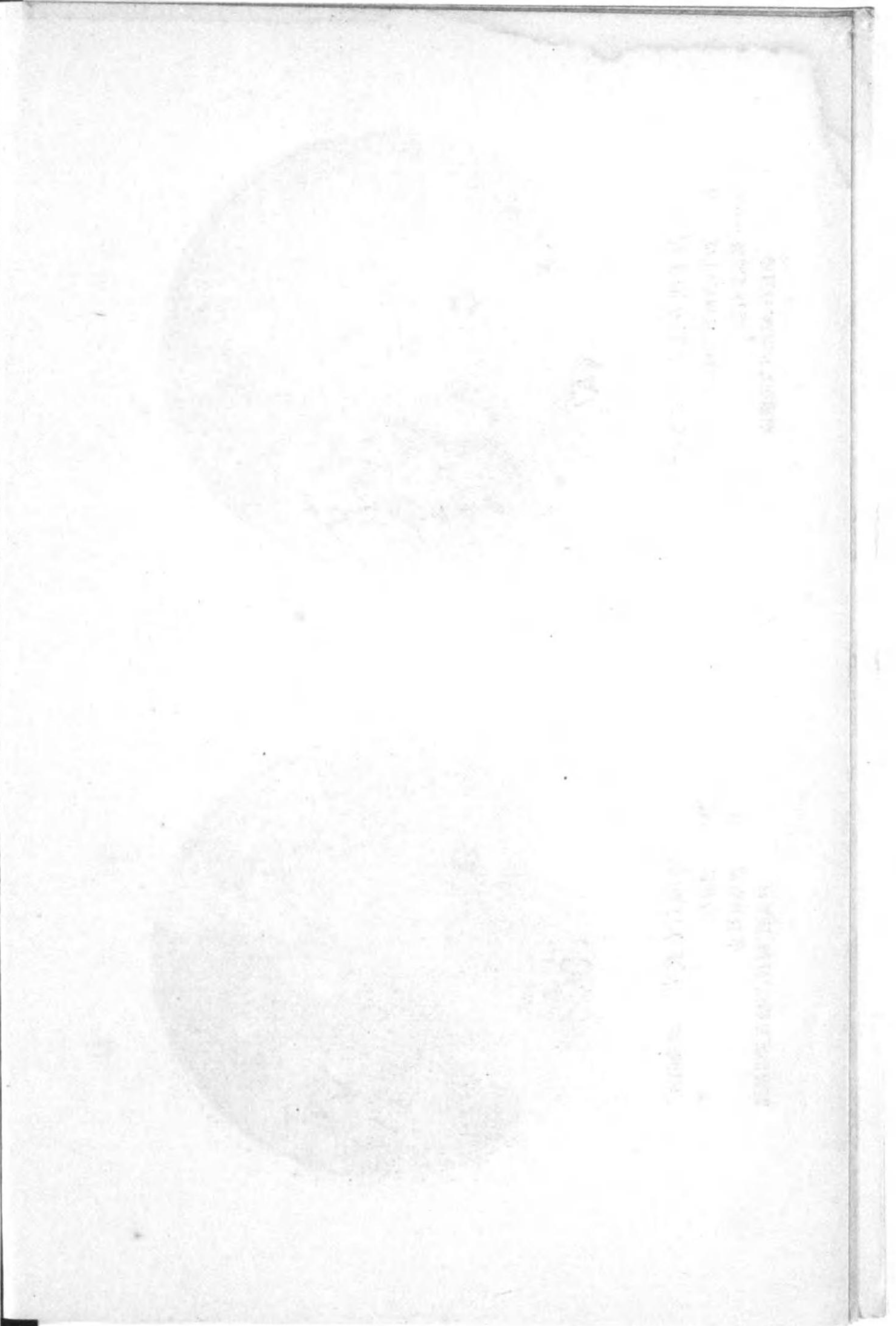


(武南縣) 岩 綠 高  
 黃石……D  
 灰石……E  
 基石質高影……F

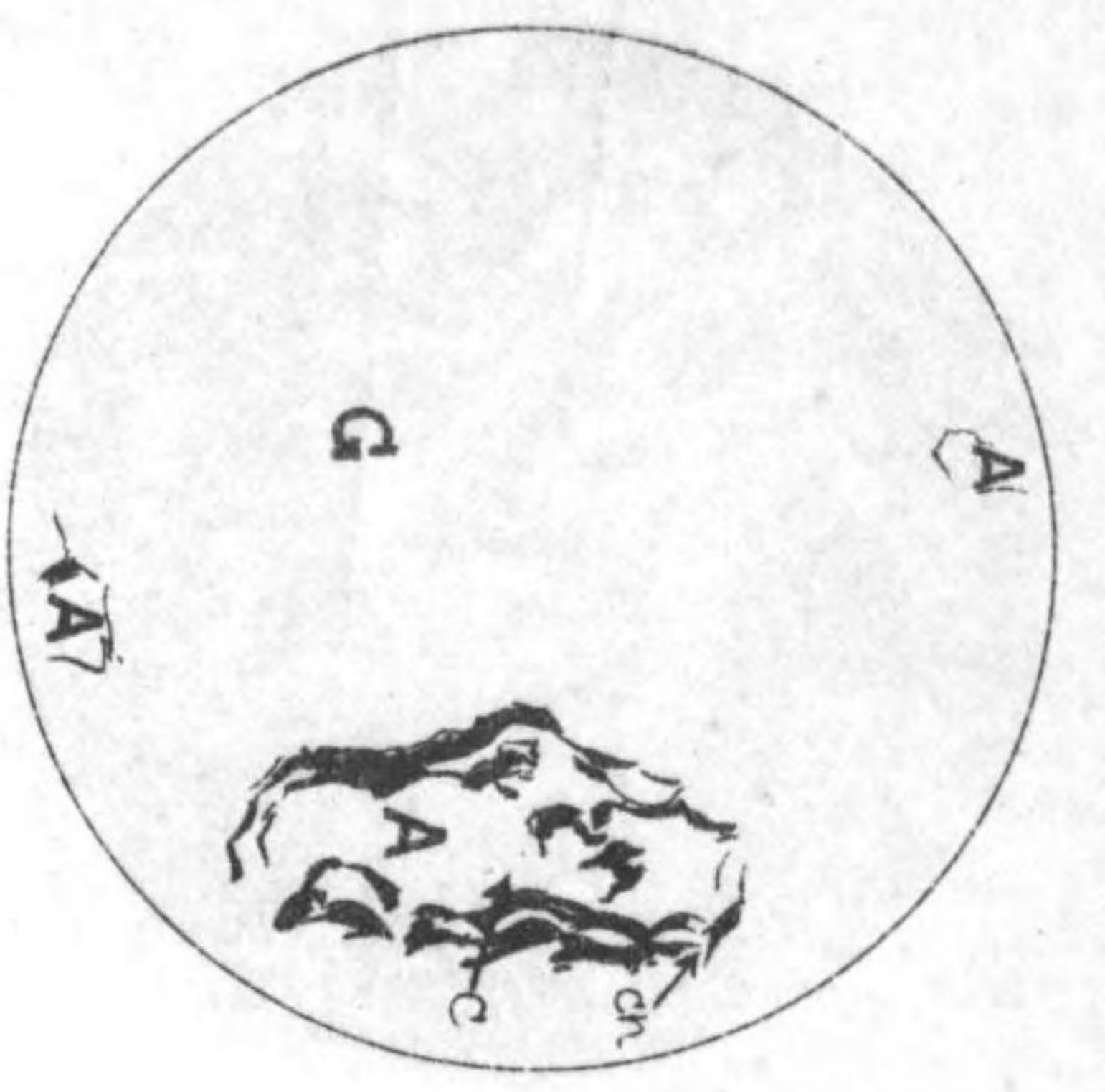
圖一



(開公羅) 岩 綠 取  
 高四成……H  
 (不其西野綠) 岩 綠 取  
 高四成……F

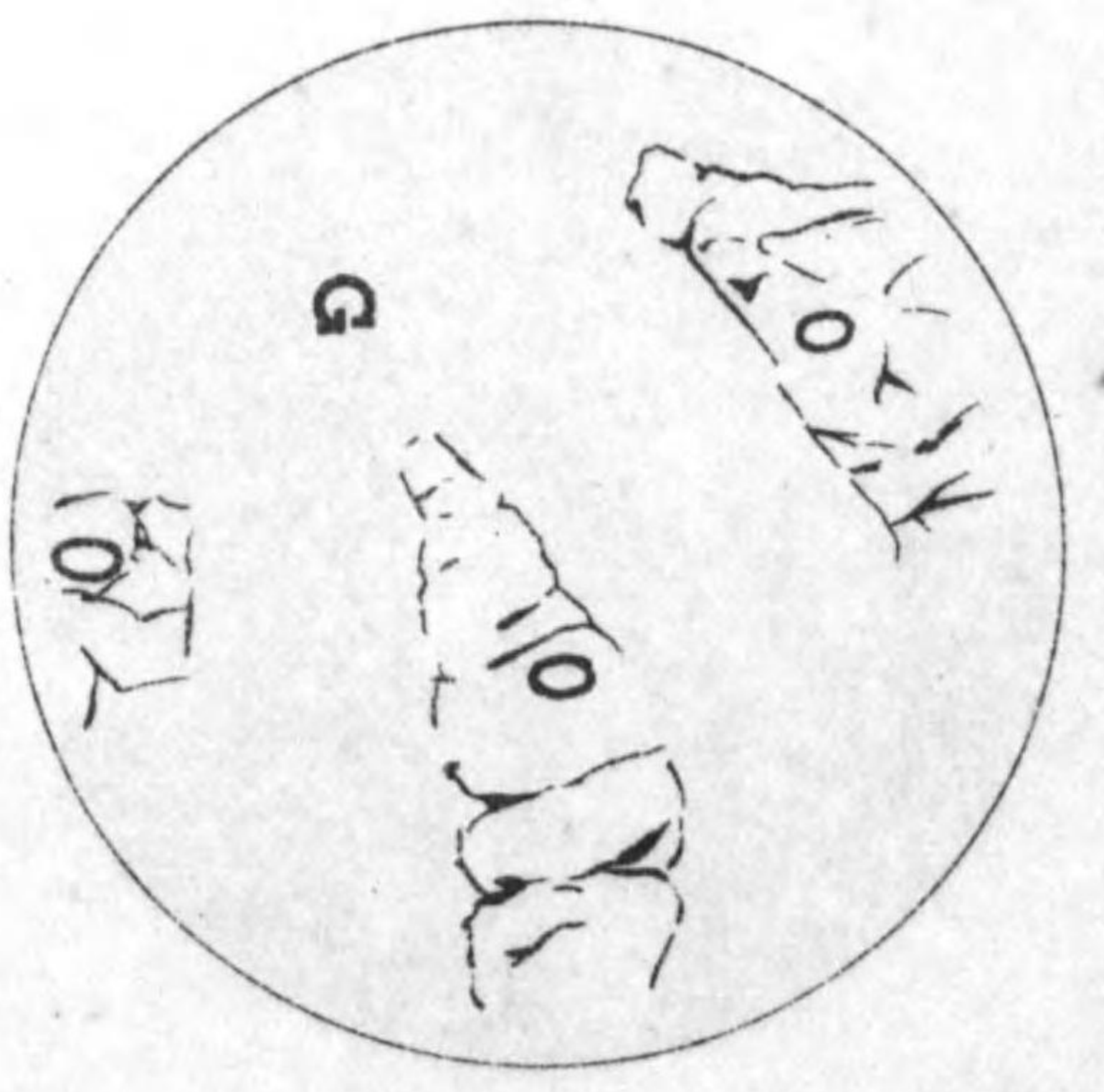


第 四 圖



杏子狀玄武岩 (龍鳳壩坑)  
 A.....杏子c方解石ch綠泥石  
 G.....微晶質石基  
 斜長石、綠泥石及磁鐵礦

第 三 圖



橄欖石玄武岩 (搭連南方)  
 O.....橄欖石  
 G.....微晶質石基  
 斜長石、輝石、橄欖石及磁鐵礦

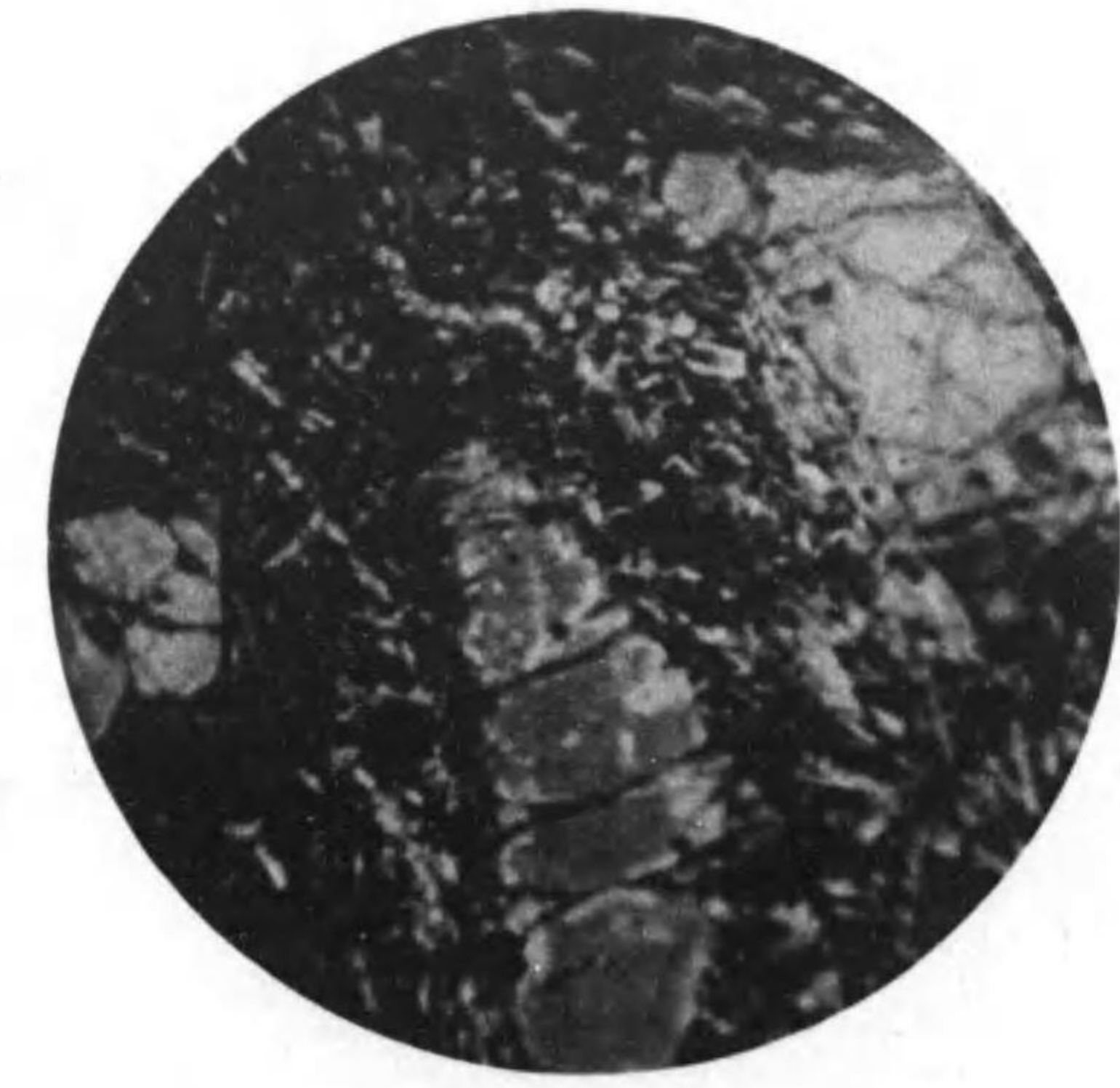
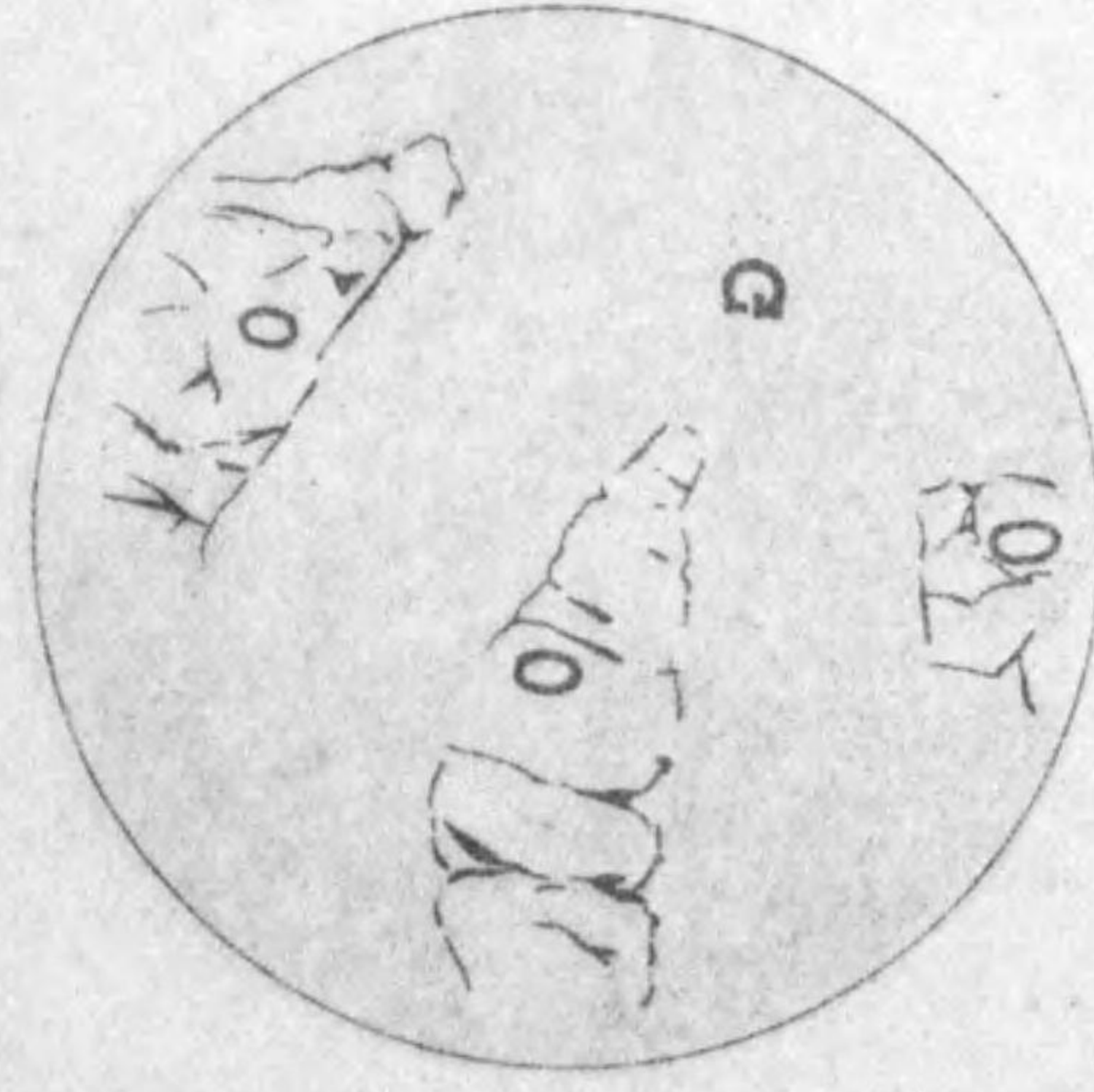
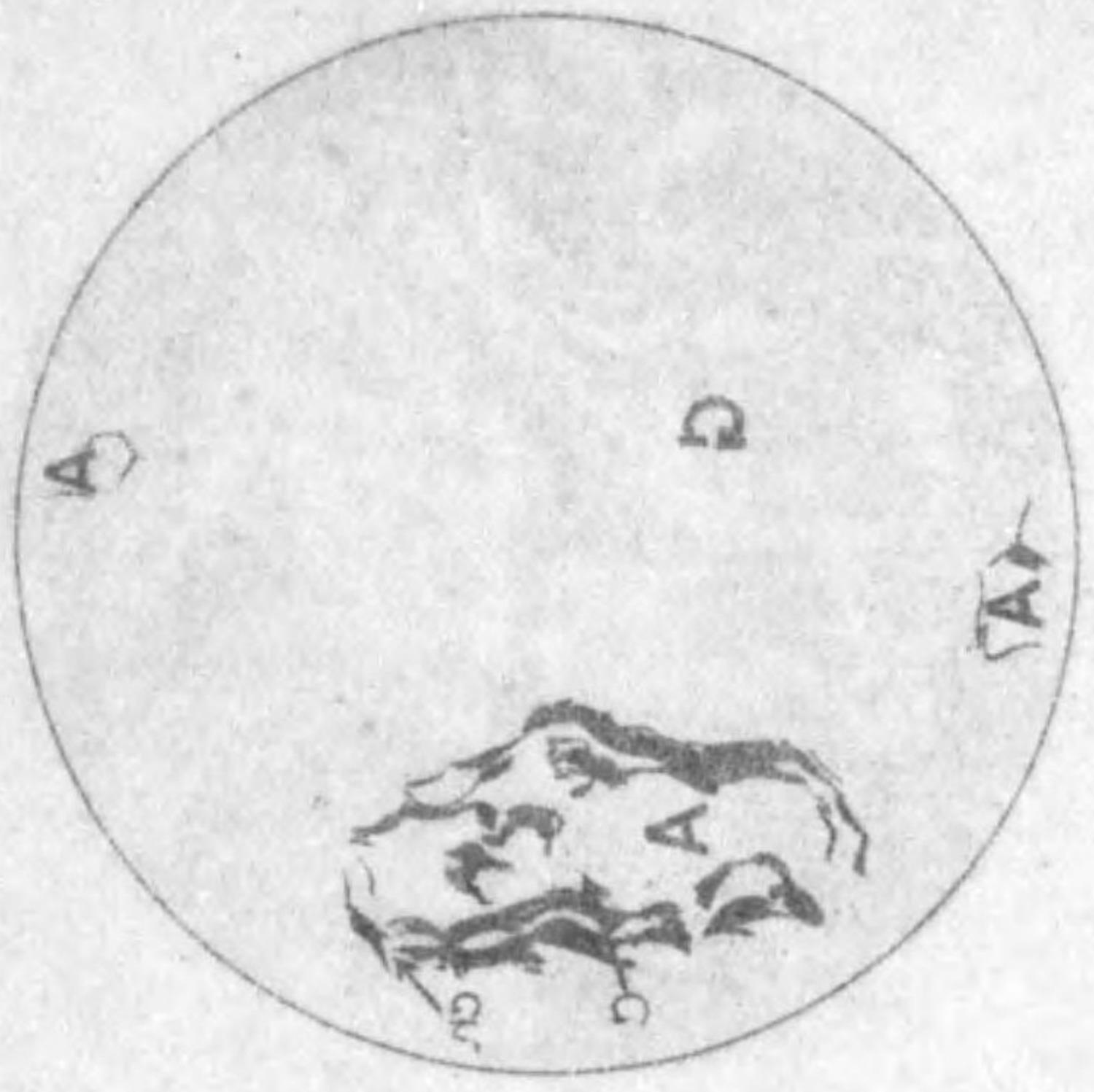


圖 三 綠

圖 四 綠



(大青藍) 岩質支石類  
 石類……○  
 基質品類……○  
 純綠及石類, 石類, 石類



(大青藍) 岩質支石類  
 石類……○  
 基質品類……○  
 純綠及石類, 石類

# 支那鑛業時報第六十四號附圖



## 撫順炭田附近地質調查報文

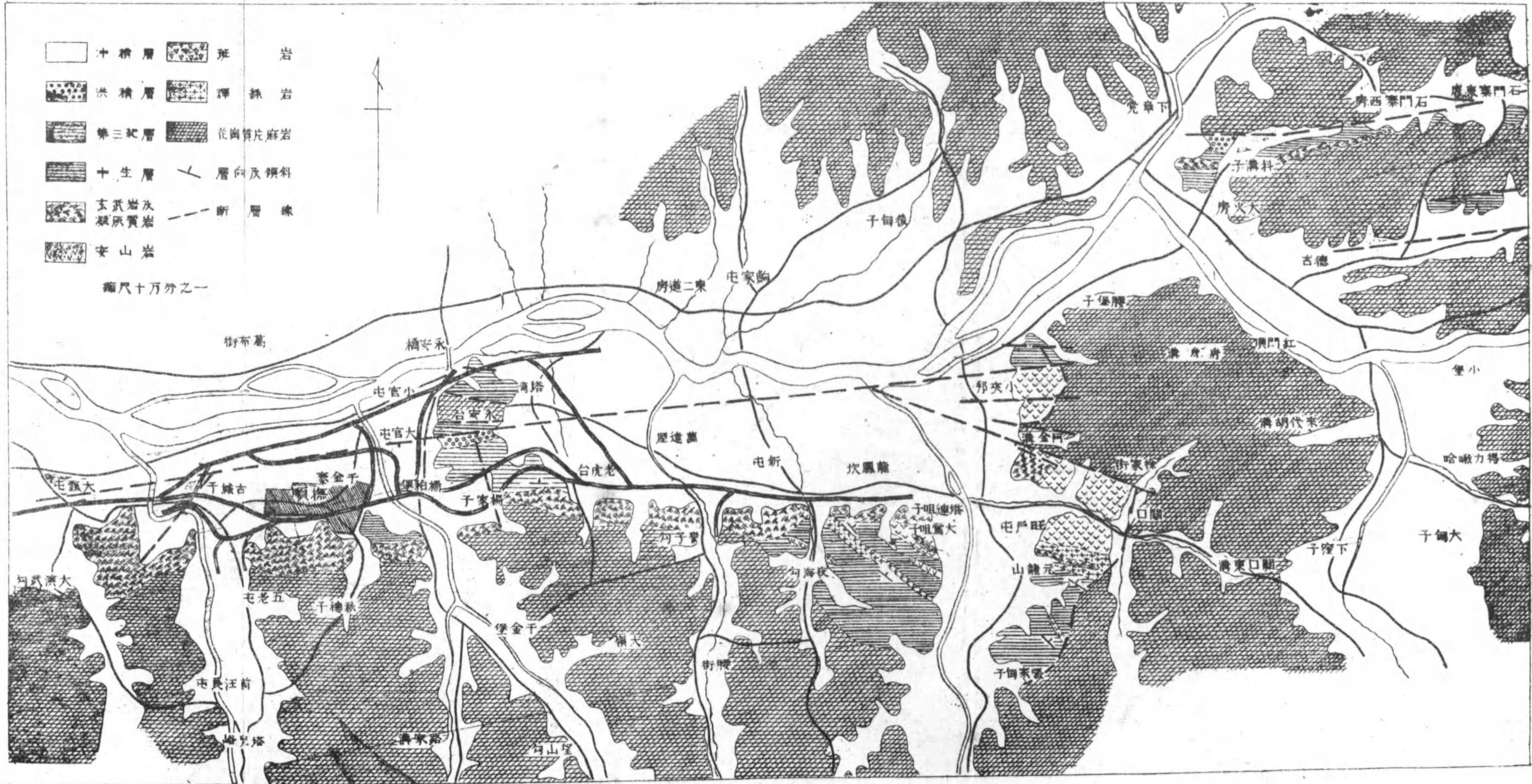
- 第一版 撫順附近地質構造圖 縮尺十萬分之一
- 第二版 撫順炭田地質圖 縮尺四萬八千分之一
- 第三版 撫順炭礦炭層柱狀圖
- 第五版 地層柱狀圖
- 第六版 撫順炭田西部地質構造圖 縮尺二萬四千分之一

第一版





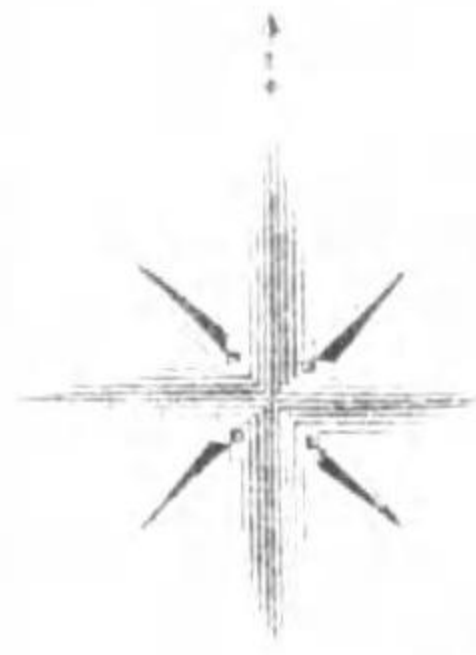
圖造構質地近附順撫



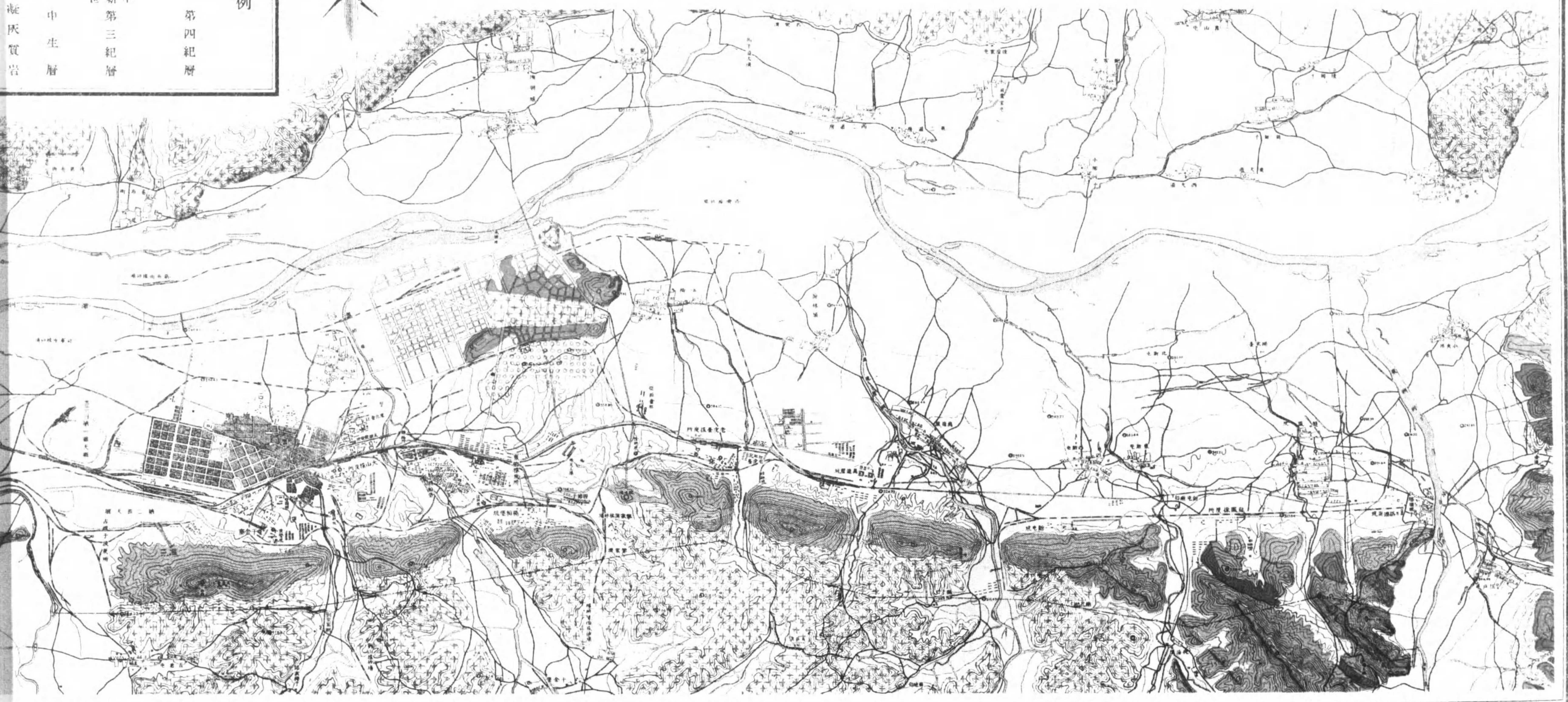
第一版

# 捷順炭田地質圖

縮尺四萬八千分之一

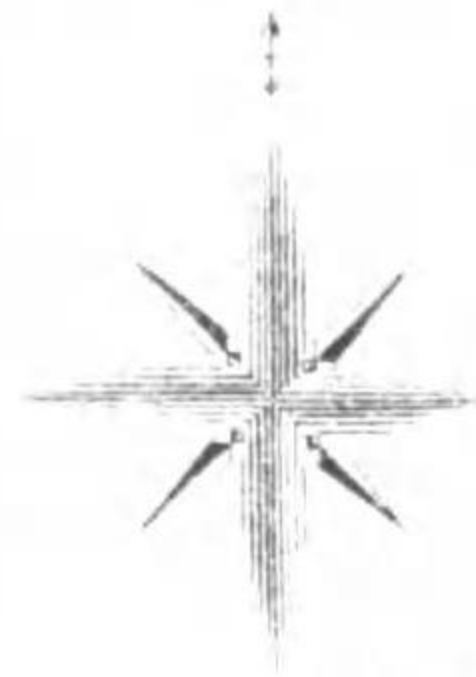


玄武岩及凝灰質岩	中生層	下部層	上部層	洪積層	冲積層	凡例
		世	新第三紀層			第四紀層

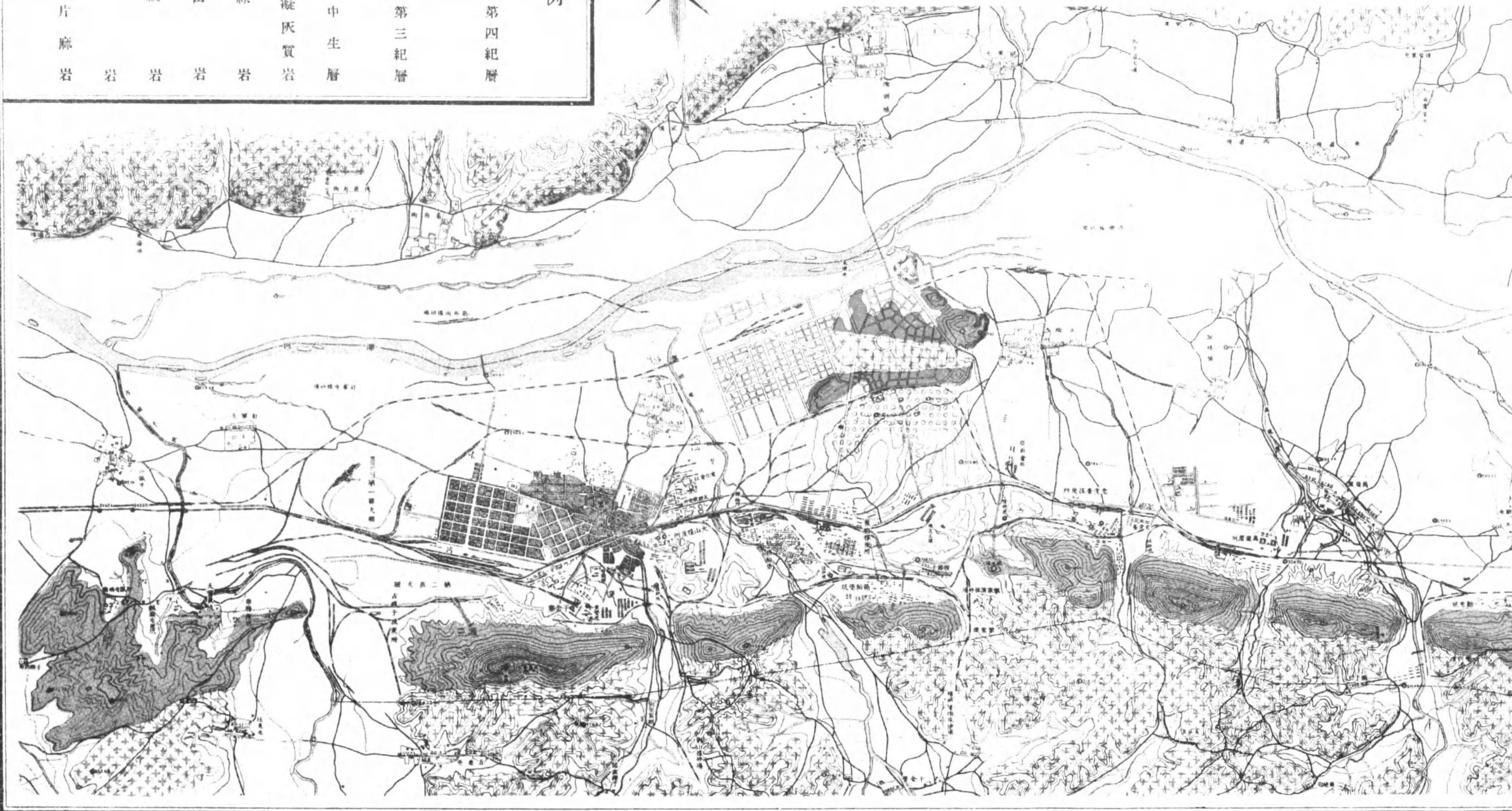


# 捷順炭田地質圖

縮尺四萬八千分之一

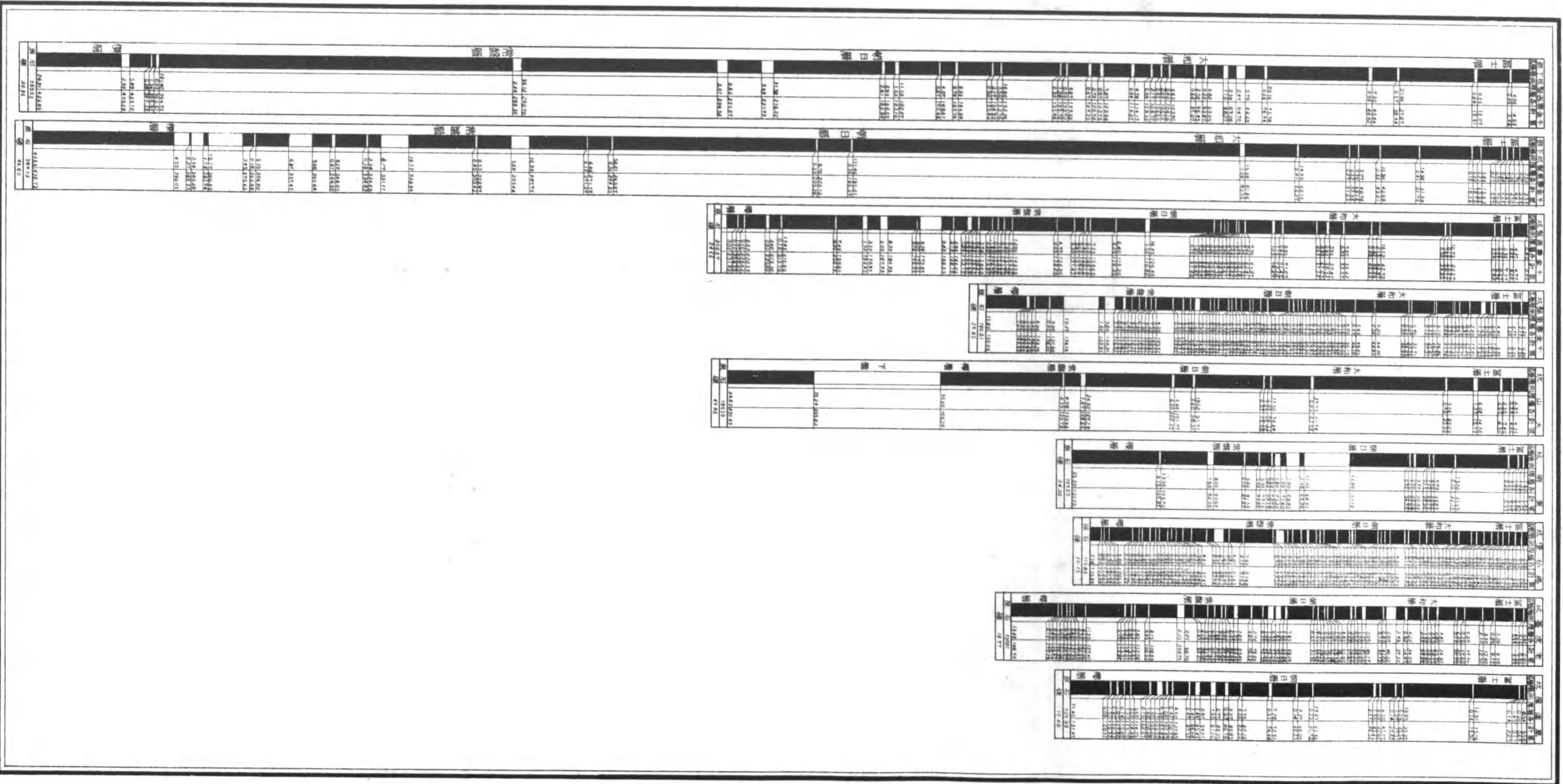


										凡例
花崗質片麻岩	斑岩	流紋岩	安山岩	綠岩	玄武岩及凝灰質岩	下部層	上部層	洪積層	沖積層	
						中生層	中新世		第四紀層	



# 撫順炭礦炭層柱狀圖

第三版

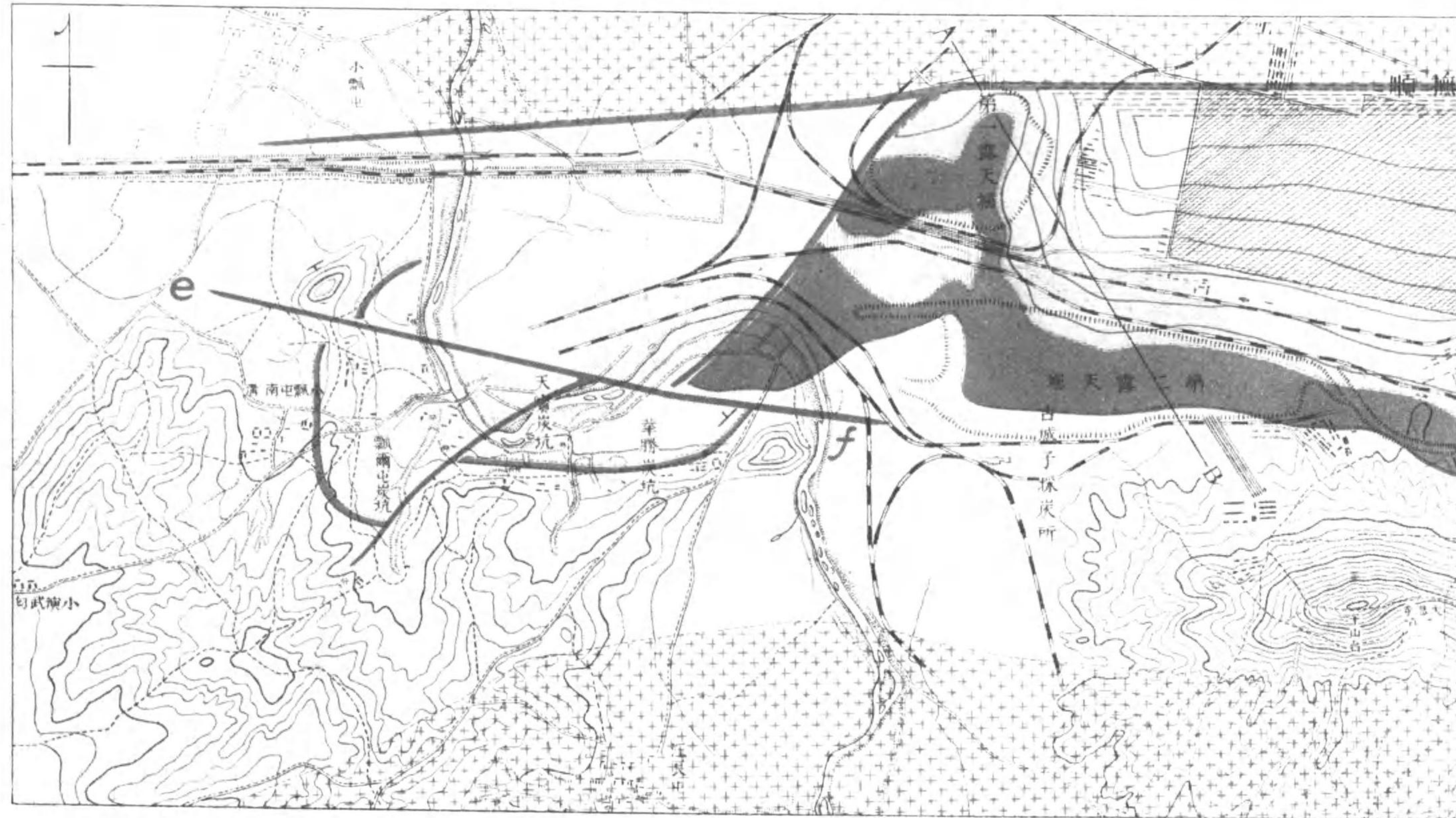


數字尺ヲ以テス



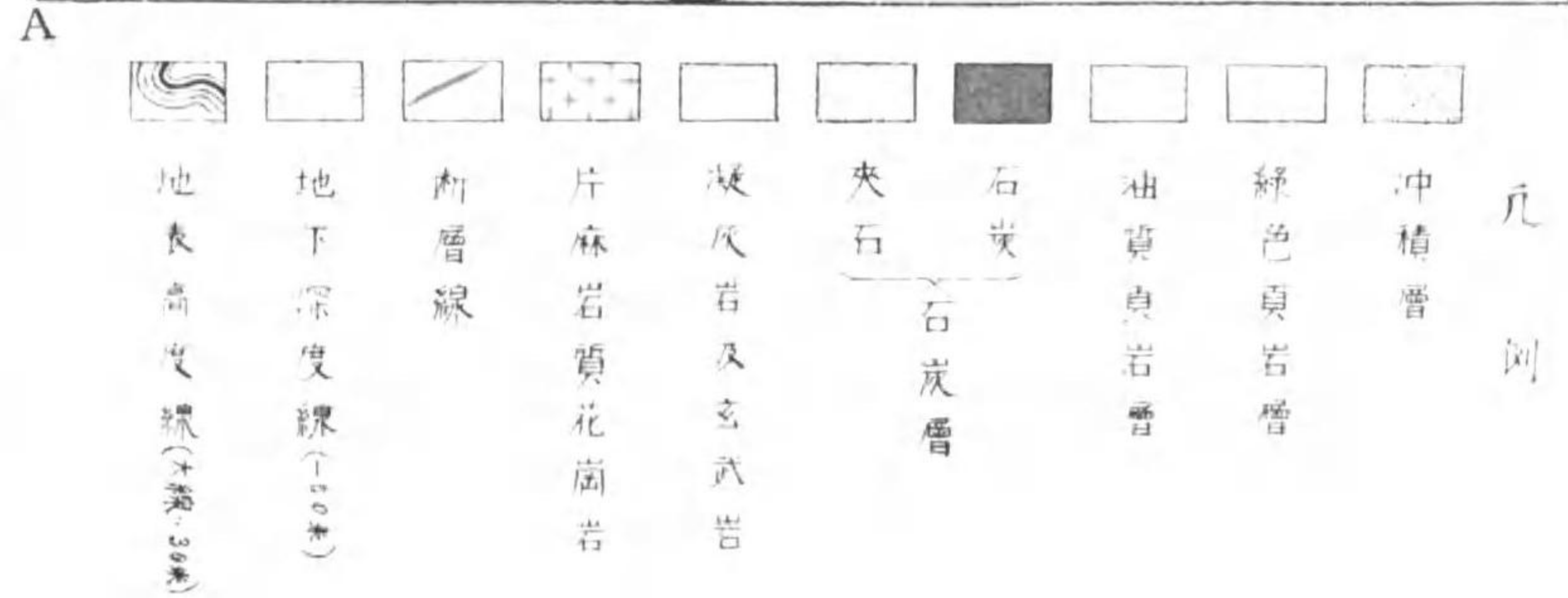
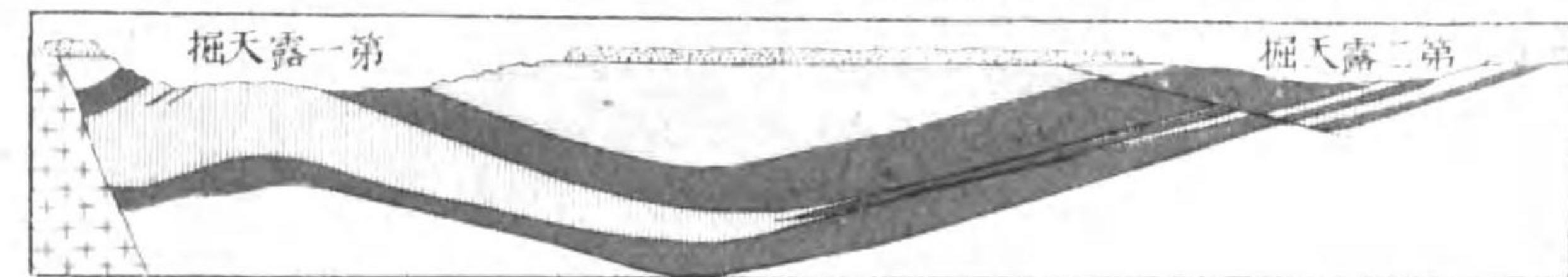
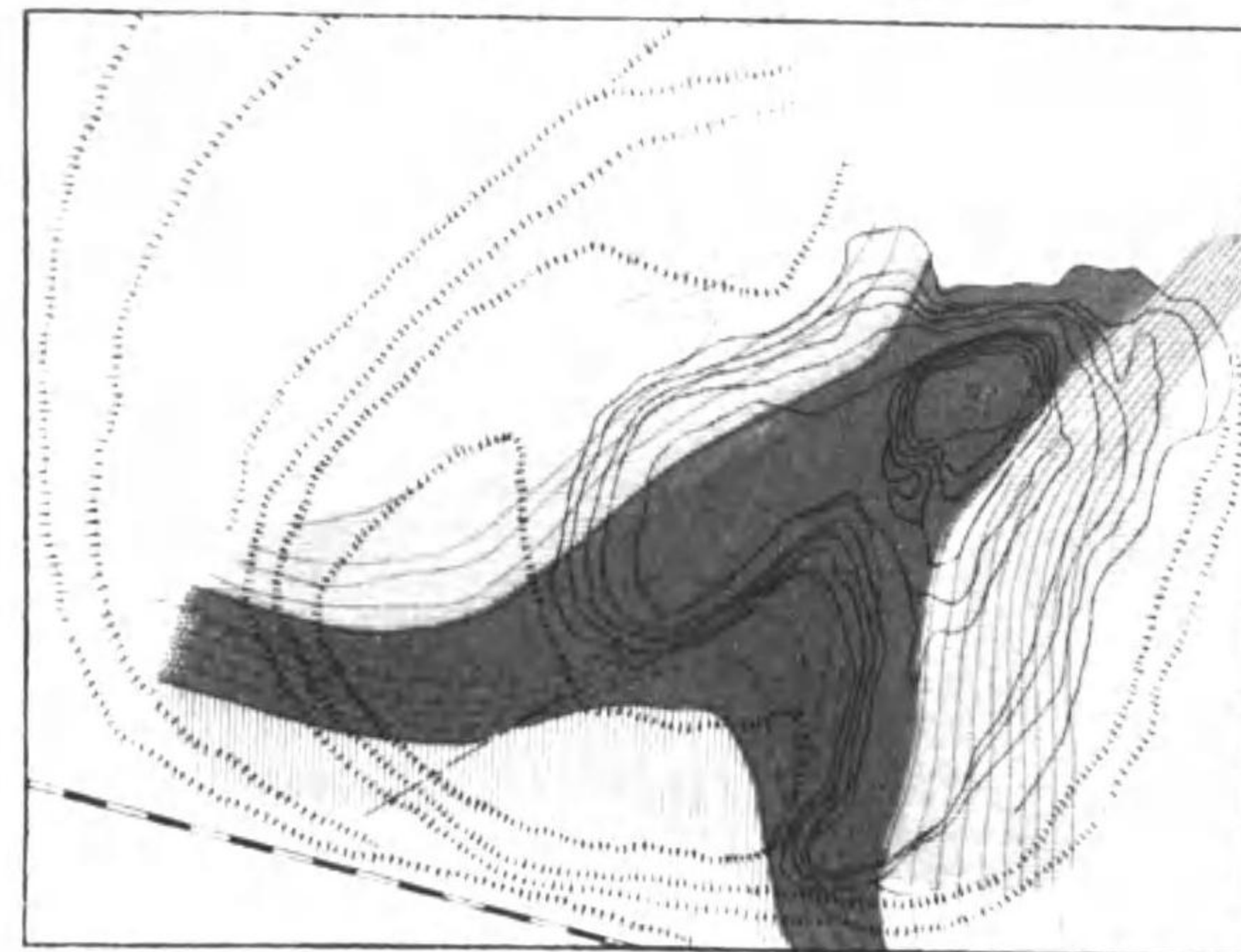
一之分十四万二尺縮 圖造構質地部西田炭順撫

第六版



一之分百六千九尺縮 圖態狀存賦層炭掘天露一第

一之分百二千七尺縮 圖面斷B A



# 支那鑛業時報

第六十四號

(大正十四年四月一日)

## 論說及報文

### 撫順炭田附近地質調查報文

(大正十二年十二月調)

地質調査所員

矢

部

茂

#### 第一章 位置及地形



本地域ハ撫順炭田及其北東ニ位スル石門寨炭田ノ一部ヲ抱括シ東西三十軒南北十軒ノ地域ヲ占ム  
 渾河ノ水流ハ區域内ノ略中央ヲ東西ニ流レ山地ハ概シテ準平原ニ浸蝕サレ平頂ヲ呈ス、地勢上此區域  
 ヲ二分シテ渾河南岸ニ存スル撫順炭田區域ト其北東岸ニ位スル石門寨炭田區域トナス  
 撫順炭田(第一版参照)ハ渾河ニ臨ム、渾河ハ撫順城ノ東方約九軒ナル大甲邦附近ニ至リテ下流の河相  
 ヲ完ウシ流域ノ幅又頓ニ廣濶ト成リ南北ノ距離四軒乃至五軒ニシテ河成冲積層ヨリ成リ奉天平原ニ向フ  
 ニ從ヒ漸次楔狀ニ廣サヲ増加ス、冲積平野ノ北縁ハ概シテ絶壁若クハ急斜面ヲ以テ平野ニ望ミ南縁ハ遙  
 カニ南方太子河々岸ヨリ北ニ向ヒテ波狀ヲナセル臺地狀丘阜ナルモ渾河平野ニ臨ムニ至リ遽ニ百五十米

内外ノ突起セル連嶂ト成ル、此南縁一帯ノ連嶂ハ南北ノ傾斜殆ド同様ナルモ其北麓ハ更ニ緩慢ナル斜角ニ急變シ茲ニ炭層ノ露頭ヲ存ス、炭田ノ中央部ナル楊柏堡ニ於テハ平地上高サ三十米内外ノ幅狭キ丘陵突出シ渾河々畔ニ至リテ盡キ地形上炭田ヲ東西二區ニ分ツ、南方ノ連嶂ハ該高地ノ南方ニ於テ喰違ヒヲ生ジ東部ハ西部ニ對シテ躍進セルガ如キ狀ヲナセリ、連嶂ハ北西西ヨリ南東東ニ走行ヲ有シ殆ンド之ト直角ニ穿タレタル大小八條ノ小溪ニヨリテ九塊ニ分タル、而シテ是等小溪ハ何レモ北走シテ渾河ニ入ル、炭田ノ含炭區域ハ前記連嶂ノ北麓ニ沿ヒテ略東西ニ延長シ東ハ東洲河ノ右岸阿金溝ニ起リ西ハ古城子村落ノ西方小瓢屯ニ終ル、延長約十九軒南北ノ幅廣キ所ニテ二・一八八軒アリ南ハ千金臺、虎山臺等東西ニ蜿蜒タル一帯ノ丘阜ヲ以テ界トシ北ハ渾河ニ至ル

石門寨炭田(第一版參照)ハ渾河ヲ隔テテ撫順炭田ノ北東十五軒ニ在リ、渾河ノ一支流ハ南下シテ撫順城ノ東約十三軒ナル下章黨村落南端ニ於テ本流ト合ス、炭田ハ下章黨東部ニ起リ營盤ノ西方五軒ナル西溝村落ニ至リテ盡ク炭層ハ延長九軒幅最モ廣キ處百五十米内外ニ過ギズ、附近一帯ハ老年期地貌ニ浸蝕サレ東西並列セル丘阜アリテ其間ニ狹長ナル數箇ノ地溝帶ヲ有ス、石門寨炭田ハ其内最モ大ナル地溝帶ヲ占メ其東半部ハ顯著ナル盆地ヲ構成シ盆地ノ中央ニ石門寨東房村落アリ

## 第二章 地質 (第一版及第二版參照)

### 第一節 中生層

第六十四號

(大正十一年四月八日)

#### 一 中生層總說

中生層ハ花崗質片麻岩ト共ニ本地域ノ基盤ヲ構成シ主トシテ(甲)撫順炭田中央部ノ永安臺臺地、(乙)東洲河ノ東西兩岸附近、(丙)石門寨炭田ノ南東方ナル德古東溝附近ニ現出スル外試掘ノ結果ニ徴スルニ小甲邦ト搭灣トノ間及搭灣ト大瓢屯ノ間ノ沖積層下ニ點々若シクハ連續シテ存在シ撫順炭田ノ北部外廓ヲナスモノノ如シ、本層ハ紫紅色又ハ青灰色凝灰岩、黑色或ハ灰色ヲ呈スル頁岩、淡褐色硅板岩、黝灰色泥灰岩、扁豆狀石灰岩及雜色砂岩ノ互層ヨリ成リ上部ニ淡青色、赤褐色或ハ赤紫色ノ安山岩、下部ニ斑岩、流紋岩等ノ熔岩ヲ狹有シ時ニ輝綠岩及玄武岩ノ岩床又ハ岩脈ヲ有スル事アリ

#### 二 中生層各論

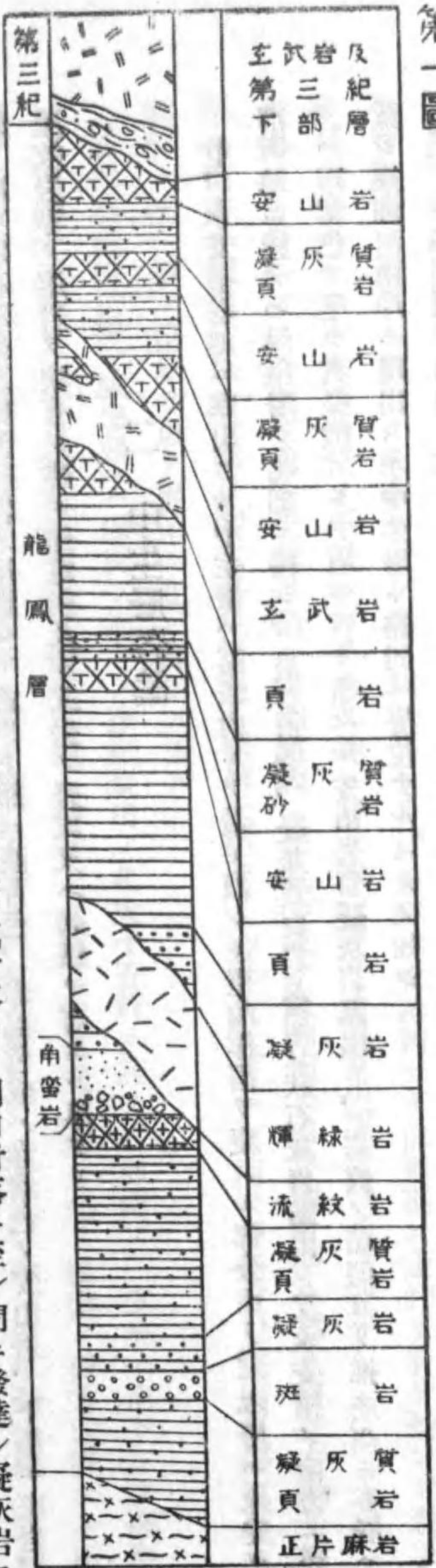
甲、永安臺臺地ニ露出スル中生層ハ區域内ニテ最モ烈シキ褶曲作用ヲ蒙レル部分ナリ、本層ハ永安臺市街地ニ於テハ洪積層ノ北部ニ接シ、炭質頁岩、凝灰質頁岩及扁豆狀石灰岩露出シ又永安橋ノ南方ニ於テハ暗紫色ヲ呈シ質堅緻ニシテ石灰質ヲ帶ベル安山岩質凝灰岩露出ス、岩質ノ類似ヨリ推スルニ本層ハ蓋シ東洲河兩岸ニ現出スル中生層ト略同一層位ナルモノノ如シ

乙、東洲河兩岸山地ニ露出スル中生層ハ比較的整然タル北西—南東ノ走向ヲ有シ北東ニ四十度乃至七十度傾斜シ局部的ニ著シキ擾亂ノ跡アルモ上部ニ赴クニ從ヒ概シテ北西西ノ走向ニ變ズ、新屯ヨリ阿金溝ニ至ル間ニ於テハ本層ハ第三紀層及玄武岩ニヨリテ不整合ニ被覆セラル、東洲河西岸ニ於ケル本層ヲ



便宜上龍鳳層ト稱シ第一圖ニ示スガ如シ、則チ本層ノ最下部ハ新屯村落ノ南方ニ現出スル暗紫色凝灰岩ニシテ最上部ハ塔連咀子ノ南方ニ現出スル淡褐色凝灰質頁岩及安山岩ナリ、東洲河東岸ノ中生層ハ西岸

第一圖



ノモノヨリモ更ニ上層ヲ含ムモノノ如シ、該上層ハ汪戸屯村落ヨリ關口村落ニ至ル間ニ發達シ凝灰岩ヨリ成リ赤紫色安山岩ノ厚キ熔岩流ヲ多量ニ狹在セリ、其最上部ハ小夾邦東方ノ小丘ニ露出シ堅硬ナル暗褐色頁岩ヨリ成ル、本岩ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石英、長石ノ角立チタル細粒ヨリ成リ粒ノ間隙ハ赤褐色酸化鐵ヲ以テ滿タサル

丙、徳古東溝ヨリ營盤ニ互リテ現出スル整層ハ未ダ調査充分ナラザルヲ以テ之レヲ明カニナシ難シト雖モ恐ラク前記ノモノト同一種ナラント豫想ス

本地域ノ中生層ハ化石ノ産出ナキヲ以テ之ガ精確ナル時代明カナラザルモ本層中ニ石灰岩ノ薄層ヲ含ムハ注目ニ値ス

### 第二節 第三紀層

#### 一 第三紀層總說

第三紀層ハ本地域ノ南部山地ノ北麓ニ主トシテ千金寨附近、楊柏堡、老虎臺及石門寨附近ニ敷衍スルノ外試錐及坑道掘進ノ結果ニ微スルニ阿金溝、新屯、萬達屋及古城子ニ互リ沖積層下ニ賦存シ、其北部ハ東西ニ走ル大斷層ニヨリテ古期岩類ト界セラル、本層ハ綠色泥灰質頁岩、褐色頁岩、炭層、砂岩、凝灰岩及礫岩ヨリ成リ阿金溝以西ニ於テハ本層ノ下部ニ三枚以上ノ厚キ玄武岩ノ熔岩ヲ狹有ス

走向ハ概シテ東西ニ走リ北方ニ二十度乃至四十度ニ傾斜ス、炭田ノ東西兩端ニ於テハ斷層ニ附隨シ地層ノ撓曲アリ、本層ハ便宜上主要炭層ノ下部ニ接セル凝灰岩ヲ界トシ之ヲ下部層及上部層ニ區別スル事ヲ得

炭層附近ニハ多數ノ植物化石ヲ埋藏ス、該植物化石ハ橫山博士ノ鑑定ニ依レバ左ノ如シ

*Osmunda* sp.

*Thya* cf. *borneolis* Hr.

*Parrotia* cf. *priestina* Ett.

支那鑛業時報 第六十四號

Quercus sp.  
Salix sp.  
Sequoia cf. langsdorfi Br.

Palatin 氏ニ依ハシ

Osmunda torelii  
Carpinus grandis  
Aspidium cf. meyeri  
Juglans acuminata  
Sequoia langsdorfi  
Planera ungeri  
Fagus feroniae  
Glyptostrobus ungeri  
Populus glandulifera

大山坑及東郷坑開鑿當時採集セラレタル木葉化石ノ内前記種類以外ノモノハ左ノ如シ

Sphanantha sp.  
Syrax sp.  
Ginkgo sp.

Tilia sp.?  
Viburnum (?)  
Alnus sp.

楊柏堡坑内ヨリ種屬不明ノ魚骨發見セラレタルアリ又淡水産兩辨介ノ不鮮明ナル印痕ノ認メラレタルアリ、此等ノ植物化石ニ依リテ撫順炭田ハ第三紀中新世ノ生成ニ依ル事ヲ立證セラレタリ

石門寨ニテ發見シタル植物化石左ノ如シ

Sequoia langsdorfi  
Salix sp.

而シテ石門寨炭層ノ下部ニ屬スル橄欖石玄武岩ハ又撫順第三紀層下底ニ於ケル玄武岩ト相同ジ、斯クシテ水成岩及火山岩ノ性質ヨリ比較スルニ石門寨ノ炭層ガ撫順ノソレト同一時代ナル事明カナリ

下部層ハ必ズ玄武岩ノ間ニ介在セルヲ以テ撫順炭田南縁ノ連嶂ヲナセル山地ノ内ニ點々露出スルモ上部層ハ軟弱ナルガ故ニ速ニ鑿削セラレ現在ハ渾河ノ堆積セル沖積層下ニ没セルヲ以テ地質圖ニ示シ難シ然レドモ幾多ノ試錐切割ニ依リテ略其賦存状態ヲ明カニスルヲ得タリ

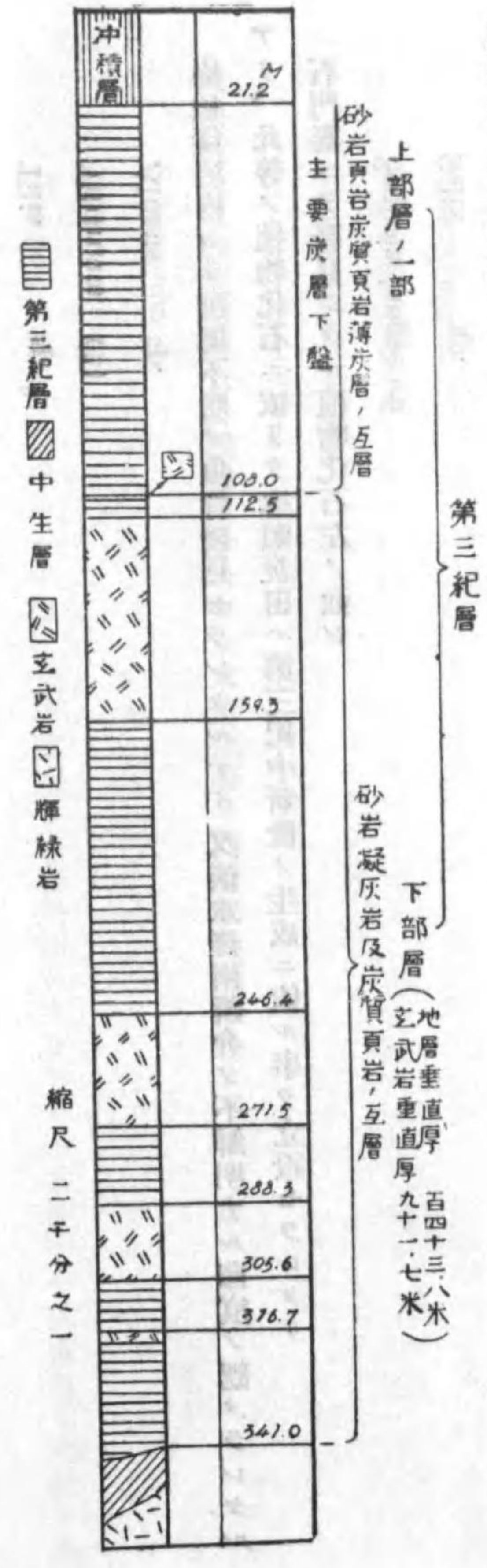
### 一一 第三紀層各論

#### 甲 下部層 (第二版參照)

下部層ハ小瓢屯南溝、千山臺並ニ楊柏堡ヨリ阿金溝ニ至ル間小區域ニ露出シ主トシテ礫岩並ニ凝灰

岩、砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成リ厚サ〇・三米乃至十五米ノ炭層二枚乃至三枚ヲ有スルノ外三枚以上ノ玄武岩ヲ層狀ニ挾有ス、該玄武岩ハ地表或ハ淺水中ヲ流レタル熔岩流ニシテ概シテ炭田ノ東部ニ薄ク西部ニ厚シ、炭層ハ東ハ阿金溝炭坑ノ東方山腹ヨリ西ハ楊柏堡坑後方ノ山頂ニ至ル間點々トシテ山地ニ露出セリ、該層ハ楊柏堡以西千金臺ニ至ル間玄武岩ノ厚キ處ニ於テハ賦存セザルモ古城子河附近ニ至リテ再ビ出現セリ、露國支配時代ニ主トシテ探鑛セラレタルハ此層ナルモ層厚薄キタメ稼行ニ耐エザルノ故ヲ以テ放棄セラレタリ、然レドモ古城子河ノ西南小瓢屯附近ニ於テハ厚サ六米乃至十五米アリテ玄武岩ノ間又ハ玄武岩ト凝灰岩トノ間ニ介在シ有利的ニ探掘セラル

第一圖 龍鳳堅坑地層柱狀圖



龍鳳探炭所ニ於テ新ニ掘鑿セラレタル下盤堅坑ハ下部層ノ總テヲ貫キ坑底ニ於テ中生層ニ到達セルモノニシテ撫順炭田東部ニ於ケル下部層ト玄武岩トノ關係ヲ明カニ示スモノナリ(第二圖參照)  
 此外萬達屋坑ノ南方火藥庫附近ニ於ケル下部層ハ片麻岩ヲ直接被覆セリ、該處ニ於テハ片麻岩ハ不鮮明ナル境界ヲ以テ片麻岩質砂岩ニ移過シ上部ニ順次變岩、砂岩、凝灰質頁岩、凝灰岩累層シ其上ニ最初ニ噴出セル玄武岩熔岩流アリ其上部更ニ二枚以上ノ玄武岩ヲ累疊セリ  
 下部層ノ厚サハ其成層間ニ介在セル玄武岩熔岩ノ厚サト基盤ヲナセル古期岩類ノ當時ノ地形ニ依リ一様ナラザルモ炭田東部ノ龍鳳附近ニ於テハ玄武岩ノ厚サヲ除キ大約百五十米アリ、下部層内ノ石炭ヲ中央試驗所ニ於テ分析セル結果ハ左ノ如シ

箇處名	比重	水分	揮發分	骸炭分	灰分	全硫黃	發熱量	骸炭性質	灰色相
楊柏堡	一・三五	五・三〇	三九・二〇	五・五〇	九・四〇	三・二六〇	六・七〇	粘結性	淡黝褐色
搭連	一・三四	三・三六	三七・九四	八・九五〇	一〇・八〇	〇・五三三	六・九〇	同	橙灰色
古城子	一・三九	一〇・三五	三三・五五	四・五〇	九・二〇	一・〇四五	六・〇〇	同	淡黃褐色

乙 上部層

上部層ハ本地域ノ南部山地ノ山麓ニ主トシテ千金寨附近、大山坑附近、永安臺南部、老虎臺、萬達屋

附近及石門寨附近ニ處々ニ敷行スルノ外試錐及坑道掘進ノ結果ニ徴スルニ古城子附近、新屯、龍鳳、塔連及阿金溝附近ニ互リ沖積層下ニ賦存ス、本層ハ主トシテ主要炭層、褐色頁岩層及綠色泥灰質頁岩層ヨリ成ル

(一) 主要炭層

賦存狀態 主要炭層ハ其下部ニ接スル凝灰岩ニ依リテ下部層ト界セラレ、本層ハ概シテ東西ニ走リ北方ニ二十度乃至四十度ニ傾斜ス、撫順ニ於ケル主要炭層ノ賦存狀態ハ第三、第四及第六版ニ示スガ如シ

主要炭層ハ主トシテ炭層ヨリ成リ頁岩及砂岩ヲ挾有シ厚サ石門寨ニ於テハ一—二米、撫順ニ於テハ最厚約二百米最薄約十米ナリ、石炭ノ厚サハ古城子附近ニ於テ最モ厚ク砂岩、頁岩等ノ夾石ヲ除キ百米ニ及ビ東スルニ從ヒ漸次ニ薄クナリ龍鳳坑ニ於テ稼行ニ耐ユル部分十二米以内、塔連炭礦ニ於テハ十米乃至七米、更ニ東洲河東岸ノ阿金溝炭礦ニ於テハ六米内外ナリ、夾石ハ概シテ主要炭層ノ下部ニ著シ、炭層ハ便宜上層ヨリ順次ニ富士、大和、朝日、常盤、櫻ナル名稱ヲ以テ呼稱セラレ、撫順主要炭層ノ試錐柱狀斷面圖ハ第三版ニ示セル如シ

炭質 撫順炭ハ漆黑色ヲ呈シ不規則又ハ介殼狀裂面ヲ有スルモノ有ルモ角割シ易キ部分尠カラズ、石炭ハ Scopes 女史ノ所謂天然木炭、暗炭及ビ閃炭ノ部分ヲ區別シ得可ク其内天然木炭ハ主トシテ炭田西部

ノ主要炭層ノ下部及下部層炭ニ限ラル、暗炭ノ部ハ炭田東部ニ行クニ從ヒ増加シ閃炭ノ部ト混ジテ大部分筋引キ炭ヲ成ス場合多シ、暗炭ニ富メル東部ノ石炭ハ不純物多クシテ硬炭(モンド瓦斯用粗惡炭)ニ移化スルコト多シ、硬炭ハ炭質頁岩ト閃炭又ハ暗炭ガ密ニ互層ヲ成シ多量ノ礦物質ヲ混ジタルモノト純然タル「素ボタ」トアリ、特ニ炭田ノ東部ニ於テハ硬炭ハ層ノ上下左右ニ於テ屢々頁岩ニ移過セリ、硬炭中ニ挾在セラレ、閃炭ノ部ニハ時ニ肉眼ニ於テサヘ樹材ノ組織ヲ認メ得ルモノアリ

石炭中最モ堅キ部分ニ「カバリ」ナル名稱アリ、千金寨坑ニ於ケル富士、大和、朝日ノ三層中之レニ屬スルモノアリ、最モ厚キ「カバリ」ハ厚サ一・五米ナリ堅硬緻密ニシテ煙管、印材、彫刻ノ材料ト成スニ足ル、「カバリ」ハ黝色ヲ帶ビ脂肪光澤ヲ呈シ揮發分ニ富ミ燭炭ニ類セル成分ヲ有ス、其性質他部分ト異ル所以ノモノハ生成當時原料タリシ流木ノ性質ヲ異ニセシカ又ハ原料分解ノ程度ノ異ナレルカニ基因スルナラン、「カバリ」ハ東方楊柏堡ニ至リテ著シカラズ、更ニ新屯以東ニハ殆ンド認ムルヲ得ズ

龍鳳坑ニテ觀察セル所ニ依レバ傾斜緩ナル斷層ニ附隨シテ「ホヤ」ヲ生ズル場合多ク此部分ハ脆弱ニシテ採掘作業ニ顯著ナル障礙ヲ及ボセリ、炭層内夾石ハ主トシテ灰白色乃至黑褐色頁岩ニシテ炭田西部ニ於テハ粘土質ナルモ東部ニ於テハ砂質ヲ帶ブルモノ多シ、注目スヘキ夾石ノ變化ハ常盤層以下ノ部分ニ多ク古城子第一露天掘内ニ露ハル、膨大ナル炭酸鐵礦ニ富メル夾石モ此例ナリ又新屯坑以東ニ於テハ常盤層ノ下盤ニ接シテ一米以上ノ砂岩有ルヲ特徴トス、新屯坑以東ニ於テ主要炭層ノ稼行ニ堪ユル部分ガ急激ニ薄クナレルハ富士層ガ硬炭ト夾石ヲ増加シ朝日層以下ノ石炭ガ漸次ニ薄クナリ炭質頁岩、頁岩又ハ砂岩等ノ互層ニ移化セルニ基因ス、此傾向ハ塔連炭礦ニ近付キテ愈々著シ、是等ノ性質ヨリ推スルニ

炭質ハ東ヨリ西スルニ從ヒテ下流の素質ヲ有セルガ如シ

炭質ハ全層ヲ通ジテ大差ナキモ主要炭層ノ中央部朝日層水準以下ハ炭質劣レル觀アリ琥珀質樹脂モ亦多ク此部分ニ散點ス、琥珀ハ夾石中ニモ存在シ時トシテハ脈狀ヲナシテ其割目ヲ充填スル事アリ、一次生硫化鐵ハ微量ニシテ多クハ顯微鏡的微晶ナリ、肉眼ニテ認メ得ルハ裂面ニ小團塊又ハ小片トナリテ現出スルモ其量亦多カラズ、後者ノ成生ハ地上ヨリ降下セル天水ニヨル二次生ノモノタル可シ

撫順炭ヲ薄片トナシテ顯微鏡下ニ檢スルニ樹質部ヲ區別シ得ルノミナラズ櫻層ノ石炭ニ於テ○・五耗以內ノ植物胞子囊ト想像セラルルモノノ流入セル如キヲ多量ニ認メタリ此等ノ諸點ヨリ推スルモ撫順炭ハ陸生植物ノ流水中ニ沈積セルモノナル可シ

撫順炭ヲ滿鐵中央試驗所ニ於テ分析セル結果ハ左ノ如シ

坑名	層名	比重	水分	揮發分	骸炭分	灰分	全硫黃	發熱量	骸炭性質	年試月驗
千金寨	富士	一・三〇八	七・四四	四二・八四	四九・九〇	四八・三〇	〇・七三九	六六〇〇	弱粘結	大正六年 木戶氏報 文ニ據ル
	大和	一・三〇三	七・一八	四〇・一〇三	五二・七〇	二・五〇〇	〇・五〇三	六八〇〇	同	
	朝日	一・二九九	四・六〇〇	四六・六〇	四七・七〇	三・二一〇	〇・七五三	七〇〇〇	同	
	櫻	一・三一九	五・一七八	四九・九〇三	四九・九〇	一・四四〇	〇・七〇六	六七〇〇	同	
楊柏堡	平均	一・二七四	五・八八四	四四・二七九	四九・九三	二・九〇〇	〇・五九三	六六〇〇	同	
	第一路	一・二八二	六・七六五	三八・九五五	五二・二八〇	三・八四〇	〇・五九〇	六三〇〇	同	

坑名	層名	比重	水分	揮發分	骸炭分	灰分	全硫黃	發熱量	骸炭性質	年試月驗
老虎臺	第二路	一・二三八	六・〇二六	三八・五五四	四九・五〇	三・〇〇〇	〇・五七九	六七〇〇	同	
	第三路	一・二六一	四九・七八	三九・五九二	五五・四〇	三・四〇〇	〇・四七五	六八〇〇	同	
	第四路	一・二七九	六・一七九	三八・七一	五五・四〇	二・三三〇	〇・三三八	六九〇〇	同	
	平均	一・二七四	六・五三六	三八・八六六	五五・九六	三・〇〇三	〇・四九一	六八〇〇	同	
老楊千	第一路	一・二九九	五・九九〇	四一・八七〇	五二・一四〇	五・五〇〇	〇・五三四	六二〇〇	同	
	第二路	一・二七七	五・九六六	三九・五六四	五四・四七〇	四・二八〇	〇・八九五	六六〇〇	同	
	第三路	一・二八七	六・八五三	三八・六八	五四・四六〇	六・二〇〇	〇・四一四	六二〇〇	同	
	第四路	一・二四八	五・七五九	三三・七七七	六〇・四六三	九・四三〇	〇・三四三	六二〇〇	同	
東郷	平均	一・二八三	五・八九一	三八・四〇七	五五・七〇二	六・三三三	〇・四九二	六三〇〇	同	
	三坑平均	一・二八〇	五・九七三	四〇・七元	五三・二九	四・一六〇	〇・五九九	六四〇〇	同	
	一號	一・二五四	二・二六三	四八・九五八	四八・九八〇	五・九四四	一・七六	七二〇〇	同	
	二號	一・二九六	四・八八〇	四一・五九〇	五三・五三〇	四・五〇〇	〇・九一九	七〇〇〇	同	
萬達屋	三號	一・三四三	六・二四五	四八・四二五	四九・三三四	四・三〇〇	〇・五五	六八〇〇	同	
	四號	一・二五七	三・四一九	四九・九六一	五二・六〇〇	四・二二七	〇・八三六	七三〇〇	同	
	富士	一	六・七五	三六・二一	一〇・七	一〇・七	〇・三九	六五〇〇	同	大正九年
	朝日	一	七・二	三六・九	四・六	〇・五四	六九〇〇	同	同	

龍鳳	新屯	常盤	櫻朝	富士	櫻朝	大和	富士
日	日	日	日	日	日	日	日
三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二
四二五	四二五	四二五	四二五	四二五	四二五	四二五	四二五
一八七	一八七	一八七	一八七	一八七	一八七	一八七	一八七
〇六四	〇六四	〇六四	〇六四	〇六四	〇六四	〇六四	〇六四
六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六	六二六
粘結性	粘結性	粘結性	粘結性	粘結性	粘結性	粘結性	粘結性
同	同	同	同	同	同	同	同

備考 表中平均トアルハ數字上ノ平均ニ非ズシテ試料ヲ混和シテ得タル平均試料ノ成數ヲ示ス又石炭ノ發熱量ハ總テ「トムソン」氏法ニ依リ「ゴークス」ハ「ヘルチエル」氏法ニ依ル

灰色相ハ淡褐灰色ヲ普通トス、灰分ヲ滿鐵中央試驗所ニ於テ分析セル結果ハ左ノ如シ（滿洲產物分析試驗表ニ據ル）

千金寨	大山坑	硅酸	礬土	酸化鐵	滿酸	石 灰	苦 土	硫 酸	磷 酸	耐火度 (セーゲル)
五一・五二	五二・三八	二三・四二	二八・六〇	一八・八五	一四・七七	〇・七七	一・六〇	〇・四四	〇・八九	〇・三五
八番	十五番									

東郷坑	楊柏堡坑	老虎臺坑	五〇・〇八	五三・一八	五〇・六〇	二五・五〇	三四・〇五	二七・二〇	一九・〇二	一八・八三	一八・六七	〇・三五	〇・九四	〇・三七	〇・五二	〇・一九	一・六八	〇・八三	八番
-----	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	----

石炭ヲX光線ニ依リ檢スルニ灰分ハ普通地層面ト平行ニ縞目ヲナシテ排列シ「カバリ」ノ部分ハ炭質ノ部分ト密ニ混合セル状態ニ在リト云フ

撫順炭ハ燃燒ニ際シテ「クリンカー」ヲ生ズル事ナキモ粘結力ニ乏シク、之レヨリ製出スル骸炭ハ緻密ニシテ大塊ヲ得難シ、硫黃分ハ閃炭ノ部ニ於テ〇・五%内外ナリ、顯微鏡下ニ於テ黃鐵礦ノ微晶ヲ認メ得ルモ閃炭ノ部ニ含マルル硫黃ノ大部分ハ有機硫黃ノ形ヲ取ルガ如ク硫化鐵ハ一般ニハ甚シク少量ナリ、水分ハ三%以下ノ事ナキニ非ザルモ六%内外ヲ普通トシ稀ニハ九%以上ニ達スル事アリ、揮發分ノ多キハ撫順炭ノ特長ニシテ三十八乃至四十八%アリ揮發分ト水分トノ多キハ是日本産第三紀石炭ト相等シク弱年炭ノ通有性ト見ル可シ、而シテ揮發分ハ千金寨炭ニ最モ多ク炭田東部ニ幾分少ナク骸炭分ハ炭田東部ニ於テ増加スル傾向ヲ示セリ、一般ニ粘結性ニ乏シキヲ以テ骸炭製造ノ原料トシテハ不適當ナルモ東方ニ進ムニ從ヒ其性質ヲ具備スル傾向アリテ現在龍鳳坑朝日層附近石炭ハ鞍山製鐵所用ノ骸炭製造ノ原料ニ供用セラル、龍鳳坑方面ノ炭層ハ比較的硬炭及夾石多ク從ヒテ石炭中夾石及灰分ノ多キヲ缺點トスルモ傾斜充墳採掘法ノ發達ハ稼行層ノ撰擇ヲ可能ナラシムルニ至レリ、殊ニ此採掘法ハ撫順炭採掘上ノ一新紀元タルノミナラズ仕向先ニ依リ稼行層ノ取捨撰擇ヲ必要トスル場合ニ其利點ヲ發スルモノ

ト云フ可シ  
中央試験所ニ於テ撫順炭ヲ元素分析セル結果ハ左ノ如シ

層名	炭素	水素	窒素	酸素	硫黄	水分	灰分	試験年月
千金寨 富士	六〇・七五	五・七三	二・三〇七	二・三九二	〇・七三九	七・二四六	四・八三〇	大正六年 木戸氏報 文ニ據ル
大和	六二・四三	五・六四	一九七三	二・三九四	〇・五〇三	七・一八六	二・五〇〇	同
朝日	七〇・九三	六・五五	一九九九	二・二八八	〇・七五三	四・六〇〇	三・二〇〇	同
櫻	七〇・三六	六・七三	二・二四七	二・二〇〇	〇・七〇六	五・一七八	一・四四〇	同
楊柏堡 第一路	七〇・九七	五・五九六	二・〇九二	二・〇八〇	〇・五九〇	六・七六五	三・八四〇	同
楊柏堡 第二路	七二・六三	六・二八	二・〇九二	二・〇四七	〇・五七九	六・〇二六	三・〇二〇	同
楊柏堡 第三路	七二・九五	六・〇五三	一・八三八	二・〇四九	〇・五七五	四・九七六	三・四〇〇	同
楊柏堡 第四路	七四・七八	五・七四七	一・四四一	九・四六五	〇・三三八	六・一七九	二・三三〇	同
老虎臺 第一路	六九・九三	五・八七八	一・三三三	二・二八二	〇・五五四	五・九九〇	五・五六〇	同
老虎臺 第二路	六九・五〇	五・七七三	二・二二五	二・二五一	〇・八九五	五・九六六	四・二八〇	同
老虎臺 第三路	六九・二五	五・八五九	一九〇五	二・〇四三	〇・四一六	六・八五三	六・二二〇	同
老虎臺 第四路	六九・三六	五・〇九九	一・八一	九・〇四五	〇・三三三	五・七五八	九・三〇〇	同

以上ハ石炭百分中ノ含有性分量ニシテ之レヲ純炭中ノ含有量ニ換算スレバ左ノ如シ

坑名	層名	炭素	水素	窒素	酸素	硫黄
千金寨	富士	七五・〇六五	六・四八九	二・六二一	一四・九八五	〇・八四〇
	大和	七五・五六一	六・二六三	二・一八三	一五・四三六	〇・五五七
	朝日	七七・〇四一	七・一〇二	二・一六六	二二・八三六	〇・八一六
	櫻	七八・五二二	六・六一〇	二・三三〇	二二・八九四	〇・七五六
楊柏堡	第一路	七九・三五一	六・二六〇	二・〇二一	一一・三八九	〇・七五六
	第二路	七九・一一〇	六・七二六	二・〇二一	一一・五〇六	〇・六三七
	第三路	七九・六二七	六・六〇五	一・六八二	一一・五六八	〇・五一八
	第四路	八一・六六九	六・二八一	一・三四九	一〇・三四三	〇・三五八
老虎臺	第一路	七六・八四八	六・六四六	二・五二七	一三・三五三	〇・六二六
	第二路	七七・四六七	六・四三二	二・二二二	一一・九八二	〇・九九七
	第三路	七九・四五八	六・七三二	一・三五七	一一・九七七	〇・四三六
	第四路	八一・六八九	五・九五九	一・二九六	一〇・六五三	〇・四〇三

此表中興味アル事實ハ各坑産共ニ炭素ノ量ガ上盤際ニ最モ少ク下ルニ從ヒ漸次ニ増加シ下盤際ニ近付  
キ最モ多キ事ナリ、是レニ反シテ他ノ三元素ナル水素、窒素、酸素ノ中窒素ハ上部ニ最モ多ク（此現象  
ハ油母頁岩ニ於テモ同様ナリ）下部ニ漸次減少シ、水素及酸素モ亦概シテ窒素ト同様ノ現象ヲ呈セリ、

而シテ窒素多キ事モ撫順炭ノ特長ナリ  
種々ノ性質ヨリ炭種ハ褐炭ニ近キモ其分析ノ結果ヨリC/H百分中十二ナルニ依リ合衆國地質調査所規準  
ノ瀝青炭ノ部ニ先ヅ該當スルモノト謂フ可シ

撫順炭礦工業課分析 (試料五二〇平均) (自大正十一年十月至大正十三年五月)

坑名	水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黃	窒素	發熱量 (カロリー)
古城子坑	六・三八	三九・二一	四七・七五	六・六六	〇・六六一	一・二二七	六、七七七
千金寨坑	四・九三	三九・三六	四九・七〇	六・〇一	〇・七三五	一・七七八	六、九五〇
大山坑	四・三一	三八・五五	五〇・五五	六・五九	〇・六七三	一・六九八	七、〇七〇
東鄉坑	四・二〇	三七・七九	五一・二六	六・七五	〇・七六一	一・八四四	七、一五五
老虎臺坑	四・五一	三七・五六	五〇・一四	七・七九	〇・七二六	一・八八七	七、〇四六
萬達屋坑	四・二五	三七・一〇	五一・一六	七・四九	〇・七三三	一・八二八	七、一三六
新屯坑	二・八二	三六・七二	五〇・七六	九・七〇	〇・八四五	一・八七四	七、〇七五
龍鳳坑	三・二〇	三五・六八	五〇・九四	一〇・一八	〇・八七五	二・二〇七	七、一〇三
搭連坑	二・六五	三四・三七	四六・七六	一六・二二	〇・九五二	一・八六三	六、六七一

獨逸石炭研究所分析 (千九百二十二年八月)

採炭所名	水分	揮發分	骸炭分	灰分	全硫黃	窒素	炭素	水素	酸素	發熱量 (カロリー)
古城子	八・三	四六・九	五三・〇	四六・五	〇・四五	一・〇〇	七三・八〇	五・七〇	一五・一五	六、六四〇
大山	八・二	四四・五	五五・八五	四五・五	〇・五五	一・二五	七五・三〇	五・八五	一三・五〇	六、七八五
東鄉	五・九	四三・四	五三・六	六六・五	〇・七〇	一・二五	七五・二五	五・六五	一〇・四〇	七、〇〇五
老虎臺	六・九	四三・五	五七・九五	八二・〇	〇・五〇	一・五〇	七二・四〇	五・七〇	一三・七〇	六、七四八・五
龍鳳	五・九五	四〇・六	五九・四	七〇・五	一・〇〇	一・八〇	七三・七五	五・四五	一〇・七五	六、九四九五

埋藏量 (第四版參照)

明治四十年ヨリ大正十二年末ニ至ル十七箇年間ニ撫順炭礦ガ採掘シタル炭量ハ大約三千五百萬噸ニ達ス、此量ヲ控除セル現在埋藏量(撫順炭礦區内)ハ目下撫順炭礦務課ニ於テ精密ニ測定中ナリ、依テ此處ニハ左記ノ規約ノ下ニ埋藏量ヲ概算セラレタルモノヲ掲グ

規約

- 一、炭量計算ニ於テ縮尺六千分ノ一地形圖ヲ使用ス
- 一、礦區ヲ露天掘、大山坑、東鄉坑、楊柏堡坑、老虎臺坑、萬達屋坑、龍鳳坑ノ七區ニ分チ(第四版參照)各區ヲ更ニ採掘跡坑道及夾石等ヲ參照シテ之ヲ二箇處乃至二十六箇處ニ分チ各箇處ニツキテ其面積及厚サヲ調査又ハ推定シ其炭量ヲ計算セリ



一、老虎臺、萬達屋及龍鳳ノ三區ニ於テハ炭層賦存區域ノ南部ヨリ北部ニ向ヒ水平距離四百尺毎ニ走向東西傾斜北方ニ五十度落差五十尺ノ深ケ下リ斷層一箇アルモノト計算ノ際ニ假定ス

一、古城子村落附近ハ埋藏量調査中ニ就キ此計算ヨリ除外ス

一、層厚ハ層面ニ直角ノ厚サヲ垂直ノ厚サニ直シテ使用ス

一、石炭ノ比重ハ一・二七五トシ石炭一立方米ノ重量ヲ一・二七五噸トシテ計算ス

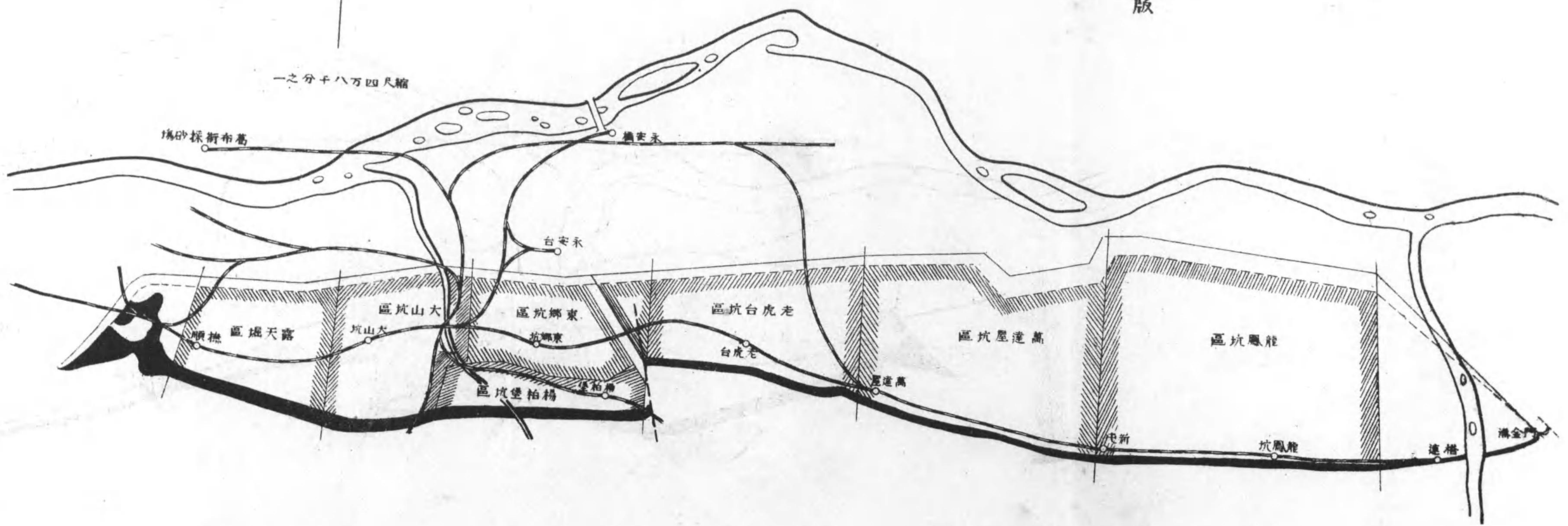
然ル時前記七區ノ埋藏量次ノ如シ

區域	面積 (平方米)	容積 (立方米)	炭量 (噸)
露天掘區	一、一〇、七五九五〇	六四、三五八、六二一・一五	八二、一七七、七二三・五九七
大山坑區	三、三四二、〇七七五〇	二二〇、八二五、〇八六・八三	二八一、九六五、三四三・六一四
東鄉坑區	一、四一〇、〇一五・〇〇	五四、四一一、〇三六・七七	六九、四七五、九二二・八二五
楊柏堡區	一、〇五一、〇六二・五〇	三七、五七一、七六八・九二	四七、九七四、三三五・二二七
老虎台區	二、七〇七、八〇五・〇〇	九一、四七八、八二三・〇二	一一六、八〇六、七三六・七四八
萬達屋區	四、二三七、三一四・五〇	一〇五、八八二、九九九・一九	一三五、一九八、八七二・五三〇
龍鳳坑區	五、八二一、〇六〇・〇〇	八三、〇二八、〇五一・九二	一〇五、二四八、七八四・七一八
合計			八三八、八四七、七〇九五・六〇

第四版



一之分子八万四尺縮



上記以外ニ撫順主要炭層區域内ニ屬スル塔連炭礦、阿全溝炭坑及古城子村落以西ニ於ケル埋藏量ヲ加算スレバ約九億噸ヲ算ス

## (二) 褐色頁岩層(油母頁岩層)

褐色頁岩層概説 褐色頁岩層ハ撫順炭田ノ主要炭層ヲ整合ニ被ヒ主トシテ褐色頁岩ヨリ成リ炭田西部ニ於テ稀ニ石炭ノ薄層ヲ挾有スル事アリ、本層ハ厚サ炭田ノ西部ニ於テ約百二十米ニ達ス、炭田東部ニ於ケル厚サニ就テハ確實ナル資料ナキモ嘗テ行ハレタル塔連炭礦北方ノ試錐及現行龍鳳坑試錐ノ結果ニ徴スルニ此方面ニ於テモ炭田西部ト同様ノ厚層存在セルヲ豫想シ得

褐色頁岩ハ主トシテ帶黒褐色ニシテ品位良好ナルモノハ硝子破片ニテ薄ク削ルコトヲ得、風化スル時ハ葉狀ニ剝離ス、條痕褐色、比重平均二・〇ナリ、本岩ハ之ヲ低温乾餾スル際ハ粗油ヲ抽出スルヲ以テ油母頁岩ト稱セラル、中央試験所ニ於ケル分析及乾餾セル平均成績左ノ如シ(木村忠雄氏ニ依ル)

灰分 四一五%

揮發分(五五〇度マデニ揮發スル分) 一六一六%

固定炭素(揮發分残り) 七三%

粗油 七・八%

乾餾セル結果ハ

粗油 七・八%

アムモニア水

瓦斯

八%

四一五%

二二

「タール」ノ性質ハ平均比重〇・八六(二九度)熔融點二八・三度ニシテ瓦斯ノ成分ハ二酸化炭素一九%、重炭化水素九%、酸素一・五%、一酸化炭素二・一%、「メタン」一・九%、窒素六・〇%、水素四二%ナリ

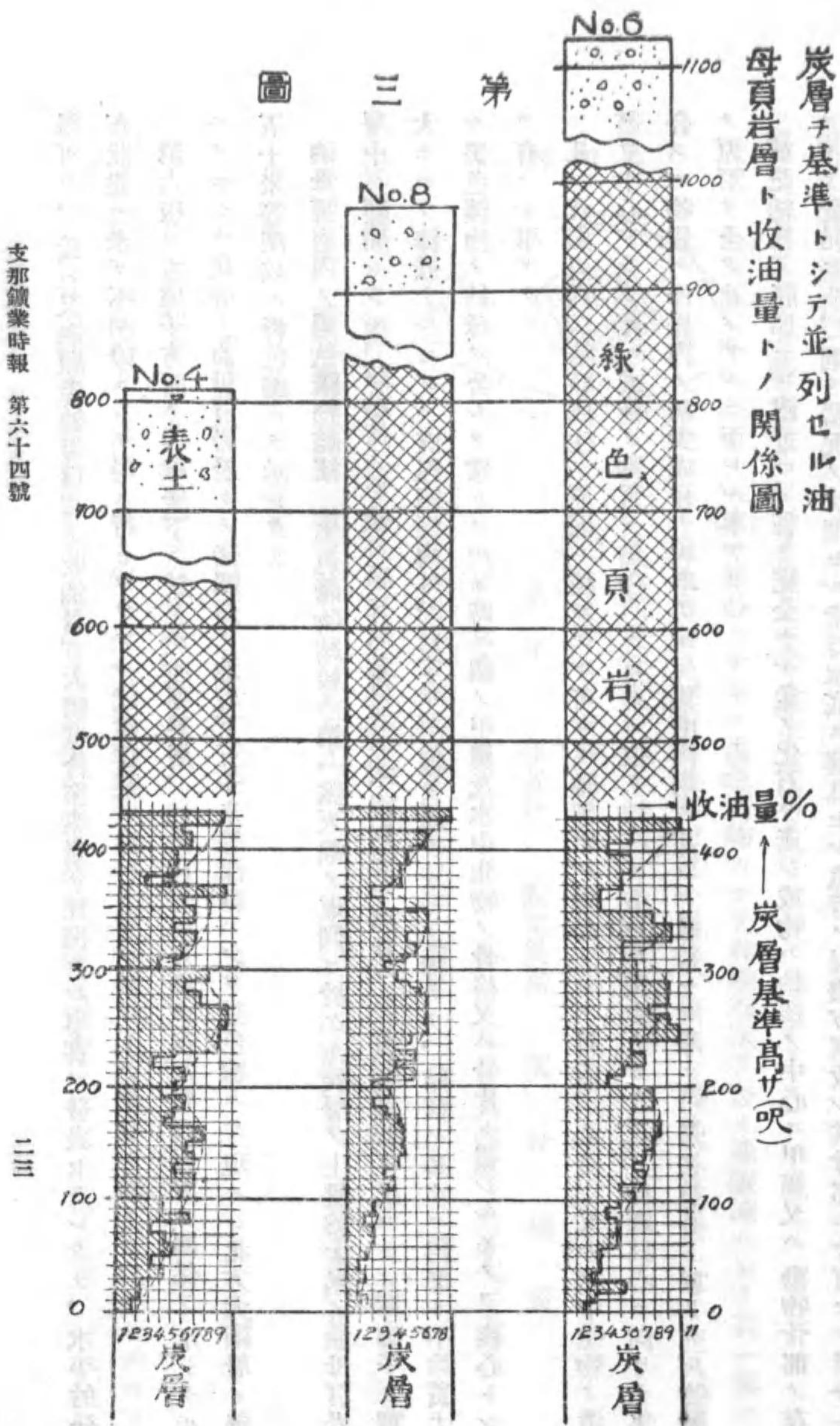
油母頁岩ノ層面ニ並行及直角ナル薄片ヲ造リテ之レヲ顯微鏡下ニ檢スルニ褐色ヲ呈シ多量ノ有機物ヲ含有セル土狀質物中ニ二次生雲母、黃鐵礦粒及「カオリン」ノ微粒ヲ認ム、二次生雲母ハ層面ニ平行ニ配列セルヲ普通トス、此外一次生炭酸石灰微粒、石英微粒及水草ノ莖又ハ植物炭化物ノ破片ガ點々トシテ散布セルヲ見ル、是等炭化物ノ破片ハ恐ラク泥土ト共ニ水底ニ沈積シタル植物ガ分解シテ酸素ヲ減ジ木質又ハ素皮質等ガ殘留セルモノニシテ顯微鏡下ニ時ニ纖維組織ヲ認メ得ルモノアリ所謂成生當時腐泥トナリシ部分ノ殘渣ナルガ如シ所謂「ケロゲン」粒子(「スコットランド」油母頁岩ヲ薄片トシテ檢スル時ハ亞透明ナル黃色微粒子ノ散布セルアリ、之レヲ「ケロゲン」粒子ト呼ビ從來化石セル胞子ナリト云ハレシモ最近ノ學說ニテハ樹脂ナラントセラル)ヲ認メザルモ化石樹脂ハ時ニ孤立シテ明瞭ニ存ス

賦存狀態 (第四版、第五版及第六版參照)

油母頁岩ハ元來腐泥薄層ガ水底ニ累疊硬化セルニ依リ生ジタルモノナルベク從テ本層ヲ垂直ニ觀ル時ハ風化ニ依リ葉狀ニ剝離シ各々ノ薄層ニ於テ諸性分含有量ヲ相異セリ、本層ハ大體ニ於テ四層ノ良好帶ヲ有シ炭層ニ接シ層厚約三十米間ハ貧礦ト見做スベキナリ

炭田西部ニ施行セラレタル金剛石試錐「コーア」ニツキ木村工學士ガ乾餾分析セル結果ニ之ヲ明ニ認メ

(木村忠雄氏報告ヨリ轉載)



得可シ、氏ハ又撫順產油母頁岩ノ收油量ガ大體其含窒素量ニ比例スル事實ヲ發表セラレタリ、水平的分  
布狀態ハ未ダ不明瞭ニシテ現ニ行ヒツツアル試錐作業ノ進行ニツレ明カトナルベシ

第六版ハ古城子方面ノ沖積層下ニ於ケル主要炭層、油母頁岩層及綠色泥灰質頁岩層ノ關係ヲ示シタル  
モノニシテ炭層ト油母頁岩層トノ接觸面ノ地表下五十米等深線ハ之ヲ黑色線ニテ現ハシ北方大斷層ノ每  
五十米等深線ハ青色線ニテ示シタリ

油母頁岩内ノ黑色鑛物結核 黑色鑛物結核ハ第一露天掘ノ東側ニ於ケル炭層ノ上盤約十米ノ油母頁岩  
層中ニ胚胎セラル、該結核ノ形狀ハ扁豆狀若シクハ不規則ナル棒狀ヲナス、扁豆狀ヲ成スモノハ椰子ノ實  
大ニシテ棒狀ナルモノハ直徑四厘内外、長サ二〇厘ヲ過グルモノ稀ナリ、結核ハ多クハ内部ニ不均質ナ  
ル黑色鑛物ノ結球ヲ含ムヲ常トスルモ時ニ龜ノ甲羅及水中生物ノ骨格又ハ骨片ト覺シキモノヲ核心トシ  
テ有スル事アリ

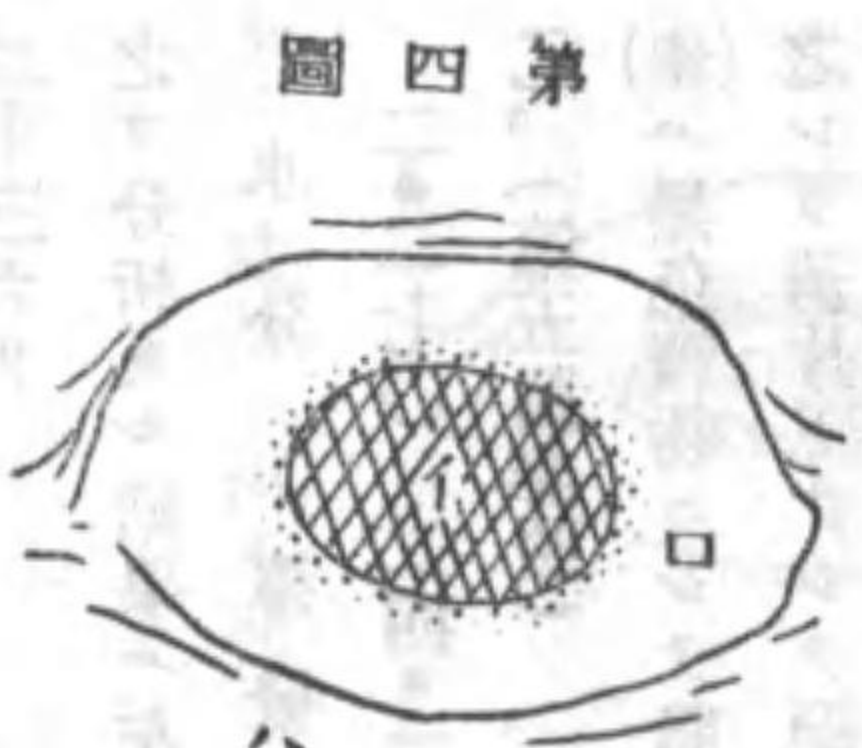
凡ソ沈澱岩内ノ結核成生ノ原因ハ種々アル可キモ特別ナル場合トシテ貝殻、木葉、又ハ水中生物ノ遺  
骸ヲ中心トシテ此ニ或種ノ物質ガ集合スルコトニ依リ結核ヲ造レル例少ナカラズ、此際核心ニ向ヒテ集  
合スル物質ハ母岩内ノ稀少成分ナル事アルモ集中作用ノ甚シク進行セル際ニハ最初核心ト成リタル物體  
ノ原形ヲ全ク止メザルニ至レル事アリ

前記結核ノ胚胎セル附近ニハ管ヲ完全ナル龜ノ化石ヲ産シ或物ハ結核ノ中心ニ甲羅又ハ動物骨部ノ存  
スルヲ發見セリ、則チ腐泥ノ沈積セル當時水底ニ棲息セシ龜等ノ屍體ガ腐敗シ其骨部ニ含有セル磷分ニ  
向ヒテ磷分集中シ交代作用ノ結果遂ニ完全ナル結核ヲ生ジタリト推定スル事ヲ得

該結核ノ截断面ハ甲第四圖及乙第五圖ニ示スガ如シ

甲、(第四圖参照)

圖ニ示セルモノハ椰子實大ニシテ最モ完全ニ交代作用ノ行ハレシモノナリ



(イ)ハ核心トナレル黑色鑛物ニシテ炭酸石灰ヲ含ミ稀鹽酸ニヨリ其一部ハ  
發泡溶解ス、脂肪光澤、色ハ黑色、條痕ハ褐色、比重ハ二・一三八、硬  
度ハ四乃至五

(イ)ヲ分析セル結果左ノ如シ

水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫	黃
○・九六〇	八・二七〇	一・三五〇	九〇・六四五	○・七〇七	
右ノ灰分ヲ分析セル結果ハ左ノ如シ					
硅	酸	礬	土	酸化鐵	酸化滿俺
石	灰	苦	土	磷	酸
一・〇二〇	四四・七二九	微量	○・七二八	九・三二〇	○・四〇八
三二・五四九					
加里	曹	達			
○・一八八	○・五五二				

即チ灰分中磷酸著シク多量ナルヲ以テ特徴トス

(イ)ノ部分ヲ顯微鏡下ニ薄片トシテ檢スルニ褐色亞透明ニシテ非結晶ナリ、磷分ハ礬土ト化合セルモノ  
アランモ一部分ハ磷灰石結晶トナリテ存在ス、炭酸石灰ノ結晶ハ多量アリ

(ロ)ハ結核ノ外殻ヲ成ス部分ニシテ光澤ハ土狀光澤、色ハ褐色(但シ白鐵鑛ニ富ム部分ハ淡青色ナリ)條痕ハ褐色、硬度ハ四ナリ

之ヲ分析セル結果ハ左ノ如シ

水分	揮發分	固定炭素	灰分	硫黃	磷酸
一・四七〇	三・五二〇	一〇・九〇	七五・九二〇	〇・九七七	〇・二〇五

(イ)ニ接近セル部分ニハ白鐵鑛ヲ多量ニ混ズルヲ普通トス、其外側ハ油母頁岩ニ移過ス

(ハ)ハ結核ニ接セル油母頁岩ニシテ光澤ハ土狀光澤、色ハ帶黑褐色、條痕ハ褐色、比重ハ二・四五二、硬度ハ二—三ナリ

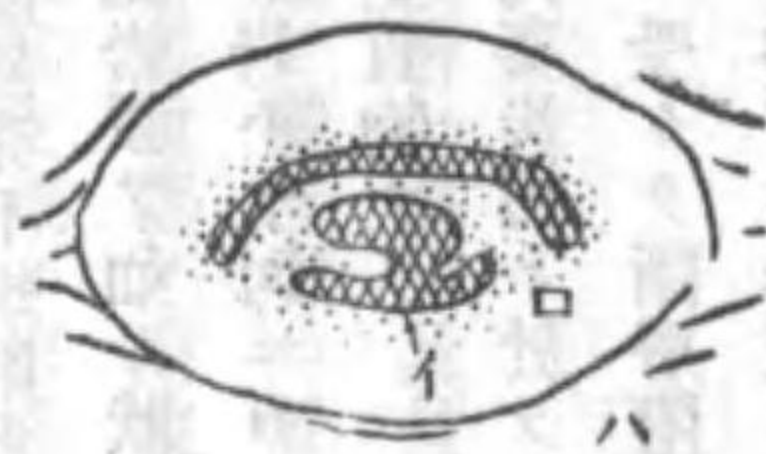
之ヲ分析セル結果ハ左ノ如シ

水分	揮發分	固定炭素	分	硫黃分	磷酸
二・二七〇	二四・一六〇	三・〇七〇	六九・七〇〇	一・三八六	〇・一四七

乙、(第五圖參照)

(イ)ハ黑色鑛物ニシテ脂肪光澤ヲ有シ多孔質ニシテ龜ノ化石ノ甲羅ノ部分ト同一外見ヲ呈ス、孔部ニハ普通白色鑛物ヲ含ミ其大之レヲ薄片トナシテ顯微鏡下ニ檢スルニ褐色亞透明非結晶質ナリ、孔部ニハ普通白色鑛物ヲ含ミ其大部分ハ磷灰石及方解石ナルモ、一部分ハ二次生ノ硫酸礬土ナルガ如シ、或部分ハ骨ノ原組織ヲ尙ホ明瞭ニ表示ス、是レ恐ラクハ磷酸礬土ニヨリテ骨ノ組織ヲ交替セラレタルモ材料供給足ラズシテ完全ナル結核球ヲ形成スルニ至ラザリシモノナラン

第五圖



(ロ)ハ結核ノ外殻部ニシテ第四圖說明ノ際ニ記述セルト同様ナル性質ヲ示ス  
(イ)ノ部分ノ周圍ニ多量ノ白鐵鑛粒子ヲ撒布セル事又同前ナリ、此現象ハ龜ノ化石ノ甲羅附近ニモ認めラル

(ハ)ハ結核ニ接セル油母頁岩ニシテ甲ノ部分ト同様ナル性質ヲ有ス頁岩中ニ黑色磷酸鹽類ノ含マレタル例ハ稀有ニ屬ス

油母頁岩ノ埋藏量 撫順炭田ノ東半部ニ於テ確實ナル資料無キヲ以テ埋藏量計算未ダ困難ナルモ蓋シ五十億噸ニ近キ埋藏量アルベク其中鑛石トシテ價值アルモノノ鑛量ハ尙不明ナリ

### (三) 綠色泥灰質頁岩層

綠色泥灰質頁岩層ハ主トシテ楊柏堡、永安臺間ノ丘阜ニ露出スルノ外試錐ノ結果ニ依レバ含炭區域ノ全部ニ擴布シ油母頁岩層ヲ整合ニ被覆セリ、本岩ハ多少ノ有機物ヲ含有シ石灰質ヲ帶ビ寧ロ泥灰岩ニ類ス、龍鳳坑ニ施行セラレタル試錐「コーア」ヨリ得ラレシ試料ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ殆ンド大部分ハ炭酸石灰ノ結晶微粒子ノ集合ヨリ成リ綠泥石様ノ細脈アリ、石灰分ハ炭酸石灰ノ形ニ於テ四〇%以上ニ及ブモノアリ本岩ハ風化シ易ク其上部ハ剝削セラレタルヲ以テ厚サ不明ナルモ油母頁岩層ノ厚サニ三、四倍スルガ如シ、此等兩層ハ何レモ全ク砂岩ヲ挾有セザルハ特異トスル處以テ第三紀下部層トハ沈澱狀態ニ於テ顯シキ差異アリシヲ思惟セシム

### 第三節 第四紀層

本地域第四紀層ニハ洪積層及冲積層アリ

#### 一 洪積層

洪積層ハ撫順炭田ノ北縁ナル永安臺小學校附近ニ露出シ未ダ充分硬化セザル砂岩、頁岩及角礫岩ノ互層ヨリ成リ概シテ東西ニ走リ南方ニ七十度乃至垂直ニ傾斜ス、本層ハ第三紀綠色泥灰質頁岩層ヲ不整合ニ被覆シ北方ハ大斷層ヲ隔テテ中生層ニ接ス、砂岩ハ片麻岩質ノモノニシテ屢々其中ニ片麻岩及玄武岩ノ小礫ヲ含ムモ油母頁岩又ハ綠色頁岩ノ礫ヲ挾有セズ、角礫岩ハ片麻岩及橄欖石玄武岩角礫ノ水流ニ依ル洶汰ノ跡アル片麻岩質砂中ニ混在セルモノニシテ該角礫ハ大サ十厘乃至二米内外、形狀大小著シク不同、配置亦不規則ナルモ時ニ玄武岩塊ノ如キハ二米内外ノ大ナルモノガ整然ト羅列シ層序ニ從ヒテ直立シ一見岩脈ノ如キ狀況ヲ呈ス、此現象ハ單ナル水流ノ運搬作用ニテハ説明シ難ク其堆積ノ狀態ヨリ推スルニ本岩ハ氷河ニヨル堆積層ニ酷似セルガ如シ、頁岩ハ砂岩、角礫岩ト互層シ薄層ヲナシ淡赤褐色ヲ呈シ粘土質物ナリ

石門寨炭田ニ於テ土口子村落西方ノ丘陵上ニ露出セル礫質砂岩ハ又片麻岩ニ似タル外觀ヲ呈シ著シキ變動ヲ受ケテ斷層附近ハ殆ンド直立セリ、此層ハ撫順ノ洪積層ニ對比スルモノナルガ如ク而シテ此レト同様ノ整層ハ奉天ノ西方及東北吉林地方ニ互リテ廣ク段丘ヲナシテ擴布セリ、是等洪積層ガ本區域ニ於

テ直立セル賦存狀態ヲ呈スルハ炭田ノ地質構造上興味有ル處ナリ(第三章參照)

#### 二 冲積層

冲積層ハ渾河及其支流ノ流域ニ廣濶ニ敷衍シ粘土及砂礫ヨリ成ル、本層ハ十米乃至三十米アリ撫順炭田西部ノ露天堀ニ於テハ其下底ニ巨大ナル流木ヲ介在スル事アリ

阿金溝村落ノ南東方及東洲河東岸ノ臺地上等ニハ各所ニ點々トシテ河成礫層ノ存在スルアリ、是等ハ渾河及其支流ノ形成セル段丘ノ遺跡ニシテ洪積層ノ一部ナル可シ

### 第四節 火成岩類

深成岩トシテハ此地方ノ基盤ヲ構成セル花崗質片麻岩アリ其中ニ屢々「ベグマタイト」岩脈ヲ含ム、後期噴出岩ハ岩床又ハ岩脈ヲナシ斑岩、安山岩、輝綠岩及橄欖石玄武岩アリ何レモ中生層内ニ存在セリ、熔岩流ヲ成シテ地表ニ溢出シタルモノニハ流紋岩、粗面岩質安山岩、安山岩、橄欖石玄武岩及杏子狀玄武岩アリ、此中前三者ハ中生代ノ噴出ニ係リ後二者ハ第三紀中新世ノ噴出ニ係レルモノノ如ク何レモ成層岩中ニ層狀ヲナシテ挾在セラル

#### 一 花崗質片麻岩

本岩ハ石英、長石、黑雲母及多少ノ角閃石ヨリ成リ概ネ北々東乃至南北ニ近キ片理ヲ有ス、本岩ノ地

表ニ近キ部分ハ軟弱ニシテ俗ニ山砂ト稱セラレ「スチームシヨベル」ヲ用ヒテ容易ニ採取スルコトヲ得ベク灌水土砂充填探掘法ニ使用セラル

### 一 斑岩

斑岩ハ東洲河西岸ノ中生層ノ最下部ノ凝灰岩中ニ岩床狀ヲナシテ挾在シ新屯村落ノ南方ニ露出ス、本岩ハ淡綠色ヲ呈スル緻密ナル石英ニ石英及肉色正長石ノ斑晶ヲ散點ス、其上盤ノ淡綠色凝灰岩トノ境界不鮮明ナリ、想フニ本岩ハ該凝灰岩ノ沈積後直チニ噴出シ岩床ヲ成シタルモノナラン  
淡綠色凝灰岩ノ上層ナル暗紫色凝灰岩中ニハ往々霏爛セル多孔質ノ安山岩樣噴出岩アリ薄層ニシテ境界不鮮明ナリ

### 二 輝綠岩

輝綠岩ハ龍風坑ノ南方及元龍山村附近ニ露出シ中生層ヲ貫キ岩脈ヲナス、本岩ハ甚シク風化霏爛シ岩種ヲ識別シ難キモ龍風公園附近ニ於テハ玉石狀ヲナシテ殘留シ核ニ新鮮ナル部分ヲ含ムモノアリ此部分ハ一見閃綠岩ニ似タル外觀ヲ呈ス之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ有色鑛物ハ大部分角閃石、黑雲母ヨリ成リ少量ノ磁鐵鑛ヲ含ム、是等有色鑛物ノ間隙ハ斜長石ニ依リテ滿タサル、角閃石ハ概ネ新鮮ニシテ他形ヲ呈シ結晶大キク斜長石ハ此ニ對シテ嵌入セル組織ヲ示セルコト多ク幾分陶土化セリ、黑雲母ハ岩漿内ニテ侵蝕サレタルガ如キ觀アリ且ツ大部分綠泥石化セリ、本岩ハ硅酸含有量四十六%内外ナリ(顯微鏡寫

眞第一圖參照)

### 四 流紋岩及其他ノ酸性岩

流紋岩ハ東洲河西岸ニ楔狀ヲ成シテ入込メル中生層ノ突角部即チ新屯村落南方ノ山頂ニ長サ數米幅一米ニ露出ス、其他龍風公園ノ南方ニ當ル一連ノ山地ニハ堅硬ナル角礫岩露出シ其一部ニ酸性熔岩流ヲ含ム、是等ハ恰モ硅岩ノ如キ外觀ヲ呈シ風化ニ抵抗シテ顯著ナル地形ヲ成セリ  
搭連咀子ノ南方約五百米ノ箇所ニ玄武岩ニ近ク中生層中ニ酸性噴出岩アリ、本岩ハ黝黑色ノ石英ニ石英ノ斑晶ヲ散點ス(顯微鏡寫眞第二圖參照)

### 五 安山岩

安山岩ハ汪戸屯附近、關口附近、大鶯咀子附近及小甲邦附近ニ露出シ中生層中ニ挾在ス、本岩ハ暗紫色乃至赤褐色、淡褐色乃至淡綠色ノ石英ニ多クハ一耗内外ノ長石ノ斑晶ヲ含ム、熔岩ニ伴ヒテ安山岩質凝灰岩層ヲ累積シ是等ハ一見安山岩ニ類シ其判別ニ苦シム處ナリ、安山岩ノ東洲河西岸山地ニ露出スルモノハ主トシテ淡青乃至淡青褐色ヲ呈シ東岸ニ於ケルモノハ元龍山附近ニテハ略淡青褐色ナルモ汪戸屯ヨリ關口附近及阿金溝ノ北方ニ露出スルモノハ赤褐色ヲ呈ス、即チ初期ニ噴出セルモノニ淡青色ヲ呈スルコト多ク後期ニ噴出セルモノニハ赤褐色ヲ呈スルコト多キガ如シ、是等ハ何レモ風化スル時ハ玄武岩ト類似セル外觀ヲ呈スルモ概シテ玄武岩ノ如キ脂感ナク、鐵苦土鑛物ニ乏シク變朽性ヲ示セリ



本岩ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ斑晶ハ主トシテ正長石及斜長石ヨリ成リ、是等ハ石基中ノ卓狀ヲナセル長石微晶ト共ニ時ニ流狀組織ヲ呈スルコトアリ、石基ハ微晶質若シクハ潛晶質ニシテ主トシテ長石微晶ヨリ成リ酸化鐵及少量ノ角閃石、橄欖石ヲ含有ス但シ赤褐色ヲ呈スル安山岩ニ於テハ特ニ鐵分多シ、化學性分ニ依リテ淡青灰色安山岩ト赤褐色安山岩トヲ比較スル時ハ左表ノ如シ但シ表中(A)ハ元龍山村落ノ南百米餘ノ箇處ヨリ採取セル淡青灰色粗面岩質安山岩(B)ハ、注戸屯村落ト關口村落トノ中間ニ露出セル赤褐色安山岩ナリ

Chemical Compositions.

	A	B
SiO <sub>2</sub>	65.77	64.69
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	16.21	15.58
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	3.95	3.82
FeO	1.87	3.36
MnO	0.51	—
CaO	0.87	2.29
MgO	1.30	1.12
TiO <sub>2</sub>	0.97	0.97
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.44	0.70

K <sub>2</sub> O	2.76	4.62
Na <sub>2</sub> O	4.49	2.27
H <sub>2</sub> O	1.05	0.85

Norms:	A	B
Q	27.18	29.04
Or	16.12	27.24
Ab	38.25	19.39
An	0.56	4.45
C	5.71	5.20
Hp	3.23	4.55
Mt	0.58	5.57
Ti	1.18	2.35
Ap	1.01	1.68
Ratios:	A	B
Sal	7.83	6.03
Fem		

O	0.49	0.57
F		
$\frac{K_2O + Na_2O}{CaO}$	9.29	5.38
$\frac{K_2O}{Na_2O}$	0.39	1.32
Position in C. I. P. W. System.		
A.....	I. 4. 1. 4. Kallerudose.	
B.....	II. 3. 2. 3. no name.	

### 六 玄武岩

玄武岩ハ本地域ノ南部山地ノ北麓ニ千山臺附近、楊柏堡附近、老虎臺附近、萬達屋附近、新屯附近及塔連咀子附近ノ處々ニ露出シ第三紀下部層中ニ熔岩流ヲナシテ層狀ニ挾在シ風化ニ抵抗シテ顯著ナル地  
形ヲ構成セリ、熔岩流ノ數ハ石門寨ニテハ一枚ニ過ギザルガ如キモ龍鳳堅坑ニテノ觀察ニヨレバ撫順炭  
田東部ニ於テハ主要ナルモノ三枚ヲ有セリ、尙同炭田西部小瓢屯區域ニ在リテハ幾分其數ヲ増加スルガ  
如シ

大體ニ於テ熔岩ガ炭田ノ東部ニ薄ク西部ニ厚キハ是レ其噴出當時ノ地形ニ支配セラレタルニ依ルベシ  
玄武岩ハ主トシテ暗綠色ヲ呈シ堅硬ナルモ其外杏子狀及鑛滓狀ナル部分少ナカラズ、本岩ノ暗綠色ヲ  
呈シ堅硬ナルモノヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ微晶質ニシテ主トシテ斜長石及輝石ノ集合ヨリ成リ多少

ノ鐵及橄欖石ヲ含有ス、石基中ニ玻璃質ヲ認メズ、斑晶ハ橄欖石ヲ主トス(顯微鏡寫真第三圖參照)、新  
屯村落南方ノ山頂及塔連咀子ノ南方ニ露出スルモノハ黑雲母ノ小片ヲ含ム、堅硬ナル玄武岩ハ熔岩ノ表  
面附近ニ於テ特ニ割目ニ富ミ裂罅ハ方解石ニ依リ滿タサレ岩石自體モ粗笨トナリ褪色シ凝灰岩ト見誤ラ  
レ易シ

杏子狀ノ玄武岩ハ多クハ暗色ヲ呈シ杏子ノ内部ニ方解石ヲ有シ其周壁ニ綠泥石膜アリ、本岩ハ微晶質  
ナル長石ノ集合ヨリ成リ輝石、角閃石等ノ有色鑛物ハ方解石及綠泥石ニ變化セリ、長石ハ曹灰長石ノ如  
シ(顯微鏡寫真第四圖參照)

龍鳳採炭所下盤堅坑内ヨリ採取セシ杏子狀ノ玄武岩ヲ其化學性分ニ依リテ分類スル時ハ左ノ如シ

#### Chemical Compositions.

SiO <sub>2</sub> .....	45.44
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> .....	17.14
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> .....	2.83
FeO.....	9.37
MnO.....	1.60
CaO.....	12.41
MgO.....	2.25
TiO <sub>2</sub> .....	3.10

P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> .....	0.95
K <sub>2</sub> O.....	2.23
Na <sub>2</sub> O.....	1.68
H <sub>2</sub> O.....	0.89

Norms:

Or.....	12.79
Ab.....	14.67
An.....	32.80
Di.....	20.50
Hp.....	3.58
Ol.....	6.93
Mg.....	4.17
Il.....	5.93
Ap.....	2.02

Ratios:

Sal.....	1.39
Fem.....	

Q.L.....	0
F.....	
$\frac{K_2O + Na_2O}{CaO}$ .....	0.23
$\frac{K_2O}{Na_2O}$ .....	0.86

Position in C. I. P. W. System:.....

III. 5. 4. 3.....no name.

### 第三章 地質構造

#### 第一節 地質構造總說

本地域ノ中生層ハ其成層内ニ多量ノ火山噴出物ヲ含ミテ當時ノ火山活動ノ歴史ヲ殘セリ、是等中生紀ニ噴出セシ熔岩ハ最初酸性岩ニ屬スル斑岩、流紋岩類ニシテ次デ中性岩ニ屬スル安山岩ナリシガ如シ、其後地質變動ニ伴ヒ鹽基性ノ度ヲ増加シ輝綠岩ノ岩脈迸出セリ、後者ノ一部ハ或ハ熔岩流トナリテ地表ニ噴出セルモノ有ランモ其等ハ引續キテ行ハレタル地表剝削作用ニ依リテ全ク消失セシ如ク第三紀ニ於テハ本地域ハ既ニ老年期ノ地貌ヲ呈シ居リシガ如シ而シテ中生層ガ擾亂ノ跡ヲ示シ此レト片麻岩トノ境ガ常ニ斷層ヲ以テ劃セラル、ハ恐ラク第三紀以前ノ變動ニ基因スルモノ多カル可シ、第三紀中新世ニ於テハ此地方ハ廣濶ナル低濕地ヲ成シ其一部ニ流水アリシガ如シ、而シテ今期ニ活動セル火山作用ニ依リ

噴出シタル熔岩ハ何レモ著シク鹽基性ナル橄欖石玄武岩及杏子狀玄武岩ニシテ數枚ノ熔岩流ハ凝灰岩、砂岩等ト共ニ整然トシテ此ノ區域ニ累積セリ、是等ノ玄武岩及火山堆積層ハ全ク第三紀下部層内ノミニ限ラル、此等下部層ノ間ニ介セル水成岩ハ偽層ヲナスモノ多ク主トシテ粗粒質砂岩多シ、是ニ反シ第三紀上部層ハ主要炭層、油母頁岩及綠色泥灰質頁岩層ヨリ成リ、主要炭層ノ下部ニ於ケル夾石ヲ除ク外全ク砂岩ヲ認メズ依リテ想フニ上部層ノ沈積作用ハ厚サ二百米ナル下部層ヲ沈積セル後水面ガ擴大シ同時ニ深サヲ増シタルタメ粗粒質物ヲ流下スベキ陸地ヨリ遠ザカリタルニ依ルナラン、而シテ綠色泥灰質頁岩ニ至リテ夥シク顯微鏡的石灰粒子ニ富メルハ此時期ニ水藻又ハ微生物ノ繁殖セル結果生化學現象ニヨリテ石灰ヲ沈積セルカ或ハ當時半鹹状態ナリシニ基因スルモノナル可シ、要スルニ撫順第三紀層ハ淡水(綠色泥灰質頁岩ハ半鹹水カ)隆進累層トシテ説明セラレ得キモノナリ

撫順及石門寨炭田ガ現在ノ如キ分布状態ヲ示スニ至リシ原因ニ就テハ左記二様ノ考察アリ  
 (イ) 基盤ヲ成セル片麻岩及中生層ノ成生後東西ニ走レル一大斷層ヲ生ジ陷落シタル凹地ニ滯水ヲ成シ之レニ沿ヒテ噴出セル玄武岩ト相前後シ下部層ヲ沈積シ最後ノ玄武岩ノ一大噴出ノ爲メニ溝狀谷ガ西方ニ於テ一部封鎖シ湖水ハ益々深クナリ此處ニ流水堆積ニヨル一大炭層ヲ胚胎セシナルベク撫順、石門寨兩炭田ハ元來別々ノ箇處ニ生ジタルカ或ハ大ナル南北ニ走ル斷層ノタメニ撫順炭田ノ東半部ガ北方ニ移動シテ石門寨ノ位置ヲ占メタリト説明スルモノ(木戶忠太郎氏說)  
 (ロ) 炭田生成ノ際ニ第三紀以前ノ渾河ニ沿フ斷層谷アリシヲ豫想セズ第三紀層ハ大部分單ナル淡水(綠色泥灰質頁岩ハ半鹹水ナリシヤモ知レズ)隆進累層ナリトシ然ル後地帶變動ニ伴ヒテ渾河斷層帶ヲ形成

シ其中ニ幾多ノ傾斜陷没セル地溝帶ヲ生ジタルモ爾來地表ノ削削作用著シカリシタメ現在ニテハ往昔最大ノ地溝帶ナリシ撫順、石門寨兩炭田ノミ僅カニ削滅ヲ免カレ殘留セリト思惟ス(自說)  
 第三紀前後ノ此區域ニ於ケル地體變動ヲ解釋センガ爲メニ撫順炭田ヲ中央部、西部及東部ノ三區域トシ各部ニ就キ之ヲ説明セントス

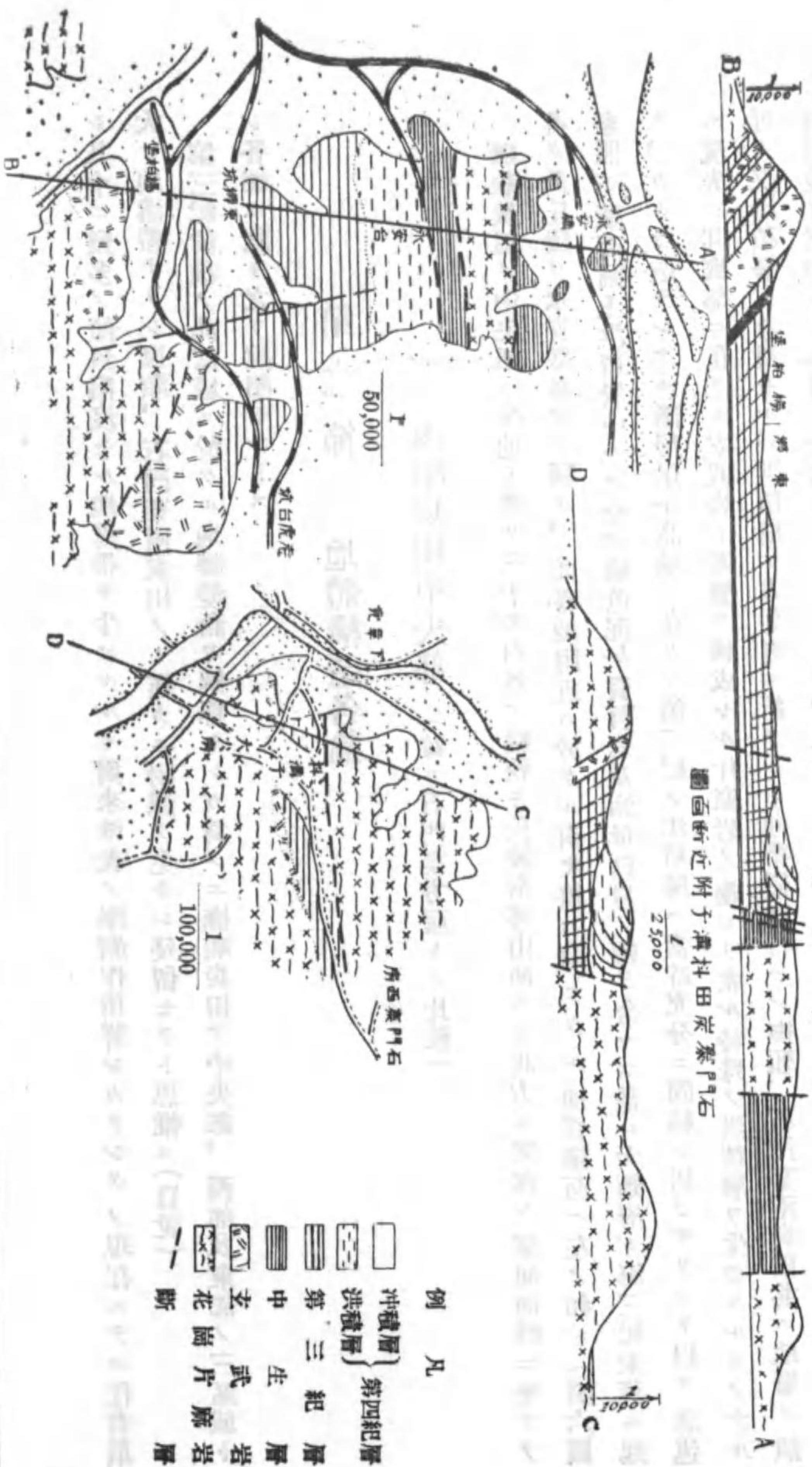
### 第二節 地體構造各論

#### 一 撫順炭田中央部 (竝ニ石門寨方面トノ比較)

撫順炭田ノ中央部ニ平地上高サ三十米内外ノ幅狹キ丘陵南部山地ヨリ北方ニ突起シ渾河河畔ニ至リテ盡ク此丘陵ヲ永安臺臺地ト稱ス、此臺地附近ニ於ケル南北線ニ沿ヒタル地質斷面ハ左ノ如シ(第六圖參照)、斷面圖上洪積層中ニハ全ク綠色泥灰質頁岩及油母頁岩ノ礫ヲ含マズ是レ大斷層ガ第三紀末葉ニ起リ、カクテ造ラレタル斷層崖上高地ニ在リシ第三紀ノ沈積層ハ當時充分ニ固結シ居ラザリシヲ以テ急速ニ流失シ其底部ニ在リシ玄武岩ト基盤ヲ構成セル片麻岩ノ礫ヨリ成ル特殊ノ洪積層ヲ生ジタルモノナル可ク又洪積層ガ急斜セルハ洪積期ノ末葉更ニ新ラシキ地帶變動行ハレ撫順、石門寨兩炭田共ニ地層ノ傾斜陷没ヲ増加セル事實ヲ物語ルモノナランカ、之レヲ要スルニ本區域ニ於テハ第三紀綠色泥灰質頁岩層ノ沈積後二期ヲ劃シテ地塊ノ變動アリシヲ想像ス  
 永安臺臺地ノ南方ニ北々東—南々西ノ走向ヲ有セル斷層アリ、撫順炭田南緣ノ玄武岩ヨリ成ル連嶂ハ

圖六 第一

圖面新台安水田炭脈



之レニ依リテ喰違ヒヲ生ジ東部ハ西部ニ對シテ躍進セルガ如キ狀ヲ呈セリ、此斷層ハ撫順炭田ヲ東西二箇ノ地塊ニ分離スルモノニシテ其斷層ヲ生ジタル時代ハ洪積期以前ナランカ

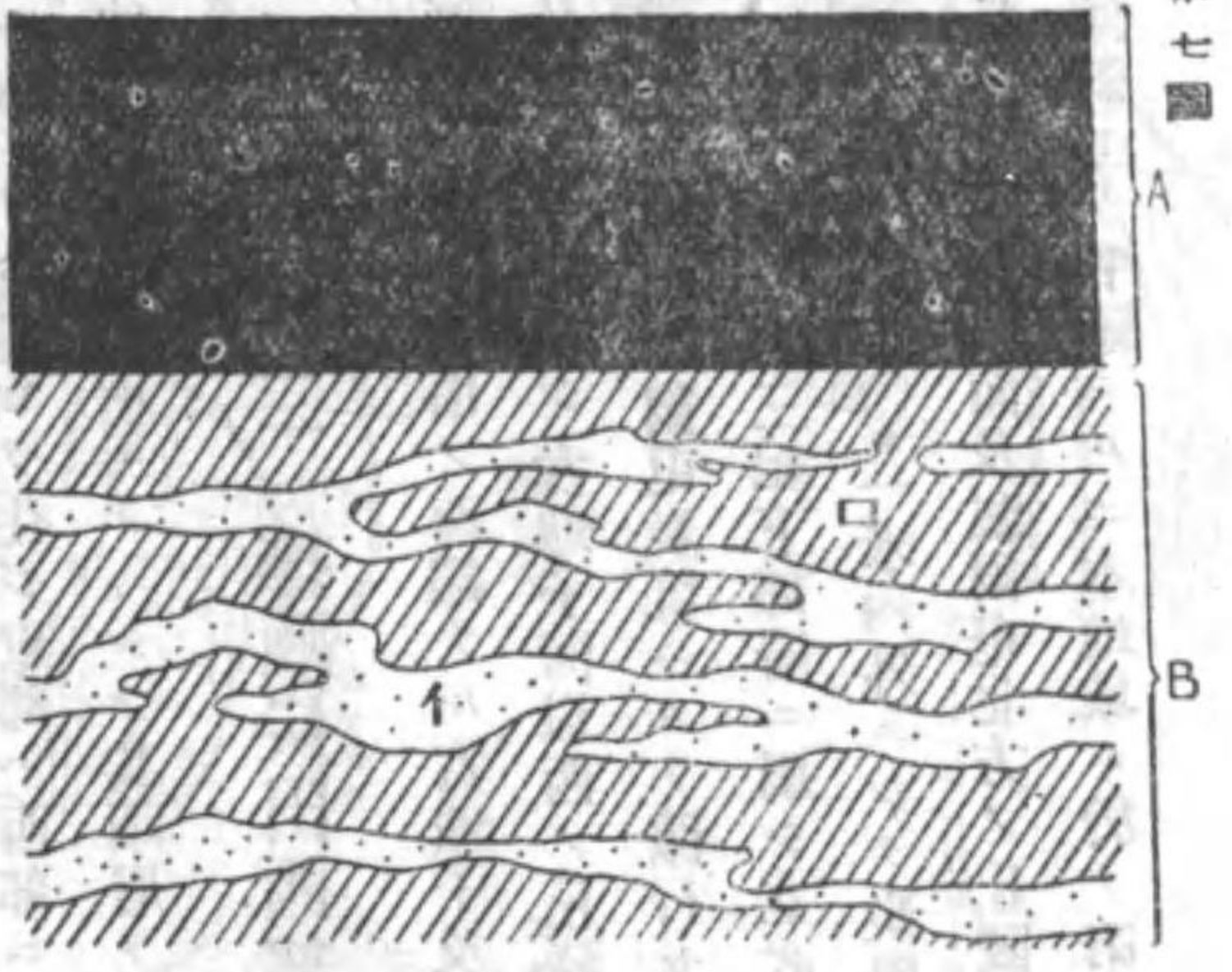
### 二 撫順炭田西部

本區域ハ撫順炭田ノ西端ナル古城子及其南部ノ地域ヲ含ミ平地及丘陵地ヨリ成ル、丘陵地ハ本區域ノ西部及南部ニ發達シ古城子河以西ノ丘陵地ノ麓ニ厚サ六米乃至十五米ナル炭層ノ露頭ヲ點綴シ華勝炭坑、天寶炭坑及瓢爾屯炭坑ニヨリ稼行セラル、何レモ濫掘ノ結果ト斷層ノ影響トニ依リ今後大ナル命脈ナシ、該炭層ハ第三紀下部層ニ屬シ玄武岩ヲ隔テテ二層アリ上層ハ厚サ六米乃至十五米ニ及ビ現時稼行セラレ下層ハ厚サ〇・一米内外ニシテ炭層トシテハ何等ノ價值ナシ、後者ノ露頭ハ華勝炭坑ノ東方ニ突出セル丘陵ノ南側斜面及瓢爾屯北方ノ丘陵突角ノ北面ニ於テ玄武岩ニ挾セル凝灰岩中ニ露出ス、是等ノ走向傾斜ヨリ判斷スルニ本地域ニ於テ第三紀下部層ガ幾多ノ階段斷層ヲ伴ヒツツ向斜構造ヲナスモノノ如シ

本區域ノ稼行炭層ノ上下兩盤ニ厚キ玄武岩アリ、玄武岩ガ炭層ノ上盤ニ接スル際ハ炭層ト共ニ土狀化セル部分アルモ炭層ノ下盤ニ接スル時ハ玄武岩及炭層ニ何等ノ變化ヲ認メズ、特ニ華勝炭坑内ニテハ屢々上盤ノ玄武岩ガ熔岩自身ノ重サニ依リ垂下シテ乳房ノ如ク入り込ミタル處アリ或ハ炭層内ニ不規則ナル形狀ヲナシテ進入シ、玄武岩自身モ炭層内ニテ土狀化シタル處アリ、斷層亦各處ニ現ハル瓢爾屯溪谷ノ地層ガ動亂ヲ受ケタル部分ニ矽化木ヲ多量ニ含メル層アリ、此等矽化木ハ松柏科植物ノ樹幹若シク

ハ樹根ヨリ成ルガ如ク其或物ハ虫類ニ依リテ夥シク穿孔セラレタル痕跡ヲ明瞭ニ示セリ、其硅化作用ハ熱泉ノ作用若シクハ單ナル交替作用ニ基因スルモノナラン然レドモ本區域全體ニ涉リテ觀察スル時ハ玄武岩ハ炭層ニ對シテ整合的關係ヲ保持スルモノノ如シ

一説ニ大山坑内ニテ從來下層炭ト呼ブモノガ小瓢屯區域ノ現稼行層ニ該當スルニ非ザルヤト考フル人アリ然レドモコハ別層ナリト推セラル、何トナレバ大山坑内ニテ下層炭ト稱スルモノハ櫻層ノ下ニ約



十米ノ黒褐色頁岩(幾分凝灰質)アリテ更ニ其下ニ位シ厚サ約八米アリ(第三版大山坑試錐柱狀圖參照)、本炭層ハ東ハ老虎臺坑内ニ起リ東郷坑ヲ經テ西スルニ及ビ漸次厚サヲ増シテ稼行ニ耐ユルニ至ル、老虎臺坑ニテハ本層ニ相當スル箇處ニ多數ノ材ノ化石ト天然木炭ノ混ジタルモノヲ産シ、東郷坑ニテハ此レト主要炭層トノ間ニ厚キ凝灰質砂岩アリ石炭ハ多量ノ灰分ヲ含ミ暗色ヲ呈シ堅硬ナリ、大山坑ニ至リテ本層ハ甚シク厚サヲ増加シ其上半部ハ夾石少キ閃炭ニシテ下半部ハ火山灰等ノ多量ノ不純物ヲ含ミ天然木炭ノ破片多ク老虎臺附近ノモノト酷似セリ、大山坑ノ下層炭ノ一部ヲ圖示セバ上ノ如シ(第七圖參照)

A ハ炭層ノ上半部ノ閃炭ニシテ厚サ六米内外アリ下半部

Bトノ境界明カナリ主要炭層中櫻層ハ本層ノ上方約十米ノ位置ニアリ  
Bハ炭層ノ下半部ニシテ新鮮ナル時ニハ堅硬ナルモ速カニ風化シ泥土狀ニ變化スコレ多量ノ火山灰ト石英粒ヲ含有スルニ依ルナラン、(イ)ノ部分ハ玄武岩ニシテ淡灰色ヲ呈シ孔隙ニ富ミ概ネ炭酸鹽物ヲ以テ滿タサル、(ロ)ハ火山灰ト炭質物ノ混合セル部分ニシテ著シキ攪拌狀態ヲ示シ内部ニ破碎セル天然木炭ヲ多量ニ含有ス

此ノ下層炭ハ第二露天掘ノ西端ニ於テ主要炭層ノ櫻層ニ接近セリ此等兩者ノ中間ニハ此方面ニ於テモ凝灰質砂岩ヲ挾ミ決シテ玄武岩ヲ有スル事ナシ此レニ依リテ觀ルニ小瓢屯區域ニ於テ厚キ玄武岩ノ中間ニ挾マレタル炭層ト前記大山坑下層炭トノ間ニハ確然タル層位上ノ區別ヲ有スルモノノ如ク即チ小瓢屯炭層ハ揚柏堡以東ニテ炭田南縁ノ玄武岩山地ノ南側ニ點綴セル第三紀下部層中ノ炭層ノ或物ニ對應シ大山坑下層炭ハ寧ロ上部層ノ一部ニ屬セシム可キニ非ザルカ  
炭田開發ノ當初ニ在リテハ撫順主要炭層ハ千金寨以西ニテ沖積層下ニ沒シ小瓢屯下部層石炭ト共ニ層向ヲ北方ニ轉ジ以テ舟底狀構造ヲ成スモノト想像セラレタリ然ルニ第一露天掘ノ開鑿後意外ニモ主要炭層ハ該露天掘ノ地點ニ於テ急激ナル跳返リヲ示シ其背斜軸ハ北々東一南々西ノ方向ヲ有スルヲ確メラレタリ、試錐ノ進行ニ伴ヒ背斜層ノ西翼ノ炭層常盤層以下ノ部分ガ古城子河ヲ越エテ南西走シ外側ノ斷層ニ附隨シテ更ニ一ツノ撓曲アルヲ發見セリ、前記斷層ノ西部ノ沖積層下ニハ試錐ノ結果ヨリ見ルニ玄武岩及凝灰岩ノ存在セルガ如シ  
炭田西部ノ沖積層ヲ除去シ地質構造ヲ示セバ圖ノ如シ(第六版參照)

本區域ガ圖ノ如キ構造ヲ示スルニ至リシ原因ハ恐ラクハ第三紀末葉ノ地體變動ニ依リテ撫順炭田ノ陷没ヲ生ジタル際永安臺斷層線以北ノ堅剛ナル地塊ニ對シ第三紀層ガ撫順地溝帶ノ西端ニ於テ複雜ナル褶曲斷層ヲ引起シタルニ因ルモノナル可シ、其後尙ホ作用セル橫壓力ニヨリ東西ニ走レル斷層<sup>e</sup>（同圖參照）ヲ生ジ、此斷層ノタメニ古城子主要炭層ト小瓢屯上層トガ連絡セルガ如キ觀ヲ呈スルニ至レルナリ、其後ノ削剝作用ノタメニ現賦存區域外ニ嘗テ敷衍セシ第三紀層ノ殆ンド總テガ消失シ同時ニ小瓢屯方面ニ於テハ第三紀上部層ノミヲ失ヒタルモノナリト思惟ス

第三紀ノ初期ニ在リテハ本區域地形ノ炭田東部ニ比シテ窪ミノ程度幾分大ナリシガ如シ、何トナレバ瓢屯南溝ノ西方ニテハ上方ヨリ二枚目ノ玄武岩ノ更ニ下方ニ可ナリ厚キ火山堆積層アルヲ認メ此部分ヲ土人ガ試掘セル舊坑附近ニハ暗綠色乃至暗紫色色凝灰岩ヲ堆積セリ

### 三 撫順炭田東部

本區域ハ撫順炭田ノ東部阿金溝附近ノ地域ヲ含ム平地ニシテ渾河ノ支流東洲河ノ流域ヲ占メ東洲河ヲ境界トシテ東ニ阿金溝炭坑、西ニ塔連炭礦アリ何レモ主要炭層ヲ稼行ス

本區域ノ地體構造豫想圖ハ第一版ニ示スガ如ク即チ第三紀上部層ノ生成以後撫順炭田ノ上半部ガ遠ク北方ニ移動セリトノ論據ヲ認メ難ク、汪貞屯ヨリ東方約三軒ヲ隔ツル關口村落ノ西端ヲ過リ北々東ノ一線ヲ以テ中生層及安山岩ヲ截斷セル斷層アルモ其生成年代ハ恐ラク第三紀以前ナル可シ之ヲ要スルニ撫順炭田各部ノ地質構造ヲ見ル時ハ第三紀以後ノ斷層ニ依リテ生ジタル一地溝帶ニ過ギ

ザルヲ知ルベシ

## 第四章 結章

一、本地域ハ中生層、第三紀中新世層、第四紀層、花崗質片麻岩、斑岩、流紋岩、粗面岩質安山岩、安山岩、輝綠岩及玄武岩ヨリ成ル

中生層ハ永安臺臺地、東洲河ノ東西兩岸附近、石門寨炭田ノ南東方ナル德古東溝附近ニ現出スルノ外小甲邦ト搭灣トノ間、及搭灣ト大瓢屯ノ間ノ沖積層下ニ斷續シテ存在シ、紫紅色及青灰色凝灰岩、黑色及灰色頁岩、淡褐色硅板岩、黝灰色泥灰岩及雜色砂岩ヨリ成ル

第三紀中新世層ハ花崗質片麻岩又ハ中生層ヲ被ヒ撫順石門寨炭田ニ頒布シ綠色泥灰質頁岩、褐色頁岩（油母頁岩）、炭層、砂岩、凝灰岩及礫岩ヨリ成ル

火成岩ハ其中生代ノ噴出ニ係ルモノハ斑岩、流紋岩等ノ酸性岩ニ初マリ、中性ノ安山岩及粗面岩質安山岩ニ至リ、後角閃石ヲ多量ニ含メル輝綠岩ガ岩床又ハ岩脈狀ヲナシテ迸出セリ、第三紀ノ噴出ニ係ルモノハ橄欖石玄武岩及杏子狀玄武岩ニシテ第三紀下部層ノ生成中熔岩流トシテ溢出セリ、要スルニ本地域ノ火成岩ハ大體中生代ニ噴出セル岩漿成分ガ漸進的ニ鹽基性ノ程度ヲ増加セルコトヲ認メラル面シテ是等中生代噴出岩ト第三紀噴出岩ニハ又確然タル相違アルヲ知ル、斯ノ如キ兩時代ニ於ケル岩種ノ差異ハ廣ク南北滿洲一帶ニ認メ得可キ現象ナルガ如シ

一、撫順第三紀中新世層ハ主要稼行炭層下部ノ玄武岩ニ伴フ凝灰岩ヲ界トシテ是ヲ下部層ト上部層ニ分

ツ

A 下部層ハ砂岩、頁岩、凝灰岩及礫岩ヨリ成リ二三ノ薄炭層ヲ有スルノ外、玄武岩ヲ挾有ス。玄武岩ハ陸表又ハ淺キ水中ニ溢出シタル熔岩流ニシテ通常凝灰岩ヲ伴ヒ三四回ニ互リ溢出セリ、是等玄武岩ノ溢出箇處ハ渾河地體構造線ト直接關係ナキモノノ如シ

B 上部層ハ主要炭層、褐色頁岩層、綠色泥灰質頁岩層ノ累層ヨリ成ル

主要炭層ハ渾河南岸ノ山麓ノ沖積層下ニ主トシテ古城子附近ヨリ阿金溝ニ至ル間延長十七糎ニ互リ賦存シ、概シテ東西ニ走り、北方ニ二十度乃至四十度ニ傾斜シ、其北部ハ略東西ニ走り南方七十度ニ傾斜スル大斷層ニヨリ切斷セラレ、南部ハ沖積層ニ削剝サレ、東部ハ阿金溝附近ヲ北西ニ走ル斷層ニヨリ、西部ハ古城子附近ヲ北東ニ走ル斷層ニヨリ何レモ切斷セラレ、其賦存區域ハ東西ニ長サ約十七糎南北ニ幅傾斜ニ沿ヒ千金寨坑附近ニテ一・二七糎、東郷及楊柏堡附近ニテ一・四八糎、萬達屋附近ニテ一・七糎、龍鳳坑附近ニテ二・二八糎ニシテ炭層ノ厚サハ夾石ヲ除キ最モ厚キ處、千金寨附近ニ於テハ約百米ニシテ東部ニ漸次ニ薄クシテ阿金溝ニ於テハ六米ナリ、而シテ本地域ニ於ケル埋藏炭量ハ約九億噸ナリ、炭種ハ低度ノ瀝靑炭ニシテ炭質ハ全層ヲ通ジテ大差ナキモ炭田東部ノ石炭ハ西部ニ比シテ粘結性ヲ増スヲ特徴トス、石炭ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ樹質部ト碎屑質部トヲ區別シ得ルノミナラス、時ニ多數ノ孢子或ハ微細ナル堅果ト覺シキモノヲ認メ得、肉眼ニ於テサハ稀ニハ閃炭ノ部分ニ木質ノ組織ヲ認メ得ルモノアリ、夾石ハ主トシテ頁岩及炭質頁岩ナルモ炭田東部ニハ下部ニ砂岩ナルコト多ク化石ハ陸生植物ヲ主トス、是等ノ點ヨリ觀ルニ撫順炭ノ根源ハ陸生植物ノ水中ニ堆積セルモノナ

ランカ

褐色頁岩層ハ主要炭層ヲ整合ニ被ヒ炭田西部ニ於テ稀ニ石炭ノ薄層ヲ挾有セル事アリ、本岩ハ是ヲ低溫乾餾スル時ハ粗油ヲ抽出スルヲ以テ油母頁岩ト稱セラル、本層ハ西部ニ於テ厚サ約百二十米ニ及ビ全層ヲ通ジテ品位一樣ナラズ大體四層ノ良好帶アリテ炭層ニ接スル三十米間ハ品位特ニ不良ナリトセラル、本層ハ第一露天掘附近ニ於テ主要炭層ヲ距約十米ノ距離ニ多數ノ動物根源ノ黑色礦物結核ヲ包藏ス、惟フニ其產出狀態ハ局部的ニ止マルモノノ如ク、褐色頁岩ノ油母ノ根源ハ主トシテ植物質ヲ

多量ニ混ジタル腐泥ト見ルベキニ非ザルカ

綠色泥灰質頁岩層ハ褐色頁岩層ヲ整合ニ覆ヒ、三百米以上ノ層厚ヲ有スルモノノ如ク、主トシテ炭酸石灰微粒子ノ集合ヨリ成ル軟弱ナル岩石ナリ、其著シク泥灰質ナルハ或ハ半鹹狀態ノ下ニ沈積セルモノノ如シ

依是觀之撫順第三紀層ハ沈積ノ當時下ヨリ上層ニ移ルニ從ヒ水深ヲ増加シ同時ニ流水ヨリ靜水ニ轉ゼシガ如ク其間植物質ノ分解ニ於テ差異ヲ豫想シ得ベシ、從ツテ石炭ハ瀝靑質腐植物炭ナルモ其上層ナル褐色頁岩ニテハ植物質ノ混入セル腐泥岩ヲ生ジタルニ非ザルカ

一、撫順及石門寨ニ於ケル第三紀層ノ地體構造ヲ觀ルニ何レモ北境ヲ斷層ニ依リ切斷セララル、而シテ撫順第三紀層ノ北部ヲ東西ニ走ル斷層ハ永安臺臺地ニ於テ其落差七百米以上ニ及ブモノノ如シ、第三紀層ハ走向東西、北方ニ傾斜シ、何レモ渾河構造線ト略一致セル東西ニ走レル地溝帶ヲ占ム、該地溝帶ノ成生ハ第三紀層沈積以後ノ地體變動ニ據ルモノノ如シ



雜 錄

吉林省城廠溝炭坑概況

(大正十三年十二月興業部庶務課報告抜萃)

位置及交通

本炭坑ハ長春炭田ノ一部ニシテ陶家屯炭坑ノ正南一邦里ニ位シ其間小嶺一箇所小川二箇所在ルモ馬車ノ通行容易ニシテ兩期モ亦運搬可能ナリ長春縣城ヨリハ伊通街道ニ依ルモノニシテ四邦里半大路在リテ車馬ハ元ヨリ自働車モ通シ得馬車ハ冬期一日一往復ニシテ運賃一噸三圓ヲ要シ自働車ハ片道約二時間ヲ要ス長春城ニ入ルハ西門ヨリ入ルヲ便トスルモ南門通過貨物ニ對スル税金安キ爲メ此ヲ取ル  
物價 必要貨物ハ全部長春ヨリ搬入スルモノナルヲ以テ長春ヨリ約二割高シ

沿 革

大正八年一度支那人ニ依テ露頭部ノ試掘行ハレ次テ九年六月一日農商部ノ正式探掘許可證ノ下附ニ至リ(採字九百五十七號面積一千六百二十畝)タルモ兩期ニ及ヒ斜坑坑木不足ノ爲土砂崩壞シテ再起スル資本ナク遂ニ今日迄採炭中止中ナリシヲ日本人阪本喜三郎ナル者(元搭連炭坑坑内小頭)ガ長春在住石炭販

賣業者山下藤藏ヲシテ支那側名義人ト探掘契約ヲ結バシメ日本領事館ノ認證ヲ得ルニ至リタルモ山下ハ撫順炭販賣人ナル爲會社販賣課ト特賣人間ノ契約ニ違反スルタメ該權利ヲ田原稔氏ニ賣却シテ手ヲ引ケリ田原氏ハ前記阪本氏ヲ使用シテ十二年六月ヨリ試錐及試掘ヲ行ヒ此ニ關スル初期ノ設備ヲ施行シテ目下一日約三十屯ノ出炭ヲナスニ至レリ本炭坑鑛業權利者ハ元黑龍江省審判廳長陳氏ノ長男陳泰昌氏ニシテ現在長春城内西四道街ニ居住ス

試錐經過

大正九年以來支那人ノ行ヒシ試掘舊坑道ハ四箇所在ルモ三箇所ハ全ク崩壞シテ其跡ヲ示スニ過ギズ一箇所ハ坑道完全ノ如キモ坑内水多量ニシテ目下排水ヲナシ現在探掘坑道ト連結シテ通氣坑道ニナス豫定ナリ

試錐ハ四箇所行ハレタルモ一箇所(第四號)ハ著炭セズ三箇所ノ試錐モ淺部(露頭部)小區域ニ行ハレタルノミニテ露頭線ノ延長及深部ノ炭況ハ全ク不明ナリ今該三箇所ノ試錐成績ヲ見ルニ第一號試錐ハ深度二百尺ニ及ビテ石炭層五枚ヲ見第二號試錐ハ百五十二尺ニ及ビテ同ジク炭層五枚ヲ見タリ一號ハ二號ノ西南約二百四十尺ノ地點ニシテ道路ヨリ八尺北ニ存ス第三號ハ第二號ヨリ同ジク約二百尺東ニシテ約六尺高位置ニ存ス

次ニ炭柱圖ヲ見ルニ七尺層以下ハ三個共些ノ變化モ無ク順當ニ分布サレ居ルモ十尺層ハ三號試錐ニテハ此ヲ發見シ得ス或ハ上部ニ三尺層トシテ壓縮サレタルナラン此レ恐ラク其間ニ斷層ノ存在スルト共ニ

石炭ノ上部ハ多量ニ「セール」部ヲ含ミタルナラン  
今三個ノ試錐ヨリシテ七尺層ノ走向及傾斜ヲ算出セバ(計算書ハ約ス)走向北ヨリ西六度四十八分ニシ  
テ傾斜又二十度トナルモ實際坑内ニテ測定スル傾斜トハ大差在リ(二十五度)從テ數個ノ上リ斷層ノ存在  
ヲ豫想シ得

今日ニテハ試錐ハ一時中止ノ状態ニシテ更ニ掘進ノ進ムニツレ試錐ヲ必要ト認ム

### 鑛床及其他

(イ) 地質、炭質、炭量

地質 城廠溝附近ハ大部分耕地ニシテ岩石ノ露出少キヲ以テ精確ナル觀察ヲ爲ス能ハザリシモ東方溪  
間二箇所ニ現出セルモノハ片麻岩ニシテ東方一帶ノ丘阜ヲ構成シ石英、長石ノ粗粒及雲母等ヨリ成ル花  
崗片麻岩ナリ長石ハ著シク肉紅色ヲ帶ビ此ノ岩石ノ風化崩壞セル表土ハ爲ニ鮮紅色ヲ呈ス夾炭層ハ頁岩  
ト砂岩ノ互層ニシテ頁岩ハ暗黑色ニシテ光澤無ク組織割合緻密ニ非ズ多少砂及炭質ヲ混スルモノト黒灰  
色ニシテ緻密堅硬ナルモノト二種ニシテ砂岩ハ白色ヲ帶ビ有角ノ石英、長石ノ粗粒ノ集合ニシテ硅石  
質ニヨリテ膠着セラレタル花崗砂岩ニシテ長石ハ大部分陶土ニ變ジ石英粒大部分ヲ占ム組織粗造ナリ  
恐ラク長春炭田ト同時期(珠羅紀)ノ生成ナラン

炭質 炭質ハ不粘結性半無煙炭ニシテ灰分多ク短焰ニシテ火力少ナケレド硬炭ノ撰炭ヲ充分ニ行ハバ長  
春市場ニテ販路ヲ得ル見込確實ナリ塊粉ノ割合ハ半々ナリ主トシテ家事爐房用、石灰燒、煉瓦燒等ニ用

ヒラルベシ

滿鐵中央試驗所ニ於ケル混硬炭ノ分析次ノ如シ(硬約三割混入ノモノ)

城廠溝	水分	揮發分	固定炭素	骸炭性狀	灰分	灰分色相	全硫黃	發熱量
陶家屯	二九・二九	一七・三八	四四・八〇	不結性	八五・三	淡小豆色	〇・八九	五、五六四
	九・二二	三一・八七	四九・五六	”	九三・四	—	〇・八三	—

炭量 「ボーリング」ニ依テ判明セル部分(東西約三百尺、南北約四百尺)ハ確定區域トシ其他深部約二  
百間北へ約二百間ヲ豫想埋藏區域トシテ炭量算出スルニ次ノ如シ(一坪一尺ヲ以テ一屯トス)

炭層ノ厚サ 埋炭量(屯)

- (A) 確定區域 七尺及五尺 三萬九千噸
- (B) 埋藏豫想區域 六尺及三尺 五十六萬八千噸

可採炭量 (六〇%トス)

確定區 二萬三千四百噸  
 豫想區 三十四萬一千二百噸  
 合計 三十六萬噸

(ロ) 運搬狀況

目下ノ運搬ハ山元堅坑ヨリ撰炭ヲ行ハズシテ附近農家ノ馬車ヲ借り直接長春へ搬出スルモノニシテ冬

期一噸當約三圓ヲ要シ居ルモ春秋期道路惡キ時ハ五圓ヲ要スベク農繁期ニ到レバ運搬力更ニ減少シ一日最大五十噸ヲ限度トス故ニ運搬方法ノ改良ハ實ニ炭坑ノ生死ノ分ルル點ナリ

(ハ) 採炭方法

堅坑 五十一尺ニテ著炭以來南北走向ニ從テ片盤坑道ヲ掘進シ四十尺ニテ傾斜ニ沿ヒテ卸シヲ下シ約四十尺ニテ一片盤ヲ掘進スル等割合正規ノ方法ヲ取り目下ノ處ニテハ炭柱掘ナルモ近ク長壁法採炭トナス計畫ナリト稱セリ排水ニハ坑底下三十六尺ニ「ポンプ」座(「ウオシントン」六吋一臺)ヲ有シ卸シ方面ノ湧水ハ之ニ向テ人力ヲ以テ排水ス通氣ハ自然通氣ニシテ舊「ボーリング」ヨリ幾分ノ入氣トナリ堅坑ヲ排氣トス坑内通氣ハ概シテ不良ナリ之ガ爲舊斜坑ヲ掃除連結シテ之ヲ入氣トセン計畫ナリト

燈火ハ「カンテラ」ヲ使用ス油ハ坑夫各自ノ負擔トス坑内設備ハ以上ノ外全ク無シ(坑内圖省略)

採炭ハ各掘進切羽ニ於テ一尺ニ對スル請負制度ナリ後山ハ切羽ヨリ斜坑ヲ擔ヒ上リ堅坑々底ニテ「ケ」ジ」固著ノ炭函ニ投入ス、今各工匠ノ工賃ヲ小洋ヲ以テ示セバ次ノ如シ

職名	單位	單價	現在人員	臨時ニ用フルコトアリ
排水夫	一日	五〇仙	二人	
掘進(卸シ)	一尺	二五〇仙	十二人	
掘進(片盤)	一尺	一三〇仙	三十人	
火夫	一日	一〇〇仙	二人	
機械	一日	一〇〇仙	二人	

苦力頭

手當ナシ

二人

雜役

一日

三五七〇仙

十人

大工 請負ナルモ一日約

一二〇仙位

定二人  
臨四人

鶴柄作

一本

一〇仙

一人

馬方

一日

六五七〇仙

二人

坑木ノ價格

太サ一尺五寸

十二尺モノ

一本ニ付

一七〇吊文(吉票)

同 三寸

九尺モノ

一本ニ付

五〇吊文(同)

坑外設備

坑外設備ハ堅坑捲昇ニ要スル堅型「ドラム」及馬匹二頭、排水「ポンプ」、運轉ニ要スル「ボイラー」一臺(哈市ヨリ購入セルモノニテ長サ十三呎八吋、堅巾三呎十吋、横巾二呎八吋、平常氣壓七十五封度、煙突ノ高サ四十呎徑一呎二吋、一日ニ要スル石炭ハ約一噸半ナリ)

其他舊坑排水ニ「ウオシントン」、ポンプ「六吋一臺」ヲ使用ス

坑外建物トシテハ現場事務所ハ目下支那人農家ヲ借用中ニシテ鐵匠木匠房一個、坑夫小屋二個ノ外何等設備ナシ

(ニ) 需要及供給

元來當炭ノ如ク品質良好ナラズ加フルニ貯炭ニ危險ヲ感ズル石炭ヲ長春以外ノ地ニ輸出スルコトハ望

ムベカラズ吉長方面ニハ馬家溝、火石嶺ノ如キ炭坑アリテ毎年三、四萬噸ヲ長春市場へ搬入スル狀況ナレバ吉長方面へハ販路無ク又南方へハ汽車運賃ノ關係ト沙河子炭其ノ他ノ小炭坑炭トノ競争上困難ナルベク東支線方面ハ稍有望ナルモ哈爾濱市場ハ近年蘇城炭ノ搬入アレバ望ムベカラズ哈市以南小區域ハ問題トスルニ足ラズ要スルニ長春市場ヲ主ナル需要地ト定メザルベカラズ

長春ニ於ケル一箇年需要量ハ次表ノ如ク

	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度
撫順炭	十二萬四千噸	十二萬五千噸	十七萬四千噸
本溪湖炭	八千噸	七千噸	八千噸
雜種炭	三千噸	三千噸	六千噸
計	十三萬七千噸	十三萬七千噸	十八萬九千噸

又右ノ内油房、煉瓦窯、家事用ヲ表示セバ(十二年度)

撫順炭	六千七百噸	本溪湖炭	雜炭
煉瓦窯	五千八百噸		
家事用	八萬一千九百噸	二百噸	三千九百噸

以上ノ外吉林方面ヨリノ出炭約二萬噸ハ長春ニ來ルモノナラン、城廠溝炭ハ其性質上工場用、燒鍋用、鐵匠用ニハ不向ナレバ自然一搬家事用、煉瓦窯、油房等ニ使用サルベク從テ相當價格安價ナル時ハ家事

用トシテ一萬噸、煉瓦窯二千噸、油房三千噸、計一萬五千噸迄ノ賣行ハ容易ナルベシ

一方供給方面ヲ見ルニ馬車輸送ニテハ一日五十噸ニテ冬期道路ヨキ間十月ヨリ三月迄約六箇月間中作業百五十日ト見テ七千五百噸ノ搬出ヲナシ得ルノミナリ此ノ中粉炭ハ四千五百噸ヲ有シ残り三千噸ガ塊炭トシテ家事用ニ給セラルルノミナリ

(ホ) 長春ニ於ケル貯炭場一覽

長春ハ空地少キ爲國際運送會社ノ倉庫用地内ノ一區域ヲ借り受ケ使用シツツアリ當時ノ貯炭約四百噸ニシテ未ダ市場ニ賣出サズ手撰ヲ行ヒツツ在レリ此ヲ外見スルニ光澤全ク無ク灰黑色ヲ呈シ水分多キ爲表面氷結シテ礫岩ノ如シ此ヲ撰炭シ居ル様子ヲ見ルニ馬車ヨリ積卸サレタルモノノ中ヨリ手撰ニテ硬ヲ取り更ニ一分目ノ金網ヲ約四十度ニ傾斜セルモノノ上方ヨリ落下セシメ目ノ下ニ落チシヲ粉炭、目ノ上ニ止リシヲ塊炭トス塊四、粉六ノ割合ナリ

撰炭ヲ終レルモノハ光澤有ルモ塊炭ハ撫順中塊ノ大サニテ大塊ハ全ク無ク粉炭ハ光澤稍々良シ之ヲ「ストープ」ニ投ズルニ火付惡シク初メニハ撫順炭ヲ使用シテ火付ヲ行フ一旦著火セバ多少ノ白煙ヲ出シ煙少ク火持良好ナリ熱度ハ撫順炭ノ七割見當ト見ル從テ用途ハ家事用ヲ第一トシ安價炭ヲ必要トスル煉瓦燒或ハ油房ノ如キニ使用サルベク「ボイラー」用トシテハ短焰ナル爲蒸氣壓昇ラズ從テ工場ニハ向カズ炭價 炭價ハ未ダ試驗的賣出中ニシテ好評惡說區々ニシテ田原氏トシテハ塊炭十二圓、粉炭七圓見當ニ賣出シタキ話ナリ其後塊十圓、粉八圓ニ販賣シ居レリトイフ

之ヲ營城子炭(塊銀ノ九元)ト比較セバ銀ノ高キ爲非常ニ割安ナルモ近時支那人ハ銀相場ノ關係上優良

炭ヲ使用シツツアル狀況ニシテ本炭ノ支那人間ニ使用サルル又多キヲ望ムベカラズ

### 北滿及西比利亞鑛業調查資料 (六)

#### 極東ニ於ケル金鑛業ニ關スル緊急問題

露人 エム、ツエリシチエフ

#### 革命前ニ於ケル極東ノ金鑛業

革命以前ニ於テハ極東露領ハ金鑛業界ニ於テ著シク優秀ナル地位ヲ占メ全露領ニ於テ採掘セララルル金産額ノ四割以上ヲ供給セリ今全露領及ビ極東露領ニ於テ採掘セラレタル金ノ數量及ビ比率ヲ示セバ左記ノ如シ

年 度	全露領	極東露領	比 率
一九一一年	三、一七六	一、三三六	四二%
一九一二年	二、九四五	一、一三四	四五%
一九一三年	三、〇三二	一、三一七	四三%

(單位布度)

猶前記數量以外密輸出ノ方法ニヨリ廣ク國外ニ搬出セラレタルモノ少ナカラズ其數量ヲ計算スルコト

ハモトヨリ困難ナレトモ極東ニ於テ採掘セラレシ金ノ二割乃至三割ニ達スルモノト看做シ得ベシ又極東ニ於テ金鑛業ニ從事シタル勞働者ハ四萬人ト註セラルルモ此ノ數字ハ確實ノモノニ非ズ實際ハ夫レ以上ナリ歐洲戰爭及ビ革命前ニ在リテハ極東ニ於テハ貪慾ナル往時ノ金鑛業者ガ含金量高ク大ナル價值ヲ有スル地區ヲ占メ盜掘的作業ヲ爲スニ過ギザリシガ彼等ハ廣ク資金ノ融通ヲ受ケ又諸種ノ特權ヲ利用セシクミナラズ政府ヨリハ全然何等ノ監督ヲ受ケザリシカバ自己ノ利益増進ヲ計ルタメ有所狡猾手段ヲ弄シ鑛夫ニハ黃色人種ヲ使役シ鑛山用品及ビ食糧品ノ密輸入ヲ行ヒ鑛夫ノ勞働賃金支拂ニハ物品ヲ以テシ其價格ハ鑛主自身ノ定メタル率ニヨリ鑛夫ハ之レニ對シテ不平ヲ述ブルヲ得ザルコトニ規定セリ而シテ砂金ノ採掘ハ最モ豊富ナル含金地區ヲ撰ビ原始的ニシテ然カモ亂暴極マル穴掘作業ヲ行ヒ鑛夫ニハ一定ノ砂金ヲ納入セシムル方法ヲ採リタルナリ米國、濠太刺利及ビ「ウラル」ノ一部ニ於ケル採金方法ハ機械採掘ニ依リ又ハ規則正シキ採掘方法ニ依ラムト努力スル時ニ當リ極東ニ於テハ寧ロ原始的狀態ニアリタリ極東ニ於テ金鑛業熱ノ旺盛ナリシ當時金鑛業者ガ含金地區ヲ誠實ニ採掘スル時ハ投資額ノ三倍乃至四倍ノ利益ヲ受クルハ普通ナリキ含金地區ノ採掘ヲ續クルニ從ヒ年々砂金ノ採掘ニ困難ヲ感ジ來レルガ故採掘量ノ減少ヲ免カレンガ爲メニハ作業範圍ヲ擴張スルヲ要スルニ至レリ又金ノ採取量ハ採掘洗滌シタル含金土砂ノ數量ト直接關係ヲ有スル狀態ニ至リタレバ鑛夫ノ員數ヲ増加セザル可カラザルニ至レリ今ノ一千八百九十九年ヨリ一千九百十年ニ互ル後貝加爾縣内ノ採金量及ビ使用鑛夫數ヲ示セバ左ノ如シ

年 度	採掘セル金(單位布度)	鑛 夫 數
一九九九	一一八	五、五八四

一九〇〇	二七〇	六、〇八一
一九〇二	二六六	九、〇〇七
一九〇三	二五一	八、四五八
一九〇四	二一五	五、九六〇
一九〇五	一五〇	三、二七一
一九〇六	一四七	三、五九一
一九〇七	一七四	四、七三五
一九〇八	一九八	五、四五八
一九〇九	二三九	九、八六五
一九一〇	二四七	一七、二一〇

之ニ依リテ看ルニ一千八百九十九年ニハ布度ノ金ヲ得ルニ四十三名ノ鑛夫ヲ要セシニ過ギザリシモ一千九百十年ニ至リテハ同一數量ノ金ヲ得ルニ七十名迄ノ鑛夫ヲ要スルニ至レリ而シテ「ブウレインスキ」及ビ「アムール」ノ兩鑛山管區内ニ於テハ金探掘ニ一層前記ノ情況ヲ明白ニ表示セリ

一布度ノ金ヲ探掘スルニ要セシ鑛夫數

「ブウレインスキー」管區

「アムール」管區

一九〇五	一四五	八三
一九〇六	一五四	九〇

一九〇七	一九五	六六
一九〇八	二〇七	一〇二
一九〇九	二〇四	一一〇
一九一〇	一九四	一〇二
一九一一	一九三	一〇一
一九一二	四五	八六
一九一三	九三	五六
一九一四		

多クノ價值アリシ合金地區ハ年々減少シ行クガ故ニ一布度ノ金ヲ得ルニ要スル鑛夫ノ數ハ増加シ且ツ主トシテ黃色人種ノ鑛夫ヲ多ク使役スルニ至レリ之レ露人鑛夫ノ生活上ニ要スル經費多クシテ金鑛業者ニ不利益ナルガ爲ニシテ一人ノ露人ヲ養フニ足ル資金ヲ以テ二人ノ支那人ヲ養ヒ得然カモ支那人二人ガ探掘スル金ハ露人二人分以上ナリ左記ノ表ハ如何ニ迅速ニ黃色人種鑛夫ノ使役數ガ増加セシヤヲ知ルニ足ルモノナリ

年 度	露 人	支 那 人	朝鮮人(%)
一九〇六	五二	一九	二九
一九〇七	四一	三一	二八
一九〇八	三〇	四七	二三

一九〇九	三〇	六十一
一九一〇	一七	八二
一九一一	一二	七三
一九一二	一一	七六

支那人及ビ朝鮮人鑛夫ハ一九〇六年ニハ數ニ於テ四割八分ヲ占ムルニ過ギザリシガ一九一二年ニハ全勞働者ノ九割ヲ占ムルニ至レリ

極東ニ於ケル金鑛業ハ「金ノ熱」ト稱セラレタル時代ト比較シテ一千九百十年迄ニ大ナル衰退ヲ招キタルモノト確言スルコトヲ得ベシ亂掘シタル金山ノ跡ニ規則正シキ採掘作業ヲナスコトハ困難ナリ故ニ相當ノ採金量ヲ得ムガ爲メニハ何等カノ方法ヲ研究セザル可カラズ茲ニ於テ遂ニ露人鑛夫ニ換フルニ支、鮮人鑛夫ヲ以テセラレタリ斯クシテ金鑛業者ハ一時困難ナル状態ヨリ脱スルヲ得タルモノナリ

### 極東ニ於ケル金鑛業ノ現狀

此處ニ極東露領ニ於ケル金鑛業ノ現在ノ状態ヲ述ブベシ極東露領ニ於ケル金鑛區ハ二千五百九十五箇所其面積二十一萬四千七百十三平方「デシヤチン」ナリ其内個人ニ屬シ採掘サルルモノハ三百九十九箇所其面積三萬七千五百三十七平方「デシヤチン」國營ニ屬シ採掘サルルモノハ八十二箇所八千六百八十三平方「デシヤチン」ナリ而シテ未採掘(或ハ休坑)ノ金鑛ハ二千百十四箇所其面積十六萬八千四百九十三平方「デシヤチン」ナリ更ニ之ヲ歩合ヲ以テ示セバ個人經營ニヨリ採掘セラルル金鑛ハ一割七分五厘、國營ニ

屬シ採掘セラルルモノハ四分、未採掘(或ハ休坑)ノ金鑛區ハ七割八分五厘ナリ

一千九百二十三年度鑛山局ノ報告ニヨレバ全然採掘ノ望ミナキ鑛區(殆ンド全部採掘ヲ終レルモノヲ含ム)ヲ除キ採掘ノ望ミアル鑛區ハ約一千八百箇所其面積十四萬平方「デシヤチン」ナリト

採掘方法ノ多クヲ占ムルモノハ鑛夫ガ一定ノ砂金ヲ鑛主ニ納メテ採掘スルモノニシテ鑛區ノ八割八分二厘、勞銀制度ニテ採掘スル鑛區ハ一分九厘、技術的方法ニヨリ採掘スル鑛區ハ九分九厘ニ過ギズ又政府ノ收得セシ鑛產稅ハ百二十一布度ノ金ニシテ個人經營ノ金鑛區ヨリ六十一布度二十一「フント」國營金鑛區ヨリ五十九布度三十二「フント」ヲ得タリ極東ニ於ケル金分析所ノ報告ニ依レバ一千九百二十三年中極東露領ニ於テ採掘セラレタル金ハ二百三十七布度十三「フント」ナリ又地質學者「ボレウオイ」氏ガ示セル沿海州地方商工部ノ報告ニシテ一千九百二十一年「ワシントン」會議ニ極東露領經濟問題ニ關シ提出シタルモノニ依レバ極東ニ於ケル年々ノ採金量左記ノ通りナリ

#### 沿海地方金分析所ノ報告ニ依ルモノ

一九一一年	一、〇六四布度三四「フント」
一九一二年	一、〇二八布度三〇「フント」
一九一三年	一、一〇二布度二四「フント」
一九一四年	一、二二七布度 八「フント」
一九一五年	九七七布度一八「フント」

鑛山局ニ提出セラレタル鑛產簿ニ依ルモノ

一九一一年	四九二布度、二「フント」
一九一二年	四四一布度三八「フント」
一九一三年	四〇五布度二四「フント」
一九一四年	四六四布度 一「フント」
一九一五年	三六八布度 六「フント」

地質學者「ボレウオイ」氏ハ支那ニ向ヒテ金ガ秘密ニ流出スル數量ヲ合スルトキハ極東露領ニ於ケル年々ノ採金數量ハ一千五百布度迄ナリト述ベタリ假ニ金ガ一箇年間五割國外ニ秘密ニ流出スルモノト看レバ一千九百二十三年中ニ極東ニ於ケル採金數量ハ約四百六十布度ナル可ク歐洲戰爭前ノ約三割ニ相當セリ

金分析所年報ニ依ル金ノ採掘量ハ一千九百十四年ニハ一、二二七布度一千九百十五年ニハ九七七布度一千九百二十三年ニハ二、三三七布度ナリ而シテ一千九百二十三年ノ採掘數量ヲ一千九百十年ノ採掘數量ト比較スレバ其割八分又一千九百十五年ノ採掘數量ト比較スレバ其割四分ニ過ギザルナリ次ニ產業局ノ報告ニ依レバ一千九百二十三年ノ採金數量ハ一千九百十四年ノ採金數量ニ比シ二割一分五厘ニ當ルト又極東露領ニ於ケル凡テノ金鑛山ニ於テ一千九百二十三年中ニ從事シタル鑛夫ノ總數ハ一萬二千八百六十四名ニシテ内露人六千二百七十三名即チ全數ノ四割八分八厘、支那人ヲモ含ム六千五百九十一名即チ五割一分二厘ニ相當ス、個人經營ノ金鑛山ニ於テ働キタル鑛夫ハ六千二百零二名(四割八分二厘)國營金鑛山ニ働キタル鑛夫ハ六千六百六十二名(五割一分八厘)ナリ黃色人種鑛夫ハ一千九百十二年ニハ

全數ノ八割九分ヲ占メタリシガ現今ハ全數ノ半バ以下ニ減少セリ

前述シ來レル處ニヨリ極東露領ニ於ケル金鑛業ヲ觀察スレバ正ニ危機ノ時代ニ在ルモノト云フヲ得ベシ以下其原因ニ就テ些カ述ブル處アラムトス

金鑛業上最初ノ危機ハ歐洲戰爭時代ヲ距ルコト遠ク「金ノ熱」時代ノ後ニ胚胎シ露人鑛夫ヲ支、鮮人鑛夫ニ置換シ始メタル時ニ起リタルモノナリ「チャルクヴィア」技師ハ金鑛業上ニ危機ノ來リタル主要ノ原因ヲ左ノ通リト爲セリ

- 一、鑛山用各種材料及ビ鑛夫用食糧品必需品ノ價格ト金ノ價格トニ著シキ不均衡ノ存スルコト
- 二、金鑛業ニ甚シキ重稅ヲ課セルコト
- 三、金山地方ニ勞働者ノ不足セルコト

猶詳細ニ互リ研究セムニ金ノ相場ハ戰爭前ニハ「ゾロトニツク」ニ付キ五留五十一哥ナリキ然ルニ一千九百二十四年一月一日ニ於ケル各地ノ相場ヲ見ルニ左記ノ如シ

(一) 知多	五留一八哥
(二) 武市	五留〇五哥
(三) 哈府	四留七五哥
(四) 尼港	四留五〇哥
而シテ之ヲ歐洲戰爭前ノ相場ト比較スレバ	六分
(一) 知多	六分



(二) 武市 八分三厘  
 (三) 哈府 一分四分  
 (四) 尼港 一分八分  
 ノ差ヲ生ゼリ

一千九百十三年及十四年ニ於ケル諸物價ト比較シ騰貴シタル率ヲ示セバ次ノ如シ

- (一) 食糧品 一、一 倍
- (二) 雜貨 二、二九倍
- (三) 織物生地、被服 二、四 倍
- (四) 鑛業用材料 二、八 倍
- (五) 鑛業用器具 二 倍

本表ハ中央統計管理局及ビ商業機關ニヨリ取調べタルモノナリト云フ

金鑛業ニ必要ナル物品ハ中央統計管理局モ述ブル如ク殆ンド二倍ニ騰貴セシニ反シ金ノ價格ハ下落セリサレバ金鑛業ガ普通ノ狀態ニ發達スルタメニハ鑛山用必需品ノ價格ノ調節ガ著シキ關係ヲ有スルコト明白ナリ

國境外ニ金ヲ密輸出スル盜掘者ハ國境外ニ於テ普通價格ヲ以テ之レヲ賣リ且ツ彼等ノ必需品ハ國境外ニ於テ安價ヲ以テ買入ルルガ故ニ二重ノ利益ヲ得ツツアルト共ニ露國ニ對シ二重ノ害毒ヲ與フルモノナリ

「チャルクヅイアニ」技師ノ計算ニ依レバ手掘作業ノ方法ニ依ル金鑛業ハ歐洲戰爭前ノ時代ニ於テモ探掘セシ砂金ノ價格ノ一分七分七厘ヨリ純益アラザルモノト爲セリ戰爭前ニ於ケル金鑛業成績ノ一例トシテ後員加爾縣「ホロゴチンスキ」金鑛山ノ例ヲ引證セム

此ノ金鑛山ハ其當時ニ於テ一箇年平均探掘量ハ十五布度、平均一立方「サーゼン」ノ土砂中ニ含有スル金ハ十二「ゾロトニツク」三十五「ドリー」ナリ表土ノ平均厚サハ七「アルシン」含金砂層ノ厚サハ一・六五「アルシン」ナリ而シテ表土ト含金砂層トヲ合セタル百布度中ニハ二〇・七「ドリー」ノ金ヲ含有セリ

砂金「ゾロトニツク」探掘經費ヲ金ノ價格ノ係數ニテ算出スルニ

- 一、勞働賃金 四割六分三厘
- (イ) 勞働者
- (ロ) 使用人 一割
- (ハ) 休暇中給料
- 二、材料 一割二分九厘
- 三、鑛產稅 九分五厘
- 四、勞働者ヨリ金買込ノ稅 三分一厘
- 五、据置支出 五分五厘

計 八割八分三厘

斯ノ如クニシテ純益ハ一割一分七分七厘ニ當リ「ゾロトニツク」ノ賣價ヲ五留五十哥トスレバ事業ハ少ク

トモ二萬八千八百十留ノ純益ヲ得タルモノナリ此處ニ於テ同技師ハ一千九百二十四年ニ於テ採掘セラ  
ル金ノ價格ノ係數ヲ以テ採掘費ノ歩合ヲ示セル處左ノ如シ

- 一、勞働賃金
  - (イ) 鑛夫 六割五分七厘
  - (ロ) 使用人 一割
  - (ハ) 休暇費 六分八厘
- 二、材料 三割一分
- 三、据置支出 一割一分
- 四、社會主義機關維持費 一割八分二厘
- 五、地方行政委員會維持費 一分六厘
- 六、鑛產稅 一割二分

計 十五割六分二厘

茲ニ於テ右兩者ノ差異ヲ驗セムニ一千九百十四年ニ比シ勞働賃金ニ於テ九分四厘ノ増加アレトモ食糧  
品ノ價格モ亦二割騰貴セシカバ實際ノ勞働賃金ハ著シク下落セリ据置支出増加セシガ此ノ費目中ニハ文  
化教育ノ目的ヲ有スル支出ヲ含メリ租稅ニ於テ二分五厘材料ニ於テ一割八分一厘ノ騰貴アリ而シテ全然  
本事業ニ對スル新シキ支出ハ一割五分一厘ヲ計上セル社會保險費、地方行政委員會維持費ノ一分六厘休  
暇費ノ六分八厘ニシテ合計二割三分五厘トナル

斯ノ如クニシテ「チヤルクヱイアニ」技師ノ計算ニ依レバ表土ト含金砂層トヲ合セ百布度ノ中二十八  
「ドリー」ノ含金ヲ以テ一千九百十四年ニ於ケル本鑛山ノ缺損ヲ招カザル含金量トセバ一千九百二十四年  
ニハ上記百布度中ニ三十二「ドリー」ノ含金量ヲ有セザル可カラズ然カモ金ノ價格ハ「ゾロトニツク」ニ  
付キ五留五十哥トシテ計算シタルモノナレドモ若シ金ノ價格ヲ夫レ以下トセバ少クモ三十二「ドリー」ノ  
含金量ナカル可カラズ而シテ又金鑛業者ノ利益ヲ考慮ニ加フル時ハ一千九百十四年ニハ表土及ビ含金砂  
層ヲ合セ百布度中ニ二十「ドリー」ノ含金量ヲ以テ稼行ニ耐ユル含金量ト爲セバ一千九百二十四年ニ於テ  
ハ三十七「ドリー」始ンド戰前ノ二倍ノ含金量ヲ要スルコトナレリ

同技師ノ説明スル處ハ極東ノ狀況ニ該當スルノミナラズ西部西伯利「ウラル」方面ノ事情ニモ多ク適合  
セリ極東ニ於ケル金鑛業ハ自國民ノ經濟的危機ノ影響ヲ蒙リ又危機ニ陥レルモノナリ現下ノ金鑛業ニ  
對スル施政方針ト物資ノ輸入禁止ハ金鑛業上ニ不利ヲ醸セルコトヲ將來ニ於テ一層明カニスルニ至ル可  
ク經濟政策上緊急ノ問題多キガ中ニ金鑛業ニ關スル件ハ最緊要ノ問題タルナリ

極東ニ於ケル金鑛業ハ歐洲戰爭時代以前モ經濟上重要ナル地位ヲ占メ來レルモノニシテ此ノ地位タル  
ヤ現今ニ於テモ毫モ異ナル處ナシ然レトモ金鑛區租借ノ狀況ヲ見ルニ最近金鑛事業ハ發展セザルノミナ  
ラズ寧ロ衰退ニ傾ケル感アリ斯ルガ故ニ目下ノ狀況ニ於テハ廣ク適用セラルル手作業採掘方法ハ全然利  
益アラザルコトヲ見ル吾人ハ鑛區採掘ノ資金ヲ廣ク國外ヨリ誘致スルコトニ勉メザル可カラズ英國、諾  
威、伊太利ノ露國承認ニ續イテ本事業ハ從來ヨリモ一層活氣ヲ呈スルニ至ルベシ事業ノ成否ハ今ヤ含金

地區ノ機械的探掘ニ依リテ決スルモノト成レリ故ニ吾人ハ機械作業ニ依ル金鑛業者ニ對シテハ多クノ特權ヲ賦與セザル可カラズ當初ハ直接政府ノ手ニ存スル小規模ノ機械的作業ニ依ル鑛區ノ探掘ヲ行ヒ漸次之レヲ擴張セザル可カラザルト共ニ外國資本家ノ注目ヲ惹ク様極東露領ニ於ケル金鑛事業ノ狀況ヲ廣ク宣傳セザル可カラズ極東ニ於ケル金鑛產地ノ狀況ヲ闡明スルタメニ豫メ合金地區ノ探掘ヲ行フヲ要シ地質學會其他ノ機關ノ協力ヲ必要ナリトス

金ノ蓄積ガ我國ニトリ過古ノ時代ヨリモ更ニ必要ナルコトハ財政々策ノ第一課目トシテ記憶ス可シ我ガ金鑛業界ニ外國資本ヲ輸入シ大規模ノ探掘ヲ爲サムト欲スレバ之ガ準備ノ爲メ多大ノ勞力ト時日トヲ要スベク而シテ茲ニ至ル迄ノ或ル期間ハ手作業探掘方法ノ行ハルルコト疑ヒテ容レズ

極東事業企劃委員會ハ極東露領ノ金鑛事業ノ狀態ヲ以テ甚シク危險ナルモノト認メ本年二月十一日ノ會議ニ於テ左記ノ如ク決議セリ

- 一、金鑛業ノ狀況ハ甚ダシク不良ニシテ其發展ヲ期待スルヲ得ズ又此ノ狀態ニ至レルハ金鑛業ニ要スル諸材料ト鑛夫必需品ノ高價ナルコト及ビ据置支出ノ多額ナルコト等ニシテ砂金ノ價格ト生産費トノ間ニ莫大ナル不均衡ヲ生ゼルニ基因ス故ニ金鑛業者ノ納稅ヲ國家ノ財源ト爲サズ該事業ノ基礎ヲ確立セシムル目的ヲ以テ最少限度ノ稅金ヲ賦課スルノ方針ヲ速カニ採用スベキ必要アルモノト認ム
- 二、極東露領ニ於テ金ヲ取扱フ官公衙及ビ會社等ハ地方ノ經濟狀態ニ鑑ミ一般共通ノ砂金價格ヲ協定スベシ而シテ例ヘバ一、〇〇〇「プロブ」ノ純金一「ゾロニツク」ヲ五留四十哥トスル如ク國民經濟委員會ニ於テ各地方官公衙、商業機關ノ代表者ヲ以テ會議ヲ開催セシメ硬貨ト同様ニ砂金一「ゾロ

トニツク」ノ純金取引相場ヲ決定スルヲ要ス

三、金鑛山ニ於テ使用スル材料及食糧品ノ價格ヲ低廉ナラシムル様速カニ手段ヲ考究セザル可カラザルモノト認ム

四、鑛產稅其他ノ課稅ヲ輕減スルノ必要アリ而シテ金鑛業者ガ租借スル鑛區ノ探掘方法別ニ依リテ鑛產稅ヲ定ムルカ或ハ一地方ニ在ル金鑛區ニ對シテハ何レモ同一率ノ課稅ヲ爲スカ何レカノ方法ニ依リ最少限度ノ鑛產稅ヲ納付セシムル様定ム可シ

五、極東ニ於ケル各鑛山局ハ價值乏シキ鑛區ノ名簿ヲ作製シ鑛區貸下又ハ競賣ニ當リテハ之等ノ鑛區ニ對シテハ特別割引條件ヲ附シ「デシヤチン」稅又ハ鑛產稅ヲ免除スベシ而シテ競賣ノ際落札セズシテ殘リタルモノハ之レヲ新シク鑛區發見屆ヲ爲シ得ベキ自由鑛區ナルコトヲ公示スベキ様鑛山局ニ提議スベシ

六、既ニ探掘セラレツアル鑛區ノ現行鑛產稅率ハ一千九百二十三年七月七日全露國執行委員會ニテ決議シタル地下存在有用鑛物及其探掘ニ關スル規則ニ述ベタルモノヨリ遙カ高率ナリ又古キ鑛區ハ其價值乏シク既ニ大部分ハ其探掘ヲ了リタルモノナレバ之等ノ探掘ニ當リ鑛產稅ヲ高ムルノ理由存セズ又鑛產稅ノ高率ナルハ大規模ノ金鑛業ノ發展ヲ阻害スルコトニ留意シ鑛夫ヨリ一定ノ金ヲ鑛主ニ納附セシムル條件ノ探掘方法ニ於テハ鑛產稅ヲ五分以下トナシ勞銀制度ヲ以テ手作業探掘又ハ機械探掘ヲ爲スモノニ於テハ三分以下混汞法採金ニヨルモノハ三分以下青化法、鹽化法ノ如キ化學的採金法ニ依ルモノニ對シテハ二分以下ニ定ムル必要ヲ認ム

七、鑛區外ノ森林ヨリ金鑛業上必要ノタメ樹木ヲ伐採シタルトキ其ノ一株ニ對スル價格ヲ低廉ナラシムルヲ要ス

八、金鑛業者ニ對シ事業上貸出ス資金ノ利子ヲ低減スル必要アリ金融機關ハ貸出ニ就テハ其需要金額ノ程度ヲ鑛山局ト協定ス可シ鑛山局ハ貸出金ガ正當ニ事業ニ支出セラレタルヤヲ監督スルノ責任アルモノト規定ス可シ

九、含金地區ヲ規則正シク探掘スルタメ機械探掘ヲ爲スヲ要スルコトヲ金融機關ニ周知セシムルコトヲ要ス

此等ノ方法タルヤモトヨリ一時的ノモノニシテ決シテ金鑛業ノ危機ヲ全癒セシムルニ足ルモノニ非ズ根本的ニ危機ヲ救済シ得ベキ方法ナルニ如カザルコトハ勿論ナリ極東露領ニ於ケル金鑛業問題ハ極東共和國經濟ノタメ最重大ナル意義ト關係トヲ有スルガ故ニ極東經濟會議ニ於テ我ガ極東ニ於ケル緊急ノ經濟問題解決ニ當リ金鑛業問題ニ對シテ全力ヲ傾注セザル可カラズ本問題ハ極東ニ於ケル緊急經濟問題中ノ最緊急事ナレバ他ノ凡テヲ措テモ先ヅ第一ニ之レガ解決ニ努力セザル可カラザルナリ

### 外蒙古庫倫鑛業調查報告 (二)

#### 第九節 金鑛工夫

金鑛工夫ノ大半ハ支那人ニシテ露人之ニ次ギ蒙古人ハ極メテ少數ナリ而シテ支那人中山東、天津人最

モ多シ蓋シ兩地人ハ智識ニ於テ山西、河南、直隸、宣化、張家口、懷來等ノ者ヨリ優秀ニシテ又堅忍性ニ富ムヲ以テ露人經營ノ鑛業ニハ殆ンド山東、天津人ヲ雇用ス露人ハ性懶怠ニシテ酒ヲ好ミ困苦ニ堪ヘズ工賃高クシテ監督容易ナラズ山西、河南、直隸人ハ困苦ニ堪フルモ其性農業ニ適スルヲ以テ露人ハ之等ノ雇用ヲ喜バズ蒙古人ハ愚鈍ニシテ稼行ヲ好マズ專ラ車馬ノ業ヲ營ムガ故ニ運輸ニ從事セシメ其賃銀ハ極メテ低廉ナリ

#### 第十節 金鑛ノ食料、燃料ノ供給及運搬

庫、哈間ノ地勢ハ一般ニ低地ニシテ氣候溫暖、山水明媚、樹木繁茂シ附近ノ哈拉、奎通、伊羅等ノ諸河流域ハ廣大ナル平原曠野ニシテ地味肥沃、耕作牧畜ニ適ス清朝時代ニハ支那人ノ開墾ヲ目的トシテ移住スルモノ頗ル多カリシヲ以テ目下ハ耕地廣ク開ケ豆麥ノ收穫頗ル多ク從テ各鑛ノ薪材、食料ニ對シテハ何等ノ憂ナシ其他ノ貨物ハ庫、哈兩地ヨリ購入シ得テ運搬容易ナリ

#### 第十一節 露人ノ蒙古官府ニ納付スベキ稅率

露人ノ蒙古官府ニ納付スベキ稅率ハ前清時代ニ協定シタル契約ニ基キ金百兩ニ付金十六兩五錢ニシテ蒙古人ハ金鑛ニ監稅官ヲ置クモ鑛務ニハ干渉セズ

#### 第十二節 露人柯樂德ノ蒙古ニ於ケル經營成績

柯氏ハ各國語ニ通ジ鑛山學ノ智識博ク鑛務ヲ處理スルコト極メテ勤勉ニシテ又能ク困苦ニ耐ヘ險阻ヲ避ケズ常ニ騎馬ニテ風雨ヲモ事トセズ各地ノ調査ニ赴キ荒山窮谷ノ中ニ露宿シ時ニハ單騎ニテ各溝ヲ巡察シテ工夫ノ勤惰及非法行爲ノ有無ヲ考察シテ賞罰ヲ明カニスルト同時ニ一方工夫ノ救恤ニ就テハ極メテ周到ニシテ艱苦ノ工夫ニ對シテハ時ニ金ヲ徵收セズ又ハ衣食ヲ給スル等專ラ救濟ニ努メシヲ以テ工夫ハ自ラ奮勵セリ、鑿井ノ探鑛ハ(最初ノ六尺六寸ヲ一杆トシテ露貨三留、第二杆四留、第三杆五留ヲ給シ若シ掘鑿困難ノ箇所アレバ更ニ賃金ヲ加フ)總テ工賃ヲ給シ水渠開鑿ニハ工賃ヲ給セザルモ食料ヲ支給ス探金ノ際一兩ノ金ヲ採取シタル工夫ニハ報酬トシテ露貨二十留ヲ巴頭ニハ四留ヲ與フ故ニ工夫ハ多ク喜ビテ探金ニ從事セリ而シテ工夫ニハ營業ノ自營ヲ禁ジ又遊民ノ入溝ヲ禁ジテ治安ヲ保持セリ一切ノ工夫用具ハ局ヨリ之ヲ購入シテ工夫頭ニ渡シ工夫頭ヨリ支給セシムルコトトセシガ其成績頗ル良好ナリキ現在各溝ニ建設セル家屋ハ往時柯氏ノ經營ニ非ザルモノ一モナク其所用機械モ亦柯氏ノ購入セルモノナリ當時ニ於ケル各鑛ノ經營方法ハ極メテ巧妙ニシテ一箇年ノ採金高約一〇〇「ブード」ノ多キニ達セリ

今光緒三十二年ヨリ宣統三年ニ至ル採金高ヲ示セバ左ノ如シ

光緒三十二年 五、九六七・一四七

同 三十三年 七、五九一・六二〇

同 三十四年 八、五九二・〇九九

宣統元年 三〇、八〇四・〇五二

同 二年 五〇、九二一・七二〇

同 三年 五九、六〇〇・〇〇〇 (但シ一兩ハ約一〇匁強)

第十三節 在蒙露人經營金鑛ノ現況及將來

外蒙古獨立後柯樂德ハ民國九年秋其職ヲ去リテ以來該金鑛ノ採掘ハ悉ク前清時代ニ於ケル辦事大臣トノ契約ニ照シテ處理シ露人請負ニ歸セリ金鑛產出ノ砂金ハ一六・〇五%ヲ外蒙官府ノ所得トス鑛内ノ調査、計算報告等ノ書類ハ凡テ露文ヲ用ヒ蒙古人ハ之ガ取調ニ從ハズ金鑛總辦ノ報告ニ據テ領收スルモノトス從テ技師、工事監督及工夫頭等ノ間ニ於テ常ニ不正行爲アリ又華工ノ竊取盜賣スル等ノ如キコトアルモ總辦ハ之ヲ知り難ク露國政府モ亦之ガ調査ニ由ナク唯總辦ノ一報告ニ據ルニ過ギズ、各砂金鑛中伊羅、納林哈拉格那、叨勒蓋圖、古德拉ノ四箇處ハ鑛脈優良ナルモ伊勒柏克等ノ溝ハ既ニ漸次經營ノ價值無キガ故ニ露人ハ最近漸次其全力ヲ山金採掘ニ注ギ砂金ニ對シテハ總テ放任主義ヲ取り開溝及鑿井ヲナスモ鑛脈ノ試探掘ニ對シテハ總局之ニ干涉セズ工夫ノ任意採掘ニ任セタルヲ以テ工夫ニハ概ネ工賃ヲ支給セズシテ各地鑛脈ノ良否ニ從ヒテ毎月一錢二分或ハ七分ノ金ヲ納付セシメ殘餘ハ總テ工夫ノ所得ニ歸セシムルコトニ定メタリ各鑛中工夫數ノ最モ多キハ百餘人ニシテ次ハ五、六十人及十餘人ヲ有ス各鑛毎年ノ出金額ハ最高百餘兩次ハ五、六十兩ニシテ諸費用ヲ控除セバ僅ニ收支償フニ足ルノミ、之ヲ要スルニ露人近年ノ砂金經營ノ狀況ハ漸次衰微シ特勒基、奎通、固朱林、大小烏林堆等ノ諸溝ハ既ニ相繼ギテ停工シ其經營スル所ノ招莫多ノ山金鑛ハ國內年年ノ擾亂ト蒙地ノ交通不便ニシテ機械類ノ購入容易ナラ

ザルト火藥ノ缺乏等ヲ奇貨トシ監督工夫及工夫等ハ相率ヒテ金ノ盜掘ヲナスモ監督容易ナラザルノ状態ニアリ探掘中ノ五礦山モ亦之等ノ事由ニ依リ相繼ギテ探掘ヲ停止シ現今ハ僅カニ司稷圖ノ一礦山ヲ探掘シ以テ目前ノ瀾縫策ト爲セリ露國總辦ノ言ニ據レバ總局ハ昨年機械器具ガ燒失シタルモ國內ニ於ケル年々ノ擾亂ノタメ更ニ購入スルコト容易ナラザルト火藥ノ缺乏トニ依リテ計畫モ甚ダ完備セズ目下殘餘ノ少數ノ小機械ニテ一箇月僅ニ二十粉筋(一粉筋ハ庫平ノ十一兩即チ一七九〇八)ノ金ヲ出スニ過ギズシテ收支償ハズ經濟非常ニ困難ナリ露本國トハ變亂以來久シク文書ノ往復無ク契約期間未ダ終ラザルヲ以テ經營困難ニ屬スルモ停止ノ明文無ケレバ勢ヒ中止シ難ク暫ク之ガ維持ニ努メザルヲ得ザルナリ各地砂金鑛ニ在テハ近年鑛脈從前ノ如ク大ナラズ探掘ヲ行フモ少量ニシテ經營ノ價值ナク毎月ノ採金僅ニ一、二兩ニ過ギズト又該處ノ工夫頭顔景一ノ言ニ據レバ各鑛ニ於ケル採金ハ一日總計約十餘兩ニシテ往年ニ比較スレバ約十分ノ四ニ減ゼリト又露人ニ就テ聞ク處ニ據レバ目下國內ノ戰亂未ダ終ラザルタメ積極的ニ進行セシムル能ハズ經費困難ナルモ之ガ補充ニ由ナシ招莫多ノ機械修理ノ爲民國七年蒙古官府ヨリ露貨三十萬留即チ一萬五千元ヲ借款シ又今年六月ニハ露貨五萬留即チ二千五百元ヲ借款シ此ノ利息ハ毎月一分二厘五毛ニシテ又蒙古官府ニ納付スベキ稅率一六・〇五%ハ蒙古官吏ノ督促過急ナレ共露國總辦ハ殆ンド交付ノ法無シ總局毎月ノ支出ハ露貨八、九萬留即チ四千五百餘元ニシテ機械修理費ノ如キモ五千餘元ヲ下ラズ然ルニ毎月ノ採金高ハ十餘粉筋(一粉筋ハ庫平ノ十一兩、一兩ノ金額ハ二十五、六元ニシテ即チ露貨五百留ニ相當ス)約四千餘元内外ニシテ毎月ノ收支償ハズシテ巨額ノ缺損ヲ生ゼシタメ暫時停工セント欲スルモ蒙古人ノ口實ガ恐ロシク止ムナク事業進行中ナレドモ其結果ハ上記ノ如ク經費ニ追ハ

レテ擴張シ難キノ状態ナリト、露人ノ蒙古ニ於ケル金鑛經營ノ現況實ニ斯如キヲ以テ其將來ニ至リテハ實ニ期待シ難シト雖モ事理ニ就テ之ヲ論ズレバ山金ハ河金ニ比シ探掘困難ナルヲ以テ巨資ヲ投ジテ各種ノ機械ヲ設置スルニ非レバ不可能ナリ又蒙古地内ハ交通不便ナレバ機械類ノ運搬頗ル困難ニシテ且ツ歐戰終局シタルモ露國內亂未ダ止マズ各工廠ハ休業セルタメ機械、火藥類ハ總テ米國ヨリ購入セザル可ラザルヲ以テ事業ノ進行ニハ尙巨額ノ費用ヲ要スベシ然ルニ總局ノ經濟及經營状態タルヤ全ク窮境ニアルヲ以テ將來露人ノ蒙古ニ於ケル金鑛經營ノ發展ヲ期シ難キハ正ニ斷言シ得可シ

#### 第十四節 金鑛衰微及工夫減少ノ原因

事業ノ盛衰ハ實ニ其事業ニ當ル其人ノ如何ニ依ルモノニシテ外蒙金鑛ハ柯樂德辭職以來經營者ニ其人ヲ得ズ從テ技術智識ニ乏シク又整理ノ能力無ク百事弛緩セルタメ鑛業ハ衰微ノ極度ニ達セシナリ其原因ニ數種アリ即チ次ノ如シ

##### (一) 露國革命ノタメ經濟ノ恐慌ヲ來セルコト

露國革命後露本國ノ總局トノ間ニ於ケル音信ノ不通數年ノ久シキニ互リ經費ニ困難ヲ來セルモ其調達法ナク從テ機械類ヲ購入シ難ク且ク火藥ノ缺乏ヲ來セルコト

##### (二) 工夫ノ減少セルコト

往時ハ工夫約一萬餘人ヲ有セシガ現在ハ二千人ニ及バズ、往時砂金採掘ニ於テ鑿井ニハ工賃ヲ支給シ開渠ニモ亦飲食物ヲ支給セシガ目下露人ハ砂金各鑛ニ於テハ一錢モ支給セズ唯工事監督ヲ置キテ收入ヲ

司ラシメ金ヲ獲ルト否トハ一ニ工夫ノ技術ニ任スモ工夫ハ智識淺薄ニシテ金ノ發見容易ナラザレバ相率ヒテ他ニ移動スルコト

(三) 經濟豊カナラザルヲ以テ調査ニ從事スル能ハザリシコト

(四) 規定ノ不完全ナルコト  
鑛内ノ規定ハ往時ト大ニ異リ柯氏在任中ハ工夫ノ商業經營及遊民ノ入溝ヲ許サザリシガ現在ニ於テハ工夫ノ多クハ商業ヲ營ミテ生計ヲ維持セルタメ溝内ニハ無職ノ遊民日日増加シ稼行上頗ル有害ナリ之ニ加フルニ露人ノ工事監督等ハ革命ノ影響ヲ受ケテ専ラ金鑛ノ竊取ヲ事トシ監督行ハレザルコト

次ニ工夫ノ減少ヲ來セシ原因トシテ尙次ノ三ヲ上ゲ得可シ

(一) 工夫ガ金鑛ニ於ケル匪徒ノ危險ヲ慮レルコト

柯氏ノ辭任後鑛内ノ規定宜シカラザルタメ無職ノ遊民ハ金鑛附近ニ彙集シテ賭博ニ耽リ或ハ隊ヲ組テ殺人スル等所有ル惡事ヲ行ヒ又不良ノ華工ハ金砂ヲ竊取シ日月ヲ經過スルモ之ヲ境外ニ搬出スルノ方法ナケレバ結局前記無賴ノ徒ト結託シテ之ガ搬出ヲ企ツ之等無賴ノ徒ハ多ク内地ヨリ徒歩ニテ來タル者及從來ノ工夫ニシテ解職セラレタル者等ニシテ彼等ハ皆鑛場ノ附近ニ潛伏シテ専ラ糧食又ハ金砂輸送ノ車輛ノ出發時ヲ伺ヒ私ニ兇器ヲ携帶シテ尾行シ數十支里或ハ百餘支里ノ廣漠ナル箇所ニ至ルヤ之ヲ殺戮シテ財物ヲ掠奪スル等ノ事件ヲ頻出セリ故ニ最近ニ於テ身ノ安全ヲ計ル者ハ皆金鑛ヲ畏シキモノト考ヒ之ニ從事スルヲ肯ゼザルノ狀態ナルヲ以テ工夫ノ募集頗ル困難ナリ

(二) 鑛脈ノ良好ナラザルコト

露人ハ砂金鑛ニ於テ既述ノ如ク放任主義ヲ採リ一方工夫ハ採金ノ容易ナラズシテ損益不定ナルヲ見テ寧ロ確實ナル農家ニ雇用サレテ開墾ニ從事スルノ利益遙カニ大ナル可キヲ知レルヲ以テ鑛内工夫ノ去ル者日ニ多キニ反シ來ル者日ニ少キノ狀態ニアリ

(三) 待遇ノ宜シカラザルト露貨ノ暴落セシコト

近年露人ガ華工ヲ虐待スルコト甚シク日傭工夫ノ工賃ハ一日僅ニ露貨六、七留ナルモ蒙古地ノ糧食騰貴セルタメ雜費ヲ控除セバ僅ニ一角半(露貨三留)ヲ餘スニ過ギズ

### 第十五節 外蒙金鑛ト對露人借款ノ原因

外蒙古ハ獨立以來匪賊騷擾ヲ極メ旅商ノ通過停滯シテ徵稅ノ途絶ヘ軍費ノ出所無キタメ當時蒙古地内ニ居住スル商人ヨリ一人ニ付一年三元ノ税金徵收ノ計畫スルト共ニ一方露人ヨリ巨款ヲ借用シテ支拂ニ充テザルヲ得ザリキ聞クニ第一次ノ借款額ハ露貨二百萬留ニシテ外蒙各地ノ金鑛ヲ擔保トシ返済期限ヲ二十箇年トセリ又第二次ノ借款額ハ露貨三百萬留ニシテ徵稅收入ヲ擔保トシ無利子ニシテ年賦償還トシ年賦償還額ヲ十萬留期限ヲ三十箇年トセリ而シテ其附帶條件トシテ露人ヲ顧問ニ聘用スルコトトシ該顧問聘用ノ契約ニハ外蒙古ニ於ケル所有ル金錢ノ支出ハ先ヅ顧問ノ承認ヲ經ルヲ要スルコトトシ借用ノ金ハ財政顧問ニ於テ管理スル外該顧問ハ外蒙古地方ニ於ケル炭坑、電燈、電話及各種ノ業務ヲ處理スルノ權利ヲ有シ三箇年ヲ以テ期限トスルモ期限滿了後ハ更ニ之ヲ繼續シ得ル契約ナルヲ以テ遂ニ露人「戈金」ヲ聘シテ顧問ニ任ジ財政公署ニ在リテ執務セリ爾來外蒙古ノ財政ハ悉ク外人ノ手ニ依リテ處理セラレ總

理及王公等ノ毎月ノ給料ハ凡テ顧問「戈金」ヨリ受領セラレ財政長ノ如キハ殆ンド有名無實ナレリ然ルニ其後露國ハ内亂勃發シテ之等ヲ顧慮スルノ暇ナキト一方蒙古人ハ何レモ悔悟スルニ至リ露人が財政上ノ壓迫ニ遭遇セルヲ覺リシカバ民國元年ヨリ屢々中國貨幣ヲ以テ露貨五百萬留ノ負債ヲ償還セムト企テシモ露人ハ年賦償還期限ガ未ダ完了セザルノ故ヲ以テ之ヲ拒ミテ容レズ爲ニ事遂ニ成ラザリキ然レ共該顧問及露蒙銀行ハ殆ンド立消ノ姿ニアリ聞クニ金鑛ヲ擔保トセル此ノ借款契約ハ二十年後ノ完済期ヲ以テ其效力ヲ失フモノナリト

附一 民國元年十二月締結外蒙露人間金鑛探掘契約

- (一) 蒙古政府ハ露蒙條約ヲ根據トシテ境內ノ鑛產ニ對スル露人ノ自由探掘ヲ許可スルコト
- (二) 鑛務公司ハ之ヲ三音諾顏部ニ設置シ分公司ハ其地點ヲ定メズ
- (三) 公司ノ資本ハ官民協同ニテ之ヲ募集ス但シ蒙古人モ亦資本ノ五分ノ二ヲ加入スルコトヲ得
- (四) 他國人ハ資本ヲ加入スルヲ得ズ
- (五) 露人ハ鑛務公司ノ紹介ニテ蒙古政府ニ對シ探掘證明書ヲ請求スルコトヲ得、該證明書受領後ハ如何ナル時ト雖モ其效力ヲ失ハズ
- (六) 鑛砂輸出額ノ百分ノ一ヲ以テ蒙古練兵費ヲ補助ス
- (七) 毎年純益ノ三割ヲ以テ蒙古側ノ資本ニ對スル報酬トナスコト

露蒙條文第七條

露國管下ノ人員ハ蒙古政府ト鑛產、森林、漁業ノ受領及其他ノ各事項ニ關シ協商ス可シ

中露蒙條約第五條

民國二年十一月五日中午露双方ニ於テ協定シタル條文ノ第二及第三條ニ依レバ中露ハ外蒙政府ガ一切ノ内政ヲ處理スルコト並ニ外蒙ノ商工事務ノ自治ニ關シテ各國ト國際條約及協約ヲ締結スル權利ヲ承諾ス

第十六節 庫倫金鑛ノ危機

蒙古ノ金鑛ハ實ニ豐富ニシテ露人トノ間ニ於ケル二十五箇年ノ契約モ近ク滿了スベシ（光緒三十二年ヨリ起算スルニ目下既二十四年ヲ經過シ更ニ一十箇年ニシテ滿了ス）露人ハ既ニ積極的ニ進行セシムルノ餘力無ク蒙古人又自ラ之ヲ經營スル能ハザレバ政府ガ法ヲ講ジテ之ヲ回收スルハ最モ適當ナル時期ナリトス最近日、英、米ノ各國人ハ露人ノ金鑛經營停頓ノ際ニ乘ジ相繼テ蒙古官府ニ外蒙金鑛探掘ノ申請ヲナシ米人ハ二千萬圓ノ資本ヲ以テ全蒙ノ金鑛ヲ調査センコトヲ聲名シ英人モ亦大資本ヲ以テ蒙古ノ金鑛ヲ經營シ並ニ電車ヲ敷設シ機械ヲ設置シ鑛石ヲ運搬シテ金鑛ヲ製煉セムト計畫シ日本モ亦利益ノ二〇%ヲ報效金ニ充ツルコトヲ條件トシテ之ヲ要求セリ蒙古官府外交長「車林多爾齊」ハ曾テ露國總辦ニ對シテ上記ノ事由ヲ述ブルト同時ニ露人ノ經營力乏シキヲ責メ他國ニ探掘ヲ許可シ以テ利益ヲ收メンコトヲ聲明シタルニ露國總辦ハ契約期限未ダ滿了セザルノ故ヲ以テ之ヲ拒絶セシカバ其議未ダ成就セズ、惟フニ英、米人ノ計畫ニ就テハ憂慮スルニ足ラザレ共日本人ノ計畫ハ然ラズ、元來日本人ハ大陸政策ヲ標榜シテ始メ南滿ヨリ漸次内蒙ニ浸出シ現在ハ其全力ヲ外蒙ニ傾注セントシツツアリ「セミノヨフ」ノ邊境擾亂ニ際シテハ其主動者ガ日本人ナルヨリセバ日本人ガ蒙古ノ金鑛ニ垂涎セルハ實ニ一日ニ非ルナリ開クニ最近猶其野心ヲ止メズ屢々蒙古官府ニ申請シ且ツ其計畫ハ土、車兩盟ノ金鑛ニ止マラズ全外蒙ノ金鑛



權利ヲ獲得セントスルノ意アルガ如シト、然レ共露人トノ契約期限未ダ滿了セザルヲ以テ露人ヨリ拒絕セラレ蒙古人ハ又強テ之ニ反對セザルハ實ニ以上ノ事實アルニ因ルナリ故ニ若シ中國ガ永ク之ヲ放置スルニ於テハ他日又別ニ枝葉ヲ生ズルノ恐レアル可ク況ンヤ蒙古人中ニハ之ニ對スル意思今猶強固ナラザルニ於テヲヤ、聞クニ露國總辦ハ招莫多ノ缺損多ク之ガ維持ノ力無キニ依リ曾テ該金鑛ヲ工夫頭タル天津人顏景一(多年鑛内ニアリテ巨萬ノ富ヲ有シ鑛内ノ狀況ヲ熟知シ頗ル露人ノ信任アリ)ノ請負ニ歸セシメント欲セシコトアリシモ外蒙外交長ノ諫止ニ依リテ之ヲ止メ又華人ニ請負ハシメントセシモ將來危險ノ伴ヲ恐レテ詮方ナク之ヲ維持シ來リシナリ、中國ニ對シテ最近派遣セル軍隊ノ大軍ハ未ダ至ラズ三多ニ建設セル兵營ハ既ニ破壞セリ、日、英、米ノ要求ニ至リテハ未ダ嘗テ絕對ニ之ヲ拒絕セズ是レ外蒙ガ外ニ向フ可キ證左ニシテ殊ニ一大危機ニ屬スルモノナリ

次ニ參考トシテ庫倫金鑛全般ニ亘リテ要點ヲ摘録スレバ次表ノ如シ

所在地	庫倫ヨリノ距離及方位	開鑛年月	停止年月及其原因	鑛種	旗地	作業人數		
						民國五年	民國八年	一日平均出金高
司稷圖	西二位ス	民國三年	民國七年夏火藥缺乏ノタメ	山金	巴圖那王			
招 伊林大巴	北三百五十支里	同 四年末	民國八年火藥缺乏ノタメ	同	同			
莫本不該	同	同	民國六年秋局ヨリノ距離遠キト鑛脈不其トノタメ	同	同			
多 哈拉格那	同	同 六年夏	民國六年冬鑛脈不其ト火藥缺乏トノタメ	同	同			
烏兒圖	同	同	同	同	同			

伊勒伯克	北々東三百六十支里	宣統三年	以上	河金	那木索額	六十餘人	兩二錢三分
納林哈拉格那	西北五百四十支里	同	以上	同	同	五十餘人	兩三錢八分
莫 怪	西北四百八十支里	同	以上	同	同	十餘人	兩三錢六分
伊克哈拉格那	西北四百支里	同	以上	同	同	六十餘人	兩二錢八分
伊羅(老溝)	北々東四百八十支里	光緒三十二年	以上	同	巴圖那王	五、六十人	三錢六分
不 魁 利	東北五百四十支里	宣統三年	以上	同	同	六、七十人	兩四錢餘
叨勒蓋圖	東北四百八十支里	同	以上	同	同	三百餘人	兩四錢餘
古 德 拉	東北七百八十支里	光緒三十四年	以上	河金	那木索額	三百餘人	兩二百八兩
特 勒 基	東五百餘支里	宣統元年	以上	河金	車臣汗部	無	
奎 通	西北四百八十支里	同 三年	以上	同	車臣汗部	無	
寶 棍 臺	東北五百四十支里	同	以上	同	巴圖那王	同	
大烏林堆	東北四百五十支里	同	以上	同	同	同	
小烏林堆	東北四百支里	同	以上	同	同	同	
固 朱 林	東北七百餘支里	宣統元年	以上	同	同	同	

附、烏里雅蘇臺所屬區域ノ金鑛調査狀況  
一、達什陶么合碩旗砂金鑛

當鑛ハ三音諾顏部烏城(即チ烏里雅蘇臺)ノ南方十三臺(一臺ハ約六十支里ナルヲ以テ合計約七百八十餘支里)ニアリ其採取サルル砂金ハ品質極メテ良好ナリ當旗ハ人民極メテ貧困且ツ出產物トシテハ之ヲ除ク外殆ンド認ム可キモノナシ現在尙未ダ正式ニ採掘セラレザレ共清朝以來蒙古人ハ土法ヲ用ヒテ盜掘シ近年ハ採掘スルモノ最モ多ク毎年約千有餘兩ノ砂金ヲ產出ス而シテ蒙古官府ハ之等ノ採掘ニ對シテハ深ク禁止セズ

二、札木養王合碩旗砂金鑛

當鑛ハ三音諾顏部ニアリテ烏城ヲ距ルコト正南十三臺(約七百八十餘支里)ニシテ札克河ニ臨ム當旗ト達么旗トハ烏塔河ヲ以テ界ト爲シ河ノ北方ハ王ノ領域ニシテ南方ハ達么旗ノ領域ニ歸ス河ノ兩沿岸ニハ金鑛ヲ有シ未ダ採掘セラレザレ共蒙古人ノ盜掘スルモノアリ

三、固爾固木那王合碩旗砂金鑛

當鑛ハ三音諾顏部烏城ノ正南十五臺(約九百支里)ニアリ河ハ其傍ヲ流ル當旗ト達公旗トハ相連リテ此ノ河ニ臨ミ處々ニ金鑛アルモ未ダ採掘セラレズ

四、碼尼么合碩旗山金鑛

當鑛ハ札薩克圖汗部ニアリ烏城ヲ距ルコト正南十七臺(約一千餘支里)ニシテ巴里坤ヲ距ルコト遠カラズ該地ニハ阿爾泰山アリ此ノ山名ハ即チ金山ノ意ナリ前清時代ニハ卡倫(見張所)ヲ設ケテ之ガ採掘ヲ禁ジ又烏城將軍ハ毎年一回人ヲ派シテ巡察セシムト今尙ホ採掘セラレズ

五、陶保多爾濟札薩克合碩旗山金鑛

當鑛ハ札薩克圖汗部ニアリ烏城ヲ距ルコト西南十七臺(約一千餘支里)瑪尼么合碩ノ南戈壁ニ產金ノ山

アリ此ノ山ハ瑪尼么合碩ノ阿爾泰ト同一系ノ山ニシテ未ダ採掘セラレズ

六、唐努烏梁海山金鑛

當鑛ハ札、三兩盟ニ屬セズ烏城ノ正北唐努山ニアリ山ヲ以テ烏梁海ニ依ル故ニ此ノ稱アリ唐努山一帶ハ產金頗ル豐富ニシテ露人ハ屢々採掘セントシタルモ土人ノ爲ニ阻止セラレタリ中國政府ガ將來駐屯兵ヲ設置シテ鑛務ヲ開始センカ官民共ニ喜ビテ之ニ從事スベシ烏梁海ハ外蒙ノ土地肥沃ナル區域ニ屬シ物產豐饒ニシテ鑛產殊ニ豐富ナリサレバ露人之ヲ渴望スルコト既ニ久シ、聞クニ露國ノ舊黨ガ侵略主義ニ基キ目下其全力ヲ盡シテ此ノ地ヲ占領セリト、江祖蕪(本篇ノ著者)ハ當時蒙古ニアリテ適々此ノ事アルヲ聞ク即チ烏梁海人ハ頗ル強悍ニシテ彼等ハ中央ヲ擁護シ烏梁海ヲ回收スルハ全テ自己ノ力ニ待タザル可ラザルヲ知レリ從テ彼等ノ露國兵ト戰ヒテ死傷セル者頗ル多シト

第二章 石炭及鐵鑛

第一節 石炭及鐵鑛產地

外蒙古ハ金鑛以外ノ鑛產ニモ亦豐富ニシテ現在既ニ發見サレタル產地ヲ上グレバ石炭ニ庫倫ノ附近ナル毛都沁、札薩克圖盟ノ額爾德尼貝子合碩及烏得アリ鐵鑛ニ古德拉附近ナル甘子臺及三音諾顏盟ノ特穆爾圖臺站アリ

露人外蒙古ノ金鑛ヲ獲得シテヨリ漸次其餘力ヲ以テ石炭及鐵鑛ヲ經營シ或ハ公然調査ヲ行ヒ或ハ暗ニ利ノアル所ヲ調査シテ競ヒテ之ニ趨ルニ我ガ中國ノ外蒙古ニアリテハ僅ニ鑛務ノ一端ニ就テ云々スルニ

過ギズ即チ人極力探求スルニ我ハ座シテ地利ヲ放棄シ露人ノ手中ニ落ツルニ甘ンズルガ如キハ實ニ慨嘆ニ堪ヘザル所ナリ

### 第二節 石炭

#### 甲、毛都沁炭坑

#### 位置及交通

當坑ハ庫倫ノ東、張一庫大道ノ傍ニアリ庫倫ヲ距ルコト僅カニ八十餘支里ナリ此ノ張一庫大道ヲ俗ニ牛車道ト稱シ庫倫ヨリ喇嘛廟及張家口ニ至ル大道ナリ産炭地毛都沁ハ第一臺站貝兒自羅克ヲ距ル二十餘支里、第二臺站那賴哈ヲ距ル約三、四十支里ニ位シ五公大壩ト總稱シ山路險阻ナリ庫倫ニ至ル大道八十餘支里ハ道平坦ニシテ車馬ヲ通ジ得可ク交通頗ル便利ナルモ唯夏秋ノ間圖拉河氾濫シ渡河容易ナラザルヲ以テ運搬稍々困難ナリ

#### 沿革及經營狀態

當石炭礦ノ發見者ハ支那人ナリト云フ露人石炭礦ノ發見ヲ探知シ遂ニ蒙古官府ト私ニ十五箇年ノ契約ヲ締結シ利益ノ十分ノ一ヲ報效金トスル事ニ定メタリ該契約ノ成立後蒙古人ハ大ニ後悔シ回收シテ自ラ經營セント欲セシモ今尙回收スル能ハズ當礦ノ開礦者ハ露人「伊惡根」ニシテ開礦後約四、五年ヲ經過セルモ未ダ發達セズ探炭夫ハ僅カニ支那人二名、工事監督及探炭技術者トシテ露人三名、牛馬、牧畜ヲ司ル者トシテ露人ノ使用スル勃利亞人四名、炭礦附近ニ工夫ノ宿舍數軒アリ何レモ木材建築ナリ露人ハ蒙

古包ニ住居ス、最近又居住用トシテ木材建ノ宿舍數軒ヲ建設セリ

#### 地勢及地質

炭礦地一帯ノ地勢ハ西南部稍々高ク東北ニ緩傾斜シ一帯ニ頗ル平坦ナリ山ハ秃山ニシテ又水草ニ乏シク附近數十支里ニシテ始メテ樹木アリ炭層ハ地表ニ近ク夾有サレ炭層ヲ被覆スル泥土層ハ其厚サ約六尺アリ地質年代ハ恐ラク新世代第三紀(Cenozoic Tertiary)ニ屬スバシ

#### 炭質及炭量

炭層ハ新世代第三紀層ニ夾有サレ其炭化作用未ダ完全ナラズ掘鑿一丈ニシテ炭層ニ達ス炭層ノ厚サハ計一丈二尺ニシテ上半部約六尺ハ泥土ニ類似シ光澤ナク泥炭ノ種類ニ屬シ燃料ニ供シ難シ下半部ハ質稍々良好ニシテ光澤ハ硬炭ニ類似シ質極メテ輕脆ニシテ木理尙判然タリ炭素分甚ダ少クシテ之ヲ燃燒スル時ハ煙多ク火力又極メテ低ク一見褐炭(Brown Coal, Lignite)ノ如シ炭量ハ極メテ豊富ナルガ如キモ未ダ實測セラレザルヲ以テ其數量ハ知リ難シ

#### 採炭及工賃

當坑ハ前後六個ノ堅坑ヲ開鑿セリ其深サ一丈乃至二丈ニシテ現在使用中ノモノハ僅カニ一個ニシテ其他ハ炭質不良、地層泥土質ナルタメノ堅坑破壊或ハ坑内水ノ多量等ニ因リテ使用セズ、採炭法ハ先ツ堅坑底ヨリ炭層探掘ノ準備トシテ高サ約六尺、幅五尺ノ坑道ヲ開鑿ス、支柱ニハ皆木材ヲ用フ而シテ木材ノ大半ハ附近ノ各山ヨリ運ビ來ルモノナリ、坑内ハ夏季冷寒工夫ノ坑内作業ニハ「ランプ」ヲ使用ス、坑内ハ周圍皆粗鬆ナル泥土ニシテ落盤ノ虞多キヲ以テ支柱ニハ極メテ注意ヲ拂フ

工賃ノ支拂方ハ工夫ガ石炭ヲ採掘シテ之ヲ坑内ヨリ坑外ニ運ビ來ル時ニ「ブード」(二十七斤半)ニ付露貨十文ヲ支給ス、工夫一人一日ノ採炭高ハ一五〇「ブード」其工賃露貨十五留ナリ、當坑工夫ノ言フ所ニ據レバ一人一日ノ工賃ハ洋六角半ニシテ食費ヲ除キテ五角ヲ餘スト云フ

炭價及販路

一「ブード」ノ炭價約露貨二十文、鑛山附近數十支里ハ樹木豊富ナリ石炭ハ質不良ニシテ庫倫ノ住民ハ多ク之ガ使用ヲ喜コバザルヲ以テ販路ハ極メテ狭シ庫倫ノ燃料材ハ松ガ大部分ヲ占ム而シテ松材ノ價格ハ長サ五、六尺、徑五、六寸ノモノ一車四段或ハ五段ニテ露貨二十留内外(洋一元餘ニ相當ス)ナリ毎年冬季爐火用ニハ凡テ薪ヲ使用ス此ノ消耗甚ダ多量ナリ、聞クニ蒙古官府ハ曾テ陳都護ニ請フテ商民ニ石炭ノ使用ヲ勸誘シ以テ販路ヲ廣メ炭坑ヲ維持セントセリト

乙、額爾德尼貝子合碩ノ產炭地

當產炭地ハ札薩克圖盟額爾德尼貝子合碩旗地ニアリ烏里雅蘇臺ヲ距ル西十三臺(一臺ハ約六十餘支里ナルヲ以テ合計約七百八十餘支里)ニ位ス、該旗ハ巴爾烏洛山ノ西段ニ位シ產炭豊富ナレバ土人常ニ之ヲ採取シテ燃料ニ供セリ現在尙開礦セラレズ當產炭地ハ庫倫ヲ距ルコト遠キヲ以テ未ダ踏査シ得ザリキ故ニ其詳細ハ知リ難シ

丙、烏得產炭地

當產炭地ハ庫倫ノ東南九百餘支里即チ烏附近ノ駱駝溝地方ニアリ、聞クニ產炭豊富ナルモ現在尙開礦セズト

第三節 鐵 鑛

甲、甘子臺鐵鑛

當鑛ハ庫倫ノ東北七、八百支里ニアリ古德拉金溝ト相距ル僅カニ六十餘支里ナリ、此ノ鑛ノ發見後蒙古官府ハ露貨一千七百萬留ヲ調達シ金鑛總辦タル露人「費廷廓夫」ニ委託シテ該處ニ製鐵所ヲ設立シ本年(民國八年)ノ陰曆七月ヨリ事業ヲ開始スルコトニ定メタリ、當鑛ハ庫倫ヲ距ルコト遠キヲ以テ何種ノ鐵鑛ナルヤハ之ヲ知リ難キモ今回ノ旅行ニ於テ拾得セル鐵鑛ガ赤鐵鑛(Hematite)ナルヨリ考フレバ該鑛ハ恐ラク之ト同種ナルベシ

乙、特穆爾圖臺站鐵鑛

當鑛ハ三音諾顏部烏城ノ東南二百四十餘里ナル特穆爾圖地方ニアリ、聞クニ當地ノ鐵鑛ハ極メテ豊富ナルモ未ダ開鑛サレズ露人ノ之ヲ渴望スルコト既ニ久シト

第二章 岩鹽及天然曹達

第一節 岩鹽及天然曹達ノ產地

岩鹽及天然曹達ハ外蒙古沙漠ノ湖沼地ニ產出スルモ最モ著明ノ產地ハ內蒙古ナリ、烏梁海地方ニ於テモ近年岩鹽鑛(Rock salt)ガ發見サレタリ質極メテ良好ナリ蒙古人ハ既ニ開採シテ需用ニ供セムコトヲ知レリ、次ニ内外蒙古ニ於ケル岩鹽及天然曹達ノ概要ニ就テ聞知セル所ヲ述ベントス

甲、岩鹽ノ產地

(一) 烏梁海ノ岩鹽 外蒙古西部杜爾伯特ノ北境烏梁海ノ南境達不蘇山(蒙古語ニテ鹽ヲ達不蘇ト云フ)ニアリ此ノ山ハ高クシテ樹木ナク岩石多シ地表ヨリ二、三丈ノ深サニ岩鹽礦アリ土人既ニ土法ニ依リテ採掘セリ而シテ烏梁海五旗ノ使用スル食鹽ハ皆其供給ヲ之ニ仰グ

(二) 內蒙古達不蘇諾爾即チ烏珠穆沁鹽湖

達不蘇諾爾ハ蒙古語ノ鹽湖ノ意ニシテ西烏珠穆沁王府ノ西北四十餘支里、東浩濟特王府ノ北方十三支里ニ位ス其周圍約十支里餘、湖ノ北郭ハ冬季結氷セザルヲ以テ四季採取シ得ベシ、冬季ハ日光弱ク春季ハ降雨多キ爲結晶充分ナラズ夏季ノ產出最モ多シ、採鹽ノ法トシテハ圓形ノ「シヨベル」狀ノ器具ヲ用ヒテ湖水ヲ掬ミ取リ次ニ之ヲ凝縮ス、一日ノ產鹽高ハ最高三百餘石ナリ、現在採鹽ノ經營ハ蒙古人ノ獨占ニシテ彼等ハ車輛ニ積載シ各地ニ輸送シテ販賣ス、北ハ外蒙古ノ車臣汗部及黑龍江省呼倫貝爾附近ヨリ海拉爾、索倫ノ境界ニ至リ東ハ洮南附近ヨリ達賴罕、札魯特、阿爾科爾沁各旗ニ至リ南ハ敖漢翁牛特、察哈爾等ノ地ニ達ス、漢人及滿洲人使用ノ食鹽モ亦其ノ供給ヲ之ニ仰グ

(三) 內蒙古蘇尼特鹽池

當鹽池ハ蘇尼特左翼旗王府ノ西南十八支里ニ位シ其周圍約三支里アリ此ノ湖ヨリ西八支里ニシテ周圍六支里ノ鹽湖アリ更ニ西九支里ニシテ又鹽湖ニアリ湖邊白皚々トシテ際ナク其產額達不蘇諾爾ニ劣ラザルモ運輸不便ナリ、當地ノ產鹽ヲ最モ多ク消費スルハ山西、直隸兩省ナリ

(四) 阿拉善蒙古吉蘭鹽池

當鹽池ハ阿拉善王ノ駐在スル定遠營(蒙古人ハ王爺府ト稱ス)ノ北ニ位シ產鹽最モ多シ、年產額約二千百萬斤、品質良好ニシテ價格廉ナルヲ以テ内地人ハ之ヲ嗜好シ又甘肅人ノ此ノ鹽ヲ食用スルモノ十分ノ六、同ジク陝西人ガ十分ノ三ナリ、當地ハ該食鹽ヲ積載スル駱駝牛騾ノ車輛絡繹トシテ絶ヘズ前清時代政府ハ販路ノ制限及販賣制度ニ關スル規則ヲ定メタリト一箇年ノ徵稅額六萬三千兩ニ達ス

製法

鹽ノ製法ハ極メテ簡單ニシテ唯湖水ヲ掬ミ取リテ之ヲ凝縮乾燥スルノミナリ

以上ノ外、外蒙古ノ二連、海拉爾、呼倫貝爾、鄂爾多斯間、山西ノ托克、托廳、歸化間及青海等皆鹽ヲ產出ス、蒙古ノ天然產物ノ中最モ豊富ナルハ鹽ニシテ若シ能ク之ヲ經營シ統一スル時ハ其利誠ニ少ナカラザルベシ

乙、天然曹達ノ產地

天然曹達ハ蒙古固有ノ天然產物ニシテ內蒙古ノ東南部ニ產出ス、就中內蒙古活多多諾爾、巴顏諾爾等ニ產スルモノ最モ良好ナリ、外蒙古ノ沙漠湖沼諸地ニモ之ヲ產セザル所ナシ、天然曹達ノ產地ハ概ネ小丘ニ圍繞セラレル低濕地ニ位スルヲ常トス、山麓ニ天然曹達ヲ產スル時ハ草木枯死シ附近ノ地皆灰濁色ナリ、發生セル天然曹達ハ先ヅ之ヲ掃集シ次ニ加工ス加工費ハ多カラズ、又冬季結氷セル湖面ニ天然曹達ガ自然結晶シテ析出スルモノアリ、曹達採取ノ最モ盛ナルハ春秋ノ二季ナリ

用途及販路

蒙古產天然曹達ノ加工品ハ染色用、麵麩類ノ製造用、洗濯用等ニ使用サレ内地ノ需用甚ダ廣シ、染物

及小麥粉業者ハ蒙古産曹達ヲ最良ナリト稱ス、往年蒙古ヨリノ輸入額一箇年約一千六百萬斤ニ達セリ  
清朝時代ニ於ケル曹達業ノ經營法

清朝時代ノ舊例ニ依レバ蒙古ノ天然曹達ニハ專賣法ヲ適用シ即チ曹達ノ專賣ニハ必ズ政府ヨリ牙帖  
(仲買ノ許可證)ノ支給ヲ受クベキコト鹽及茶ノ輸送專賣許可證ヲ必要トスルガ如シ、又定數以外ニ新店  
ヲ設ケントスル時ニモ必ズ牙帖ノ買受ヲ要シ若シ之ヲ有セザル時ハ政府ヨリ改メテ支給ス内地需用ノ曹  
達ハ皆蒙古産ニ仰グヲ以テ曹達業ハ大ニ發達セリ然ルニ近年來外國製人造曹達ノ輸入増加セリ最近ノ海  
關報告ニ據レバ此ノ數ハ二千五百萬斤ノ多キニ達セリ是ヲ以テ蒙古産天然曹達ノ需用大ニ衰退セシナリ  
故ニ今日能ク蒙古産天然曹達ノ振興ト利用トニ勉ムルハ之人造曹達ヲ驅逐スルノ一法ナリ

### 第四章 交渉事項竝ニ陳述意見

#### 第一節 陳都護ノ金鑛開採ニ對スル意見

金鑛ノ開採ニ就テハ從來未ダ蒙古人ト協商セザルヲ以テ彼等ガ之ニ反對スルヤ否ヤハ素ヨリ豫測シ難  
シ然レ共事理ニ就テ推察スルニ露人ニシテ既ニ蒙古ニアリテ金鑛、石炭鑛等ヲ開採シ得タリ况ンヤ我ガ  
中國ノ外蒙古ニ對シテハ宛然一宗主國ニシテ完全ニ領土ノ主權ヲ有スルヲ以テ當然開採ス可ラザルノ理  
ナシ故ニ唯政府ニ希望スル所ハ速ニ資金ヲ調達シ先ヅ員ヲ派シテ調査探鑛ニ從事セシメ開採有望ナル鑛  
ヲ發見セル後蒙古人ト協商シ利益ヲ分配スル時ハ開墾殖民ノ事業ニ比シテ尙容易ナルベシ將來中國人ガ  
開採スルニ至ラバ蒙古人ノ土地ヲ以テ資本ノ一部ニ充テ利益ノ若干ヲ給與シ以テ彼此ノ聯絡ヲ計ルベシ

尙蒙古ノ事情火急ニシテ又蒙古人ノ性質多疑ナルヲ以テ先ヅ蒙古人ト協商シテ彼等ノ疑惑ヲ除キ疑慮稍  
々定マルヲ俟テ更ニ提出シテ蒙古官府ト協議シ更ニ農商部ノ査定ヲ申請スベシ

#### 第二節 陳都護ノ鑛務技術員設置ニ關スル意見

陳都護ハ公署内ニ鑛務技術員ヲ設置スルコト但シ新ニ之ヲ設置スルヲ得ザレバ我國ノ内部行政範圍ニ  
屬セシメ蒙古人ノ干預ヲ絶對ニ禁ゼシムルコトヲ述ベ政府ニ對シテ速ニ之ガ實行方ヲ希望シ以テ專ラ鑛  
務ヲ掌ラシメ各處ヲ調査セシメテ探鑛可能ノ鑛山ヲ發見セバ公署ヨリ或ハ株式ヲ募集シテ之ガ經營ニ當  
ルヲ可トスベシ

#### 第三節 陳都護ノ鑛業規定訂立ニ關スル意見

陳都護ハ鑛業規定ノ訂立ニ關シ次ノ如キ意見ヲ述ベタリ即チ蒙古ノ時局ガ稍々安定シ公署内ニ鑛務技  
術員ノ設置ヲ經タル後更ニ蒙古ノ事情及内部ノ情勢等ヲ參酌シテ隨時農商部ト協議スベシ

#### 第四節 陳都護ノ金鑛回收ニ對スル意見

陳都護ノ意見ニ依レバ金鑛ノ回收ハ現在至難ナレバ契約期限滿了後改メテ方法ヲ講ズベシト又同氏ハ  
外蒙古一切ノ行政ハ全然中露蒙協約ニ拘束セラルルヲ以テ外蒙古ニ於ケル種々ノ權利ヲ回收セント欲セ  
バ兵力ヲ後盾トセル外交ヲ以テ先ヅ中露蒙協約ヲ取消スニアラザレバ不可能ナリト云ヘリ

### 第五節 外蒙古ノ礦務ニ對スル意見

外蒙古ニ於ケル礦產ノ豐富ナル事ハ前述セルガ如シ露人外蒙古ニアリテ金礦獲得後其餘力ヲ以テ遂ニ石炭礦及鐵礦ヲモ經營スルニ至リ日、英、米ノ各國人モ亦近來外蒙古ノ金礦ヲ渴望シテ食指ヲ動カスニ至レリ歐戰後露國ノ内亂未ダ止マズ蒙古人唯々トシテ命ヲ聽ク之レ實ニ天我中國ニ與ヘタル絶好ノ機會ニシテ此ノ時ニ於テ外蒙古ニ於ケル種々ノ既失權利ノ回收ヲ圖ラザレバ後日悔ユルトモ及バザルナリ江祖純(本篇ノ著者)今之ガ對應策ニ就テ以下愚見ヲ述ベントス

#### (一) 契約ニ據リテ金礦ヲ回收スルカ或ハ合辦ヲ繼續スルコト

外蒙古ノ礦產中最モ經營ノ價值アルモノハ金礦ナリ故ニ露人前清朝ト契約當時ヨリ既ニ之ヲ隴斷セントセシナリ、尙該契約ハ官督商辦ナルニ事實ハ我國トノ合辦ナリ清朝時代ノ金礦督辦ハ元庫倫辦事大臣ガ兼任シ總辦ハ督辦ノ指揮ヲ受ケタリ外蒙古ノ獨立後ハ金礦ノ經營ガ前清時代ニ締結セル契約ニ據リテ處理スベキモノナルニ事實ハ彼ニ有利ナルモノハ之ヲ遵守セザルナキニ反シ我ニ有利ナルモノハ概ネ之ヲ履行セズ恰克圖會議ノ際郵便、電信、鐵道等ガ何レモ會議ニ提出サレタルニ唯金礦ノミハ未ダ一語モ論及セラレズ、然カモ金礦ノ合辦權ガ露人ノ手ニ獲得サレタルハ殊ニ痛嘆ニ堪ヘザル所ナリ、現在總辦ハ露人ニシテ蒙古人ハ兼務官トシテ各礦ニ一人宛置クモ兼務官ノ爲スベキモノトテハ何物モナキ空官タルニ過ギズ露人ハ又誘フニ微利ヲ以テシ一切殆ンド露人ノ指揮スル所トナリ今日ノ金礦ハ殆ンド彼等ノ私有財産タルノ感アリ予思フニ若シ前清時代ノ契約ヲ履行セバ金礦督辦ノ職ハ當然我ガ庫倫辦事大臣ニ

屬スベシ今ヤ露國ハ逐年ノ混亂ニ困リ南顧スルノ暇ナキヲ以テ我中國ガ若シ契約ニ據リテ露人ト交渉シ以テ合辦ヲ繼續スルカ或ハ完全ニ回收シテ自辦トスルコトハ蓋シ難カラザル可シ又然ラズシテ利害ヲ蒙古人ニ説明シテ蒙古官府ヨリ間接ニ回收セシムルモ亦不可ナカルベシ要スルニ今ヤ最好ノ機會ニシテ暫クモ緩ニス可ラザルノ時ナリ故ニ契約ノ滿了期ヲ俟テ改メテ方法ヲ講ゼントスル如キハ後年ニ過ラズ所以ニシテ永久ニ回收ノ望ミヲ失フモノナリ

#### (二) 官商ヨリ資金ヲ調達シテ速ニ石炭礦ヲ開發スルコト

外蒙古ノ杭愛山以北ハ樹木繁茂シ住民ハ樹木ヲ燃料トスルモ(庫倫ノ東六十餘支里一帶及北部庫倫一恰爾汗森林多ク數フ、庫倫ノ日常用及冬季爐火用ノ燃料ハ皆之ニ供給ヲ仰ギ其數量巨額ナリ)沙漠以南ハ此ノ種ノ燃料ナキヲ以テ住民ハ何レモ糞ヲ拾集シテ燃料トナスノ状態ナリ故ニ今日蒙古ノ礦產ヲ開發シテ緩急ニ應ズルニハ先ヅ石炭ヲ第一トスベシ(庫倫ノ近クナル毛都沁炭ハ質極メテ不長ニシテ火力甚ダ弱キヲ以テ住民ハ多ク其使用ヲ喜バズ爲ニ該炭ノ販路大ニ阻滯ス、其他ノ炭坑ノ炭質如何ニ就テハ未ダ之ヲ知ラズ將來外蒙古ニ於ケル炭坑ハ之ガ經營價值ノ有無ガ殊ニ重要ニシテ今問題ハ解決セラルベシ)石炭ノ使用ハ蒙古ニ於ケル燃料上ノ困難ヲ除去シ樹木ノ伐採ヲ減少スルト共ニ又一方軍隊ガ駐在シテ邊境ヲ防護スル上ニ便ナリ

現在庫倫ノ附近ナル毛都沁及烏得ノ兩地ハ共ニ石炭層ガ發見サレシヲ以テ眞實之ヲ提倡シ開發セバ將來沙漠以南一帶ニ於ケル燃料ノ缺乏ハ當ニ緩和セラルベシ烏得ノ地ハ内外蒙古ノ咽喉部ニ位シ商賈經由ノ要道ニ當ルヲ以テ外蒙古ヲ牽制セントスルニハ此ノ地ニ大兵ヲ駐在セシムルニ非ズバ不可ナリ

斯ノ如キヲ以テ開採ノ實行ハ實ニ一舉兩得ニシテ今日必要ナル計畫ナリ故ニ先ヅ政府ヨリ資金ヲ調達シテ開發ヲ提倡シ效果ノ現ハルルヲ俟テ改メテ株式ヲ募集スベシ、庫倫ハ殷盛ニシテ商家頗ル多キヲ以

ヲ苟クモ能ク之ヲ提倡シテ誘導スレバ民間株ノ募集ハ容易ナルベシ

(三) 蒙古ノ岩鹽及天然產曹達業ヲ振興シテ利源ヲ計ルコト

蒙古ノ天然產物中最モ豊富ナルモノハ岩鹽及天然曹達ニシテ現在蒙古人ノ獨專經營ニ係ル而シテ鹽業ハ發達セルモ曹達業ハ外國製人造曹達ノ輸入増加ノ爲日ニ衰退シツツアリ故ニ若シ前清時代ノ經營法ニ據リ之ヲ專賣制トシ整頓シ統一スレバ其ノ利實ニ大ナルベシ

(四) 速ニ鑛務技術員ヲ設置シテ未開ノ鑛產地ヲ調査探鑛スルコト

蒙古ノ鑛業ニ就テハ露人ノ經營以外全ク聞カズ、蒙古人ハ專ラ游牧ヲ事トシ生産業ヲ事トセズ中國人ノ蒙古ニ居住スル者モ亦唯農商業ノ經營ノミヲ知リ鑛業ニ就テハ漠トシテ知ラズ元來蒙古人ハ智識淺薄風水ノ説及迷信多ク且ツ性懶惰又在蒙中國人ハ技術上ノ智識乏シク加フルニ又政府ハ鑛產ヲ開發シテ富ヲ計ル事ヲ提倡セザルヲ以テ彼等ハ經營セント欲スルモ由ナシ、聞クニ露國ノ庫倫領事館内ニハ實業委員ノ設置アリト然ルニ我國ノ庫倫都護公署内ニハ此ノ職官ヲ缺ク之レ彼此傾注ノ同ジカラザル所ニシテ從テ效果モ亦相異ル所以ナリ、外蒙古ノ圖、車兩盟以外三音諾顏、札薩克圖及烏梁海、科布多等ハ各種鑛產ノ極メテ豊富ナル地方ナルモ未ダ専門家ノ實地調査ヲ經ザルヲ以テ其鑛產ノ埋藏量ノ多寡開鑛價值ノ有無等不明ニシテ從テ鑛業ニ就テハ其ノ開發ニ着手スルニ由ナシ、最近農商部ニテハ都護公署内ニ技術員二名ヲ設置シテ蒙古ニ於ケル鑛產ノ調査探鑛ヲナサシメントスルハ實ニ中國人ノ蒙古ニ於テ鑛業ヲ開發スルノ先聲ヲ提倡スルモノナリ

(五) 外蒙古鑛業規定ヲ訂立シテ中國鑛業人ニ遵守セシムルコト

露蒙ノ恰克圖會議後中國ハ既ニ蒙古ノ自治ヲ承認シ商工業協約中ニ又自治範圍ヲ定メテ其レガ整理ノ全權ヲ指定セリ鑛業ニ就テハ未ダ何等規定ヲ明カニスルモノナキモ然カモ蒙古ノ事情ハ内地ト同ジカラザルヲ以テ内地鑛業法規ヲ其ノ儘蒙古内ニ適用シ難シ故ニ速ニ別ニ鑛業規定ヲ訂立シテ將來中國人ノ蒙古ニアリテ鑛業ヲ開發スル者ヲシテ遵守セシムベシ

(六) 鑛業銀行ヲ設立シテ人民ノ鑛產開發ヲ補助スルコト

鑛產ノ開發ハ一ノ冒險事業ニシテ其ノ利害得失ニ就テハ斷ジテ逆視シ難キヲ以テ内地人ハ之ガ斷行ヲ遠巡ス加フルニ又交通不便ナルノ不利アルヲ以テ我國ガ若シ人民ノ蒙古ニ於テ鑛產ノ調査及開採ヲ獎勵セント欲セバ先ヅ金融機關ヲ設備シ資金ヲ貸シテ人民ノ鑛產調査開發ヲ補助シ且鑛業ニ要スル各項ノ經費ヲモ貸スニアラザレバ效果ナカルベシ

(七) 蒙古人ニ對シテ地主タルノ利益ヲ給スルカ或ハ彼等ト合辦シテ聯絡ヲ計ルコト

元來蒙古人ハ性懶惰ニシテ生産ヲ事トセズ且迷信及風水ノ説多ク往年柯樂德ガ金鑛開採ノ際彼等ハ遊牧及風水ヲ阻碍スルモノナリト抗言セシモ近時漸ク鑛產開發ノ利益ヲ知ルニ至リ加フルニ又自治官府ハ財政非常ナル窮乏ニアルヲ以テ最近地利ヲ以テ人民ノ利益ヲ計ラント欲スルニ至レリ故ニ政府ニ於テ鑛業ヲ開發スルニ當リテハ蒙古人ニ對シ充分ナル地主タルノ利益ヲ給スルカ或ハ彼等ト合辦經營ヲナスベシ而シテ彼等ガ其ノ利益ノアルベキヲ知ラバ欣然トシテ命ニ從ヒ何等ノ阻碍ヲモ生ゼザルベシ且吾人既ニ五族(漢滿蒙回藏)共和ヲ以テ天下ニ標榜セシヲ以テ彼我ニ義ナラズトモ我彼ニ不仁タル能ハズ斯ノ如ク經營センカ彼等ノ我ニ服スル事日毎ニ堅實トナリ外人モ亦其間ニ於テ彼等ヲ教唆スルニ由ナシ



(八) 失業工夫ヲ利用シテ鑛業ニ從事セシムルコト  
 往年金鑛工夫ハ萬以上ノ多數ナリシガ露人ノ金鑛衰微シテヨリハ工夫ノ待遇良カラザリシ爲工夫等ハ或ハ農民ニ或ハ土匪ニ變リ其ノ數漸次減少セリ之等ノ工夫ハ元來良民ニシテ勞苦ニ堪ヘ作業ヲ善クセルモ就クベキ職業ヲ失ヘシ爲豁谷ノ間ヲ進退シ或ハ匪盜ト變レルモノナレバ彼等ヲ招集シ善導シテ鑛業ニ從事セシムル事ハ最モ適宜ナリ

(九) 鑛務局ヲ設置スルコト  
 鑛業ハ極メテ繁雜ナレバ拱手シテハ能ク爲ス得ザル事業ナリ顧レバ露人ノ鑛産ニ對シテハ非常ノ注意ヲ以テシ明ニ暗ニ調査探鑛ニ勉メ所有ル鑛産地ヲ判明セリ然ルニ我中國ハ茫然トシテ何等知ル所ナシサレバ余ノ意見トシテハ鑛務局ヲ蒙古ニ設立シ責任ヲ以テ全蒙古ノ鑛産地ヲ調査探鑛測量シ詳細ナル圖面ヲ作成スルコトガ鑛業開發ノ前程ト云ヒ得ベク若シ事々ニ蒙古人ノ疑惑ヲ顧慮シテ敢テ之ヲ實行セザル時ハ徒ニ宗主國ノ虛名ヲ擁シテ然カモ宗主國タルノ實利ナキモノニシテ何ゾ宗主國タルノ貴アラシヤ露國ノ蒙古ニ於ケルヤ宗主國ナラズシテ然カモ宗主國タルノ實アリ即チ開墾ニハ永租ノ權利ヲ有シ輸入貨物ニハ負税ノ條項アリ又各地ニハ領事館ヲ設置シ得官商ノ往來ハ任意ニナシ得ベシ且居住及開鑛ハ自由ニシテ探掘權證明書ヲ取得セシ後ハ永遠ニ其效力ヲ發生スベシト然レ共之等ノ種々ナル利權ハ果シテ露國ノ所有ニ歸スベキヤ否ヤニ就テハ試問ヲ要スル所ナリ故ニ我國ガ今日外蒙古ニ對スル種々ノ施設ハ強制手段ヲ以テ之ヲ實行スルモ當然ニシテ少シモ顧慮スル所ニアラザルナリ

(十) 速カニ張、庫鐵道ヲ敷設シテ交通ノ便ヲ圖ルコト

今ノ實業ヲ談ズル者ハ動モスレバ開鑛ヲ稱フ、然レ共商工業ノ發達ヲ圖ラントセバ先ヅ交通ヨリ著手セザルベカラズ、殊ニ外蒙古ハ食物需用品等極メテ缺乏ノ地域ナレバナリ、露人ノ外蒙古ニ於テ交通ヲ圖ルヤ極メテ完全ニシテ即チ水路ニハ色楞格河アリテ汽船ガ航行シ陸路ニハ西伯利亞鐵道アリ又庫、恰間ニハ汽車(今ハ無シ)馬車ノ往來アリ又日本ハ外蒙古ニ於テ鐵道ノ容易ニ獲取シ得ザルヲ見テ克魯倫河ノ航行ヲ調査シテ以テ黑龍江ニ出テ東清鐵道ニ達セントシ其野心勃勃タルハ誠ニ問フニ堪ヘザル所ナリ、而シテ我中國ハ張、庫鐵道建設ノ議起リシモ今尙實行シ難キハ誠ニ遺憾ト謂ハザルベカラズ、中國ト蒙古トハ地勢ヨリシテモ相倚リ相接スルノ關係ニアリ蒙古ニシテ一旦事アレバ我中國ノ西北境ハ相離藩シ中國内地ノ利害ト關係スルコト重要ナリ、露人ノ交通ノ便ヲ圖ルヤ以上ノ如キヲ以テ彼等ガ兵ヲ外蒙ニ用ヒントスルモ僅カニ數日ヲ要スルノミ、然ルニ我國ハ戈壁ノ沙漠ニ限ラレ實ニ多數ノ日子ヲ要ス故ニ交通運搬ノ便ヲ速ニ圖ルベシ、鐵道ノ敷設ニ就テハ我國ハ財政困難ナルヲ以テ米國ヨリ借款スルニ若カズ、烏得ノ地ハ内外蒙古ノ要害地域ニシテ石炭ニ豊富ナリト聞ケバ將來鐵道ガ此ノ地ヲ經由シ商埠ガ開カレ多數ノ兵ヲ駐在スルニ至ラバ燃料缺乏ノ憂ナカルベシ

### 第五章 摘要及結論

前述四章ニ於テ述べタル要點ヲ摘録シテ便覽ニ供ス

(一) 前清時代ニ露人ト合辦經營ノ金鑛ニシテ現在稼行中ノモノ五個處休業中ノモノ五個處アリ將來何レモ繼續ノ望アリ

- (二) 金礦ハ何レモ前清時代ニ締結セル契約ニ準據シテ經營ス即チ露人ノ請負制ニシテ鑛業稅トシテハ出金高ノ一六・〇五%ヲ直接蒙古官府ニ納付ス
- (三) 露人ノ開採セル砂金鑛ハ多ク古德拉、奎通、伊羅等ノ諸河溝ニアリ山金鑛ハ杭愛山脈ノ哈拉河附近ニアリ
- (四) 外蒙古ニハ金鑛以外ニ石炭、鐵鑛、岩鹽及天然曹達等ノ鑛產物アリ露人ノ開採セル金鑛及石炭ハ專ラ土什業圖汗部ニアリ鐵鑛ハ蒙古官府ヨリ露國金鑛總辦ヲ派遣シテ製鐵所ノ代理經營ヲ委託セリ岩鹽及天然曹達ハ蒙古人ノ獨專經營ニシテ車輛ニ積載シテ各旗地及内地ニ輸送シテ販賣ス
- (五) 蒙古ノ砂金鑛ハ既ニ經營價值ノナクナレルヲ知リ露人ハ現在漸ク山金鑛ニ注意スルニ至レリ
- (六) 露人ノ蒙古ニ於ケル金鑛經營狀態ハ遠ク往時ニ及バズ即チ往時ノ約十分ノ四ニ過ギズ現在ニ於テハ招莫多山金鑛ガ最モ佳良ニシテ一日ノ出金高約十餘兩、其他ノ各砂金鑛ノ出金高ハ極メテ少ク一切ノ費用ヲ控除シテ幸フジテ價フノミナリ
- (七) 招莫多金鑛總局ノ資本ハ洋百十餘元ナルモ露國ノ内亂ニ因リテ經濟上ノ困難ヲ來シ蒙古ニ向ヒテ露貨二十五萬留ヲ借款セリ
- (八) 柯樂德ガ締結セル土、車兩金鑛契約ハ有效期間尙十餘年アリ日、英、米ノ各國人ハ最近相繼ギ蒙古官府ニ對シテ金鑛開採ヲ申請セシガ蒙古官府ハ契約期限未ダ滿了セザルヲ以テ認可スル能ハズ
- (九) 蒙古ノ鑛產物中最モ經營ノ價值アルハ金鑛ニシテ次ハ石炭、鐵鑛、岩鹽及天然曹達等ナリ就中石炭ハ其實不良ナルヲ以テ其レガ經營價值ノ有無ハ殊ニ疑問トスル所ナリ

(十) 陳都護ハ鑛產ノ開發上鑛務技術員ヲ設置スルコトヲ提倡シ政府ニ對シテハ鉅款ヲ調達シテ速ニ鑛產ノ開發及鑛業規程ノ訂立等ヲ希望スルト共ニ中國人ニ對シテハ將來鑛產ヲ開發シ經營スル場合ニハ其利益ノ若干ヲ蒙古人ニ給スベキコトヲモ提倡セリ而シテ之等ノ事項ハ蒙古ノ局面ガ稍々安定セル後農商部ニ申請シテ實施方ヲ協議スベシ

### 結 論

茫漠タル外蒙古ノ地ハ土地肥沃ニシテ鑛產豐富ナルモ國民ハ多ク其ノ境域ヲ踏査セザルヲ以テ久シク荒寒不毛ノ地ト見做サレタリ然ルニ全蒙古ノ地ヲ見ルニ酷寒ニシテ耕牧ニ適セザル沙漠地方ヲ除ク外ハ杭愛山以北、肯特山以西及庫倫、恰克圖間ニ於ケル如ク色楞格、古德拉、伊羅、奎通、哈拉、鄂爾坤等ノ諸流域ニシテ地勢低下シ氣候温暖河水充滿シ原野豐沃ニシテ山ハ樹木多ク地ハ寶藏ニ豊ム然レ共未ダ専門家ノ踏査ヲ經ザルヲ以テ鑛產ノ埋藏數ニ就テハ確知シ難キモ從來ノ調査セル所及露人ノ開採セル所ニ就テ云ヘバ阿爾泰、肯特及杭愛等ノ諸山脈ハ金、銀、鉛、銅、鐵、石炭等ニ富ミ古德拉、伊羅、奎通、克魯倫等ノ諸河溝及唐努、烏梁海、庫蘇泊等ノ附近山谷ハ河金ノ埋藏ニ富ミ又烏梁海ハ岩鹽ヲ產ス其外內蒙古ノ活多々諾爾、巴顏諾爾及外蒙古沙漠ノ湖沼地ニハ天然曹達ヲ產シ又內蒙古烏珠穆沁及阿拉善蒙古古蘭鹽池ニハ岩鹽ヲ產スヲ以テ名アリ、天然資源ニ豐富ナル事以上ノ如クナルヲ以テ之等ヲ開發スルハ實ニ富國開境ノ所以ナリ願レバ清朝二百餘年間ハ外蒙古ニ對スル行政修マラザリシヲ以テ住民ノ愚鈍今ニ至ルモ舊ノ如ク土地ノ荒廢モ亦舊ノ如シ、露人鑛產ニ注意シテヨリ極力之ガ探査ニ勉メシニ我國ハ土、車

兩盟ノ礦產地ヲモ自ラ放棄スルニ甘ジ且ツ前清時代ニハ露人ト契約ヲ締結シテ開採ヲ許可セシナリ而シテ當時ノ採金高ハ五萬餘兩ニ達シ國家ハ毎年報效金トシテ採金高ノ一五%ヲ得ルコトトシ金鑛督辦ハ之ヲ清朝政府ヨリ選拔派遣セシガ露人ハ尙多少ノ利益ヲ得タリ外蒙古ノ獨立後金鑛ノ經營ハ前清時代ノ契約ニ準據スルヲ名トセシモ實權ハ全ク露人ニ歸シ我國ハ何等ノ利益ヲモ得ザリシハ誠ニ惜キコトナリ、今ヤ露人ハ逐年ノ内亂ノ爲南顧スルノ暇ナク蒙古ノ親露派ハ完全ニ勢力ヲ失ヒタレバ我國ガ既ニ失ヒタル種々ナル權利ヲ回收スルノ好機會タリ願ハクバ我國民ハ内争ニ捕ハルル事ナク能ク邊境ニ意ヲ注グ時ハ蒙古ノ地ハ應テ我ガ手ニ歸スベシ

### 撫順及煙臺炭礦採炭概況

大正十三年七月分

#### (一) 出炭

本月中ニ於ケル各坑出炭高左ノ如シ

古城子露天掘一二〇、〇〇〇噸、千金寨坑二七、〇〇〇噸、大山坑五三、〇〇〇噸、東鄉坑二八、九〇〇噸、楊柏堡坑四二、八〇〇噸、老虎臺坑三八、八〇〇噸、萬達屋坑三三、八〇〇噸、新屯坑三四、〇〇〇噸、龍鳳坑二四、五〇〇噸、合計四〇二、八〇〇噸ニシテ之ヲ作業日數二十七日間ニ割當テタル一日平均出炭高ハ一四、九一八噸、五一九ニシテ前月ニ比シ合計ニ於テ九、六〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ三五五噸五五五

ヲ減少セリ而シテ之ヲ前年度同期三七八、五〇〇噸ニ比較セバ合計ニ於テ二四、三〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ三六〇噸八二七ヲ増加セリ

#### (二) 採炭華工ノ現況

本月モ移動少ク來坑三、〇四八名退散二、九〇〇名ニシテ募集來坑一四四名アリ月末人員九、九九二名ニシテ前月末ニ比シ一四八名ノ増加ヲ見タリ前月來ノ移動減少ハ在坑華工ニ能率昂上ヲ來シ一人當函數三兩七六トナリ工賃七五錢三厘ヲ示セリ

華工係ニ於テハ七月二十一日ヨリ採炭華工ニ對シ指紋法ヲ施行シ漸次彼等ノ移動心理ノ研究ト之ガ移動ノ原因ヲ知り又一一般華工ノ取締ニ資セントシツツアリ

#### (三) 各坑別出炭高前月比較表

坑別	七月分		六月分		比較増減
	噸	分	噸	分	
古城子	一二〇,〇〇〇	八四六	一一〇,〇〇〇	〇六〇	△△△
千金寨	二七,〇〇〇	四七〇	二八,〇〇〇	四六〇	△△△
大山	五三,〇〇〇	一〇四	四八,〇〇〇	二九〇	△△△
東鄉	二八,九〇〇	一四七	三一,〇〇〇	〇〇〇	△△△
楊柏堡	四二,八〇〇	一〇〇	四七,八〇〇	七〇〇	△△△
老虎臺	三八,八〇〇	二〇八	四一,五〇〇	三〇〇	△△△

支那鑛業時報 第六十四號	萬達屋		新屯		龍鳳		計	
	出炭	正味	出炭	正味	出炭	正味	出炭	正味
三三、八〇〇	三三、七〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇
一、七〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇
二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇
一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇
一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三	三、八三、七五三
一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三	一、四、二二三
九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇
二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇
三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七	三、九二、九五七
一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三	一、四、五五三
八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇	八、六〇〇
△	△	△	△	△	△	△	△	△
九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四	九、二〇四
三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八	三、四〇八
八、八八九	八、八八九	八、八八九	八、八八九	八、八八九	八、八八九	八、八八九	八、八八九	八、八八九

(備考)

露天掘

東郷

老虎臺及萬達屋

作業日數 三十日間

二十五日間

二十六日間

ナルモ各坑總括ノ關係上一般作業日數二十七日間ヲ以テ平均出炭高ヲ算出セリ  
老、萬、新、龍各坑ノ添書ノ數字ハ過剩炭ト洗減トノ差引過剩炭ヲ示セルモノナリ  
大正十三年八月分

(一) 出炭

本月中ニ於ケル各坑出炭高左ノ如シ

古城子露天掘一二二、七〇〇噸、千金寨坑二九、〇〇〇噸、大山坑五六、〇〇〇噸、東郷坑二九、〇〇〇噸、楊柏堡坑四一、六〇〇噸、老虎臺坑四〇、三〇〇噸、萬達屋坑三三、〇〇〇噸、新屯坑三五、七〇〇噸、龍鳳坑二六、〇〇〇噸、合計四一三、三〇〇噸ニシテ之ヲ作業日數二十八日間ニ割當テタル一日平均出炭高ハ一四、七六〇噸七一四ニ當リ前月ニ比シ合計ニ於テ一〇、五〇〇噸ヲ増加シ一日平均ニ於テ一五七噸八〇五ヲ減少セリ而シテ之ヲ前年度同期出炭高三八五、九〇〇噸ニ比較セバ合計ニ於テ二七、四〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ九七八噸五七一ヲ増加セリ

(二) 採炭華工ノ現況

本月ハ來坑三、七八九名退散三、五九四名月末現在人員ハ一〇、四九五名ニシテ先月末ニ比シ一九五名ノ増加ヲ見タリ之ハ募集華工ノ來坑ニモ依ルガ不熟練華工ノ漸次採炭華工ニ入込ミタル結果ナリ前月、前々月ニ比シ多少能率ノ低下セルハ華工轉換期ニ入りタル結果ニテ落着クト同時ニ回復スルヲ得ベシ奉直戰爭ノ風雲險惡トナリシガ大ナル影響ヲ認メズ

(三) 各坑別出炭高前月比較表

坑別	八月		七月		比較	増減
	月	分	月	分		
古城子	一二、七〇〇	一〇、〇三六	一〇、〇〇〇	四、六八〇	△	二、七〇〇
千金寨	二九、〇〇〇	四七、八〇〇	二七、〇〇〇	四七、七〇〇	△	二、〇〇〇
大山	五六、〇〇〇	八四、二〇〇	五三、〇〇〇	四七、七〇〇	△	三、〇〇〇



坑別	九 月 分		八 月 分		比較 増△ 減
	噸	平均	噸	平均	
古城子	11,900	390	12,000	375	△100
千金寨	11,780	378	11,000	344	△736
大山	3,100	97	2,900	91	△200
東鄉	6,000	188	5,600	176	△400
楊柏堡	4,000	125	4,000	125	△0
老虎臺	4,350	135	4,100	128	△250
萬達屋	3,500	109	3,300	103	△200
新屯	3,600	112	3,700	116	△100
龍鳳	2,600	80	2,600	80	△0
計	43,300	1,320	41,300	1,287	△2,000
正味出炭高	41,000	1,260	39,300	1,235	△1,700
正味一日平均	15,197	472	14,062	438	△1,135
出炭高	41,000	1,260	39,300	1,235	△1,700
煙臺支坑總出炭高	87,800	2,680	77,800	2,379	△9,000

(備考)

露天掘 作業日數 三十日間  
 新屯 同 二十九日間  
 龍鳳 同 二十八日間

ナルモ各坑總括ノ關係上一般作業日數二十七日間ヲ以テ平均出炭高ヲ算出セリ  
 老、萬、新、龍ノ各坑ノ添書數字ハ同前  
 大正十三年十月分

(一) 出炭

本月中ニ於ケル各坑出炭高左ノ如シ  
 古城子露天掘一四五、六〇〇噸、千金寨坑三二、〇〇〇噸、大山坑六〇、〇〇〇噸、東鄉坑三三、二〇〇噸、楊柏堡坑四四、七〇〇噸、老虎臺坑四四、五〇〇噸、萬達屋坑三四、三〇〇噸、新屯坑三六、八〇〇噸、龍鳳坑二五、五〇〇噸、合計四五五、六〇〇噸ニシテ之ヲ作業日數二十六日間ニ割當タル一日平均出炭高ハ一七、五二三噸〇七七ニ當リ前月ニ比シ合計ニ於テ二三、〇〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ一、五〇〇噸八五五ヲ増加セリ而シテ之ヲ前年度同期出炭高四一九、七〇〇噸ニ比較セバ合計ニ於テ三五、九〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ一、九七八噸六三三ヲ増加セリ

(二) 採炭華工ノ現況

本月ニ入り愈々募集ヲ開始セルト洋錢ノ底知ラズノ變動ノタメ前月ニ比シ採炭華工モ多少減少ヲ見タリ即チ來坑二、八四〇名ニ對シ退散華工三、〇四九名月末現在人員一〇、八三二名ニテ差引二〇九名減少

セリ不良華工ノ募兵ニ應募シタルト先月來ノ應募華工ノ熟練ニヨリ能率ハ多少増加セリ  
募兵ノ漸次露骨トナリタルタメ一般ニ多少不安ノ状態ニアリ  
(三) 各坑別出炭高前月比較表

坑別	十月		九月		比較増減
	月	分	月	分	
古城子	一四五、六〇〇	一四一、一五〇	一二九、〇〇〇	一〇七、八〇〇	△ 六、六〇〇
千金寨	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇	三一、〇〇〇	△ 〇
大山	六〇、〇〇〇	三六、九〇〇	六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	△ 一、九〇〇
東鄉	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	△ 〇
楊柏	四四、七〇〇	四四、七〇〇	四二、七〇〇	四一、八〇〇	△ 一、〇〇〇
老虎	四四、五〇〇	四四、五〇〇	四三、五〇〇	四一、〇〇〇	△ 二、五〇〇
萬達	三六、三〇〇	三六、三〇〇	三六、一〇〇	三六、〇〇〇	△ 一、〇〇〇
新屯	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	△ 〇
龍鳳	四五、六〇〇	二〇、八〇〇	四三、二〇〇	二二、六〇〇	△ 一、四〇〇
計	一七、五二三	一七、五二三	一六、〇二二	一六、〇二二	△ 一、五〇〇
正味出炭高	四三四、八〇〇	四三四、八〇〇	四一〇、三三四	四一〇、三三四	△ 二四、四六六

正味一日平均出炭	一六、七二三	一五、一九七	一、五二五
煙臺支坑總出炭高	(二十九日間) 八、四〇〇	(二十九日間) 八、七〇〇	△ 三〇〇

(備考)

露天掘 作業日數 二十九日間  
萬達屋 同 二十七日間  
新屯 同 二十八日間

ナルモ各坑總括ノ關係上一般作業日數二十六日間ヲ以テ平均出炭高ヲ算出セリ  
老、萬、新、龍各坑ノ添書數字ハ同前

大正十三年十一月分

(一) 出炭

本月中ニ於ケル各坑出炭高左ノ如シ

古城子露天掘一五七、〇〇〇噸、千金寨坑三三二、〇〇〇噸、大山坑六四、〇〇〇噸、東鄉坑三八、七〇〇噸、楊柏堡坑四七、二〇〇噸、考虎臺坑四四、五〇〇噸、萬達屋坑三五、四〇〇噸、新屯坑三七、三〇〇噸、龍鳳坑二五、〇〇〇噸、合計四八一、一〇〇噸ニシテ之ヲ作業日數二十七日間ニ割當タル一日平均出炭高ハ一七、八一八噸五一九ニ當リ前月ニ比シ合計ニ於テ二五、五〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ二九五噸ヲ増加セリ而シテ之ヲ前年同期出炭高四三二、八〇〇噸ニ對比セバ合計ニ於テ四九、三〇〇噸ヲ一日平均ニ於テ

二、九二八噸八六四ニ増加セリ

(二) 採炭華工ノ現況

本月ニ入り一四九名ノ募集來坑ト奉直戰ノ終局ニ依リ來坑スルモノ増加シ二、八九二名ノ坑所採用アリ日増秋冷ヲ加エテ退散者ヲ減ジ月末人員一〇、八三六名トナリ前月末ニ比シ三〇七ノ増員ヲ見タリ能率ニ於テハ前月末ト異ル處ナク一人當兩數三・七八ナルモ平均工賃ハ多少低下シテ七十錢四厘トナレリ

(三) 各坑別出炭前月比較表

坑別	十一月分		十月分		比較増減
	噸	分	噸	分	
古城子	一五七、〇〇〇	三二、〇〇〇	一四五、六〇〇	三一、八〇〇	△一、二〇〇
金山寨	三三〇、〇〇〇	七四、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	△一、〇〇〇
大山鄉	六四、〇〇〇	一五、八〇〇	六〇、〇〇〇	三、〇〇〇	△四、〇〇〇
東柏堡	三八、七〇〇	八、二〇〇	三三、〇〇〇	五、〇〇〇	△一、四〇〇
楊虎臺	四七、二〇〇	二、五〇〇	四四、七〇〇	二、五〇〇	△二、〇〇〇
老達屯	四二、五〇〇	五、〇〇〇	四四、五〇〇	二、〇〇〇	△一、五〇〇
萬達屯	三五、四〇〇	三、〇〇〇	三四、三〇〇	一、一〇〇	△一、一〇〇
新屯	三七、二〇〇	六、九〇〇	三六、八〇〇	九、六〇〇	△一、五〇〇

龍鳳	計		出炭		正味出炭	正味一日平均	煙臺支坑總出炭高
	噸	分	噸	分			
龍	二五、二〇〇	一、二六四	二五、五〇〇	一、〇七一	二五、〇〇〇	一、九三〇	△一、五〇〇
鳳	四八、一〇〇	九、八七〇	四五、六〇〇	八、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、八七〇	△一、九三〇
作業一日平均	一七、八一八	五、一九	一七、五二三	〇、七七	二五、〇〇〇	二、九五四	△四、四四二
出炭高	四六〇、一三		四三四、八〇〇		二五、三三三		△二、三三三
正味出炭高	一七、〇四二	二二二	一六、七二三	〇七七	三一、八一四	四五	△六〇〇
正味一日平均	二九、九〇〇		二八、四〇〇				△一、五〇〇
煙臺支坑總出炭高	七、八〇〇		八、四〇〇				△六〇〇

(備考)

露天掘作業日數三十一日老虎臺、萬達屋、新屯、龍鳳二十八日ナルモ各坑總括ノ關係上一般作業日數二十七日間ヲ以テ平均出炭高ヲ算出セリ  
老、萬、新、龍、各坑ノ添書數字ハ同前



### 時事彙報

## ●滿洲方面

### ▲奉天省

#### ◎五湖嘴粘土ノ運搬輕鐵敷設計畫

復縣管内五湖嘴ノ粘土ハ目下共同組ニ於テ採掘ニ從事シ居ルガ運搬甚ダ不便ニシテ支那馬車ニテ輸送シ居ル状態ナレバ降雨期又ハ解氷期ニ於ケル際ハ泥濘徑ヲ沒スルノ状態ニテ其不便尠カラザルニ依リ同組ニ於テハ現場ヨリ汽船積込ノ場所迄輕鐵敷設ヲ計畫シ既ニ大連ヨリ右敷設線ノ測量ヲ了シ經費ノ關係上未ダ具體的ニ進捗セザルモ今春解氷期ニ至ラバ實行スルニ至ルベシトノコトニテ右ハ馬鐵式ニスル計畫ナル由ナルガ夫レガ敷地ノ買収及從來同地方ニ於テ粘土運搬ニ從事セル荷馬車ガ

其活路ヲ失フ等ノ爲或ハ種々ノ問題ヲ惹起スルニハアラザルヤト豫想サル

#### ◎炸子窰炭坑近況

本炭坑ノ鑛區ハ新舊二鑛區ニ分カレ舊鑛區ハ露支人、志岐組及森田氏等ニ依リテ採掘サレ廢坑ニ歸セリ新鑛區ハ目下稼行中ノモノニシテ實測ノ結果ニ依レバ面積二八、五六五・二三九坪ニシテ表面ハ炭坑使用地ト耕地ニ別レ耕地ハ之ヲ日支人ニ貸付ケアリ今本炭坑ニ就テ最近ノ一般作業狀況ヲ概述セントス

#### 稼行一般

該炭坑ノ稼行坑道ノ現況、排水、通氣、運炭設備、採炭法及勞働者等ニ就テ概略ヲ記セン

#### (1) 採炭坑道狀況

現在炭坑ニハ第一、第二、第三斜坑及新、舊二鑛坑アリテ稼行シ其ノ内第一斜坑ハ炭坑稼行上ノ主要出炭坑道ニシテ第二、第三斜坑ハ其ノ補助斜坑

ニシテ支那時代ノ既掘區域ノ殘炭部ヲ探鑛的ニ採炭シ居ルニ過ギズ新鑛坑ハ最近完成シタルモノニシテ將來第一斜坑區域ノ出炭運搬及排氣ニ當テラルベキ主要豎坑ニシテ舊鑛坑ハ目下排氣及排水、送汽鐵管坑トシテ使用スルニ過ギズ

#### (1) 第一斜坑

第一斜坑ニハ中央卸、鐵管卸ト之ヲ連結スル人道卸ノ三卸ヲ有ス斜坑々口ハ鑛區ノ東北部ニアリ中央卸ハ西北十四度南ニ向ヒ下リ二十尺餘ニシテ南折シ炭層ノ傾斜方面ニ沿ヒ支那時代ノ舊坑内ヲ東西ニ曲折シ探鑛的ニ掘進シ卸延長四百五十尺餘ノ地點即チ右上二片附近ヨリ舊探掘跡ヲ脱シ支那時代ニテ全然亂掘セザリシ新敷ノ炭層内ニ入りヨレヨリ左右ニ三十尺餘毎ニ高六尺幅七尺ノ片盤ヲ作リツツ目下下三片以下二十尺餘ノ位置(地下三百尺餘)ニ達シ總延長六百五十尺餘ナリ、下一、二、三ノ新片盤ハ何レモ短カク○片盤ハ新鑛坑下ニ連

結ス○片盤ハ將來水平運搬坑道トナス計畫ニテ右片盤ハ數尺、左片盤ハ百二十尺内外ノ延長ヲ有シ居ルモ鐵管卸トノ交叉點ヨリ西方ハ坑内水ノタメ不通ナリ右上二片、右三片ハ鐵管卸ニ貫通シ夫々百尺、四十尺ノ延長ヲ有スルモ何レモ掘進中止ス右上二片ハ六十尺餘ニテ掘進中止シ居レリ此外中央卸ノ上部ニテ東方ニ延ブ探鑛的不規則ナル坑道一アリ延長百十尺餘ニシテ主トシテ既掘區域ノ殘存部ノ燧石、無煙炭ヲ採炭ス中央卸ノ左側ニ當リ舊北豎坑ニ連絡スル一鐵管ノ卸坑道アリ排水、送汽、排氣ノタメニ使用シ居ル唯一ノ缺クベカラザル坑道ナルモ新鑛坑ニ排水、送汽、鐵管ヲ移轉スルニ至レバ不必要ナル中央卸坑口ヨリ二十尺餘ノ地點ヨリ西ニ分岐シ鐵管卸ニ連結スル卸坑道ヲ人道卸ト稱ス

#### (2) 第二斜坑

第二斜坑々口ハ第一斜坑々口ノ西方二百八十尺ノ

地點ニ住シ東南ニ向ヒ支那時代ノ舊探掘跡ノ殘炭部ヲ探炭シ居ルモ調査當時ハ降雨ノタメ坑口陥没シ坑内ノ狀況ヲ見ルコト能ハザリキ

(3) 第三斜坑

第三斜坑々口ハ第一斜坑々口ノ西南方三百三十尺餘ノ地點ニ位ス坑道ハ坑口ヨリ北々東二十尺餘ニシテ東南ニ灣折シ深側ニ向ヒ漸次掘進シタルモノナルモ方向傾斜不規則ニシテ數回支那時代ノ舊坑ヲ横斷シ曲折甚シキ一本坑道ナリ坑道ハ高サ四尺乃至五尺幅三尺乃至五尺延長四百五十尺ニシテ卸底ハ新豎坑ノ坑底ヨリ二十尺餘ノ位置ニ貫通シ貫通口ノ十尺餘下ニ第一斜坑中央卸ノ右上二片盤アリ此ノ高低關係ヨリ推考スルニ第三斜坑ニテハ第一斜坑ノ上部既探掘炭層内ヲ探炭シ居タルコト明カニテ坑内實測圖ヲ一見セバ一層明白トナラン同斜坑ニテハ正規ノ片盤ヲ有セザルモ斜坑ノ左右側壁ヨリ殘炭部内ニ水平ニ掘進シタル坑道左右合計

八個アルモ何レモ短ク新切場ヲ設ケテ稼行シ居ルハ三、四片盤ニ過ギズ

(4) 新豎坑

新豎坑口ハ第一斜坑ノ南々西々方三百三十尺餘、第三斜坑ノ東々南方百八十尺餘ノ地點ニ位シ深サ二百三十尺餘アリ形狀ハ圓形、直徑十尺餘ニシテ内側ニハ徑八尺ノ六角形ノ木枠ヲ入レ木枠ノ周圍ハ末口三四寸長サ六尺ノ成木ヲ以テ壁卷ヲ施ス豎坑ノ位置ガ舊探掘跡ノ陥没區域内ニアルヲ以テ壁坑ノ周壁ハ黃土、裂罅多キ石灰岩、探掘跡ノ粉狀雜炭等ヲ以テ構成セラレ居ルヲ以テ豎坑ノ保護力弱ク尙斯クノ如キ地層内ニアルヲ以テ降雨期ニハ雨水ノ地隙内ニ傳ハリ側壁ヲ通シ坑内ニ漏出スルコトアルベキヲ以テ將來豎坑ノ保存ニ一大困難ヲ招致スルコトト思ハル

ノ内ニ鐵製ノ高サ六尺五寸幅五尺五寸平方ノ「ケ」ヲ蒸汽捲揚機械ニテ上下シ坑内ノ石炭ヲ全部之ニテ坑外ニ搬出シ一方豎坑ノ側壁ニハ排水鐵管及送汽鐵管ヲ取付ケテ排氣坑トナス計畫ニテ目下着々進行中ナリ

(5) 北舊豎坑

北舊豎坑ハ北汽罐場ニ極ク接近シタル位置ニアリ目下排水及排氣坑トシテ又送汽鐵管ノ送入坑トシテ重大ナル目的ニ使用サレ居ルモ新豎坑ニ排水送汽鐵管ノ設備完成シタル曉ニハ當然不必要タルベキ運命ニアルモ此ノ坑ノ補修經費少額ナレバ入氣坑トシテ保存スルモ得策ナルベシ

(ロ) 探炭法

從來探炭法ハ支那土法式ニテ掘進坑道ニヨリ探炭スルノミニシテ何等正規ノ法式ナク亂掘ノ狀態ナリキ  
探炭制度ハ請負法ニテ探炭夫ハ六名乃至七名ニテ

先山二名後山四名乃至五名ヲ以テ一班トシ一班ニテ一採炭切場ヲ占有シ晝夜二交代トス切賃ハ石炭ノ硬柔及運搬距離ノ遠近ニヨリテ差異アレドモ普通坑口ニテ千斤ニ付八十錢内外ナリ

坑内外排水設備

坑内排水設備トシテ一分間揚水量五立方尺餘ノ「ウオシントン」、ポンプ「三臺ヲ鐵管卸坑道内ニ任意ノ三箇所ニ据付ケ一臺ヲ晝夜運轉シ二臺ヲ應急ノ場合ノ豫備トシ又手押「ポンプ」一臺新豎坑々底ニ設置ス

南北兩汽罐場ヨリノ送汽ハ主要蒸氣管(直徑四吋餘?)ニ聯結シ北舊豎坑ヨリ送汽管ヲ送入シ鐵管卸坑道ニ布設シ百六十尺餘ノ地點ニテ豫備唧筒タル上部唧筒座ニ達シコレヨリ六十五尺下リ中部唧筒座ニ達ス

同唧筒座ニ一臺ノ唧筒アリ唧筒座ノ深卸舊坑ヲ水溜トシ中央部二片ヨリノ湧水ハ排水溝ニテ之レニ

流入セシメ右二片以下ノ湧水ハ新墜坑々底ニ連絡  
スル坑道ニ板堰ヲ築キ○片以下ノ坑内水ヲ人力ニ  
テ堰内ニ汲ミ揚ゲコレヲ手押「ポンプ」ニテ右二片  
坑道ニ押シ上ゲ唧筒座水溜ニ流入セシム水溜ニ集  
メタル水ハ唧筒ノ晝夜間斷ナキ運轉ヲ以テ三時餘  
ノ排水鐵管ニヨリテ一氣ニ北舊墜坑口ニ排出ス中  
部唧筒座ノ下五十五尺餘ノ所ニ一臺ノ唧筒ヲ据付  
ケ○片以下ノ湧出甚シキニ備フルタメノ豫備トナ  
ス

坑内湧出水ノ状態ヲ見ルニ地表ニ陥没漏斗狀ノ穴  
及龜裂多キタメ雨季ニハ直接漏入水ノタメ坑内水  
増加シ排水ニ一大困難ヲ感ジ採炭ニ及ボス影響大  
ナリカカル状態ニ在ルヲ以テ雨季周圍ノ山腹ヨリ  
雨水ノ鑛區内ニ流下スルヲ防ギ坑内ノ湧水ヲ減少  
スルノ目的ヲ以テ鑛區ノ北、東邊ニ二筋ノ防水溝  
ヲ築キ之ヲ以テ雨水ヲ鑛區外ニ導キ居レリ冬季ハ  
坑内水減少ス

坑内運炭  
坑内運炭法ハ極テ幼稚ナル方法ニシテ容量七十斤  
位ノ徑一尺長サ四尺餘ノ圓筒狀ノ麻袋ヲ肩擔ヒニ  
テ切場ヨリ坑口ニ搬出ス此方法ニテ採炭夫一日一  
人運搬能力ハ運搬坑道ノ遠近ニヨリ差異アルモ普  
通千斤ヨリ千四百斤ナリ

通氣  
通氣ハ自然通氣法ニシテ目下第一斜坑、第三斜坑、  
新墜坑ハ入氣坑トナリ鐵管卸坑道ハ蒸汽管ヲ布設  
シアルヲ以テ自然排氣坑トナレリ

労働者及工賃  
労働者ヲ種別スレバ苦力頭、採炭夫、支柱夫、排  
水夫、火夫、鍛冶夫、唧筒方、臨時夫トナス  
採炭夫ハ更ニコレヲ分チ先山、後山トス先山一人  
ニ對シ後山二人或ハ三人トシ先山ハ採炭ニ從事シ  
後山ハ石炭ノ運搬ニ從事ス此等労働者ノ一日所得  
工賃及人員ハ大略次ノ如シ

人員 工賃  
二人 一、六一、五圓(奉票)

採炭夫 晝夜一六〇人 ○、六一、〇、七圓(請負採炭一日所得)  
支柱夫 六人 一、〇圓  
排水夫(坑内水汲) 一八人 ○、六圓  
火夫 四人 ○、九一、〇圓  
鍛冶夫 四人 ○、八一、三〇圓  
唧筒方 四人 ○、八圓  
臨時夫 平均一二人 ○、五一、〇、六圓  
計 二二〇人

坑外設備

(イ) 汽罐場 汽罐場ハ南北舊汽罐場及新汽罐場  
ノ三室ニ設置ス

構造 建坪 汽罐据付可能數  
北汽罐室 土塊草葺 一、六坪 一  
南汽罐室 同 一、五坪 一  
新汽罐室 黒煉瓦建亞鉛葺 三三、五坪 二

(ロ) 汽罐南北兩汽罐ハ「コルニツシュ」ノ古形ニ  
シテ今後大修理ヲセザレバ使用ニ堪ヘズト思  
ハル新設汽罐ハ同形一臺ヲ据付ケ將來坑内外  
ノ動力供給ノ主要汽罐トス

構造 型 安全汽壓  
北汽罐 經五、五尺 長サ二〇尺 コルニツ 八〇封度餘  
シユ型

南汽罐 四 二〇 同 八〇  
新汽罐 五 二〇 一〇〇

(ハ) 煙突 南北兩汽罐室ハ徑二尺七寸ノ土管ヲ  
以テ高サ四〇尺ニ建築サレ新汽罐用トシテハ  
徑二、四尺高サ六四尺餘ノ鐵製煙突ニシテ汽  
罐三室ニ備フル可能アリ

(二) 家屋 坑外家屋トシテハ苦力小屋二棟、現  
場事務所一棟、新墜坑口棹取室一棟アリ

構造 建坪  
苦力小屋 土塊建草葺 二〇、五坪  
北苦力小屋 土塊建草葺 六、三坪  
現場事務所 八、六坪  
棹取室 一二、四坪

(ホ) 煉瓦燒場 鑛區ノ北端ニ三千個ヲ燒成シ得  
ル能力ノ煉瓦燒一窩ヲ設ケ支那煉瓦製造ヲ行  
ヒ一部ハ自家用トシ一部ハ市場ニ販賣ス  
需要

現在炸子密炭ノ需要ハ盛ニシテ出炭ハ常ニ追ハレ  
勝ノ状態ナリ需要地及其ノ炭種次ノ如シ

東京方面 燧石 (石灰製造用)  
 大連方面 燧石 (同)  
 山東沿岸 有煙炭 (燒鍋及家用)  
 瓦房店 有煙炭 (家用、工場用)

(大正十三年七月調)

### ◎大石橋產白粘土狀況

白土ハ又白粘土トモ稱セラレ滑石ノ一種ニシテ大石橋ノ東方ナル李家屯及除家屯附近(官馬山附近)ニ産シ菱苦土燧ト苦灰石トノ互層中ニ挟在スル綠色滑石片岩ノ風化燧爛ニ依リ成生セルモノナリ之ヲ採取スルニハ鶴嘴又ハ「シヨベル」ヲ以テシ粉碎後水難シ煉瓦型ニ乾燥ス、該區域ニ採掘場十數個アルモ主ナルモノハ三箇處ナリ採掘權者ハ李家屯附近ニ於テハ何長清、除家屯附近ニ於テハ王樂三、高振東ナリ製品ハ主ニ營口、海城及大石橋ノ各驛ニ出シ之ヨリ内地、哈爾濱、撫順、長春、遼陽、鐵嶺、奉天、芝罘及秦皇島等ノ各地ニ販賣ス價格ハ煉瓦型白土

一個ニ付小洋四十七錢、百斤ニ付奉票一圓ナリ主トシテ壁塗用又ハ屋根葺等トシ内地ニ於テハ壁塗用ノ外製紙用ニ供スルモノノ如シ年額二百五十萬斤ナリ

### ◎鞍山鐵廠販賣狀況

鞍山製鐵所ノ鉄鐵ハ當初品質不良ニシテ多量ノ貯藏品ヲ山積シ居リシモ漸次技術ノ進歩ト共ニ品質モ改善セラレ需要者側モ次第ニ之ヲ認ムルニ至リ現在ニテハ販路モ擴張シ貯藏品僅少トナルニ至リ而シテ近年同所ノ鉄鐵生産高ハ五萬乃至七萬噸ニシテ其大量仕向先ハ本邦阪神方面及天津方面ナルガ過般ノ奉直戰ノ影響ヲ蒙リ天津方面ヘノ輸送杜絶シ戰亂中ハ輸出量月平均千噸内外ヲ減ズルニ至リタルモ奉直時局終結ト共ニ戰前ノ狀態ニ恢復シタリ尤モ鉄鐵ノ需要ハ滿洲地方ノミニテモ相當多ク長春、奉天ノ如キ天津ニ次グ鞍山鉄鐵ノ市場ト稱セラルルモ滿洲ニハ一方ニ本溪湖煤鐵公司ア

リ同公司ハ鐵代金取立ニ當リ取引先ニ對シ延期等ノ便宜ヲ與フルニ依リテカ金融梗塞ノ今日資金手薄ノ特賣人及一般需要家ハ自然同公司ノ製造品ヲ求メントスル向アリ依テ滿鐵ハ煤鐵公司ト協議シ鞍山製品六割、本溪湖製品四割ノ比率ヲ以テ販賣シツツアリ尙現在一英噸ニ對スル販賣價格ハ左ノ如クニシテ特賣人ハ該當價格ノ販賣ニ付五分ノ割戻ヲ受ケ居レリ因ニ左記價格ノ内大連ニ於ケル販賣價格ニ比シ營口又ハ大連ヲ經テ天津方面ニ仕向ケラルルモノ安價トナレル理由ハ外國銑ト競争ノ關係アルニ依ルモノナリト云フ

引渡場所	特一號	一號	二號	三號	荒一號	荒二號
鞍山	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇
立山	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇
大連	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇
蓋平	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇
大石橋	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇
海城	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇
遼陽	六〇〇	五七〇	五四〇	五二〇	四九〇	四七〇

支那鐵業時報 第六十四號

奉天	五五〇	五三〇	五一〇	四九〇
鐵嶺	六〇〇	五八〇	五六〇	五四〇
開原	六〇〇	五八〇	五六〇	五四〇
金溝	六〇〇	五八〇	五六〇	五四〇
昌圖	六〇〇	五八〇	五六〇	五四〇
營口(天津向)	五五〇	五三〇	五一〇	四九〇
大連(同)	五五〇	五三〇	五一〇	四九〇

(一三、一二、一八、附、遼陽領事館報告)

### ◎田師付溝炭坑近況

出炭現況  
 本炭田ニ於ケル現今ノ出炭高ハ一日約五萬二千斤(約三十噸)ニシテ其内譯ハ左ノ如シ

富華公司第一鑛區	出炭高(斤)
水溝子義長洞	自一月至六月 百萬斤
頭道溝萬順洞	五萬斤
四道溝永發洞	五萬斤
四道溝志誠洞	五萬斤
四道溝中興洞	五萬斤
頭道溝(某洞)	二千斤
四海溝義和洞	四萬斤
四海溝義盛洞	四萬斤

大東溝包子園 不詳  
 大東溝福興銅 不詳  
 其他 不詳  
 合計 一萬一千斤

富華公司第二鑛區  
 坑名 出炭(日平均)  
 大堡 寶盛銅 一萬三千斤  
 同 寶成銅 六千斤  
 櫃石溝西山 六千斤  
 櫃石溝東山 四千斤  
 夾皮溝 二萬三千斤  
 合計 四萬八千斤

王殿申鑛區  
 坑名 出炭(日平均)  
 雷連子一號銅 六千斤  
 同 二號銅 四千斤  
 同 三號銅 四千斤  
 雷連子ヨリ三箇箇ニ至ル間ニ 二千斤  
 新坑二箇アリ 一萬八千斤  
 合計 一萬八千斤

二十日間作業スルモノトシテ(一箇月中一日、十五日ハ定休日、其他坑夫ハ採炭ノミナラズ支柱、坑道補修其他時トシテハ運搬排水ヲ兼スルコトアルガ故ニ實際採掘日數ハ二十日間ト見ルヲ可トスベシ)一箇月ノ出炭高ハ塊炭四百二十噸、粉炭百八十噸ナリ而シテ毎年四月ヨリ八月迄ノ五箇月間ハ大部分休業スルニヨリ七箇月間採炭スルモノトシテ塊炭二千九百四十噸、粉炭千二百六十噸即チ塊炭約三千噸、粉炭千二百噸ヲ以テ今年度ノ出炭高ト見做スベシ

石炭ノ運搬、諸係費及炭價  
 田師付溝炭ノ本溪湖へ輸送セラルルモノハ總テ塊炭ニシテ本年四月ヨリ十月初旬迄ニ於テ約八十萬斤ニ達シ内五十萬斤ハ大有公司、天祐公司、三十萬斤ハ豐太洋行小池氏之ヲ取扱ヘリ

輸送ハ主トシテ太子河ノ水流ニヨリ陸路輸送ハ極メテ少量ナリ、水路運搬ハ四艘ノ獨木舟ヲ連續シ

テ一艘トナシタルモノ即チ舟筏子ニヨリ一艘ニ五千斤乃至六千斤ヲ積載運搬スルモ本年ハ旱魃ニシテ河水少量ノタメ三千斤内外ナリシト云フ

其ノ運賃ハ大堡ヨリ城廠迄ハ大車ニシテ夏季ハ千斤ニツキ三元冬季ハ二元トス

大堡ヨリ拉咀子迄百斤ニツキ冬ハ一角夏ハ二角ニシテ駄馬ニテ一回ニ二百斤乃至二百五十斤ヲ一日二回運搬ス

拉咀子ニ運搬セラレタル石炭ハ其西岸ヨリ舟筏子ニヨリ本溪湖ノ川縁迄百斤六角五分外ニ一艘ニツキ六角ハ運賃以外ノ手當トシテ支給ス税金諸係ハ總テ荷主持ニシテ牛心臺ニテ舟筏子一艘ニツキ一元五角ノ輸出税、本溪湖川岸ニ於テ哨場税トシテ一艘ニツキ一元五角又拉咀子ニテ埠頭使用料トシテ一艘ニツキ二角ヲ要シ川岸ヨリ驛ノ「ホーム」迄一艘分ノ運賃一元二角又川岸ヨリ市内迄ノ運賃ハ三元ナルヲ以テ大堡ヨリ本溪湖ノ市場迄百斤ニツ

キ約一元二、三角ヲ要ス又冬季馬背ニヨリテ運搬スルトキハ種々煩雜ナル手數ヲ要セザルモ百斤ニツキ一元二角以上ノ運賃ナリ

田師付溝炭ノ需要地ハ本溪湖、營口、奉天等其主ナルモノニシテ殊ニ外國人ハ此石炭ヲ歡迎セリト大正十一、十二年本溪湖ニ於ケル炭價ハ千斤十五元乃至十六元ナリシガ本年ハ驛「ホーム」渡シ十六元ニシテ市内ニ於テハ十八元ヲ唱ヘ又奉天ニアリテハ昨年千斤二十三元ニテ販賣セラレタルモ本年ハ尙高價ナルベシト其原因ハ河水少量ノタメ大量ノ運搬出來ザルト奉直戰ノタメ運搬車馬ノ不足ヲ告ケタルニ起因セルモノノ如シ

其他田師付溝炭ハ大堡ヨリ城廠間ニ於ケル各部落ニ使用セラルルモノ頗ル多量ニシテ此ノ石炭ハ附近ノ窯業ニ塊炭ヲ使用スル外總テ粉炭ニシテ之ヲ土ト混和シ採暖用及炊爨用ニ供セラルルモノニシテ當地附近ノ事情ニ精通セル小池松造氏ノ談ニヨレ

バ一年五六萬噸ヲ下ラザルベシト  
本溪湖貨物取扱所ニ於テ大有公司及天祐公司ヨリ  
發送ヲ依テセラレタル炭量ハ大正十一年度四百六  
十二噸、大正十二年度三百九十六噸、大正十三年  
十月迄百九十八噸ナリト

◎三家子炭坑採炭現況

三家子村落附近ニ舊坑數箇所アリ何レモ埋没シ僅  
カニ廢石ノ堆積ニヨリテ漸ク其ノ位置ヲ案ズルヲ  
得ルノミ目下一斜坑ヲ掘進中ニシテ該斜坑ハ大正  
十二年十二月十一日ノ開坑ニ係リ南方ニ三十度ノ  
傾斜ヲ以テ掘鑿シ深サ百二十餘尺アリ  
坑道ハ六八八加脊ニシテ水準ニ對シテ三十度ノ傾  
斜ヲ以テ下降シ四尺毎ニ鳥居形枰ヲ施ス、坑口ヨ  
リ三十尺位ノ間ハ周圍ノ土砂ノ崩壞スルヲ防グ爲  
メ高梁ニテ壁卷セリ而シテ坑道ハ三家子ノ略中央  
ヲ南走セル小川ノ河床ニ位シ且ツ天盤ニ多孔質砂  
岩及砂質頁岩等ノ含水層ヲ頂ケルガ故ニ結氷期ナ

通江口ニ萬斤、其他約十萬斤ヲ各市場ニ販賣セシ  
由ナリ、價格ハ山元渡百斤洋五角、一噸八元ナリ  
目下新坑道掘進中ニシテ石炭ヲ採掘セズ坑口ニ僅  
カ二三噸ノ研混ノ石炭アリ掘進中八寸層及二尺層  
ヨリ得シモノナルベシ

◎西三家子炭坑採炭現況

炭坑附近ヲ北西南東ニ流ルル小川ヲ假ニ三家子川  
ト名付ク其川ニ面シテ西方ニ三十度ノ傾斜ヲ以テ  
斜坑道ヲ穿テ採炭運搬用ニ供ス坑道ハ五尺ニ六尺  
ノ斷面ヲ有シ四尺毎ニ鳥居形枰ヲ施セリ同斜坑々  
口ヨリ西北百五十尺ニシテ排水坑道アリ東南ニ三  
十度傾斜シ五尺ニ十尺ノ坑道ニシテ四尺毎ニ鳥居  
形枰ヲ入レ中枰ニ依リテ水路ト人道トヲ區劃ス  
排水ニハ柳籠ヲ用ヒ人方ニヨリテ段々ニ汲ミ上グ  
坑内ヨリ石炭ヲ運搬スルニハ容量百斤餘入麻袋ヲ  
用ヒ人背ニ依ル八袋即チ半噸ヲ以テ單位トシ又之  
ニ對シ小洋八角半ヲ支拂フ

リシニモ拘ハラズ湧水量相當ニアリテ勞力ノ大部  
分ヲ排水ニ削ガルルノ状態ニアリ現今ニ於テスラ  
尙且ツ然リ一度解氷期或ハ雨期ニ至ランカ現在ノ  
設備ニテハ作業全ク不可能ニ至ルベキハ明カナ  
リ、排水ニハ二吋鐵管ヲ用ヒ坑口迄四段ニ分チ各  
區毎ニ「バルブ、エンド、ピストン」手動法ニテ階  
段式ニ汲上グ  
支柱材料ハ附近ニ産スル楊、柳樹ニシテ末口四寸  
長サ六尺ノモノ多ク用ヒラレ坑外ニ蒐集堆積セリ  
勞働者(鑛夫)ハ四十人乃至五十人ニシテ主トシテ  
排水作業ニ従事ス、坑内照明燈トシテハ「カンテ  
ラ」ヲ用フ

出炭量及價格

民國五年炭田發見以來各處ノ舊坑ニ據リ斷續的ニ  
採掘セシガ出炭量ニ關シ明確ナル記錄ナシ然レド  
モ採掘ノ最モ盛ナリシ民國八年ニハ一日平均五萬  
斤即チ月約一千餘噸ヲ産シ同年中法庫門三萬斤、

出炭高及價格

採炭事業開始以來幾許ノ出炭アリシヤハ明カナラ  
ズ昨年頃ヨリ隨時附近村落ニテ消費シ法庫門ニモ  
輸送販賣セラルルモ其量タルヤ極メテ微々タリ價  
格ハ山元附近ニテ噸小洋八元、百斤ニツキ小洋六  
角半、法庫門ニ於ケル取引價格ハ噸小洋七元、百  
斤ニツキ六角ナリ現今山元ニ貯炭約百五六十噸ア  
リタリ

◎杉松崗炭田現況

本炭田ハ光緒十五年ノ發見ニ係リ同十九年採掘ニ  
著手シ同二十四年マデニ稼行セラレタル鑛區八十  
五區ニ達ス即チ次ノ如シ

鑛區名		鑛業權者	
進寶	密	佟介	頁
萬里	密	孫長	春
永義	密	劉子	臣
仁和	密	任建	廷
同德	密	史子	仁
遠來	密	梁果	廷

東盛	不	史	楊
北太陽	不	呂	山
裕盛	郭	成	玉
順發	劉	奎	一
大興	楊	海	山
東成	秦	榮	廷
義和	劉	成	祿
福順	不	詳	
遠來東	不	詳	

右十五鑛區ノ内ニ北太陽溝鑛及遠來東鑛ハ光緒二十七年ニ至リ坑内水ノ湧出其他ノ事故ニヨリ作業ヲ中止シ他ノ十三鑛區ハ鑛業權者相謀リ光緒二十八年復森煤鑛公司ナルモノヲ設立シ組合組織ニヨリ全鑛區ヲ統一經營スルコトナレリ當時設立サレタル鑛區面積ハ六平方支里即チ吾約五十八萬坪ニ達ス、而シテ右組合人ノ内ヨリ總辦及經理、監理等ノ役員ヲ互選シ公司事務ノ管理ヲ成サシメタリ現在此等役員ノ氏名ヲ擧グレバ左ノ如シ

總辦 劉奎 一(一名) 經理 呂玉山(一名)  
 監理 楊海山、梁果廷、秦榮廷(以上三名)

斯クシテ復森煤鑛公司ハ鑛業權者トシテ全鑛區ヲ代表セルモ稼行上ニハ從來ノ小鑛業權者依然トシテ各自小區域ニ分レ姑息ナル土法ニヨリ採掘セルガ故ニ同公司ノ設立ニヨリ特ニ事業ノ擴張セラレタル事ヲ聞カズ、同公司ガ徵收スル出產稅ハ鑛區稅、鑛產稅等以外ニ復森公司經費ヲ加算セラレタルモノナルヲ以テ從來ヨリモ却而山元炭價ヲ騰貴セシメタル觀アリ

最近五箇年間ニ於ケル採炭ノ狀況ヲ見ルニ採炭箇所ハ大興、進寶、遠來、東成ノ四鑛區ニシテ其等

出炭數量ハ左ノ如シ		
民國八年	七、〇〇〇	内「コークス」製產高四五〇
同 九年	七、五〇〇	同 四五〇
同 十年	七、五〇〇	同 五〇〇
同 十一年	八、三〇〇	同 六五〇
同 十二年	九、八〇〇	同 六五〇

本炭ハ特種用途タル鍛冶用炭及「コークス」等トシテノ販路以外ニハ一般用トシテハ東ニ天合興及蘇

### 吉林省

#### ◎哈爾濱ニ於ケル燃料材及石炭ノ價格

吉林及黑龍江ノ兩省ハ森林最モ豊富ナルヲ以テ東支鐵道沿線及哈爾濱商人ノ燃料ハ從來之等ノ雜木及丸太ニ求メタリ從テ冬期ニ至レバ其需要多クナリ民國初年頃ニ於テハ第一號丸太每百本ニ付十六七元、同二號ハ十元前後、上等雜木ハ一「クボ」(約七尺立方)二十元内外ニ過ギズシテ販路極メテ廣ク石炭及木炭等ハ殆ンド需要セラレザリシガ兩三年來鐵道沿線及松花江流域ノ森林モ漸ク伐採シ盡サレ遠隔ノ地ハ運賃ガ嵩ム上ニ稅金モ亦年々高上シツアルヲ以テ勢ヒ價格ハ騰貴セザルヲ得ズ昨冬ニ於テハ丸太百本ニ付第一號ハ五十二元、二號ハ四十五元、三號ハ三十七元、雜木ハ一「クボ」六十元内外、又石炭ハ撫順炭一布度ニ付四角、大頭炭即チ滿洲里炭(札賚諾爾炭)二角八分、木炭ハ

密溝炭アリ西ニ大疙瘩及陶鹿炭ノ割據セルモノアリ從テ其ノ販路遠隔ニ達シ難ク大凡様子哨、輝南、朝陽鎮、海龍城、北山城子、磨磐山、大肚川、黑石鎮、柳河地方ニ限定セララル

需要方面トシテハ燒鍋ヲ主トシ油房、鍛冶及一般家事用炭之レニ亞グ又近來諸官衙ヲ首メ一般商舖等ニ於テモ多少暖爐ニ用フル傾向アリ、其等ノ方面ニモ亦新販路ヲ認メラル、本炭ハ火力大疙瘩炭ニ比シ強ケレバ鍛冶用トシテ廣ク開原長春方面ニ及ビタル事アリ「コークス」トシテハ吉林市場ニモ年々二三百噸ヲ供給シツツアリ、之レガ輸送ハ夏季増水ヲ利シ艘子便ニヨラザルベカラズ炭價ハ山元ニ於テ百斤ニ付キ奉天票六十仙乃至七十仙「コークス」百斤貳元内外ヲ稱ヘ居レリサレド主要需要家タル燒鍋ノ如キハ資金貸借上鑛業人ト特種契約ヲ結び百斤五十仙以下ニテ取引セラレツツアリト云フ

百斤ニ付一元八角ナリシガ今冬ニ於テハ九太ハ一號六十二元、二號五十三元、三號四十五元、雜木ハ六十五元内外、又撫順炭ハ三角、滿洲里炭ハ二角、木炭ハ一元六角ノ相場ナリ以上ノ如ク丸太ト雜木ノ値段ハ昨冬ニ比シ騰貴セルガ一方石炭及木炭ハ下落セリ其原因ハ金票ノ下落ニ在ルガ又薪材ノ供給少ク石炭ノ供給増加セルニモ在リ故ニ哈爾濱商人及各工場ハ從來丸太及雜木ヲ燃料トシ居タリシガ現今ハ撫順炭及滿洲里炭ニ依リテ次第ニ代用セラレツツアルヲ以テ石炭ノ需要遽ニ増加シ哈爾濱ニ於ケル一日ノ消費量ハ約三萬布度ニ達ス今假ニ一布度大洋二角五分トシテ計算スレバ此ノ代金總額大洋七千餘元トナリ、燃料ノ需要期ヲ半年ト見積レバ約百萬元ナリ上述ノ如ク交通便利ニ位スル森林ハ今ヤ全ク涸渇ノ状態ニアルヲ以テ今後薪材ノ供給ハ必然ニ減少シ價格ハ益々騰貴スベシ從テ商人ハ之ヲ棄テテ益々石炭ヲ需要スルハ

當然ノコトナルベシ、  
▲黑龍江省

◎湯原縣鶴立崗煤礦公司總會

黑龍江省湯原縣官商合辦鶴立崗煤礦公司ハ資本過少ニシテ其採掘セル石炭ヲ他所ニ販賣スルノ餘力ナキ爲曩ニ官營ニスベシトノ噂アリタルモ未ダ其細目協定セラレズ是ヲ以テ同公司經理ハ早ク改組スルカ又ハ株ヲ新募スルカ或ハ拂込ヲ増加スルカニアラザレバ不可ナリトノ故ヲ以テ之ガ善後策協議ノ爲舊曆正月二十日株主總會ヲ開催スルコトトナレリト (哈爾濱日々一四、一、二七)

◎庫瑪金廠ノ採金近況

在黑河庫瑪金礦局事務所ガ採掘スル所ノ嫩江縣礦爾格力溝ノ金礦脈ハ頗ル有價值ノモノニシテ昨夏ヨリ採金ヲ開始シ秋迄ノ稼行幾何モナクシテ金砂十餘布度(一布度ハ四貫二六八分三厘)ヲ產出シテ約

十餘萬元ノ利益ヲ收メ一切ノ支出及廠ノ經費ヲ控除シテ尙數萬元ノ純益ヲ得タリ又新溝ニ著手シタルモノモ成績佳良ニシテ之ヲ組合ニ貸與シ現在採金夫五、六百人作業ニ從事シ一日百餘「ゾロトニツク」(「ゾロトニツク」ハ一匁一四)ノ金砂ヲ採取ス從テ最近黑河ノ労働者ノ該溝ニ行キテ組合ヲ組織スル者少カラズト尙聞クニ該溝ノ上下ニハ尙採掘セラル可キ礦區甚ダ多ク前途頗ル有望ナリト云フ

●北部支那方面

▲直隸省及山東省

◎開灤礦務局第十二回營業報告

開灤礦務公司 (Chinese Engineering and Mining Company, Ltd.) 第十二回年次總會ハ昨年十二月八日倫敦ニ於テ同公司議長 (Mr. W. F. Turner) 司會ノ下ニ開催同議長ハ大要次ノ如ク報告セリ、客位

滿一箇年前ノ年次總會ニ於テ余ハ新年度ハ好況ヲ以テ始マレルニ依リ若シ極東方面ヲ通ジテ秩序恢復スルニ於テ當年度ノ貿易ハ好成績ヲ收ムルニ至ルベシト報告セリ然ルニ右豫想ハ之ヲ訂正スルノ止ムナキ状態ニ在ルモ茲ニ當年度ノ報告ヲ爲スニ當リ客位ハ大體之ヲ満足スベキ成績トシテ承認サルル事ト信ズ即チ前年度ノ所得稅免除額一割六分ニ對シ茲ニ一割ノ所得稅免除ノ殘高配當ヲ加ヘ當期二割ノ配當ヲ提案シ同時ニ多額ノ繰越金ヲ計上セリ右ニ關シテハ後刻説明スル所アルベシ報告書ニ示ス通り開灤礦務局當期ノ利益總額ハ合計一〇、八三〇、〇〇七弗ニシテ之ヲ前期ノ九、二〇五、四九二弗ニ比シテ増加セリ即チ開灤六分、社債利子五六、八八〇磅當期社債償却ノ二四、〇〇〇磅減價償却基金一、六二四、五〇一弗及直隸省政府ニ附與スベキ利益金ノ割合其他ノ項目ヲ控除シタル純益金ハ七、三三〇、三七一弗ニシテ前期ノ六、



一〇九、七六八弗ニ比シテ相當額ノ増加ヲ示セリ  
 ▲利益及配當 以上ノ利益金ハ之ヲ支那ニ於ケル  
 利子ト共ニ損益計算ノ部ニ於テ四九四、六二二磅  
 トシテ計上セリ更ニ歐洲利子、爲替其他ノ項目ヲ  
 加ヘ貸方總額ハ五二一、六三五磅トナル譯ナリ歐  
 洲ニ於ケル營業費其他總ベテノ經費ト更ニ日本震  
 災救助基金六三五磅ヲ含メタルモノハ二一、四一  
 ○磅ヲ控除シ當期ノ純益トシテ五〇〇、二二五磅  
 ヲ餘セリ該數字ハ前年度ノ三九七、四六七磅ト比  
 シテ相當額ノ増加ナリ前期勘定ヨリノ繰越殘高  
 九、九三七磅ト別ニ前期報告ノ通りノ超過利得稅  
 ノ支拂ニ對スル一〇〇、九五八磅ヲ貸方ニ加ヘ總  
 計六一一、二二一磅ヲ算セリ所得稅トシテ一二二、  
 七四六磅會社利得稅トシテ一四、三四五磅ヲ見積  
 リ貸借對照表ニ計上サルベキ額ハ四八三、〇三〇  
 磅トナル譯ナリ所得稅免除額一割ノ假配當額一四  
 ○、〇〇〇磅ハ去ル五月一日支拂ハレタルヲ以テ

差引キ貸借對照表ニ現ハルベキ額ハ三四三、〇三  
 ○磅トナレリ  
 右殘高ノ中ヨリ所得稅免除額一割(當期二割ノ所  
 得稅免除額)金額一四〇、〇〇〇磅ノ配當ヲ爲シ、又  
 定款第八十三條ニ據リ重役ノ報酬一六、六二四磅  
 トナルヲ以テ以上ヲ差引キ次期ニ繰越サルベキ全  
 額ハ一八六、四〇六磅トナレリ右殘高ハ前期繰越  
 金九、九二七磅超過利益金一〇〇、九五八磅及一九  
 二二—二四年ノ利益殘高七五、五一〇磅ヲ含ムモ  
 ノニシテ採金ノ約一割三分ニ當レリ普通ノ狀態ニ  
 於テハ斯ノ如キ多額ヲ繰越ス必要ナク當然更ニ配  
 當ヲ増加スベク提案スル等ナルモ本公司ノ支那ニ  
 於ケル現狀ニ鑑ミ其配當額ヲ制限シ公司ノ餘力ヲ  
 蓄積シ以テ支那ノ秩序ノ恢復ヲ俟ツ必要アルベシ  
 ト思惟ス

右相違ヲ來セル所以ハ内國歲入ノ請求ニ因レリ會  
 社利得稅ニ對スル準備金ヲ三八、五一九磅ト見積  
 リ又六月三十日現在社債利子ハ二八、〇八〇磅ニ  
 シテ其ノ合計一八七、一九二磅トナレリ其他ノ部  
 分ニ於テ現金ハ頗ル増加シ現在六九六、七七九磅  
 ヲ算シ前期ニ比シ三〇〇、〇〇〇磅以上ノ増額ヲ  
 示セリ受取手形ハ前期ノ八、三三九磅ニ對シ當期  
 二〇、二六二磅ヲ算セリ資産ノ部ニ於ケル二、六  
 二一磅ハ例ニ依リ殆ド變ラザルモ但從來借方ノ項  
 目ノ内ニ含マレシ開鑿礦務局ニ關スル現勘定ノ借  
 方殘高一三四、〇七二磅ハ今回之ヲ分離シテ計上  
 セル事ニ就キ客位ノ注意ヲ乞ハザルベカラズ  
 當期ノ營業狀態ニ關シテ述ブルニ石炭ノ賣却高ハ  
 四、二八四、一六〇噸ヲ算シ前期ニ比シ五七一、二  
 三六噸即チ一割五分五釐ノ増加ヲ示セリ而カモ運  
 輸ノ方法ニシテ完全ナルニ於テハ更ニ一層ノ増加  
 ヲ示シタルベシト思惟ス前期報告ニ際シ餘ハ開鑿

礦務局ハ支那ニ於テ百臺ノ石炭運搬荷車ヲ購入シ  
 之ヲ賦金拂買入契約ノ下ニ京奉鐵道ニ賣却セル旨  
 ヲ報告セリ此等ノ運搬荷車ハ一九二二—三年ニ於  
 テ單ニ最後ノ二箇月間使用セルニ過ギザルモ此等  
 ノ援助ト鐵道輸送ニ於ケル或種ノ改良トニ依リ炭  
 坑ニ堆積セル多量ノ石炭ヲ一九二三年ノ九月迄ニ  
 之ヲ消化スル事ヲ得タリ以上ノ如ク多大ノ利益ヲ  
 擧ゲ得タルニ鑑ミ本公司ト京奉鐵道トノ間ニ更ニ  
 二百臺ノ荷車ヲ賦金拂買入契約ノ下ニ之ヲ賣却ス  
 ベキ契約ヲ結ベリ而シテ以上ノ荷車ハ目下歐洲ニ  
 於テ製造サレツツアリテ最初ノ五十臺ハ今月末以  
 前「アントワープ」ヨリ引渡サルベシ  
 石炭採掘量 當期石炭採掘量ハ四、四六四、〇〇  
 ○噸ニシテ之ヲ前期ノ三、八七四、〇〇〇噸ニ比シ  
 相當額ノ増加ナルガ更ニ以前ノ記錄タル一九二〇  
 —二一年ニ比シ十萬噸以上ノ増加ナリ當年度ヲ通  
 シ適當ナル勞働ノ供給ヲ受クルニ於テ或種ノ困難

ヲ感ゼリ即チ此ハ農業季ニ於テ勞動者ハ此方面ニ向ヒシニ原因スルガ而カモ炭坑勞動ヲ獎勵スベク最善ノ努力ヲ爲シ以テ永久的炭坑勞動者ヲ増加スベク計畫セリ本公司ハ着々大計畫ノ下ニ其發展ヲ計リ其結果既ニ去ル六月三十日現在ニ於テ採炭量二七、六五八、〇〇〇噸ヲ算シ之ヲ前期ノ二六、五〇五、〇〇〇噸ニ比シテ既ニ記錄ヲ作レリ總支配人ノ報告ニ依レバ本公司現在ハ曾テ見ザル程其設備乃至發展ニ於テ完全セリト言ヘリ

客位ハ以上ノ事實ニ依リ本公司ハ當期末ニ於テ如何ニ繁榮ノ状態ニ在ルヤヲ窺知シ得ベシ販賣ハ七、八兩月間至極良好ナリシモ九月ニ入り北支方面ニ於ケル軍事行動ニ因リ本公司炭坑ヨリノ石炭輸送ハ杜絶セリ即チ右對敵行動ハ九月下旬ニ始マリ十月ノ大部分繼續セリ幸ニ毛南軍ノ退却中本炭坑附近ニ於テ軍ニ一回ノ衝突アリシノミナリキ主力衝突ハ山海關ニ起リタルガ十月下旬ニ至リ本炭

坑區域ノ關スル限りニ於テハ對敵行動ハ終熄セリトノ通報ヲ受ケ更ニ十一月六日ニ時局全ク解決シ本公司ハ何等ノ損害ヲ蒙ラズトノ電報ニ接セリ本炭坑ノ石炭輸送ニ使用セル鐵道ハ軍事輸送ニ當テラレタル結果本公司ノ營業ニ影響セル事ハ次ノ數字ニ於テ現ハレ居レリ即チ九月ノ第一週ニ於ケル石炭輸送量ハ七萬五千噸第二週五萬噸ト減少セルガ第三週一萬噸ニ激減第四週ハ一萬二千噸ニ稍々増加セリ而シテ十一月二十九日迄ノ三週間ニ於ケル輸送量ハ一萬五千噸、二萬噸及二萬噸ヲ算セリ石炭賣却高ハ九月第一週ノ七萬四千噸ヨリ十一月第一週ノ一萬六千噸ニ減少セルガ同月第三、四週ニハ各二萬六千噸及二萬五千噸ニ持直セリ以上ノ數字ニ見ルモ本公司ノ石炭輸送ハ漸次常態ニ復歸シツツアルヲ知ルベシ

動起ラザルベシト信ズ本炭坑ハ目下全能力ヲ以テ活動シツツアリテ大量ノ需要ニ應ズベク充分ノ「ストック」ヲ有セリ以上議長ノ報告ハ萬場一致ヲ以テ通過シ六月三十日ヲ以テ終ル一期間ノ配當ニ割ヲ可決シテ散會

### ◎泰安縣ノ銀鑛發見說

山東省泰安縣城ノ東南二十支里ナル滾栗山中ヨリ銀鑛發見サレ分析ノ結果鑛質優良ナリト鑑定サレタルヲ以テ同地ノ紳商陳家彦ナル者此程來省シ目下財政困窮ノ際斯ル寶庫ヲ棄置スベカラズ速ニ利源ヲ開發スベシト願ヒ出デシヲ以テ濟南實業廳ハ人ヲ派シテ審査ノ上探鑛ニ著手スル手筈ナリト云フ

## ▲山西省

### ◎北京「シンジケート」十二年度營業成績

北京「シンジケート」(The Pekin Syndicate, Limited) 年次總會ハ舊臘十六日倫敦ニ於テ議長 (Col. Brinsley, J. H. Fitzgerald) 氏司會ノ下ニ開催氏ハ次ノ如ク報告セリ

客位、本公司前年度ノ年次總會ハ一九二四年四月二十四日ニ開催サレタルガ本公司ノ會計年度ハ六月ニ終ル事ハ客位ノ既ニ諒知スル所ナルベシ斯ク昨年度ノ年次總會ノ遲延セルハ事情已ムベカラザル事トスルモ帳簿締切リト年次總會トノ間ニ以上ノ如ク長日月ヲ經過スルハ面白カラザル事ナルヲ以テ本年ハ努メテ此弊ヲ除キ茲ニ年次總會ヲ開催セル次第ナリ

▲支那ノ現在 會計報告ヲ爲スニ先ダチ前例ニ從ヒ余ハ支那ノ一般的情勢ニ就キ少シク陳述スル所アルベシ余ハ最近支那ニ關係アル他ノ公司ノ年次總會ニ述ベタル如ク支那ノ現狀ヨリ見テ直ニ其將來ヲ速斷スルハ誤レリ即チ支那ニ於テ武力ヲ有ス

ル各個人ハ互ニ争闘ヲ繰返シツツアルヲ以テ其形勢ハ時々刻々ニ變化シツツアリ客位若シ支那問題ヲ研究スルニ於テハ同國ノ軍閥ノ二巨頭ガ張作霖及吳佩孚ノ兩氏ナル事ヲ知ルベシ支那最近ノ政治的地位ハ一ニ右兩巨頭ニ依ツテ動ケルハ事實ナリ即チ最初張作霖氏ノ反逆ハ吳佩孚氏ノ擊破スル所トナリ吳氏ハ北京ニ於ケル中央政府ノ政權ヲ掌握セルガ次デ起レル事件ハ之ト反對ニ又同様ナル方法ニ於テ張氏ハ吳氏ヲ擊破シテ北京ノ中央政權ヲ掌握セリ然ルニ現在ノ所例ノ「クリスチャンゼネラル」馮玉祥氏ノ去就尙明カナラザルモノアリ茲ニ紛亂ノ分子ヲ包藏セリ而カモ余ノ稽フル所ニ依レバ馮氏ノ地位ヲ以テ未ダ全局ヲ顛覆スルニ足ルモノトハ思惟セズ若シ余ノ此推測ヲ以テ正當ナルモノトセバ一時總テノ問題ヲ處理スルニ足ル政府ノ樹立ヲ見ルニ至リ政治的安定ヲ實現スルモノト言ハザルベカラズ然レ共余ハ茲ニ重ネテ支那ノ

將來ハ之ヲ豫測スル事ノ困難ナル旨ヲ述べ置ク必要ヲ感ズ

▲石炭輸送ニ就テ 余ハ茲ニ本公司ノ營業ニ親シク影響ヲ及ボスベキ政治的地位ニ就キ一言セザルベカラズ不幸ニシテ最近ノ動亂ハ鐵道ニ近接セル地帯ニ於テ起リ而シテ鐵道ハ殆ド總ベテ同一ナル軌間ニシテ且ツ同様ナル計設ニ成ルヲ以テ貨車ハ容易ニ一ノ鐵道ヨリ他ノ鐵道ニ之ヲ振向クル事ヲ得タリ本公司ノ石炭ヲ市場ニ運搬スベキ契約ヲ有セル道清鐵道ハ實際上輸送ヲ爲シ能ハザルノミナラズ該鐵道ノ貨車ハ全部占領サレタル上軍事用輸送ニ振向ケラレタリ最近支那ヨリノ報道ニ依レバ該鐵道ハ石炭輸送ノ關スル限リニ於テハ一時營業不可能ナリト言ヘリ同様ナル注意ハ京漢鐵道ニ就テモ見ルベキガ該鐵道ニ依リ本公司ノ石炭ハ多量ニ運搬サレタリ幸ニモ今回ノ動亂勃發當時本公司ハ多量ノ石炭ヲ各倉庫ニ保有シ居タルヲ以テ石炭

ノ販賣ニ於テ左程ノ影響ヲ受ケザリキ此間本炭坑ノ採掘ハ維持サレ而シテ鐵道輸送ノ恢復ト同時ニ輸送スルニ足ルベキ「ストック」ハ既ニ準備シアリタリ

▲當年度事業成績 當期ノ營業成績ハ前期ニ比シテ良好ナリシモ茲ニ注意スベキハ支那ノ動亂ハ當期決算後ニ勃發セル事ナリ前期總會以來支那ニ於ケル社員ノ異動ニ就キ考慮サレタルガ茲ニ其主ナル者ヲ擧グレバ「ケンリック」氏ハ今回專務取締役ノ職ヲ退キ總支配人ノ職ニ任命サレタル事ナリ倫敦ニ重役會議ヲ支那ニ總支配人ヲ置キテ其統轄ヲ分轄スルハ變則ニ屬スルヲ以テ新組織ニ於テハ此弊ヲ避ケタリ「ケンリック」氏ノ辭職ニ依リ空席ト爲レル重役ニハ「コロネル、オリバー」氏ヲ招聘スル事トナリ氏ノ承認ヲ經タルハ満足トスル所ナリ尙「レヂユネ」氏ノ重役辭任ノ後任トシテ曩ニ滿期辭任セラレタル「フェロー」氏ヲ再選スルニ至リ

タルハ之亦満足スベキ事ニシテ以上兩氏ノ選舉ニ就テハ後刻客位ノ承認ヲ得ル筈ナリ茲ニ更ニ報告スベキ「British and Chinese Corporation」ノ「ロゼント」タル「メヤース」氏ハ同公司ノ承認ヲ經テ本公司ノ政治顧問ニ任ゼラレ鐵道ノ發展ニ關シテモ同様努力セラルル事トナレルト今一件ハ「コロネル、ブルック」氏ハ「ケンリック」氏ノ「アシスタント」トシテ活動セラルル事トナレルコトナリ「ブルック」氏ハ永年支那ニ在住シ支那語ヲ解シ在支外人及支那官界ニ於テ著名ナル人物ナリ

茲ニ遺憾トスベキハ支那ニ於テ鞏固ナル中央政府ノ樹立ヲ見ザリシ結果道清鐵道ノ東部及西部ノ延長ニ關シ交渉ヲ運ブ事ハ實際上不可能ナリシ事ナリ然レ共信賴スベキ政府ノ出現ト共ニ以上兩線ノ延長問題ハ遂ニ實現セラルベシト信ズ  
▲無配當問題 客位ハ當期無配當ナルニ失望サルベシ貸借對照表ニハ配當ハ支拂ハレタルガ如ク計

上シアルモ支那ノ現狀ニ鑑ミ重役會ハ現在ニ於テ配當ヲ爲スノ不得策ナリト思惟シ寧ロ之ヲ積立テ以テ支那ノ政情不安定ニ依リ影響サルベキ本公司ノ將來ニ具フベク消極策ヲ採ルニ至レリ左ニ一九二四年六月三十日ヲ決算トセル報告ニ就キ簡單ニ述ベント欲ス

▲損益勘定 同勘定ノ貸方ニ於テ貸付利子預金及當座預金勘定證券書換手數料其他ノ合計ハ四二、二八二磅炭坑利益ハ一一三、九九九磅總計一五六、二八一磅ニシテ之ヲ前期ノ一二九、五一六磅ニ比シテ二六、七六五磅ノ増加ナリ倫敦經費ハ前期ノ一二、二五七磅ニ對シ當期一二、五〇八磅巴里經費ハ前期ノ一、六九八磅ニ對シ一、五三〇磅支那ヲ計上セリ他會社ノ株式及債務ニ對シ各六、〇〇〇磅磅及七、五一一磅ヲ基金ニ繰入レタル後貸借對照表ノ損益勘定ニ計上サレタル殘額ハ一一六、

一六六磅トナレリ該額ニ對シ支那ニ於ケル流動資產及負債ノ整理ヨリ生ゼル爲替差額一八、三一七磅ヲ加フレバ合計一三四、四八三磅ヲ算セリ該額中ヨリ炭坑ニ於ケル資本減價償却基金二五、〇〇〇磅ヲ控除シ殘額一〇九、四八三磅ニ貸方殘額ノ七八、四〇二磅ヲ加ヘ當期損益勘定ノ合計一八七、八八五磅トナレリ

▲貸借對照表 貸借對照表ノ借方ニ於テ最初ノ三項ハ前年度ト同様ナリ炭坑經費ニ對スル減價償却ハ五〇、〇〇〇磅ニ増加サレ雜貸方及貸方殘高ハ二七、〇五七磅ヨリ三〇、六四九磅ニ増加サレタリ貸方ノ部ニ就テ見ルニ銀行在金高ハ前期ノ二〇二、五四六磅ニ對シ一一、八九九磅支那ニ於ケル鐵道貸付ハ前期ノ一四一、七五九磅ニ對シ一六六、〇五五磅倫敦ニ於ケル擔保貸付ハ前期ノ一〇、〇〇〇磅ニ對シ一六四、〇〇〇磅ヲ各算セリ之等ノ貸付ハ最上級信用證書ニ屬シ常ニ信賴スルニ足ル

ベキモノナリ以上三項目ヲ加ヘ前期勘定ノ三五四、三〇六磅ニ對シ當期ハ四四一、九六五磅ニシテ當ニ八七、六五九磅ノ増加ナリ他會社ノ株式ハ前期ノ一〇一、二六三磅ニ對シ一〇五、三六三磅ヲ算シ四、一〇〇磅ノ増額ヲ示セルガ右ハ本公司ガ「Anglo-Chinese Finance and Trade Corporation, Ltd.」ニ關係セルニ原因セリ雜借方ハ前期ノ一〇三、一三八磅ニ對シ一二七、九〇七磅ニシテ三四、七六九磅ノ増額ヲ示セルガ右ハ主トシテ一九二四年六月三十日現在ノ貸付ノ元利ニ原因セリ

次ノ項目中法實業銀行(Banque Industrielle de China)ノ二二九、六三七磅ハ前期勘定ト同様ナリ石炭及礦物貯藏所ニ於ケル「ストック」ハ前期ノ六七、一五二磅ニ對シ五六、〇二一磅ニシテ減少セルガ右ハ兩品「ストック」ノ減少ニ原因セルモノナリ ▲重役ノ異動 重役會最近ノ異動ノ結果「Mr. S. enrick」ハ「Yang-Tse Corporation」ノ重役ヲ辭任シ

其後任トシテ「Major Nathan」就任セリ本公司ノ重役中「Comte de Segnier」ハ滿期辭任シ後任トシテ「Monsieur Kahn」就任セリ

「フキツゼラルド」議長ハ引續キ本公司ノ將來ヲ論ジ次デ自己在任中ノ事ニ及ビ將來自身ノ代リニ「Major Nathan」本公司ノ議長タル方適任ナル旨ヲ述ヘ重役會ハ同氏ヲ議長ニ推選セル旨ヲ述ベテ報告終レリ斯クテ一九二四年六月三十日ヲ決算トセル年次報告ハ萬場一致ヲ以テ通過次デ新議長ノ挨拶アリテ後散會

### ●中部支那方面

#### ▲江蘇省及安徽省

#### ◎上海石炭市況

一月十九日東京著電ニ依レバ上海ニ於ケル石炭ハ荷捌良好ニシテ棧橋在荷ハ三十五萬噸見當最近一箇月五萬噸減開平炭ノ移入ハ一箇月四、五萬噸ニ

テ平常ニ比シ半減夫丈日本炭、撫順炭ノ需要増加シ輸出爲替ノ有利モ手傳日本炭取扱者ニ利益多ク當地需要ハ平常並ナルモ漢口向移出ヲ見相場「ジリ」高金融ノ緩慢ト共ニ問屋筋景氣好ク越年スベシト、因ニ一月三十一日ニ於ケル石炭相場ハ次ノ如シ

石炭相場 (一月三十一日)

杵島塊	九・一五	高尾塊	六・四〇
撫順塊	八・四五	洪山塊	六・三〇
新目尾切込	七・〇〇	高松切込	六・二五
撫順切込	七・二五	三池粉	七・四〇
高松粉	五・四五	福岡粉	四・〇〇
高州粉	六・九〇	博山粉	五・一五
高松塊	七・一五	岩屋塊	八・八五
洪山小塊	七・二五	林西塊	六・六五
松浦切込	五・二〇	木屋瀨切込	五・七五
松浦粉	四・一五	杵島粉	七・一〇
林西粉	五・六五	撫順粉	七・〇〇
		洪山粉	六・〇五

◎安徽省東南部ノ石炭礦

安徽省礦督辦王達氏ハ官礦辦公處ヲ蕪湖ニ設立シ員ヲ派シテ產炭礦區ヲ調査測量セシメタリ、聞ク

ニ宣城縣水東炭田ニ於テハ探鑛作業當ニ終了セントシ又貴池縣殷家匯產炭地ニ於テハ一號及五號試掘ニ於テ厚サ五尺乃至八尺ノ炭層ヲ發見セリト、一方又獨逸人技師「ライクン」氏ヲシテ調査セシメタルニ炭量豐富ニシテ炭質モ亦優良ナルコトヲ證明セリ依テ王督辦ハ屢々機械類ヲ設置シ道路ヲ修築シテ開採ニ從事セムトセシモ省ノ財政困難ナルヲ以テ止ムナク官礦債券ヲ募集シテ之ガ開採ヲ計ラントシ各縣知事、商會等ニ請ヒテ代理募集ニ勉ムルト共ニ前記水東炭田及殷家匯產炭地ニ於ケル試掘探鑛ノ好況ヲ大ニ宣傳セリ而シテ該債券ノ募集ニ就テハ既ニ省長トノ協定ヲ經テ農商部ニ請申中ナリト

尙現在殷家匯無煙炭產地ハ試掘ニ依リテ厚サ五尺餘ノ炭層ヲ發見セルヲ以テ排水機、扇風機及其他ノ機械類ノ到著ト共ニ作業ニ從事スベシト而シテ該炭層ハ質優良ニシテ炭量約四千七百萬噸ヲ有ス

ト云フ水東炭田ノ有煙炭モ亦其炭量豐富ニシテ約六千萬噸ヲ有シ石炭紀ノモノナリト云フ之等ノ產炭地ハ長江ニ近接シ交通極メテ便利ナルヲ以テ將來發展スルハ明カナルベシト云フ(一三、五、二、東方時報)

今前記產炭地ニ就テ東京農商務省技師植村氏ノ調査(大正九年二月調)セル結果ニ就キ炭層及稼行狀態ヲ摘録シテ以テ參考ニ供ス

一、宣城縣水東炭田  
位置 宣城縣水東鎮ヲ中心トシテ大河ノ東方ニア  
ル南北三十五支里、東西十五支里ノ長方形ノ地域ヲ謂フ

本炭田ニ於ケル炭層ヲ便宜上南ヨリA、B、C、D、

炭層名	附近ノ村落	水東鎮間距離	最近ノ稼行セシ年	炭層ノ厚サ(尺)	炭層ノ延長(尺)	埋藏炭(地表下三百尺迄)(屯)
A	大汪村	一三支里	寶興公司、華興公司	四・〇〇(第一層)	四・〇〇〇	二七〇、〇〇〇
B	蔡村	一五支里	大康公司、青山公司	四・〇〇(第二層)	四・〇〇〇	二七〇、〇〇〇
C	項村	九支里	禮和公司	二・〇一五・〇	七・〇〇〇	四〇〇、〇〇〇

宣城縣水東炭田 第六十四號

G	F	E	D
張家橋	牛皮橋	徐村	八支里
一四、五支里	一四支里	八支里	八支里
百餘年前石灰製造ノ爲ニ土民採掘セリト云フ	民國五年ニ、三坑井ヲ開鑿シ内ニ二坑井ハ著炭セリ、土民一坑井ヲ掘鑿中	太平、光緒年間ニ採掘セラレシト云フ	
四・〇	四・〇—五・〇	四・〇	四・〇
	五、〇〇〇		二九〇、〇〇〇

A 炭層—水東鎮ノ南東十三支里ニ大汪村アリ炭層ハ同村ノ西ニ位スル眠牛山西山ノ南東麓ニ沿ヒテ賦存シ北西ニ四十度乃至五十度傾斜シ眠牛山ヨリ西山照惠公司舊坑迄之ヲ追跡スルヲ得延長四千尺以上ニ達ス其上下盤ハ薄キ含雲母砂岩及頁岩ノ互層ナリトス、採炭ハ土法ニ依リ大汪村地並ヨリ西ニ向ヒ六十度以上ノ斜坑ヲ掘下シ五、六十尺ニシテ厚サ四尺ノ炭層ニ會ス土民ハ之ヲ第一層ト稱シ是ヨリ更ニ數十尺下位ニ第二層タル厚サ六尺ノ炭層アリト稱ス六尺層ハ一坑ニ於テ之ヲ檢シタルノミニシテ其存在明カナラズ眠牛山華興公司ノ稼行セル石炭ハ黑色ニシテ光澤強ク良ク塊炭トシテ採掘スルヲ得レ共成層面ニ平行ニ光澤ナキ稍劣等ナ

ル部分介在ス華興公司ニ於ケル炭價ハ山渡シ百擔四元乃至五元ナリ本炭層ハ本炭田中最モ囑望セラレシモノニシテ民國八年五、六月迄稼行セラレタリ  
B 炭層—ハA炭層ノ北ニ於テ同一方向ニ延長シ西方ニ四十度傾斜スA炭層ト同一層位ニアルモノナラント思惟セラレ共兩者ノ關係明カナラザルヲ以テ茲ニ別種ノ炭層トシテ記述セリ其厚サハ四尺ニシテ青山ヨリ蔡村大康公司迄追跡スルヲ得延長四千尺ニ達ス舊坑ハ蔡村、青山附近ニ點在ス炭質ハA炭層ノ石炭ト大差ナシ  
C 炭層—ハ虎山ノ東麓ヨリ屠村、項村、小楊村ニ延ビ西北ニ五十度傾斜シ北ハ斷層ニ斷タル其延長

六千尺ニ達シ厚サハ屠村附近ニ於テハ二尺、項村附近ニテハ五、六尺平均四尺ト稱セラル小楊村附近及虎山ニハ大平年間ノ採掘跡アリ虎山ニ於ケル舊坑ハ前清大平年間ノ開鑿ニ係リ其狀況詳カナラズ項村ニテハ民國六年土民盜掘ヲ企テ豎坑ヲ開鑿セシニ五十尺ニシテ五、六尺ノ炭層ニ會セリト云フ屠村ニハ前清時代ノ採掘跡アリ  
D 炭層—ハ半向心狀構造ノ北翼ヲナシ南西又ハ南方ニ三十度内外傾斜ス炭層ノ東西ハ斷層ニヨリテ切斷セラル採掘跡ハ徐村南方ノ山麓ニ數多アリ多クハ大平年間ノ採掘ニ係レリ炭層ノ厚サハ不明ナルモ大汪村ニ於テ光緒二十一、二年ノ交開鑿セシ豎坑ニ於ケル炭層ハ厚サ四尺アリシト云フ舊坑附近ニ散在セル石炭片ヲ檢スルニ塊炭トシテ採掘スルヲ得ベク炭質ハA、B、C炭層ニ於ケルト同質ナルモノ、如シ本炭層ハC炭層ト連續セシモノナルモ斷層ノ爲切斷セラレ其水平轉位五百米餘ニ及ベ

リ  
E 炭層—ハ胡村、牛皮橋ニ賦存シ北西ニ五十度傾斜シ延長五千尺アリ胡村ニハ民國年間ニ開鑿セシ豎坑四アリ内一豎坑ノミ厚サ四尺ノ炭層ニ會セリ牛皮橋ニハ民國五年ノ開鑿ニ係ル豎坑三アリ内二坑ハ炭層(恐ラク四尺内外)ニ會セリ  
F 炭層—ハE炭層ノ南北ニ賦存ス舊坑數多アリ巡回當時新ニ土民ノ豎坑ヲ掘鑿セルモノアリシモ其深サ二十尺餘ニシテ未ダ炭層ニ會セズ  
G 炭層—ハ張家橋ノ南東ニアリ舊坑分布ノ狀態ヨリ推察スルニ數炭層アルモノ、如キモ百餘年前ニ石灰燒成ノ爲採掘セラレタルモノナレバ炭層ノ狀態不明ナリ炭層ノ厚サ四尺ト稱ス  
次ニ石炭ノ分析表ヲ示セバ

炭層	産地	水分	揮發分	固定炭素	骸炭ノ質	灰分	灰色	硫黄分	發熱量	比重
A	宣城縣水東鎮眠牛山華興煤礦	〇・四三	二五・三八	三八・七九	結結性	三五・四〇	淡紫	一〇・九〇	五、三三五	一・八七二
A	同	〇・五〇	二六・九二	五三・〇七	同	一九・五一	黝	二・二九	六、五七〇	一・四九七
B	同	〇・四〇	二七・六六	五六・二二	同	一五・七二	淡黝紫	二・四三	六、八二〇	一・三九六
B	同	〇・六二	二八・一六	五四・三〇	同	一六・九二	淡紫	四・〇〇	六、八二〇	一・三七二
B	同	〇・四八	二六・五〇	五二・七七	同	二〇・二五	淡黝紫	二・八八	六、四九〇	一・四二五

結論

本炭田ノ各炭層ニツキ計算セシ地表下三百尺迄ノ總埋藏炭量ハ約百二十三萬噸ニ過ギズ而シテ本炭田ヨリ蕪湖等揚子江岸ノ大市場ヘハ減水期ニ於テ運搬ニ甚シキ不便アリ然レ共唯有煙炭ニシテ且塊炭トシテ採掘シ得ルヲ以テ支那人家庭用燃料トシテ小規模ニ採掘セバ或ハ收益アルベク試錐ニヨリ炭層ノ厚サ、延長及數ヲ檢スベキナリ

二、貴池縣白羊水、貴水流域石炭産地（前記殷家匯産炭地）  
位置  
本産炭地ハ貴池縣（池州）ノ南方貴水ニ沿ヒテ略東西ニ連亘ス  
殷家匯ハ貴水ノ左岸ニ位スル物資ノ集散地ナリ炭層  
調査區域内ニ於ケル産地次ノ如シ

炭坑所在地	主要市邑ヨリノ距離	公司名	炭層ノ厚サ（尺）	延長（尺）	備考
陰坑裏	殷家匯ノ四十支里	乾泰公司	五尺ト稱ス	—	休業

南龍潭	池州ノ南二十四支里 白洋鎮ノ北六支里 池州ノ南二十七支里 白洋鎮ノ北二支里半	久大公司	上層〇・五—〇・八 下層三・〇—六・〇 二・〇—四・〇	一、六〇〇以上	稼業
大花嶺		久大公司			稼業

此外殷家匯ノ西二十支里及新開路ノ南西ニ石炭ヲ産スト稱ス

陰坑裏—ニ於ケル炭層ハ石炭紀石灰岩中ニ挾在シ山麓ニ沿ヒ東北東ヨリ西南西ニ走り西北西ニ五十五度傾斜ス其延長明カナラザレ共大ナラザルモノ、

如シ舊坑ニアリ民國七年乾泰公司ノ所有ニ歸シタルモ未ダ操業スルニ至ラズ石炭ハ無煙炭ニ屬シ漆黑色ニシテ金屬光澤ヲ呈シ脆弱ニシテ鱗片狀ニ破碎シ粉炭ニナリ易シ分析ノ結果ハ左ノ如シ（百分中）

産地	水分	揮發分	固定炭素	骸炭ノ質	灰分	灰色	硫黄分	發熱量	比重
陰坑裏乾泰公司	一・一九	一〇・〇三	五九・七八	不粘結性	二九・〇〇	淡紫黝	五・一六	五、四一〇	一・七三三

大花嶺—ハ白羊水ノ右岸ニ位ス民國七年舊八月久大公司此處ニ三坑ヲ開鑿シタルモ出水ノ爲同年末全部放棄セリ此外二坑アリ其ニ深サ三百尺ニ達シ中一坑ハ五、六十尺ニテ著炭セリト云フ炭層ハ石

灰岩層中ノ薄キ淡灰色含雲母砂岩中ニ挾在シ南方ニ五十度傾斜ス其厚サ二尺乃至四尺ト稱ス石炭ハ漆黑色ヲ呈シ鱗片狀ニ破碎シ粉炭ニナリ易シ分析ノ結果左ノ如シ（百分中）

産地	水分	揮發分	固定炭素	骸炭ノ質	灰分	白色	硫黄分	發熱量	比重
大花嶺	一・四九	一〇・三二	六二・二二	不粘結性	二五・九七	白	一・〇七	五、三〇〇	一・七六六

南龍灣—ハ大花嶺ノ北三支里ニ位シ炭坑ハ其東半支里ノ地ニアリ炭層ハ石灰岩中ノ薄キ砂岩ト頁岩トノ互層中ニ介在シ南ニ五十度傾斜ス舊坑ノ位置ヲ追跡スル層向ニ沿ヒ延長略一千尺アリ想フニ炭層ハ此間連續シ尙東北東ニ延長スルモノ、如シ炭

層ハ二尺ノ頁岩ノ夾ミヲ有シ上下ノ二部ニ分タル厚サ上部ハ二寸乃至八寸、下部ハ三尺乃至六尺ニシテ前者ハ粉炭トナリ易ク後者ハ塊炭トシテ採掘シ得ベシ下部ノ石炭ヲ分析セルニ其結果ハ左ノ如シ(百分中)

產地	水分	揮發分	固定炭素	骸炭ノ質	灰分	灰色	硫黃分	發熱量	比重
南龍灣	四・二八	一〇・八〇	七四・五二	不粘結性	一〇・四〇	淡紫黝	六・〇二	—	一・六九〇
久大公司	三・九九	九・六一	七五・三〇	同	一一・一〇	同	六・八三	—	一・七四五

舊坑三新斜坑三アリ新斜坑ノ中二斜坑ハ巡回當時掘進中ニシテ未ダ炭層ニ會セズ一坑ハ斜坑ニ沿ヒ三十尺ニシテ著炭シ是ヨリ炭層ノ傾斜ニ沿ヒ百五十尺餘掘進採掘セリ

### 湖北省及江西省

#### ◎湖北鐵業概況

湖北省ハ揚子江ヲ夾ミテ全省ノ中心ニ位シ風氣早クヨリ開ケ商業頗ル隆盛ナリ鐵業モ亦早クヨリ發

達シ彼ノ漢冶萍公司ノ如キ其ノ名ノ中外ニ著ハル、ハ之レ蓋シ湖北省ガ地ノ利ヲ得ルノミナラズ交通モ亦便ナルガ故ナリ湖北ノ鐵業ヲ考察シテ次ノ三種ニ分類シ得可シ(一)官辦(二)官商合辦(三)完全商辦今之等ニ就テ略述セム

#### 一、官辦鐵山

##### (一) 湖北官礦局

民國四年九月創立セララル最初ノ督辦ハ高松如氏ナリ創立ノ初メハ湖北官鐵局ノ利益金ヲ以テ創立基

金ニ宛テシモノニシテ民國五年十月組織成立スル

ヤ大冶縣象鼻山ノ鐵礦、湖南省安化ノ「アンチニ

モニー」礦、江西省ノ萍鄉炭礦、大冶縣龍角山及陽

新縣ノ歐陽山、劉許山ノ銅礦等ノ探礦採掘ニ著手

シ當時ノ費用百餘萬元ニ達セリ高督辦病死シ金鼎

氏繼テ總辦トナルニ及ビ始メハ專ラ象鼻山ニ意ヲ

注ギ其他ノ利益無キ鐵山ハ之ヲ停止セリ斯クテ經

營スルコト數年ニシテ成績大ニ著レ民國九年春ニ

ハ探礦ヲ開始シ四萬餘噸ノ鐵石ヲ產出セリ現督辦

ハ何佩鎔氏ニシテ鐵山ノ設備ハ益々完備セリ官鐵

局ノ營業ハ專ラ賣鐵ニシテ製煉場ヲ設ケズ而シテ

賣鐵先ハ漢冶萍公司及日本三菱公司ガ主ナルモノ

ニシテ揚子江機器公司ニ對シテハ毎月僅カ數百噸

ヲ賣鐵ス最近日本ハ震災發生ノ爲製鐵事業ガ遽ニ

停頓シ一方漢冶萍公司モ亦屢々維持困難ノ状態ニ

アルヲ以テ賣鐵ノ前途ニ大ナル打擊ヲ受ケタリ今

官礦局ガ探礦開始後ノ產額ヲ示セバ次ノ如シ

民國九年	四五、六六七噸
同 十年	一六一、五七五
同 十一年	四五、四三九
同 十二年	一八〇、〇〇〇

##### (二) 陽新炭山灣官煤礦

創立ノ沿革ハ前述セシガ如シ今歷年ノ產額ヲ示セバ略ボ次ノ如シ

民國 五年	七〇、〇〇〇噸
同 六年	六〇、〇〇〇
同 七年	五二、七八三
同 八年	五二、三〇五
同 九年	一九、二一五

#### 二、官商合辦鐵山

##### (一) 漢冶萍公司大冶鐵礦

大冶鐵礦ノ發見ハ甚ダ古ク千餘年前既ニ開採サレ土法ニ依リテ製煉サレタリ現在鐵門坎一帶ニ今尙鐵滓ノ遺棄サル、モノ約數十萬噸アリ之レ中國ノ古代鐵業ノ發達ヲ示スモノニシテ製鐵事業ノ既ニ舊キニアリシヲ知り得可シ光緒十六年ニ及ビ張之洞湖北鐵政局ヲ創立セシモ鐵礦ヲ得ザリシヲ遺憾



ト爲セシニ盛宣懷大冶獅子山鑛區ヲ提供セリ依テ  
創業ノ初メ獨逸ノ借款五百萬兩ヲ以テ鐵道ヲ敷設  
シ機械類ヲ設置シ光緒十七年ニ至リテ正式ニ採鑛  
ヲ開始セリ初メ產額極メテ少ク年產僅カニ四萬噸  
内外ナリキ光緒二十二年漢陽鐵政局ヲ商辦ニ改メ  
盛宣懷ヨリ經理サル、コト、ナリテ獅子山鑛區ハ  
再ビ盛氏ノ所有トナリ省政府ノ所有ニ留マルモノ  
ハ僅カニ象鼻山、尖山、兒光山ノ三個處ナリ之レ  
漢冶萍公司ト官鑛局ノ分立セル始メナリ光緒二十  
五年盛氏ト日本トノ間ニ每年鐵鑛十九萬噸ヲ日本  
ニ供給スルノ契約ガ締約サル、ニ及ビ產額次第ニ  
増加シ民國二年十二月該公司ト日本銀行トノ間ニ  
大借款成立スルヤ前約規定以外ニ公司ハ日本ニ對  
シ四十個年以内ニ一等鐵鑛一千五百萬噸銑鐵八百  
萬噸合計鑛石ニ換算シテ三千萬噸ヲ賣鑛スルコト  
、シ一方公司ハ銑鐵ノ增產ヲ計リ袁家湖ニ熔鑛爐  
ニ基ヲ建設シ一日八百噸ノ出銑ヲ計畫セリ漢陽製

鐵廠ニハ熔鑛爐四基アリ一日ノ出銑能力七百噸ナ  
リ該公司ハ鐵鑛年產額約百三十萬噸ニ達シテ始メ  
テ需要ヲ充シ得(即チ需要高ハ該公司新舊製鐵廠  
約四十八萬噸、日本八幡製鐵所四十萬噸、日本輪  
西製鐵所及其他約十萬噸)然ルニ近年ノ產額ハ多  
キモ八十餘萬噸ニ過ギズ其中日本ニ輸送スベキ數  
量多キハ四十萬噸ニ達スルヲ以テ之ガ不足額ハ常  
ニ官鑛局ヨリ供給ヲ受ク、今大冶鐵鑛歷年ノ產額  
ヲ示セバ次ノ如シ

光緒二十二年	一七、六〇〇噸
同 二十三年	三九、〇〇〇
同 二十四年	三七、五〇〇
同 二十五年	四〇、〇〇〇
同 二十六年	五九、七一〇
同 二十七年	一一八、八七七
同 二十八年	七五、四九六
同 二十九年	二八、五〇三
同 三十年	一〇五、一〇九
同 三十一年	一四九、八四〇
同 三十二年	一九七、一八八

同 三十三年	一七四、六一二
同 三十四年	一七一、九三四
宣統元年	三〇六、五九九
同 二年	三四三、〇七六
同 三年	三五九、四六七
民國元年	二二一、二八〇
同 二年	四五九、七一
同 三年	五〇五、一四〇
同 四年	
同 五年	六四二、五七八
同 六年	六三三、三六六
同 七年	六二八、八七九
同 八年	六八六、八八八
同 九年	八二四、四九一
同 十年	八〇〇、〇〇〇
同 十一年	五八〇、〇〇〇

(二) 應城石膏公司

石膏ハ應城縣ノ特產物ニシテ民國六年商人彭又岩  
ナルモノ應城公司ヲ組織シ農商部ノ登録ヲ經毎年  
報效金トシテ軍費十萬串ヲ納付スルコトヲ條件ト  
シテ事業ノ獨專ヲ許可サレタリ其後產額多ク需用

ヲ充ス外尙剩餘アリテ販路滯塞セシヲ以テ官錢局  
ヨリ前後借款スルコト二十餘萬串ニ達シ償還スル  
ニ由ナク遂ニ官錢局郭總辦ヨリ差押ヘラレ應城石  
膏官局ト改メテ民國七年ニ成立セリ該地ノ鑛商ハ  
石膏ヲ採取シ之ヲ官局ニ專賣ス一個年一鑛商ノ平  
均石膏採收量ハ三十拾ナリ(一拾ノ價格約千二百  
五十文)鑛商ノ數及資本等ハ不詳ナリ最近官局ノ  
請負期限ハ滿了スルヲ以テ地方ノ紳商等ヨリ株金  
八十萬元ヲ募集シテ官督商辦ノ石膏公司ヲ組織セ  
ントシ既ニ認可セラレタリ

歷年ノ產額ハ詳述シ難キモ應城ノ石膏ハ湖北ニ於  
テ最モ大ナルモノニシテ湖北產額ノ大部分ヲ占メ  
皆外省ニ輸出サル、故ニ稅關報告ノ輸出量ヲ根據  
トスレバ應城石膏產額ノ多少ヲ知り得可シ  
漢口ニ於ケル石膏ノ輸出量ハ逐年増加セリ即チ數  
量ニ於テ約十餘萬擔(六千餘噸)ヨリ五十四萬擔  
(三萬餘噸)内外ニ價格ニ於テ十萬兩ヨリ三十七萬

兩ニ増加セリ今民國元年以來ノ輸出額ヲ示セバ次ノ如シ

民國元年	三七五、五八三擔
同 二年	四三一、八一六
同 三年	四七四、〇〇〇
同 四年	三〇〇、五八四
同 五年	四四五、〇九九
同 六年	四五四、〇六四
同 七年	三三二、〇三一
同 八年	三三一、四八七
同 九年	四八七、九四一
同 十年	四二七、〇二三
同 十一年	五三八、八九六

(應城縣石膏ノ產出及輸出狀況ニ就テハ本誌六十一號一三二一—一三四頁ヲ參照セラレ度シ)

三、商辦鑛山

湖北省ニ於ケル商辦鑛山ニシテ規模大ナルモノ多カラズ其ノ原因ヲ考フルニ鑛產ノ豐富ナラザル爲ノモノ約半数及資本ノ不足或ハ缺乏セルガ爲ノモノ約半数ナリ

◎漢冶萍煤鐵公司營業報告

即チ其ノ一例ナリ此ノ外登記済ニシテ未ダ開採セザルモノ或ハ出願済ナルモ經營ノ力無キヲ以テ棄テ、顧ミラレザルモノ甚ダ多キモ調査恰ネカラザルニ依リ其ノ詳細ハ知ル可ラザルナリ

漢冶萍煤鐵有限公司 (Han Yeh Ping Iron & Coal Co. Ltd.) ハ去ル十一月二十九日寧波同鄉會ニテ株主總會ヲ開ケリ出席株主數三百二十九人外ニ農商部代表俞寰澄、交通部代表施省之、湖南代表張炳文ノ列席アリ此ノ株數合計二十七萬七千五百六十六株、十四萬七千三百五權ニ達セリ董事會長孫寶琦主席トナリ營業狀況ニ就キ左ノ如キ報告アリ

▲主席ノ報告 本公司ノ營業ハ鋼鐵ヲ主トナスヲ以テ其賣行良好ニシテ且價格相當ナレバ必ズ利益ヲ擧ゲ得ルモノナルモ歐洲戰後世界ノ鋼鐵ハ需要ノ減退供給ノ過剩ノ爲メ市價暴落シタル結果本公司モ大勢ノ趨ク所如何トモ爲シ難ク先ヅ溶礦爐ノ

今主ナル商辦鑛山ヲ上グレバ次ノ如シ

名 稱	鑛種	所 在 地	備 考
楚裕公司	石炭	武昌縣黃博士嶺	出水ノ爲未ダ出炭セズ
鄂城鐵礦公司	鐵	鄂城縣西雷二山	創立時ニ在リテ尙未ダ開採セズ
富源公司	石炭	大冶縣石灰窰桐梓堡	日產額七十餘噸ニシテ利益多シ
富源公司	同	陽新縣龍港鎮富山	既ニ停業、消費巨額
廣豐公司	同	蒲圻縣四孤竹橋	停業既ニ久シ、消費巨額
開源公司	同	蒲圻縣神山	額 停業既ニ久シ、消費巨額
五豐公司	銅	竹山縣鄧家壩	民國二年繼承、近況未詳
五盈公司	同	竹山縣陳家山	近況未詳

以上ノ各鑛山ハ資本何レモ十萬元以上アリ設備トシテ排水機、汽罐、發電機等アルモ採鑛法尙幼稚ニシテ然カモ經營宜シカラザルヲ以テ利益ヲ收ムルコト少シ以上ノ外商辦ノ小鑛山ハ其ノ數枚舉ニ遑アラザルモ其等ノ資本ハ何レモ數千元乃至數萬元ニ過ギズ純土法ニ依リテ開採ス然レ共往々利益ノ少ナカラザルモノアリ武昌縣大成公司ノ如キハ

作業ヲ中止シ專ラ鐵礦ノ探掘ニ努メタリ而モ連年湖南、湖北ノ軍事相繼デ起リ水陸ノ輸送阻害セラレ燃料タル「コークス」ノ供給ニ不自由ヲ生ジ且漢口製鋼場モ久シク停止スルノ狀態ナリシカバ產鐵量ハ大イニ減ジ一方各種ノ支出ハ愈増加スルニ至リ此ニ於テ經費ノ加重トナリ遂ニ採算難ニ陥リタリ之ニ加フルニ產鐵ノ賣却ハ日本金ノ計算ニ係ルモノニテ日本金ノ低落ニヨリ尠ラザル損失ヲ來セリ是ヲ以テ九、十、十一、十二年ノ四箇年間ノ營業成績ハ何レモ缺損ヲ生ゼリ且最近ノ不況ハ以前ヨリ甚シク配當ヲナスノ餘地無キモノナルガ昨日董事會同人ノ協議ヲ以テ四箇年間ヲ通ジ四分ノ配當ヲナス事ニ決シ聊カ株主諸君ノ希望ヲ慰ムルコトヲ得タリ茲ニ諸君ノ意見如何ヲ伺ハント欲スルモノナリ

▲監察人ノ報告 本公司第十三乃至十六回營業報告書ハ既ニ各株主ニ配布シ置キタル所ナルガ以上

四回ノ營業成績ヲ見ルニ缺損額合計約八百四十萬元餘ニ達シ之ヲ年別ニ示セバ九年度一百二十七萬元餘、十年度五十一萬元餘、十一年度三百六十六萬元餘、十二年度二百九十五萬元餘ナリ但シ準備金ハ右期間ニ約六百萬元ニ増加シ公司ノ基礎鞏固ナリ云云

監察人ノ報告畢リテ後廣東幫某君ヨリ何故ニ四箇年間モ株主總會ヲ開催セザリシヤ此レ正ニ公司章程ニ背クモノナリトノ質問アリ之ニ對シ董事兼副經理成澤承ハ右ハ株主總會ヲ召集シタルモ出席人員ガ法定數ニ達セザリシニ依リ流會トナリタルモノニシテ董事會ガ召集ヲ行ハザリシニハ非ラズト回答シ嗣テ

▲配當問題 ニ移リ株主ヨリ董事會案タル四分ノ配當ニ對シ反對起リ之ヲ八分ニスベシトノ提議アリ株主ノ贊否ヲ求メタル所多數ノ贊成アリ遂ニ八分配當ニ決定セリ次デ主席ヨリ日本ヨリノ

▲繼續借款問題 ニ就キ提議アリ曰ハク本公司ハ營業上ノ必要ニ因リ民國二年日本八幡製鐵所及橫濱正金銀行トノ契約條項ニ基キ日金八百五十萬圓ノ借款ヲ續行セントスルモノニシテ此項ノ續訂借款ハ其性質通常ノ實業借款ト異リ一種ノ鐵賣却代金ノ先受取金トモ稱スベク今回此ノ借款ヲナス所以ノモノハ公司ノ現金枯渴シ新資金ノ融通ヲ得ルニ非レバ工事ヲ進行セシメ根本的ノ充實ヲ圖ルコト能ハザレバナリ而シテ本公司ノ豫想スル所ニ據レバ大冶ニ於ケル新溶鑪落成後ハ毎年銑鐵約四十萬噸ヲ得ル見込ナルガ國內ニハ此ノ販路ナク又歐米ハ反ツテ毎年我國ニ銑鐵ノ輸出ヲナシ居ル狀態ニテ此方面ヘノ販路モ望ミ難シ但シ日本ハ多量ノ銑鐵ノ需要アリ本公司製品ノ唯一ノ市場タレバ董事會ニ於テ再三熟議ノ結果製鐵所及正金銀行ニ資金ノ借入ヲナスト共ニ一方其供給ヲ約定シ製鐵所供給ノ鑛石及銑鐵ノ價格ヲ以テ右借款ノ元利償

還金ニ充テ他方前借款利率ノ輕減(一律ニ年六分ト定ム)及其期間ノ延長ヲナスベク既ニ兩者ノ會

見ヲ經テ其ノ契約草案ヲ定メタリ前述ノ利率ヲ六厘トナスニ就テノ條件ハ決シテ主權ヲ損セズシテ本公司ノ營業ヲ裨益スルモノニシテ此件ニ關シテハ既ニ各株主ニ印刷物ヲ配分シ置キタレバ充分研究セラレンコトヲ望ム唯一言董事會トシテ切望スル所ハ此項ノ借款ハ之ヲ單ナル消費ニ用フルニ非ズ之ヲ生産ニ用フルモノニシテ又僅ニ目前ノ急ヲ救フニ止マラズ而モ之ヲ工事ノ擴張及營業ノ整頓ニ充テ以テ公司將來ノ發展ニ資セントスルモノナル事ヲ了解シ以テ本案ヲ通過セラレンコトヲ望ム云々

右ニ依リ之ヲ各株主ニ諮リタル所異議ノ申立ヲナス者アリタルモ結局多數決ヲ以テ借款訂立ニ議決セリ次ニ一部株主ヨリ協定及附屬文書ノ訂正ヲ提議シ左ノ四項ヲ議事録中ニ載セタリ

(一)債權人ハ公司ノ紅利(特別配當金)ヲ制限スルコトヲ得ズ

(二)技師人數ノ限定

(三)補助人數ノ限定

(四)公司ノ借款償還ニハ三箇月前ニ相手方ニ通知シ全部ノ償還ヲナスコト

又條件訂正問題ハ新董事會ト株主トノ聯合會議ニ於テ決定スル事ニ決定セリ然ルニ湖南代表張柄文ハ借款問題ニ就キ不贊成ヲ稱ヘ該問題ハ既ニ多數ヲ以テ決定セルヲ以テ如何トモナシ難キモ參考ノ爲メ本人ノ意見ヲ表示セントシ不贊成理由トシテ左ノ三項ヲ舉ゲタリ

(一)公司支配權他人ノ手ニ渡ルコト

(二)公司ハ資本補充時代ニ在リ借款モ亦一二年ヲ維持シ得ルノミナルコト

(三)圓價下落ニヨル公司ノ損失大ナルコト

右終リテ後董事及監察人ノ選舉ニ移シ新役員ヲ左

ノ如ク定メタリ

(留任董事)孫慕韓、傅筱庵、成澤承

(當選董事)劉裏孫、李偉侯、林劍秋、徐博泉、

成泮澄、盛蘋臣、夏棣三、丁斐章

(當選監察人)邵子榆、盛繩祖、謝蘅聰、金菊蕃

然ルニ茲ニ端ナクモ公司側ト湖南代表張炳文トノ

間ニ紛争ヲ惹起シタレバ公司ノ營業報告トハ關係

無キモノナレ共參考トシテ其紛紜ヲ記サン

▲湖南代表ノ借款反對 前記ノ如ク十一月二十九

日ノ株主總會ニ於テ八百五十萬圓ノ對日借款ノ訂

立ヲ決定セルガ其議決後湖南代表張炳文ハ借款問

題ニ對シ三箇條ノ理由(前出)ヲ擧ゲ其ノ反對ヲ稱

ヘタルモ既ニ議決後ナレバ如何トモナシ難ク只個

人ノ意見トシテ申述ベ又主席ヨリノ説明ニヨリ張

代表モ異議ナカリシニ張代表ハ十二月一日ノ新聞

紙上ニ於テ右借款反對ノ旨ヲ聲明シ株主總會ニ於

ケル議決ハ違法ニシテ前任董事及經理ノ橫暴ヲ稱

ヘ甚シキハ萍鄉ノ石炭ヲ差押フ可シ云ト全ク總

會ノ議決ヲ無視シタル行動ニ出デタリ

▲公司ノ辯明 該公司董事會ハ十二月六日北京政

府及長沙趙省長ニ右總會ニ於ケル借款問題通過ノ

狀態及張代表ノ行動ヲ詳細ニ報告説明シ且新聞紙

上ニ右電報ヲ掲ゲ以テ株主及一般ノ誤解ヲ釋クコ

トニ努メタリ

▲湖南代表ノ反駁 然ルニ之ニ對シ湖南代表ハ復

反駁文ヲ十二月九日ノ新聞紙上ニ載セ過般ノ株主

總會ノ議決ハ明ニ公司條例ニ違背スルモノナリト

ナシ左記ノ諸點ヲ指摘セリ

(一)公司條例第四十七條ニハ公司ガ株主總會ヲ

召集セントスル場合ハ一箇月前ニ株主ニ通知ス

ベシ其ノ通知及廣告ニハ召集ノ目的及議決事項

ヲ明載スベシ等ノ明文アルガ今回公司ノ對日借

項八百五十萬圓ヲナスハ重要事項ニシテ右期間

ニ株主ニ通知ヲナシ以テ株主ヲシテ慎重熟慮ノ

餘地ヲ與フ可キニ公司ハ僅カ二週間前ニ通知ヲ

發シ而モ召集ノ目的及議決事項ヲ明示セズ總會

ノ席上突然借款、董事選舉及配當ノ諸案ヲ提出

シ株主ヲシテ考慮ノ暇ナカラシメタルハ顯ニ右

條例ノ規定ニ違反スルモノナリ

(二)又公司條例第四十九條ニハ定期會ハ每期董

事所ニ具フル帳簿及監察人ノ報告ヲ査核スベク

又其檢査ヲ行フ爲メ株主會ヨリ檢査人ヲ選舉ス

トノ規定アリ然ルニ公司ノ內容檢査ニ就キテハ

既ニ屢株主ヨリ要求スル所アリ昨年之ガ檢査ヲ

ナシ公司ハ株主總會ノ開催ヲ待チテ一般株主ニ

發表スベシト言明セルニ今回ノ總會ニモ何等ノ

發表ヲナサザリシハ違法ナリ

右ノ如ク今回公司ノ取リタル行動ハ明ニ公司條例

ニ背クモノナルヲ以テ公司條例第五十條ノ株主

總會ノ召集及議決ニシテ法令ニ違背スル場合ハ株

主ハ該管管轄官廳ニ其ノ無效ヲ要求スルコトヲ得ト

ノ規定ニ據リ今回公司ノ株主總會及其議決事項ハ

當然取消得ベキモノナリト主張シ目下公司ト繫争

中ナリ

(本公司ノ對日借款ニ關スル紛争ノ成行ニ就テハ詳カナラザル

モ最近該追加借款ハ成立セルモノノ如シト本誌別項參照)

次ニ本公司ノ民國九、十年及十一、十二年度ニ

於ケル營業狀態ヲ示ス

○本公司ノ民國九及十兩年度ノ營業狀態左ノ如シ

▲營業狀況 我國ノ鋼鐵產額ハ世界總產額ノ僅少

ナル一部分ヲ占ムルニ過ギザレバ本公司ノ鋼鐵價

格ハ世界ノ趨勢ニ隨ツテ左右サル、モノニシテ民

國九及十ノ兩年ハ適々歐洲大戰後ノ鋼鐵需要減少

時代ニ際シ其ノ價格ノ暴落セルハ實ニ已ムヲ得ザ

リシナリ而モ戰時中鐵價ノ昂騰時ニ於テハ國內ニ

テハ揚子、和興、滿洲ニテハ本溪湖、鞍山站、朝

鮮ニテハ釜山、兼二浦等ノ各製鐵工場ハ何レモ活

動シ生産ノ増加ヲ圖リ且中日各鐵商モ亦競争的ニ

買入ヲ行ヒタルヲ以テ多大ノ利益ヲ擧ゲ得タルモ  
間モ無ク平和ニ復歸スルヤ賣行杜絶シ而モ戰時中  
増加セル生産力ヲ以テ製造セル多量ノ「ストツク」  
ヲ有シタレバ茲ニ需要ノ減退、生産ノ過剩ヲ生ジ  
銅鐵市價ハ一落千丈ノ悲況ヲ現出セリ我公司ハ此  
ノ際一面歐米及日本ノ市價ヲ參酌シ市價ヲ一定ス  
ルト共ニ他面米國ノ培爾福(譯音)香港ノ新興記、  
日本ノ三井及東方各洋行ト大口ノ賣契約ヲナシ以  
テ國外販路ノ擴張ニ努力スル外又一方隴海、京綏  
兩鐵道ニ軌條各一萬噸ヲ供給シ以テ本國ノ利權ヲ  
保持セリ故ニ九及十兩年ノ銑鐵賣却高ハ二十三萬  
餘噸ニ達シ内十三萬八千餘噸ハ日本八幡製鐵所ニ  
供給シ此外鋼鐵製品二萬五千餘噸ヲ賣却セルヲ以  
テ其販路ハ尙未ダ激減セリト稱シ得ズ即チ銑鐵ノ  
大部分ハ八幡製鐵所ニ鋼鐵製品中軌條ハ鐵道方面  
ニ供給シ得タレバナリ但シ其價格ハ下落シテ銑鐵  
一噸四十五元以上鋼鐵一噸百十元以上トナリ之ヲ

七及八兩年ノ相場ニ比較セバ大ナル差アリ殊ニ鋼  
鐵ハ原價ヲ割リテ販賣セリ而シテ更ニ十年ノ秋後  
鋼鐵ハ噸八十元以下ニ下落セリ八幡製鐵所納入ノ  
銑鐵ハ九年度ハ一噸日金七十圓、鑛石ハ一噸日金  
四圓五十錢ニ引上ゲ又十年度ハ鑛石及銑鐵共契約  
ニ據リ賣値ヲ定メタリ

▲會計狀況 本公司ノ會計ハ民國八年ヨリ新式簿  
記ニ改メ以後其會計制度ニヨリテ辦理シ居レリ  
民國九及十兩年度ノ收支計算左ノ如シ

- 九年度收支計算
- 一、石炭、「コークス」、鋼鐵、鑛石賣上收入 一、六〇三、六四七・七
- 一、右採掘、製造費、運搬費並管理費支出 一、八〇八、九三三・四
- 右差引損失 一、九〇五、八四六・九七
- 一、工場及鑛山投資損失 六三、五七六
- 一、爲替損失 一、〇〇六、一八二・一
- 一、工場及鑛山投資利息ト借款當座利息トノ差益 二、四〇〇、九二五・八
- 一、上海倉庫及碼頭收入及雜收入各項ト支出差益 八四、一三三・三
- 以上差引總損失 一、五九八、八八四
- 十年度收支計算
- 一、石炭、「コークス」、鋼鐵、鑛石賣上收入 一、四〇三、六六六・〇

▲運輸狀況 查スルニ九、十兩年ニハ湖南ノ動亂

續キタル爲メ本公司ノ漢口、湖南ヘノ輸送ニハ最  
モ困難ヲ生ジタリ而シテ九年ノ始メ第三師及混成  
各旅ガ衡州ヲ退却セルアリ此ニ依リ水運ノ大部分  
ハ停頓セリ繼テ戰事發生シ水陸兩方面共全ク停頓  
セリ然ルニ五月ヨリ七月下旬ニ至リ水運始メテ通  
ジ又九月ニ陸運亦通ゼリ又十二月湖南軍ノ内訌ア  
リ爲ニ汽車不通トナリ十年一月中旬始メテ開通セ  
リ而シテ十年七八兩月間湖南、湖北兩軍ノ開戰ニ  
因リ水陸交通亦全ク杜絶セリ其後戰亂漸ク終リタ  
ル頃湖南省湖南銀行ニ舊債問題起リ本公司ノ「コ  
ークス」移出ヲ禁ゼル事アリ之ヲ總ズルニ此ノ兩  
年中軍事ノ爲メ水運ハ約六七個月、陸運約十個月  
停頓セルガ水運ノ停頓セル時期ハ本公司ノ輸送旺  
盛期ニ際セルヲ以テ石炭及「コークス」ノ積出ハ  
八年度ニ比シ減少セリ即九年度積出石炭ハ十一萬  
六千八百餘噸「コークス」二十四萬九千八百餘噸

- 一、右採掘、製造、運搬費並管理費支出 一、五〇六、九四七・五
  - 右差引損失 一、五九八、七二〇・五
  - 一、工場及鑛山投資損失 四八、五〇二・五
  - 一、爲替損失 二〇三、〇〇三・〇
  - 一、工場及鑛山投資利息ト借款當座利息トノ差益 一、五〇四、七三三・四
  - 一、上海棧橋及碼頭收入及雜收入各項ト支出差益 二〇六、二二二・〇
  - 以上差引總損失 五二、八五三・〇
- 右ハ九、十兩年收支計算ノ大體ナリ蓋シ工場及鑛  
山ニ損益ノ生ズルハ其原價ト運賃トハ假ニ一定ノ  
金額ヲ定メ公司ノ帳簿ニ轉記スルモノナルヲ以テ  
其實際支出ト符合セザル爲ナリ又投資利息ト借款  
利息トノ差益ハ工場及鑛山ニ於テ其投資額ニ就キ  
利息ヲ計算シ公司ノ帳簿ニ記入スルモノニテ公司  
ノ支出スルハ借款及當座利息ニシテ積立金等ノ利  
息ヲ計入セズ又株金利息ヲ決算セザル爲ニ生ズル  
利益金ニシテ投資利息ヲ多額ニ計上セル爲ニ非ザ  
ルナリ九年度ノ損失額ハ甚ダ多キモ内ニ爲替損失  
一百萬六千元ヲ含ム爲ニシテ此ハ豫メ日本金ヲ以  
テ記帳セル關係ニ基クモノニテ免レザル損失ナリ

ニシテ八年度分ニ比シ石炭八萬七千四百餘噸、「コークス」一萬八千一百餘噸ヲ減少セリ十年度ハ石炭十五萬二千七百餘噸、「コークス」十七萬九千餘噸ニシテ此亦八年度分ニ比シ石炭五萬一千五百餘噸、「コークス」八萬八千八百餘噸ノ減小ナリ又十年度ハ武昌ヨリ大冶ニ「コークス」四萬五千四百餘噸ヲ轉送シ以テ新爐開煉ノ用ニ備ヘタリ大冶礦石ヲ漢陽鐵廠ニ輸送セル數量ハ九年度二十七萬三千餘噸、十年度二十六萬三千五百餘噸アリ而シテ其數量ノ八年ニ比シ減退セルハ漢陽鐵廠ノ一及二號ノ舊爐停煉ニ因ル礦石使用量減少セシ爲ナリ

▲新鐵廠狀況 大冶鐵廠ハ前ニ歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ外國注文ノ機械到着セザリシ爲メ工事遲延シ其詳細ニ就テハ既ニ第十二期株主總會ノ席上ニ於テ報告セル所ナリ其後其進行ニ努メ必要機械ハ漢陽鐵廠及萍鄉炭礦等ニ其製造ヲナサシメ九年ニ一號爐ノ建設ノ大部ヲ終リ又二號爐ノ工事モ同時ニ

着手シ其他附屬品ノ準備ヲナシ十年三月大冶鐵廠ニ熔鐵部ヲ新設シ五月更ニ開爐籌備處ヲ設ケテ各項機械ノ試驗ノ際適々水塔ノ故障ヲ生ジ十月擔任建築技師タル大島氏ノ病故セルアリ工事ヲ吳廠長ニ代理セシムルノ止ム無キニ至レリ右ノ如キ種々ナル事情ノ爲メ火入ノ期遷延セルハ全ク豫想外ノ事ニ屬シ此亦如何トモナシ得ザリシナリ

▲產鐵狀況 查スルニ漢陽鐵廠一二號兩爐ハ政府ノ拂下ニ係リ既ニ二十餘年前ノモノナルヲ以テ舊式ニシテ使用ニ堪ヘズ且其修繕費多額ヲ要シ例令修繕シ得タリトスルモ製鐵能力少ク收支償ハザルヨリ前大島顧問ハ屢々其廢棄ヲ建言スル所アリ九年二月遂ニ董事會ニ於テ其廢棄ヲ決シタル次第ナリ故ニ九、十年ノ漢陽鐵廠製鐵ハ僅ニ三號及四號ノ兩爐ヲ用ヒ二十四萬九千三百餘噸ヲ製鐵セリ加之其間又三號爐ハ永年使用セル爲メ途中度々修繕ヲ加フルノ必要起リ四箇月間作業ヲ停止セルヲ

以テ製鐵量ハ大イニ減少セリ

又製鐵鋼品ハ計八萬五千〇六十餘噸アリタルモ歐洲大戰後鋼鐵市場極度ノ不況ニ在ルヲ以テ國內鐵道軌條ヲ除ク外ハ販路全ク滯滯セルニ十年秋商務所ヨリ漢陽鐵廠ニ「交通部ハ現ニ軌條ノ樣式ヲ改正セル爲メ漢陽鐵廠ニテ從來製造シ來レル軌條ハ右樣式ニ符合セザルヲ以テ今後軌條ノ製造ヲ打切リ交通部ノ新樣式確定後其ニ基キテ製造ナスベシ而シテ他品ノ製造ハ目下ノ需要減退ノ時既成立ノ始末ニモ困難ヲ感ズル際ナレバ若シ製造ヲ繼續セバ資金及金利ノ徒費トナリ損失ナリ云々」ノ書アリタルヲ以テ十月末製鋼所ノ作業ヲ暫時休止シ上級職員タル工程師及工場ハ暫ク他ノ部ニ配置シ中下兩級ノ者ハ全部解職シ作業開始ノ時再ビ招致スルコト、セリ此ハ公司ノ經營上實ニ止ムヲ得ザリシナリ而シテ一方擴張方面ヲ見ルニ電氣室ノ改造、交流電氣機械ノ裝置、二個處ノ碼頭及給水溝

ノ設置、冷水機械ノ裝置等漸次完備セリ

▲產鐵狀況 大冶礦山九年度ノ採掘鐵礦數量ハ計八十二萬四千四百九十噸七百六十八噸ニシテ八年度ニ比シ七萬三千四十餘噸増シ又十年度ハ鐵市場ノ不振ニ因リ其採掘數量モ大イニ減ジ計三十八萬四千二百八十四噸六百七十六噸ニ過ギザリキ然レ共一方擴張工事ハ進行シ獅子山上段ノ鑛層工事ハ既ニ以前ヨリ着手セルガ官有地ニ近キ尖山、野鷄坪ハ半採掘ヲ停止セルハ此レ獅子山ノ二段鑛道ガ鑛層ニ達セルニ因ル又鐵門坎上廠ハ獅子山上段ト同様ナルモ其中廠ノ側面ニ新ニ溝道ヲ作り以テ採掘ニ備ヘ又露天採礦ハ雨雪ノ際作業ノ停止ヲナサザル可カラザルヲ以テ獅子山ニ一大平面溝道ヲ開キ橫溝三道及風溝一道ヲ開鑿シテ以テ晝夜晴雨共ニ作業シ得ル様ナシタリ各溝ハ地中深く入り工採掘漸ク困難ヲ感ジ來ル爲メ機械ヲ利用スルノ必要ニ迫ラレタリ又得道灣鐵山ニハ壓汽機一座ヲ掘ヘ

其原動力ハ大冶工場總電機處ヨリ送電シ竝ニ軋礦機(碎礦機)ヲ備ヘ以テ人力ニ代ヘ下ニ涵洞ヲ設ケ汽車ヘノ積込ニ便ニセリ以上ハ九十兩年度ニ於ケル礦山工事ノ大體ナリ次ニ運礦鐵道ハ線路ノ曲折多ク又車輛ハ多量ノ積載ニ堪ヘズ且石炭ノ消費過多ナルヲ以テ九、十兩年中ニ李家坊、詹本陸、銅鼓ノ線路ノ改修ヲ行ヒ屈曲ヲ除キ以テ輸送量ノ增加及石炭消費量ノ節約ヲ期セリ此外外公司所有ニ係ル「セメント」工場一處アリ又石灰製鐵所ハ再修築ノ上完備セシムル意向ナリ

▲出炭狀況 萍鄉礦ノ九年度合計ハ石炭八十萬六千三百餘噸、「コークス」二十四萬四千九百十九噸二百三噸ニシテ十年度ハ石炭七十七萬二千九百七十一噸、「コークス」二十萬六千八百七十七噸五百四十四噸ナリ查スルニ萍鄉炭礦ハ民國元年以來屢軍事ノ影響ヲ受ケタルガ就中九、十兩年ヲ以テ最モ甚シトス即チ九年ニハ六月ヨリ八月ニ至ル八十餘日間交

通斷絶シ外來軍ノ萍鄉ニ駐在スルモノハ所有誅求ヲナシ又鐵道ハ湖南、江西兩軍ノ爭奪トナリ兩者相持シテ下ラズ爲ニ送金ノ途ナク又石炭「コークス」ハ其貯藏スル處ナク遂ニ工夫ヲ減ジテ以テ採掘量及經費ノ節約ヲナスノ止ム無キニ立チ到リタレバ一面董事ニ請ヒ湖南及江西兩省當局ニ交渉スルト共ニ他面礦山直接附近及兩省ノ當局ト折衝シテ百方力ヲ盡シ始メテ開通ノ望ヲ得タルニ原狀尙未ダ全ク回復セズ且十年二月袁州退却ノ張宗昌第一師ハ忽チ安源ヲ距ル三十五里ノ蘆溪鎮迄來リ勢進ンテ安源ニ駐セントシ地方ヲ亂セリ其時贛西方鎮守使ハ江西督軍ノ命ヲ受ケ來ルアリ萍鄉炭礦使用工夫千餘名ヲ奪ヒテ軍夫ニ充テタルヲ以テ工夫減少シテ作業頗ル打撃ヲ受ケタリ其後時局安定シ工夫陸續歸礦シ始メテ通常ノ作業ヲ爲シ得タル次第ナリ然ルニ八月亦湖南、湖北兩省ノ戰事勃發交通ノ遮斷スルコト二箇月餘又作業短縮ノ止ム無キ

ニ至レリ

斯クノ如ク戰事簇生シ事々ニ其ノ影響ヲ蒙リタレバ十一年度ノ出炭量七八十萬噸ニシテ八年度ニ比シ一二萬噸ノ減少ヲ來セル又如何トモ爲シ難キニ出ヅルモノナリ

○本公司ノ民國十一及十二兩年度ノ營業狀態左ノ如シ

▲營業狀況 世界鋼鐵市場ハ歐洲大戰ノ平和條約確定後供給過多ノ爲メ市價暴落セルハ前述ノ如シ而シテ民國十一及十二兩年間日本ハ低價ナル印度鐵ノ大量輸入ヲナシタルニ因リ本溪湖兼二浦等ノ鐵價ハ慘落セリ、故ニ一般市價ハ十年末尙日金六十二圓ヲ稱ヘシモノガ十二年末ニハ竟ニ五十圓内外ニ下落セリ米國東部ハ產鐵量多キモ其西部ハ運賃關係ヲ以テ中國產鐵ヲ用ヒ居タリシモ東部地方ノ產鐵ガ西部地方ニ多ク供給セラレ其價格ノ如キモ米金三十五弗ヨリ二十七弗内外ニ下落シタル爲

メ米國ヘノ輸出ハ望無キニ至レリ一方國內ヲ見ルニ揚子鞍山站等ノ各工場製品市場ニ充滿シ其賣捌ニ汲々タル有様ナリシカハ市價ハ愈々下落傾向ヲ辿レリ斯ル際トテ我公司ハ力ヲ竭シテ競争シ一面日本販賣分處ヨリ時々日本ニ於ケル市況ヲ報告セシメ其ニ依テ販賣市價ヲ定メ以テ印度鐵ト競争ヲ試ムルト共ニ他面國內取引筋ト聯絡ヲ圖リ竝ニ津浦、京漢、京奉等ノ各鐵道ヘノ賣込ニ努メ又同時ニ米國西部及南洋各埠ヘノ販路擴張ヲ畫策セリ故ニ十一及十二兩年ノ賣却銑鐵數量ハ尙二十八萬五千餘噸ノ多キニ達シ其中日本ヘハ十七萬三千餘噸、國內ヘハ十萬〇五千餘噸、又上海ヨリ米國西部地方及南洋各埠ヘ約八千噸、又日本ヘ石五十八萬一千噸ヲ供給セリ之ヲ九及十兩年度ニ比較セバ遜色ナキモ只價格ハ競争猛烈ナリシ結果銑鐵ハ一噸四十元七角七分、礦石ハ一噸三元一角七分ニ引下ゲ前年ニ比較シ更ニ下落セリ鋼鐵ニ至リテハ其

製造停止後此兩年間ニ賣却セルハ從來ノ手持品ノ處分ニ過ギザレバ數量僅少ナリ而シテ獨逸及盧森堡ヨリ輸入サル、鋼鐵ハ近來頗ル多ク且其價格極メテ低廉ナレバ若シ本公司ニシテ鋼鐵製造ヲ中止セザリシナラバ此ガ爲受ケタル損失ハ更ニ大ナリシト思ハル

▲會計狀況 本公司十一及十二兩年即チ第十五及第十六兩期ノ收支損益ノ大様左ノ如シ

●十一年度收支計算

- 一、石炭、「コークス」、鋼鐵、礦石賣上收入 一四、四九六、六五九
- 一、右探掘、製造、運輸、管理、營業費支出合計 一七、三三三、七六六
- 右差引損失 二、八三七、一〇六
- 一、工場、礦山投資(即工場礦山所要經費)損失 二、七〇七、〇六七
- (註、本年度漢陽鐵廠ノ作業停止セルモ該廠支拂利息ハ依然トシテ存スルニヨリ其損失尤モ大ナリ)
- 一、工場礦山投資利息ト借款當座利息トノ差益 一、四四七、四四六
- 一、爲替損失 二、四九、八〇〇
- 一、上海倉庫及碼頭收入ト右支出トノ差益 一、六九、五九五
- 以上差引總損失 三、六六、八七六

查スルニ本期ノ缺損額ノ多カリシハ從來手持鋼鐵

製品ノ評價格ガ甚ダ高キニ失シタルヲ本期ニ於テ實際價額ヲ以テ償却シタルニ因ル即チ一年末現在手持鋼鐵製品三萬八千八百七噸アリ帳簿上ハ此ノ價格五百七十三萬五千七百七十六元五角七分ナルモ現在價格ニ評價セバ一噸七十四元ノ割ニテ結局二百八十五萬六千四百六十九元九角一分ノ損失ヲ出セリ此外殘存品償却八十三萬七千九百四十九元一角一分民國元年帳尻償却五十一萬四千一百八十二元二角二分、佛密門石炭坑調査費償却一萬七千七百十四元八角三分アリ、以上四項目ノ支出合計四百廿二萬六千三百六十六元七分トナリ此ニ十一年度收支差引損失金ヲ加ヘ合計七百八十九萬三千一百九十二元四角三分ノ缺損ヲ生ゼリ幸ニシテ右損失金ハ各項準備金、積立金ヲ以テ左ノ如ク添補シ得タリ

- 一、歷年積立金中ヨリ支出 二百四十六萬五千八百二十五元八角一分
- 一、營業準備金中ヨリ 同 二、四四六、八五八

右合計

- 一、特別準備金中ヨリ 同 一、二六、四一〇
- 一、貨物償却準備金中ヨリ 同 一、四三、三六五
- 一、整理準備金中ヨリ 同 四八三、二四七
- 一、特別積立金中ヨリ 同 五二四、八七三
- 右合計 一、七〇〇、五八八

●十二年度收支計算

- 一、石炭、「コークス」、鐵、礦石賣上收入 一三、九〇七、六六六
- 一、右探掘、製造、運輸、管理營業費支出合計 一四、八九〇、八〇〇
- 右差引損失 一、九八三、一三四
- 一、工場、礦山投資(即工場礦山所要經費)損失 三、三三三、八五七
- (註、本年各處時局關係ニヨリ生産額減少シ且漢陽鐵廠ノ停止アリタルモ利息ハ依然トシテ支拂ヲ要セシ爲損失大ナルヲ致セリ)
- 一、工場、礦山投資利息ト借款當座利息トノ差益 二、二八三、八四四
- 一、爲替利息 五、八八六、五五
- 一、上海倉庫及碼頭收支差益 二、三三、二二八
- 以上差引總損失 二、九八三、〇九六

右本年度損失金ハ左ノ如クシテ添補セリ

- 一、營業準備金中ヨリ支出 三、七〇七、〇六七
- 一、特別積立金中ヨリ同 一、九、九六九
- 一、法定積立金中ヨリ同 二、四四六、三三三

以上十一及十二兩年度ノ缺損額ハ多額ニ上ルモ一方整理準備金ハ二百六十六萬三千六百一十一元八角二分ヲ増加セルヲ以テ若シ此額ヲ計上セズ則チ十一年度ノ缺損額ハ僅二百四十一萬九千五百三十三元五角二分、十二年度缺損額ハ一百五十三萬六千二百八十元八角八分ニ過ギザルナリ

▲運輸狀況 本公司ノ運輸線ハ漢口—湘潭、漢口—大冶、漢口—上海ノ三線トス歷年湖南政局多事ニシテ漢口湘潭間ノ水陸兩運ハ極メテ困難ヲ感ジタリ十一年度ハ軍事無カリシモ前年度ノ四川、湖北ノ爭亂尙未ダ結束セズ抑留汽船等ノ多クハ當時甚ダ返還ヲ見ズ又奉直戰爭ニ因ル直隸軍ノ活動ノ爲メ湖南及湖北兩省軍隊ノ移動多ク之ガ爲メ水陸運ハ動モスレバ停頓スルノ状態ナリキ翌十二年度ハ則チ亦湖南ニ譚閣凱、趙恒惕ノ鬭爭ヲ生ジ秋季ヨリ十一月中旬迄水陸交通杜絶セリ而シテ涿州—



萍鄉、武昌—長沙—兩路モ亦輛車ノ異常ナル缺乏ノ結果運輸滯滞シ加之萍鄉及涿州事務局ニ再三罷工爭議アル等何レモ輸送ヲ阻害スルコト多大ナリキ十一年度輸送石炭ハ八萬五千七百餘噸、「コークス」二十四萬七千三百餘噸ニシテ十年度ニ比シ前者ハ六萬六千九百餘噸ヲ減シ後者ハ六萬八千三百餘噸ヲ増加セリ次ニ十二年度ニ於テハ石炭三萬五千九百餘噸、「コークス」十六萬三千九百餘噸ヲ輸送シ十一年度ニ比シ石炭四萬九千八百餘噸、「コークス」八萬三千四百餘噸ヲ減ゼリ而シテ二者ハ何レモ漢陽及大冶兩廠使用ニ係ルモノナリ大冶ヨリ漢陽鐵廠ニ輸送セル礦石ハ十一年度二十九萬三千餘噸十二年度十五萬六千七百餘噸ニシテ十二年度ノ數量減少セルハ漢陽工廠ノ製煉作業ヲ減縮セル爲ナリ又銑鐵ノ日本輸送ニハ元來八幡製鐵所ヨリ汽船ヲ差向ケ漢陽又ハ大冶鐵廠ヨリ積取リタルモノナルガ近年長江上流ノ水深淺ク秋冬ノ減水期

ニハ海洋船ハ漢陽及大冶ニ溯航シ能ハザレバ十一年ノ冬ヨリ蕪湖ニ臨時積置場ヲ設ケ一旦蕪湖迄本公司ニ於テ積出シ蕪湖ニ於テ八幡製鐵所差向ケノ汽船ニ積換フルコト、セリ

▲產鐵狀況 漢陽鐵廠十一年度三號及四號兩爐ノ產鐵數量ハ計十四萬八千五百餘噸ナルガ其間罷工問題ニ惱マサレ動モスレバ作業ノ停頓ヲ來セリ十二年度ハ罷工風潮稍平靜ナリシモ是年大冶ニ一熔礦爐ヲ増設セルアリ之ガ爲メ「コークス」ハ時ニ缺乏ヲ告ゲ秋以後湖南政局多事ニシテ萍鄉ヨリノ輸送圓滑ナラズ燃料ハ益々不足ヲ告ゲタルヲ以テ三、四號兩爐ハ此ニ因リ前後シテ作業ヲ停止シ修理ヲナシタリ又新爐竣工セルモ年内ニハ未ダ開爐ノ運ニ至ラザリキ十二年度ノ產鐵總量ハ七萬三千七百餘噸ニシテ十一年度ニ比シ半減セリ製鋼工場ハ十一年一月ヨリ停煉シ工夫全部ノ解職ヲ行ヒ又製鈎釘廠ハ幾分ノ製造ヲナシタルモ而モ其ノ數量

多カラズ且其規模擴張モ經費ノ都合上中止ノ已ム無キニ至リ目下ハ費用節約ノ下ニ現狀維持ノ狀態ナリ大冶工廠ハ十一年度ニ尙建築中ナリシカバ報告スベキ事項ヲ有セザレ共十二年度ニ至リ營業ヲ開始シ是年四月第二爐ノ火入ヲ行ヒ成績順調ニシテ年末迄ニ鑄鐵四萬四千六百噸、馬丁鐵四萬一千四百餘噸總計八萬六千一百餘噸ヲ製造セリ此レ大冶ニ於ケル製鐵ノ始ニシテ基礎既ニ具リ附屬工事も亦漸次完備ノ域ニ進メルヲ以テ將來充分ナル「コークス」ノ供給ヲ得バ其ノ製造數量ヲ増加シ以テ漢陽工廠ノ不足ヲ補フコトヲ得可シ

▲礦石產出狀況 大冶礦石十一年度ノ礦石產出量ハ三十四萬五千餘噸、十二年度ハ四十八萬六千餘噸ナリ蓋シ鐵市況不振ノ際ナレバ此ノ兩年ハ採掘數量ヲ需要數量ニ止メ未ダ充分ノ能力ヲ發揮シ得ザリシモノニシテ十二年度產出數量ハ十年度ヲ越ヘタルモ九年度ニ比スレバ尙未ダ大ナル減少タル

ヲ免レザルナリ

▲出炭狀況 萍鄉炭礦十一及十二兩年度ニ於ケル一切ノ作業ハ前年ト變リ無シ只經費ノ都合上十一年七月暨坑三箇處ノ作業ヲ停止シ工夫約六百名ヲ減ジ以テ一日ノ出炭量ヲ四百噸ニ縮少セリ而シテ十一年ニハ石炭八十二萬七千餘噸「コークス」二十二萬五千餘噸、又十二年度ニハ石炭六十六萬六千餘噸、「コークス」十九萬九千餘噸ヲ出セリ該兩年中受ケタル打撃ノ主ナルモノハ軍事、罷工及交通ノ阻碍ナリ之ヲ詳言セバ即十一年六月貴州軍ノ通過セル際礦山ヨリ軍費二萬元以上ヲ立替へ且工夫ヲ軍夫ニ徵發サレタリ軍事漸ク治ルヤ罷工繼起セリ即チ是年一月鐵道及礦山ノ工夫等ハ緣ニ陳上シテ俱樂部設立ノ案アリ以テ彼等團結ノ機關タラシメントセシニ此時粵漢、京漢兩鐵道工夫ノ爭議アリ其ノ餘波ヲ蒙リ遂ニ九月罷工爭議ヲ惹起シ五日間ノ同盟罷工ヲナシ以テ本公司ニ賃銀ノ値上、日

曜日及病養休養期又ハ休日ノ貸銀請求及年末ニ半箇月間ノ給料割増等ノ要求ヲ提出セリ本公司ハ其要求ヲ却下セルモ此ヨリ後彼等ノ態度悪化シ來リ其ノ鎮壓ニ多大ノ努力ヲ要セリ次ニ交通ハ如何ト云フニ洙洲萍鄉間ノ鐵道ニハ本公司ヨリ都合八十萬二千餘元ノ代替金アルモ而モ橋梁及線路ヲ修繕セズ且機關車不足シ運輸圓滑ナラザル爲メ本公司ハ再三鐵道側ニ交渉シ其ノ改善ヲ要求スル所アリ以テ僅ニ幾分ノ改善ヲナシ得タリ然ル所十二年九月又モヤ湖南ニ軍事起リ交通ノ斷絶スルコト兩旬ノ久シキニ及ビ且一方公司ハ最近二箇年以來金融滯塞シ礦山支出經費ニ不足ヲ告ゲタルヲ以テ他ヨリ一時的ノ借款ヲナシ此ノ利息ノミニテモ約五六萬元ノ多キニ達セリ又他方使用物資タル木材、米、煉瓦等ノ騰貴スルアリ此ガ爲メ一箇年約十五六萬元ノ支出増加ヲ來セルガ又木税、米捐等ノ増税ニ依ル損失モ淺少ニ非ラザルナリ

探掘坑ハ兩年間ニ百餘口ヲ増加セルモ懸案タル境界問題未ダ解決セザルニヨリ擴張工事ニ大ナル障礙トナリ居リ此ノ境界問題萍鄉炭礦ニ於ケル最重要且困難ナル問題ノ一ナリ

### ◎漢冶萍煤鐵公司ノ對日追加借款成

#### 立說

漢冶萍公司ノ對日追加借款ニ就テハ喧傳既ニ久シク先年市來藏相時代ニ於テ交渉進行中ナリシト云フ然ルニ最近漢冶萍當局ハ日本大藏省、八幡製鐵所及正金銀行方面ト協商ノ結果借款條件略ボ成立セリト該條件ノ大要ハ次ノ如シ

- (一) 追加借款金額ヲ八百五十萬元トスルコト
- (二) 該借款資金ハ之ヲ漢冶萍公司ノ事業發展資金トシ熔鑪ノ築設等ニ使用スルコト
- (三) 該借款ノ償還期限ヲ十七箇年トシ此ノ期限内漢冶萍公司ヨリ毎年鑛石ヲ八幡製鐵所ニ供給シ以テ元利ノ償還ニ充ツルコト

因ニ最近ノ紙ニ依レバ右借款ハ愈々次ノ如キ條件ニテ成立セリト傳ヒラル

- (一) 金額八百五十萬圓
- (二) 利率年六分
- (三) 償還期限 二十箇年

### ◎南部支那方面

#### ▲廣東省及雲南省

#### ◎廣東ノ石油輸入額

廣東地方ノ消費スル石油ノ三分ノ二ハ米國ヨリ爾餘ハ南洋「ボルネオ」及「スマトラ」ヨリ供給セラレ一九二二年ハ國內騷擾ニ災セラレテ輸入、消費共ニ前年ノ程度ニ及バズ即チ單ニ著港ノ數量ハ一九二二年ノ八、八七五、一四〇「ガロン」(價格二、四四〇、五八八弗)ヨリ九、七八三、六八七「ガロン」(價格二、二〇八、二六六弗)ニ増加セルモ「ボルネオ」

及「スマトラ」ノ燈油ノ輸入量ハ前年三、六五六、七八七「ガロン」ナリシモノ二、六六一、二九一「ガロン」ニ減ジ重油、揮發油及機械油ノ輸入量モ若干ノ減少アリ而シテ全輸入價格ニ至リテハ七、二二〇、四三〇弗ヨリ五、四七六、二六八弗ニ降下セリ廣東ハ南支那ニ於ケル石油配給ノ中心地タリ然レ共其他近隣ノ諸港ニモ外國ノ石油ヲ積載セル船舶ノ著港スルモノ無キニアラズ左記ハ支那稅關ノ報告ニ依リ最近二箇年ニ於テ廣東ヲ通過シテ支那ニ輸入セラレタル石油諸製品ノ數量ヲ示セルモノナリ

米國 品輸入		同 (正味)		同 (正味)		揮發油 正味		機械油		重油	
一九二二年	一九二三年	一九二二年	一九二三年	一九二二年	一九二三年	一九二二年	一九二三年	一九二二年	一九二三年	一九二二年	一九二三年
一、九三、八〇〇	五、二九、〇五〇	六、八五、二五〇	四、五〇、五〇〇	三、六五、六七〇	二、〇六、一九二	三、五二、六七〇	二、八四、九六〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	三、六六、二〇〇	二、六五、三三〇
二、六六、二〇〇	一、〇九、三〇〇	三、五二、六七〇	二、〇六、一九二	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇	一、〇九、三〇〇
六、三三、四〇〇	四、九七、七〇〇										

右ノ表ニ依リ正味品ノ輸入ハ總テ減少セルニ反シ  
容器入ハ増加セルヲ見ルベシ

南支那ヘノ石油供給ニ從事スルモノハ英國會社一  
米國會社三アリ米國會社ハ其ノ販賣品ヲ本國ヨリ  
輸送シ來リ英國會社ハ「ボルネオ」及「スマトラ」  
産ノ石油ヲ販賣ス英ノ一會社及米ノ二會社ハ機械  
油、燈油、揮發油等ヲ取扱フモ他ノ一會社ハ殆ン  
ド機械油ノミヲ販賣ス之等諸會社ノ商品ハ時ニ正  
味ノ儘廣東ニ到著スルコトアルモ概ネ一旦香港ニ  
到著ノ上更メテ小船ニ移載シテ廣東ニ輸送セラル  
ト云フ

### ◎雲南ニ於ケル錫輸出狀況

雲南錫ハ省ノ東南部滇越鐵道ノ一驛タル碧風寨ノ  
西南鐵路約四五哩ノ箇舊錫山ヨリ産出セラル錫業  
者ノ最大ナルモノハ官商合辦ノ錫務公司ニシテ資  
本金百七十六萬九千餘元アリ其他ハ大小錫業者ガ  
隨意ニ鑛山ヲ私有採掘シ居レルモノニシテ重ナル

者ノミニテモ七十餘廠坑主千人ト稱セラル工夫數  
ハ錫業ノ盛衰ニ依リ異動アルモ現時ハ錫ノ好況時  
代ナルヲ以テ約十六七萬人ヲ算スト云フ箇舊一年  
ノ錫産額ハ八千餘噸ニシテ支那第一ノ錫産地ナル  
ノミナラズ世界總産額ノ約百分ノ七ヲ占メ新嘉坡  
和蘭南米英國濠洲ニ次ギテ世界第五位ニ位セリ  
箇舊錫ノ大部分ハ市場タル香港ニ送ラレ同地ニテ  
精煉シ成分統一ノ後大半ヲ米國ニ供給シ其餘ハ英  
國日本上海等ニ仕向ケラル、モノナルガ一年ノ輸  
出額八百萬乃至千餘萬海關兩ニ上リ雲南省輸出總  
額ノ過半ヲ占メ本省ノ貿易上最重ナル商品ニシテ  
一面又雲南省唯一ノ富源ナリ最近四年間ノ錫輸出  
額ヲ擧グレバ次ノ如シ

年次	數量(擔)	價格(兩)
大正九年	一八、八六一	一〇、六三三
同 十年	九、七五五	五、七九〇
同 十一年	一五、一四七	八、七四七
同 十二年	一三、一三五	七、七三三

上表ヲ見ルニ錫ノ輸出額ハ年ニ依リテ増減常ナク  
大正六七九三箇年ハ各千萬兩以上ナルニ五六兩年

ハ八百萬餘兩ニ減ジ十年ハ五百萬兩即チ前年ノ約  
半額ノ激減ヲ示シ居レルガ是等ハ何レモ香港市場  
ニ於ケル錫價下落ノ影響ヲ受ケ箇舊ノ錫業不振ニ  
陥レル結果其生産及輸出ノ減退セルモノト云ヒ得  
ベシ即チ錫價ハ大正九年頃ヨリ一擔(百斤)香港渡  
シ七十弗上下トナリ生産費ヲスラ價ヒ難ク缺損甚  
シク十年ニ入りテ最不況ヲ極メ箇舊錫業界ノ萎微  
停頓殆ド休業ノ状態ナリシヲ以テ輸出額ハ前數年  
間ニ見ル能ハザル減少ヲ來セシナリ十一年末ニ至  
リ七十弗臺ヨリ漸騰シ百十弗以上ニ達シ爾來十二  
年十三年共百二十弗ヲ上下シ好況ヲ持續シタリシ  
カバ箇舊錫業モ漸次活氣ヲ呈シ來リ十一年十二年  
ハ共ニ相當ノ輸出額ヲ増加シ得タル次第ナリ參考  
ノ爲大正十三年六月以降四箇月間ノ香港ニ於ケル  
雲南上錫百斤ノ相場ヲ見ルニ

六月九十八弗乃至百六弗、七月百十弗上下、八月  
百二十弗上下、九月百十二弗上下ナリ

箇舊錫山ノ採掘法ハ全部數百年前開始當時ノ舊式  
法ヲ活用シ狸掘若ハ幼稚ナル開坑採掘ニシテ洗煉  
モ錫務公司ガ一部分機械操作ヲ併用スルヲ除キ其  
他ハ全部舊式人工法ヲ用ヒ居リ殊ニ箇舊ニハ殆ン  
ド水利ノ便ナク錫務公司ガ貯水池ヲ設ケ唧筒ヲ利  
用シテ不充分ナガラ年中洗礦シ居ルノ外各廠ニテ  
ハ冬春二期ニ採掘スルモ之ヲ洗フノ水ナク空シク  
束收シテ夏季ノ降雨期ヲ待ツノ状態ニシテ其生産  
能力ハ之ガ爲メ極メテ制限セラレ假令海外市場ノ  
需要盛ニシテ市況良好ナルニ拘ラズ其産錫額ハ異  
常ノ増加ヲ見ル能ハザルノ憾アリ且雲南錫ハ上述  
ノ如ク何レモ舊式ノ土法ヲ用ヒテ製煉スルモノナ  
ルヲ以テ錫ノ成分ハ各廠不同ニシテ純一ナラザル  
爲之ヲ以テ直接外國トノ取引ニ供シ難ク方今箇舊  
ヨリ香港迄ハ雲南廣東等ノ支那商人ノ手ニ依リテ

輸送シ香港ニ於テ更ニ精煉シタル上始メテ外國商ノ手ニ渡ルモノナルガ之ガ爲メ中間者ニ占メラル、利益尠カラズ又簡舊香港間ニハ錫業家ニ於テ何等統一セル運送及金融機關ヲ有セザル爲メ錫商人ハ其資金融通ノ關係上一部ハ支那銀行ニ大部ハ佛領印度支那銀行等ニ錫ヲ抵當トシ荷爲替ノ方法ニテ香港へ搬出シ居リ其間亦徒ニ莫大ノ損失ヲ招キツ、アリ以上諸種ノ缺點不備ノ爲メ簡舊ノ錫業ハ著シク阻害サレツ、アリ

簡舊錫ノ輸出經路ハ簡舊碧武寒間四五哩間ハ簡舊鐵道ニ依リテ運送シ同地ニテ通關ノ上佛領海防迄ノ三五九哩間ハ佛國經營ノ滇越鐵道ニ依リ海防香港間五百哩ハ海路船便ニ依ルモノトス今此間ニ於ケル錫一張(二千五百斤)ノ諸掛リノ大略ヲ示セバ次ノ如シ

簡舊碧武寒間汽車運賃	十元
保險費用	六元
輸出及通過稅	四十四元

倉庫費	六十仙
碧武寒海防間汽車運賃	七十元
運搬諸費苦力賃等	十五元
海防香港間汽船運賃	三十五元
合計	百八十元六十仙

### ▲印度支那

◎東京ノ石炭產出額ト對日本輸出額  
佛領印度支那東京ニ於ケル石炭、煉炭及「コークス」ノ歷年產出額ヲ示セバ次ノ如シ

年次	煉炭	石炭(塊炭及粉炭)	コークス	計
一九一三	一三、九六九	四五、〇元	—	五八、九六九
一九一四	一七、六六六	四四、一六九	—	六一、八三五
一九一五	九、三三八	六元、四四四	—	一五、八〇二
一九一六	一〇、九六六	六元、七七七	—	一七、七四三
一九一七	六、三三三	五元、八八四	—	一二、二一七
一九一八	四、一三三	四元、三三三	—	八、四六六
一九一九	六、一八七	五元、六六五	—	一一、八五二
一九二〇	五、六六一	七元、六六六	—	一三、二七七
一九二一	五、五三三	六元、八八四	—	一二、四一七
一九二二	三、一八八	六元、八八四	—	一〇、〇七二

一九二三 煉炭 一〇、九六六 石炭(塊炭及粉) 一三、二七七 計 二四、二四三  
前年及本年ノ各種東京產石炭輸出量ハ本表及次表中ニ計上セラレタル通りニシテ同數量中ニハ地方消費及船舶供給量モ含ム一九二一年以來寄港船舶供給用トシテハ印度支那無煙炭ト日本產又ハ「カ」  
「デフ」產有煙炭ヲ混用ス各汽船會社ハ交趾支那ニ寄港シテ海防ニ回航セザル船舶ニ石炭ヲ補給スル爲各社用貯藏所設置シ從來ノ香港又ハ新嘉坡ノ補給ヲ廢止シタリ即チ本年中當港ヨリ仕出シタル數量ハ直接船舶供給量六一、七六〇噸西貢貯藏所仕向二萬噸計八一、七六〇噸ナリ仕向基佛國東京炭礦會社販賣數量左ノ如シ

年次	煉炭	石炭(塊炭及粉)	コークス	計
一九一三	一三、九六九	三九、七五五	—	五三、七二四
一九一四	一七、六六八	三九、六六五	—	五七、三三三
一九一五	九、三三八	五三、〇四〇	—	六二、四二八
一九一六	一〇、九六六	五三、〇三六	—	六四、〇〇二
一九一七	六、三三四	五三、九六六	—	六〇、三〇〇
一九一八	四、一三三	四一、五八八	—	四五、七二一

一九一九 六、一八七 五〇、一四一 一、八三三 五八、一六一  
一九二〇 五、六六一 六四、九四六 七、六 七〇、六一三  
一九二一 五、五三三 六二、三三三 二、一〇七 六九、九七三  
一九二二 三、一八八 七〇、八八二 一、二六〇 七五、三三〇  
一九二三 四、一三七 八三、二〇九 一、三三三 八八、七二〇  
前記炭礦會社ガ一九二一年ノ株主總會ニテ決定シタル「カムフラ」ノ築港工事ハ一九二七年完成ノ筈ニシテ積載量八千噸迄ノ船舶ヲ入港セシメ得ル計劃ナリ同社炭ノ市場需要高ハ遙ニ供給量以上ナルニ依リ一九二四年ニハ前年ニ比シ一層多量ノ採掘増加ヲ見ルモノト觀測セラル(本誌第五十三號及第六十三號參照)

東京炭ノ對日本輸出額  
一九二三年ニ於ケル佛領印度支那海防港ノ對日本向輸出品ハ前年ト大差ナク直航船ニ依ルモノ、外香港支那經由輸出ノモノアリ其數量價額等相當ノ額ニ上ル趣ナルモ正確ナル數ヲ知ルヲ得ズ然レ共直航船ニ依リ一九二三年中日本ニ向ケ輸出セラレ